

令和元年度
市民意識調査報告書



船 橋 市

は じ め に



昭和12年に人口4万3千人ほどで歩み始めた船橋市は、現在では約64万人を擁し、市民の皆様が文化、スポーツ、福祉、環境、教育など、様々な分野で輝きを放つ活力あふれる大都市に発展しました。

また、船橋市は、東京湾に面して恵み豊かな干潟である三番瀬、内陸部には工業地、商業地、住宅地、農地が広がり、バランスのとれた産業と、発達した交通網により、全国有数の都市としてのポテンシャルを持っております。

この全国に誇れるすばらしい市民力と都市力を活かし、「人と人がつながる」にぎわいのあるまち、子供から高齢者まで誰もが笑顔で安心して生き生きと暮らせるまちを目指して、様々な施策に全力で取り組んでいるところです。

船橋市市民意識調査は、皆様の意見を今後の市政運営に役立てるため、昭和47年度から毎年実施しております。

今年度は、平成30年6月に船橋警察署長、船橋東警察署長との連名により『電話 de 詐欺被害非常事態宣言』を行い、被害防止に取り組んでいる「電話 de 詐欺（振り込め詐欺等）」等をテーマとして調査を行いました。

今回の調査結果は、今後の市政運営にあたりまして貴重な基礎資料として活用してまいります。結びに、調査にご協力いただいた多くの市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

船橋市長 松戸 徹

市章・市の花・市の木



市章（昭和12年制定）
「舟」の文字を図案化したもので、船橋発展のシンボルです。



市の木 サザンカ

若潮国体（昭和48年に千葉県で開催）を記念して、昭和45年に市民の皆さんに選んでいただきました。

市の花「第24回全国都市緑化ふなばしフェア（平成19年）」の開催を記念して制定しました。



ヒマワリ

太陽に向かって咲き、力強く、将来の船橋市の子どもたちに勇気と希望を与える花



カザグルマ

船橋市に自生している貴重種であり、市のシンボルマークとして、大切に保護していくべき花

目 次

I. 調査概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査内容	3
4. 配布・回収結果	3
5. 居住地区区分	4
6. 報告書の見方	5
II. 調査回答者の属性	7
1. 性別	9
2. 年齢	9
3. 職業	10
4. 世帯状況	11
5. 居住年数	12
6. 居住地区	12
7. 以前の居住地	13
III. 調査結果の分析	15
1. 「住みごころ」について	17
(1) 船橋市への愛着	17
(2) 船橋市への定住意向	20
(3) 船橋市の住みごころ	23
(3-1) 船橋市が住みよい理由	26
(3-2) 船橋市が住みにくい理由	29
(4) 「住みごころ」概観	32
2. 「広報活動」について	33
(1) 情報を入手するためによく利用するもの	33
(2) 市の事業やイベント情報などの入手方法	35
(3) 広報紙やホームページで知りたい情報	37
(4) 「広報ふなばし」の閲読状況	39
(4-1) 「広報ふなばし」の読みやすさ	41
(4-2) 「広報ふなばし」を読まない理由	43
(4-3) 「広報ふなばし」が読みにくいとした理由	45
(5) 「広報活動」概観	46

3. 「災害への備え」について	48
(1) 災害への備え	48
(1-1) 災害への備えの内容	50
(1-2) 備蓄している品目	52
(1-3) 何日分の備蓄をしているか	54
(1-4) 備えをしていない理由	56
(1-5) 備蓄していない理由	58
(2) 家具の転倒防止	60
(2-1) 家具の転倒防止策（自由回答）	62
(2-2) 家具の転倒防止をしていない理由	63
(3) 感震ブレーカー設置の有無	65
(3-1) 感震ブレーカーの種類	67
(4) 補助制度の有無による対策意向	69
(5) 「災害への備え」概観	71
4. 「電話 de 詐欺（振り込め詐欺等）」について	72
(1) 「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」の認知	72
(2) 詐欺防止対策機能の導入状況	74
(2-1) 詐欺防止対策機能を導入していない理由	76
(3) 詐欺被害に遭わないための対策	78
(4) 「電話 de 詐欺（振り込め詐欺等）」概観	80
5. 「動物の愛護及び管理」について	81
(1) 「動物愛護指導センター」の認知	81
(2) 飼っている動物（ペット）	83
(2-1) 飼っている動物のための災害対策	86
(3) 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったことの有無	89
(3-1) 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったこと	91
(4) 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったことの有無	93
(4-1) 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったこと	95
(5) 困ったことへの対処	97
(6) 「地域猫活動」の認知	99
(7) 「地域猫活動」についての意見	101
(8) 猫に関する事業で市が重点的に取り組むべきもの	103
(9) 「動物の愛護及び管理」概観	105

6. 「ごみ施策」について.....	107
(1) 収集回数の見直しによる生活への影響.....	107
(1-1) 収集回数の見直しで影響があったこと	109
(2) 収集回数の見直しへの理解.....	111
(2-1) 収集回数を見直しを理解できる理由	113
(3) 収集回数を見直しで気を付けるようになったこと	115
(4) さらにごみの減量のために必要だと思うこと	117
(5) 「雑がみ」の分別状況	119
(5-1) 「雑がみ」を分別していない理由	121
(6) 「フードドライブ」についての考え.....	123
(7) 「ごみ施策」に関する事業などの認知.....	125
(8) 「ごみ施策」概観.....	127
7. 「市の施策」について.....	129
(1) ここ数年でよくなったもの	129
(2) 力を入れるべきもの	132
(3) 「市の施策」地区別分析.....	135
(4) 「市の施策」概観.....	140
8. 自由意見	144
(1) 自由意見のまとめ.....	144
(2) 自由意見の抜粋	145
IV. 調査票.....	155

I. 調査概要

I. 調査概要

1. 調査目的

本調査は、住み良さや定住意識、愛着心、市政の各分野における市民ニーズの基本動向を把握分析するとともに、これまで実施してきた市民意識調査結果との時系列分析を行うことにより、今後の施策展開に資することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：船橋市全域
- (2) 調査対象：船橋市在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標 本 数：3,000 人
- (4) 標本抽出：住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送配布－郵送回収
(※ 調査期間中に督促を兼ねた「礼状はがき」を 1 回送付)
- (6) 調査期間：令和元年 8 月 22 日（木）～9 月 9 日（月）
- (7) 調査機関：株式会社サンビーム

3. 調査内容

- (1) 「住みごころ」について
- (2) 「広報活動」について
- (3) 「災害への備え」について
- (4) 「電話 de 詐欺（振り込め詐欺等）」について
- (5) 「動物の愛護及び管理」について
- (6) 「ごみ施策」について
- (7) 「市の施策」について

4. 配布・回収結果

- (1) 標本数：3,000
- (2) 回収数：1,425
- (3) 回収率：47.5%

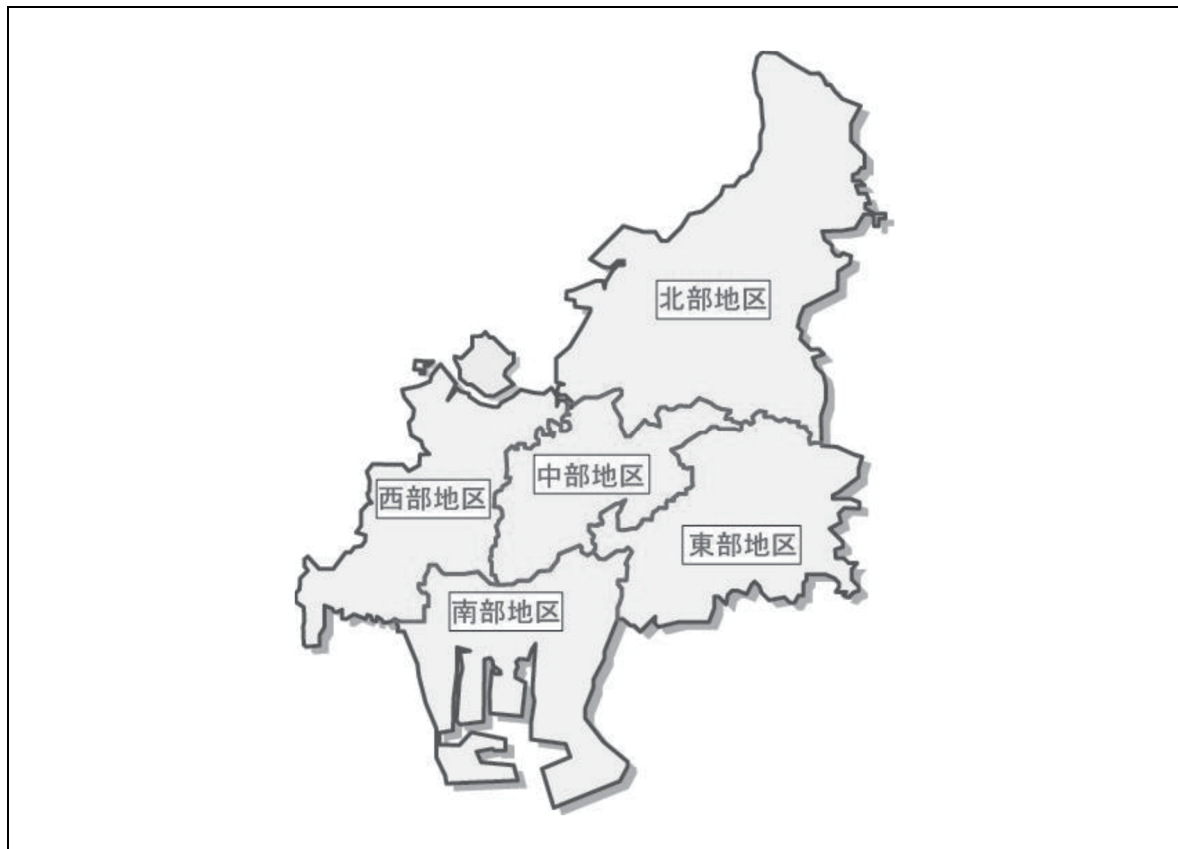
5. 居住地区区分

本調査での船橋市内の地区区分は、下表・下図の通りである。

◆居住地区内町名

地 区	該 当 町 名
南部地区	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台、本町、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町、南本町、海神、海神町、海神町東、海神町西、海神町南、南海神
西部地区	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山、二子町、本中山、旭町、行田町、行田、山手、北本町、前貝塚町、丸山、上山町、馬込西、馬込町、藤原
中部地区	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町、高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台、高根台、芝山、新高根
東部地区	前原東、前原西、中野木、二宮、飯山満町、滝台町、滝台、薬円台、薬園台町、七林町、三山、田喜野井、習志野、習志野台、西習志野
北部地区	二和東、二和西、三咲町、三咲、南三咲、八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台、松が丘、大穴町、大穴南、大穴北、小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町、坪井東、坪井西、坪井町

◆居住地区区分図



6. 報告書の見方

(1) 結果の表示方法

本報告書を見るにあたって、留意すべきこととして以下の事項があげられる。

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての選択肢の比率の合計が100%にならないことがある。
- ②基数となるべき実数はnとして掲載した。各比率はnを100%として算出した。
- ③複数回答の質問では、すべての選択肢の比率の合計は通常100%を超える。
- ④誤差を考慮し、nが小さい場合（10未満）は、基本的に検討の対象としない。
- ⑤図中にある「その他」の比率は、選択肢として「その他」を選んだ回答者数の比率であり、表にある「その他」の内訳は具体的な内容についての件数である。選択肢「その他」を選んでも内容の記入がないものや、1人の回答者が複数の内容を記入しているものがあるため、「その他」の比率と「その他」の内訳件数は一致しない。

(2) 標本誤差

標本誤差は、次式により得られる。ただし、信頼度は一般的に用いられる95%とする。

（注）「信頼度95%」とは、100回同じ調査を実施したときに、おおむね95回はこの精度が得られることを示す。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \div \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ただし、b＝標本誤差

N＝母集団数（船橋市全体・人）

n＝サンプル数（人）…本報告書ではこれをn（比率算出の基数）で示す。

P＝回答の比率

また、Nはnより十分大きいとき、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなしている。

上式をもとに、本調査の標本誤差の早見表を掲げる。

◆今回の調査結果の標本誤差（信頼度95%）

回答比率 (P) n (人)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,425	±1.56%	±2.08%	±2.38%	±2.54%	±2.60%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.04%	±3.10%
700	±2.22%	±2.96%	±3.39%	±3.63%	±3.70%
500	±2.63%	±3.51%	±4.02%	±4.29%	±4.38%
300	±3.39%	±4.53%	±5.19%	±5.54%	±5.66%
100	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%

（表の見方）例えば、ある設問の回答者数が1,425人であり、その設問中にある選択肢の回答比率が50%であった場合、「回答比率の誤差の範囲は±2.60%以内（47.40%～52.60%）である。ただし信頼度が95%であるので、誤差の範囲が±2.60%以内となる確率は95%である。」と見ることができる。

(3) 時系列比較の出典について

時系列比較の出典は、過年度に実施した市民意識調査の結果によるものである。

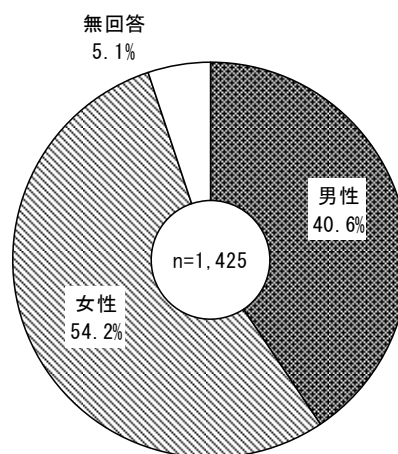
Ⅱ. 調査回答者の属性

Ⅱ. 調査回答者の属性

1. 性別

回答者の性別は、女性（773 人・54.2%）の方が、男性（579 人・40.6%）より多くなっている。

	基数	構成比 (%)
1. 男性	579	40.6
2. 女性	773	54.2
（無回答）	73	5.1
合 計	1,425	100.0



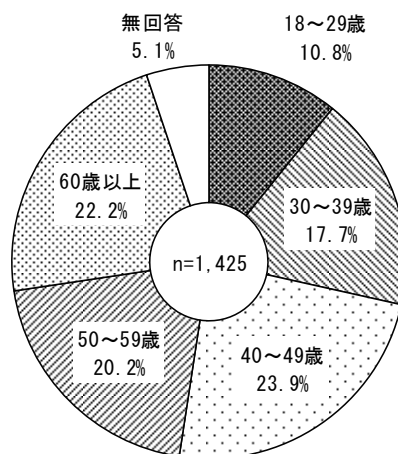
図Ⅱ－1 性別

2. 年齢

回答者の年齢は、40～49 歳（341 人・23.9%）が最も多く、60 歳以上（317 人・22.2%）、50～59 歳（288 人・20.2%）までが2割を超えている。

最低は、18～29 歳（154 人・10.8%）となっている。

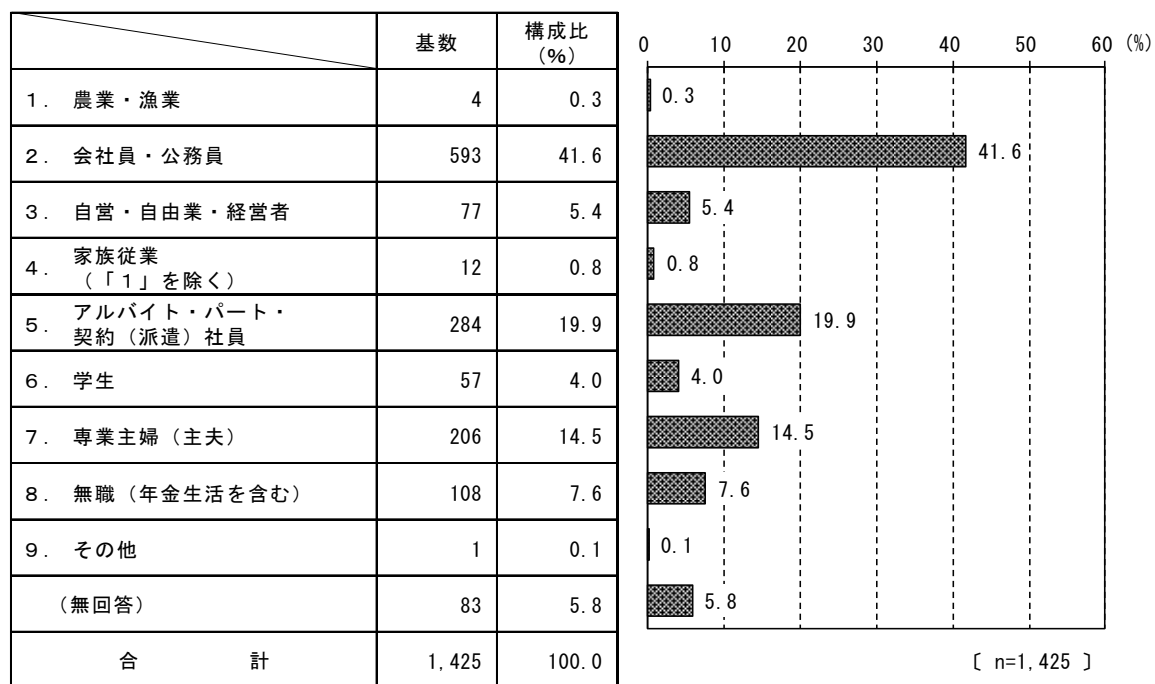
	基数	構成比 (%)
1. 18～29 歳	154	10.8
2. 30～39 歳	252	17.7
3. 40～49 歳	341	23.9
4. 50～59 歳	288	20.2
5. 60 歳以上	317	22.2
（無回答）	73	5.1
合 計	1,425	100.0



図Ⅱ－2 年齢

3. 職業

回答者の職業は、会社員・公務員（593 人・41.6%）が最も多く、割合は4割を超えている。次いで、アルバイト・パート・契約（派遣）社員（284 人・19.9%）、専業主婦（主夫）（206 人・14.5%）と続き、その他を除き、家族従業（12 人・0.8%）、農業・漁業（4 人・0.3%）は1%未満となっている。



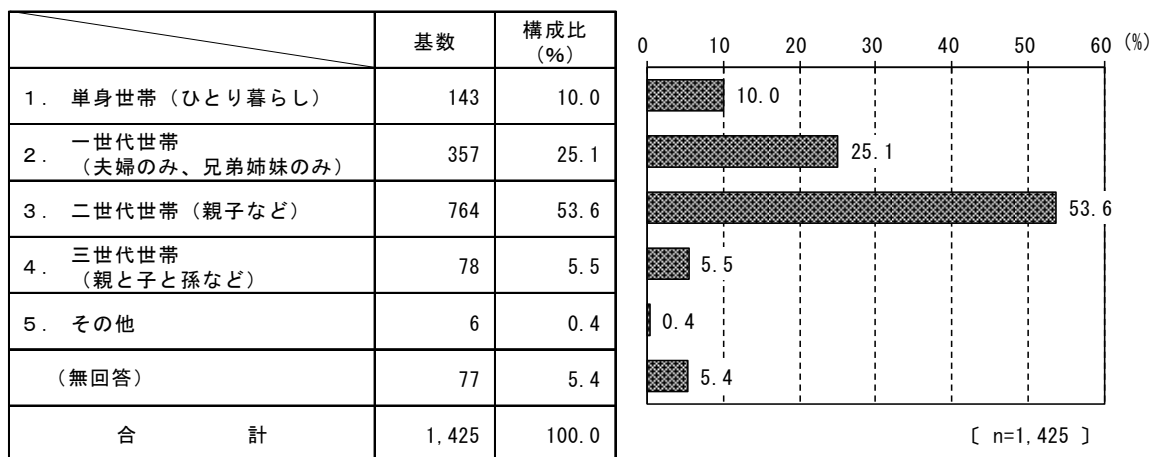
図Ⅱ－3 職業

表Ⅱ－1 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
（記載なし）	1
合計	1

4. 世帯状況

回答者の世帯状況は、二世帯世帯（764 人・53.6%）が最も多く、割合は5割を超えている。次いで、一世帯世帯（357 人・25.1%）、単身世帯（143 人・10.0%）の順になっている。



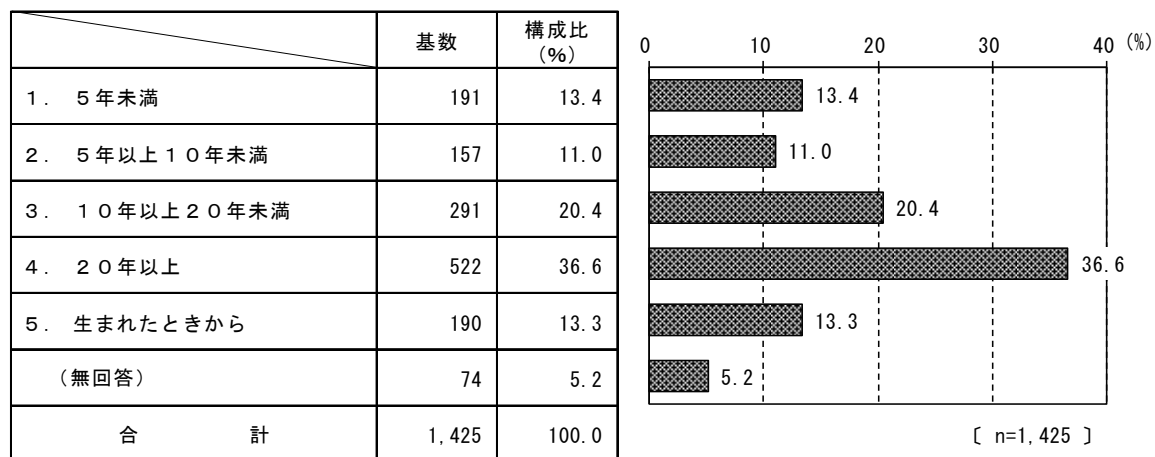
図Ⅱ－4 世帯状況

表Ⅱ－2 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
四世代世帯	3
同居人あり	1
ルームシェア	1
（記載なし）	1
合計	6

5. 居住年数

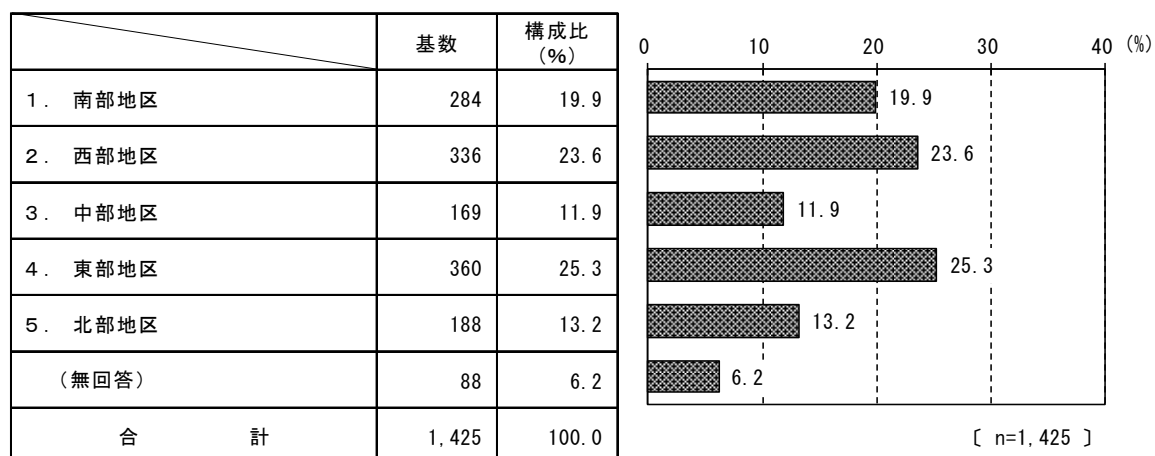
回答者の居住年数は、20年以上（522人・36.6%）が最も多く、次いで、10年以上20年未満（291人・20.4%）、5年未満（191人・13.4%）、生まれたときから（190人・13.3%）の順となっている。



図Ⅱ－5 居住年数

6. 居住地区

回答者の居住地区は、東部地区（360人・25.3%）、西部地区（336人・23.6%）が2割を超え、次いで、南部地区（284人・19.9%）、北部地区（188人・13.2%）、中部地区（169人・11.9%）の順になっている。

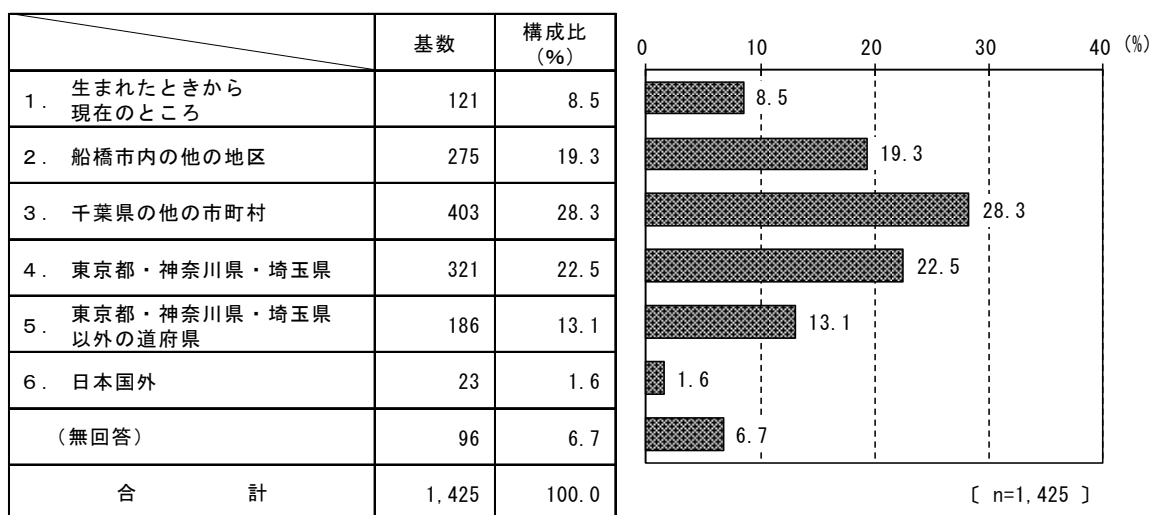


図Ⅱ－6 居住地区

7. 以前の居住地

回答者の以前の居住地は、千葉県の他の市町村（403 人・28.3%）、東京都・神奈川県・埼玉県（321 人・22.5%）が2割を超え、次いで、船橋市内の他の地区（275 人・19.3%）、東京都・神奈川県・埼玉県以外の道府県（186 人・13.1%）が続いている。

1 割を下回っているが、生まれたときから現在のところ（121 人・8.5%）、日本国外（23 人・1.6%）の回答者もいる。



図Ⅱ－7 以前の居住地

Ⅲ. 調査結果の分析

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 「住みごころ」について

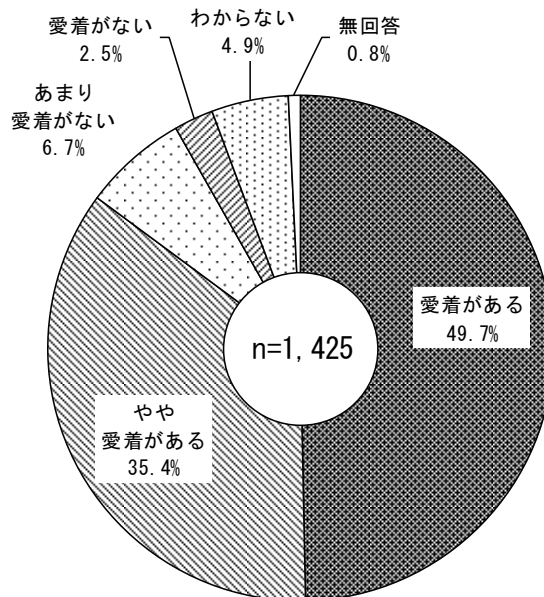
(1) 船橋市への愛着

船橋市に、『愛着を持っている』人は8割超

【問1】「船橋市」に愛着を持っていますか。(〇は1つ)

船橋市に愛着を持っているかの質問に、「愛着がある」の割合は 49.7%と約半数の人が回答している。「やや愛着がある」(35.4%)を合わせた『愛着を持っている』人の割合は、85.1%と8割を超えている。

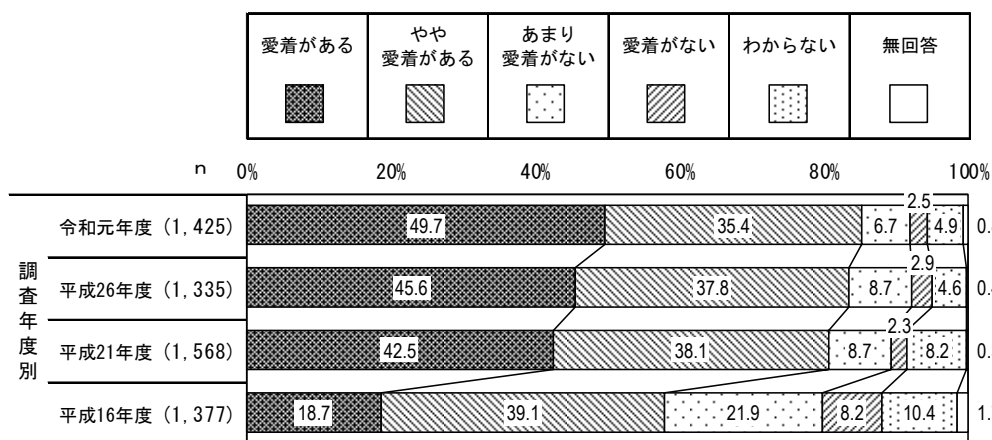
一方、「あまり愛着がない」(6.7%)と「愛着がない」(2.5%)を合わせた『愛着を持っていない』人の割合は、9.2%で1割を下回っている。



図Ⅲ－1 船橋市への愛着

【時系列比較】

時系列で比較すると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている』人の割合（85.1%）は年々高くなり、平成26年度（83.4%）から1.7ポイント増加している。

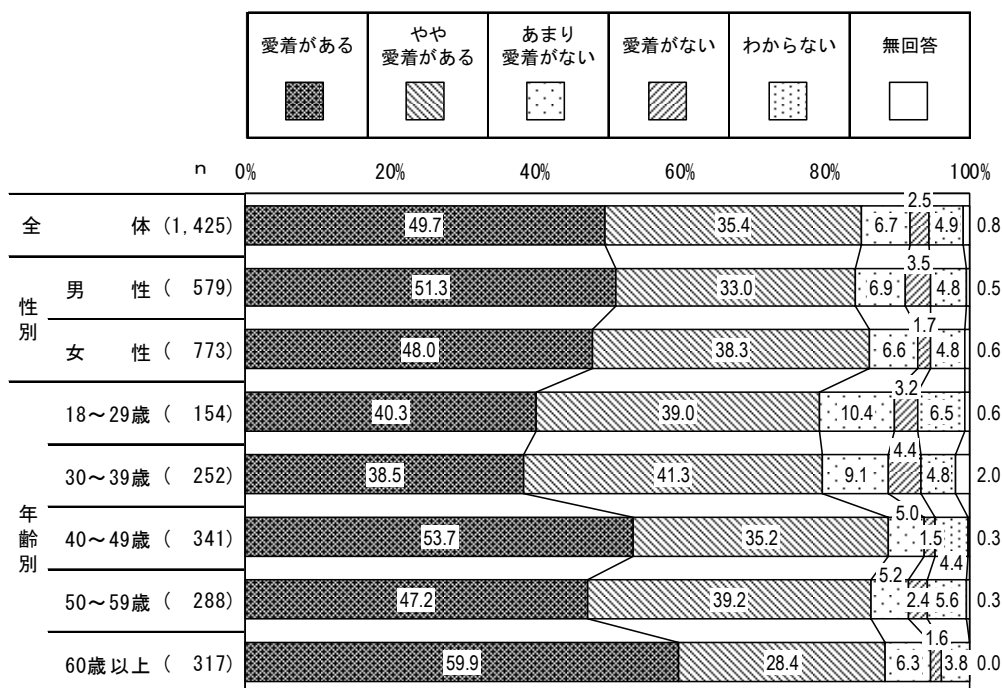


図Ⅲ－２ 船橋市への愛着（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている』人の割合は、女性（86.3%）が男性（84.3%）より2.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『愛着を持っている』人の割合は、40～49歳（88.9%）、60歳以上（88.3%）、50～59歳（86.4%）で8割を超えている。

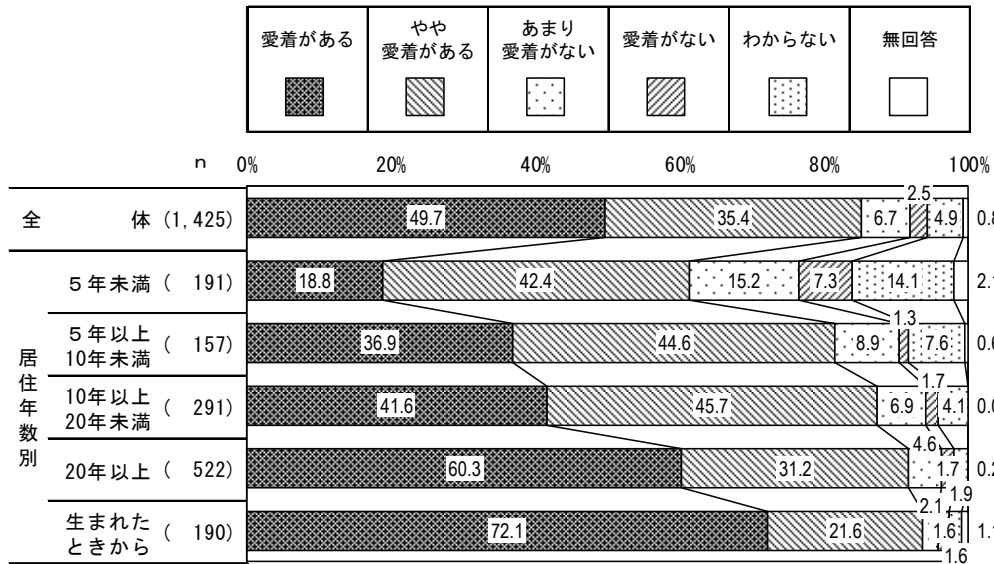


図Ⅲ－３ 船橋市への愛着（性別／年齢別）

【居住年数別】

居住年数別にみると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている』人の割合は、「生まれたときから」（93.7％）が最も高く 9 割を超えている。

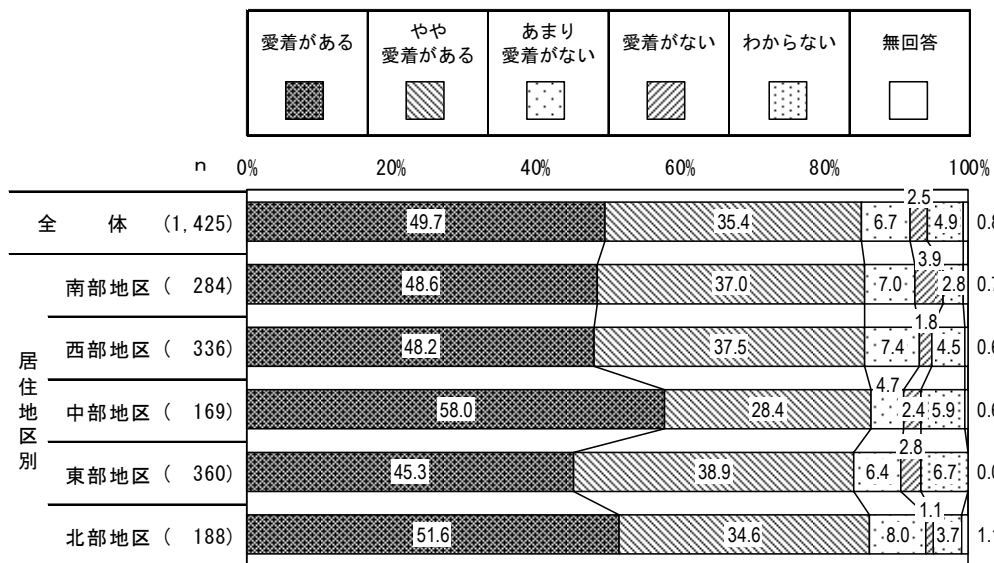
居住年数だけで比べると、居住年数が長いほど『愛着を持っている』人の割合が高く、最も高い「20 年以上」（91.5％）と最も低い「5 年未満」（61.2％）の差は 30.3 ポイントある。



図Ⅲ－４ 船橋市への愛着（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「愛着がある」は、中部地区（58.0％）、北部地区（51.6％）で 5 割を超えており、『愛着を持っている』人の割合は、全ての地区で 8 割を超えている。



図Ⅲ－５ 船橋市への愛着（居住地区別）

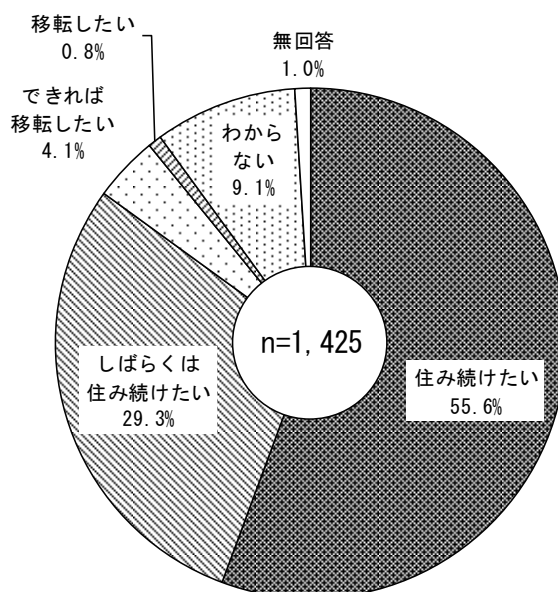
(2) 船橋市への定住意向

船橋市に、『住み続ける』人は8割超

【問2】今後も「船橋市」に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

今後も船橋市に住み続けたいと思うかの質問に対し、「住み続けたい」(55.6%)と「しばらくは住み続けたい」(29.3%)を合わせた『住み続ける』人の割合は、84.9%と8割を超えている。

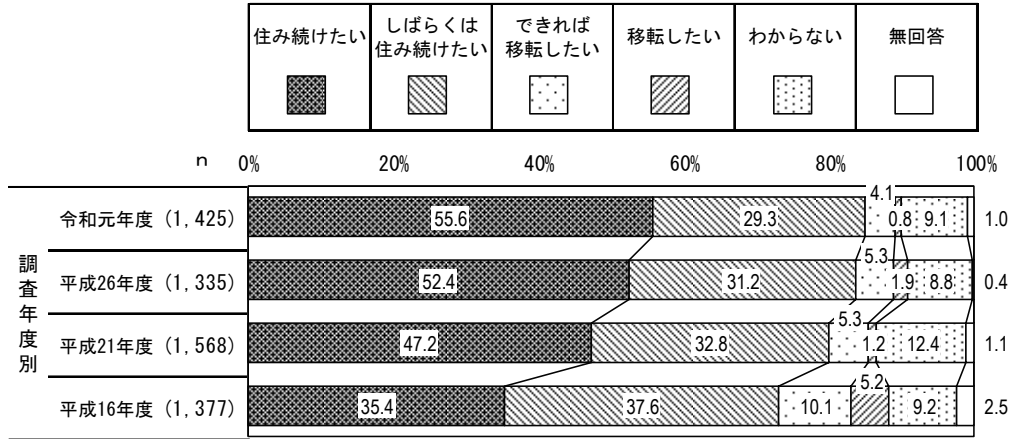
一方、「できれば移転したい」(4.1%)と「移転したい」(0.8%)を合わせた『移転する』の割合は、4.9%と1割を下回っている。



図Ⅲ－6 船橋市への定住意向

【時系列比較】

時系列で比較すると、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続ける』人の割合（84.9%）は、年々高くなり、平成26年度（83.6%）と比べ1.3ポイント増加している。

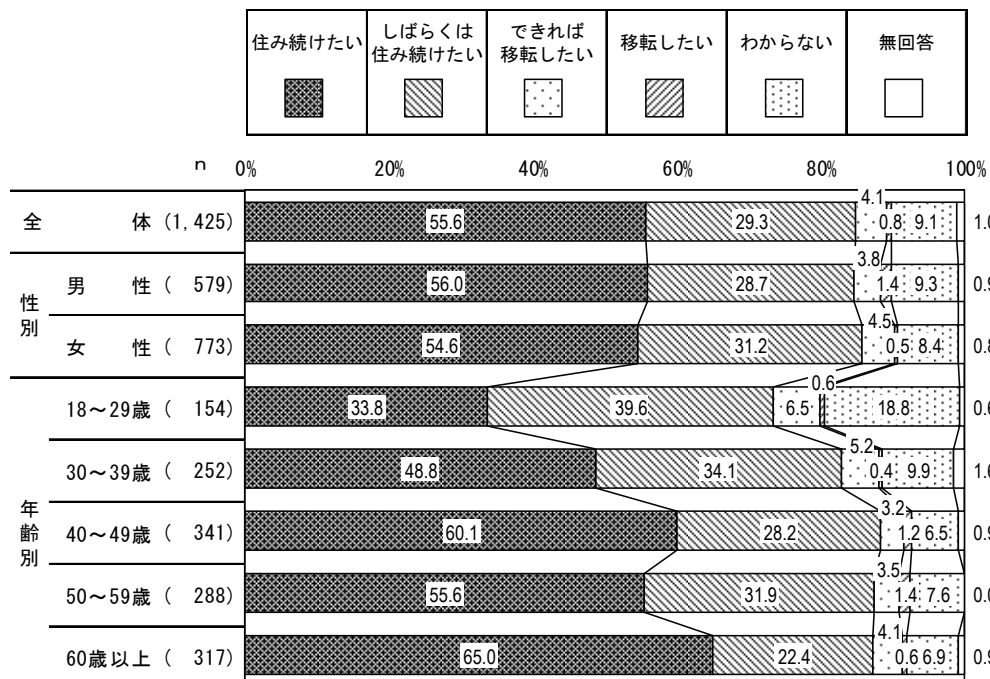


図Ⅲ－7 船橋市への定住意向（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続ける』人の割合は、男性（84.7%）、女性（85.8%）で概ね変わらない。

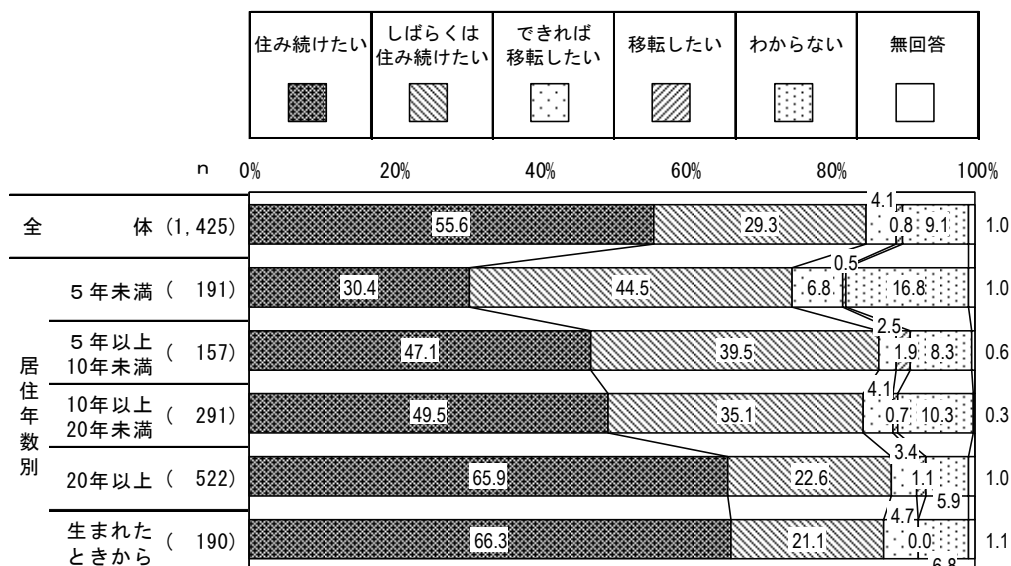
年齢別にみると、『住み続ける』人の割合は、18～29歳（73.4%）を除いて、すべて8割を超え、「住み続けたい」でも40～49歳（60.1%）、50～59歳（55.6%）、60歳以上（65.0%）は5割を超えている。



図Ⅲ－8 船橋市への定住意向（性別／年齢別）

【居住年数別】

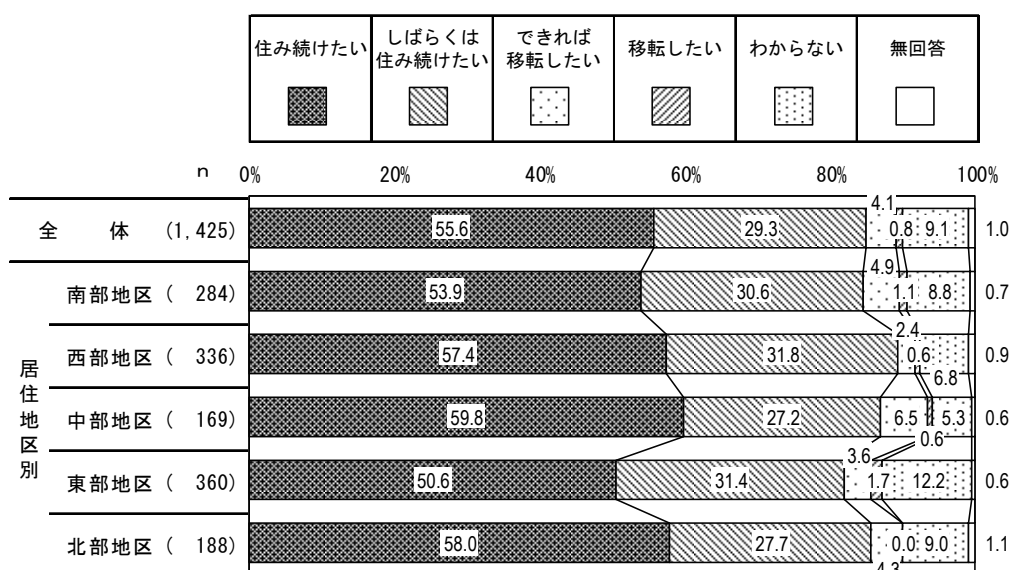
居住年数別にみると、「住み続けたい」と答えた割合が、生まれたときから（66.3%）、20年以上（65.9%）で高く、『住み続ける』人の割合は、5年未満（74.9%）を除き、84.6%～88.5%の範囲にあり8割を超えている。



図Ⅲ－９ 船橋市への定住意向（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「住み続けたい」は全ての地区で5割を超え、中部地区（59.8%）が最も高く、『住み続ける』人の割合では、西部地区（89.2%）が9割に迫る。



図Ⅲ－１０ 船橋市への定住意向（居住地区別）

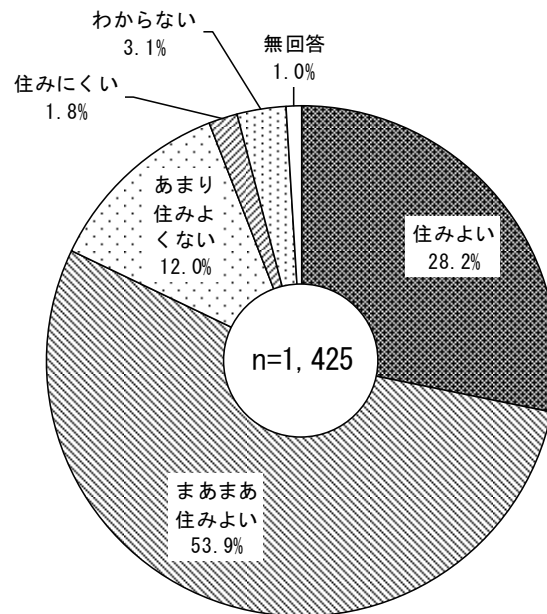
(3) 船橋市の住みごち

船橋市を、『住みよく思う』人は8割超

【問3】「船橋市」を住みよいまちと感じていますか。(〇は1つ)

船橋市の住みごちを聞いたところ、「住みよい」(28.2%)と「まあまあ住みよい」(53.9%)を合わせた『住みよく思う』人の割合は、82.1%と8割を超えている。

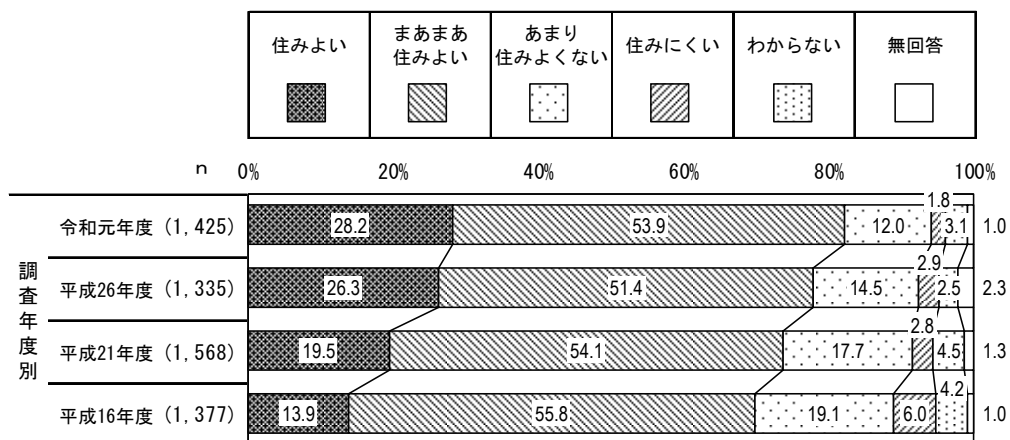
一方、「あまり住みよくない」(12.0%)と「住みにくい」(1.8%)を合わせた『住みよく思わない』人の割合は、13.8%となっている。



図Ⅲ－１１ 船橋市の住みごち

【時系列比較】

時系列で比較すると、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う』人の割合（82.1%）は、年々高くなり、平成26年度（77.7%）と比べると4.4ポイント増えている。

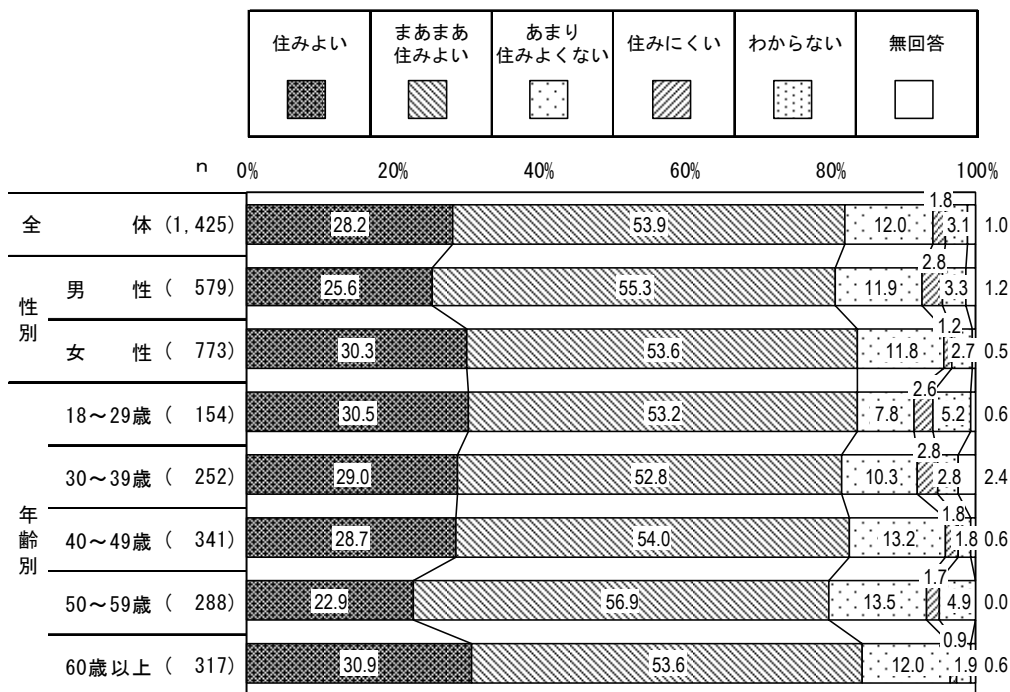


図Ⅲ－１２ 船橋市の住みごち（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う』人の割合は、女性（83.9%）が男性（80.9%）より3.0ポイント高くなっている。

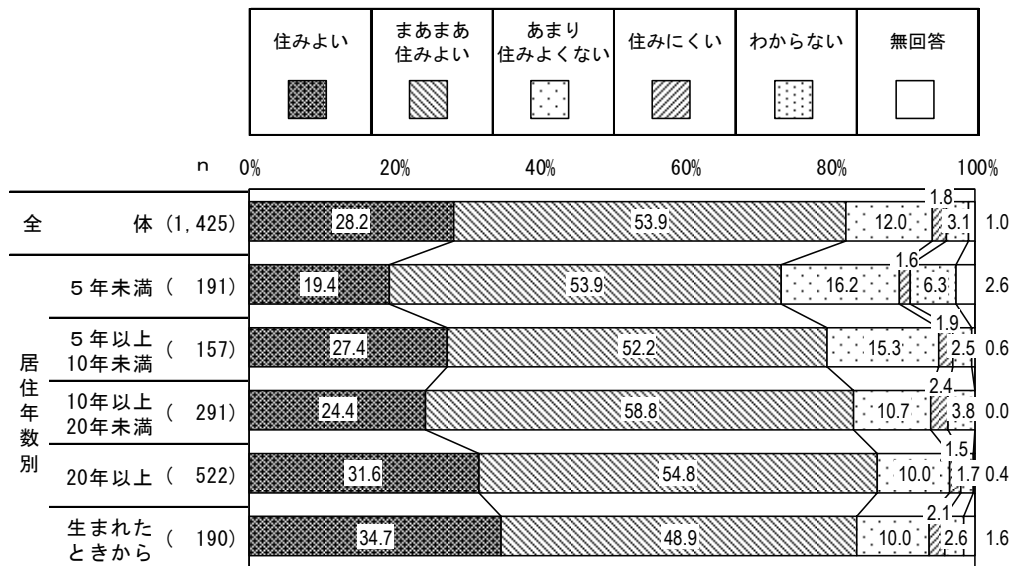
年齢別にみると、『住みよく思う』人の割合は、60歳以上（84.5%）が最も高く、50～59歳（79.8%）が最も低いが、概ね8割を超えている。



図Ⅲ－１３ 船橋市の住みごち（性別／年齢別）

【居住年数別】

居住年数別にみると、「住みよい」は生まれたときから（34.7%）が最も高いが、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う』人の割合は、20年以上（86.4%）が最も高く、居住年数が長くなるほど『住みよく思う』人の割合は高くなっている。

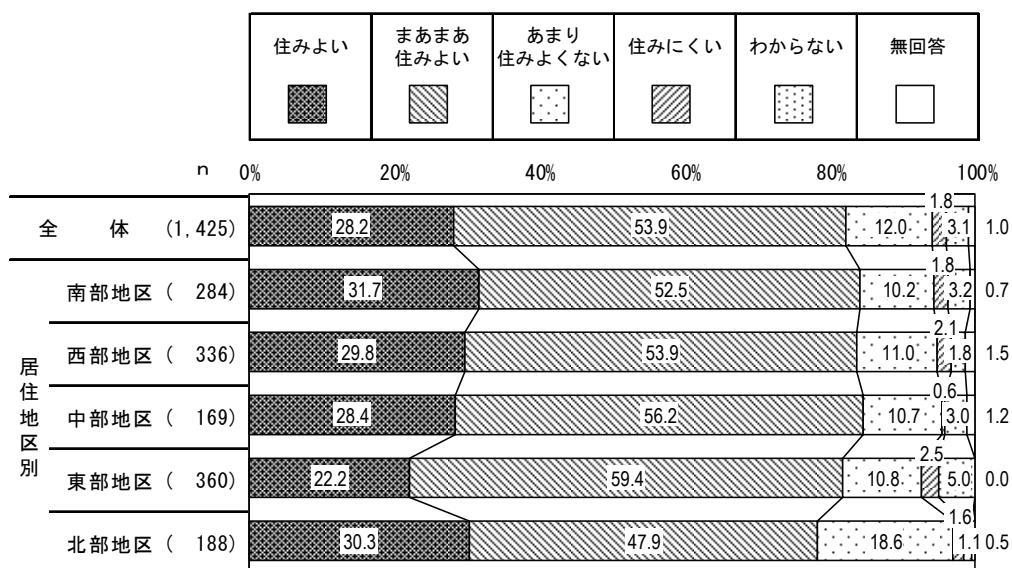


図Ⅲ－１４ 船橋市の住みごち（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「住みよい」の割合は、南部地区（31.7%）が最も高く、東部地区（22.2%）で最も低くなっている。

しかし、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う』人の割合は、北部地区（78.2%）が最も低くなり、唯一8割を下回っている。



図Ⅲ－１５ 船橋市の住みごち（居住地区別）

(3-1) 船橋市が住みよい理由

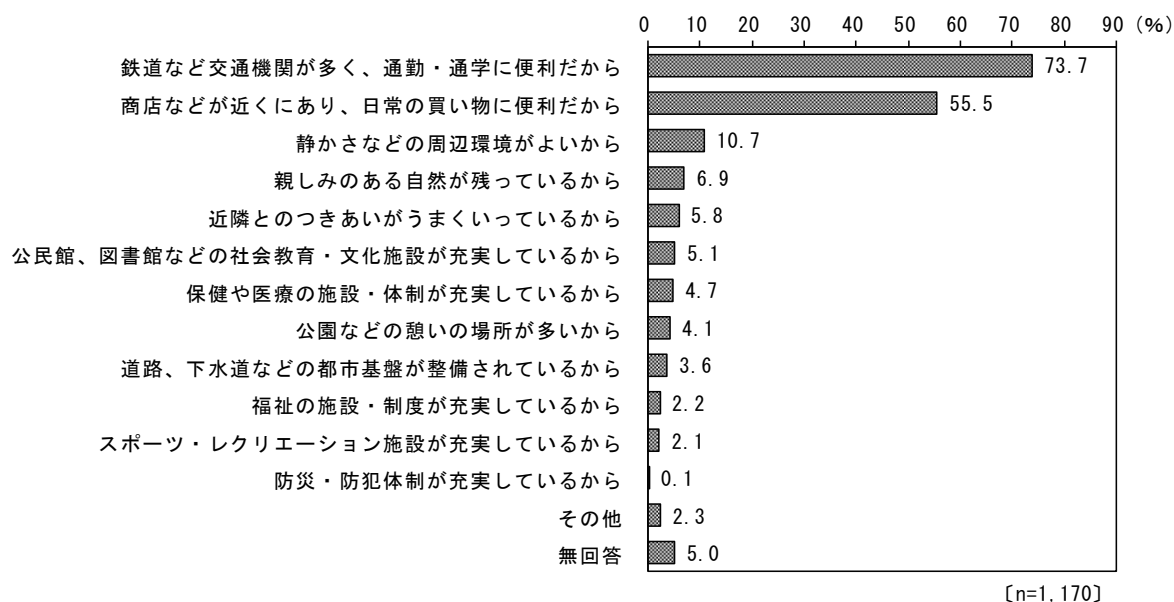
「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」住みよいが7割超

(問3で「1. 住みよい」または「2. まあまあ住みよい」とお答えの方)

【問3-1】住みよいと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

船橋市の住みごちについて「住みよい」、「まあまあ住みよい」と答えた人(1,170人)に対して、その理由を聞いたところ、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」が73.7%で最も高く、次ぐ「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」(55.5%)までが5割を超えており、これらを理由として挙げる人が多い。

「その他」としては、「ゴミが捨てやすい、分別が簡単だから」(7件)、「生まれ育ったところ、住み慣れているから」(5件)などが挙がっている。



図Ⅲ-16 船橋市が住みよい理由

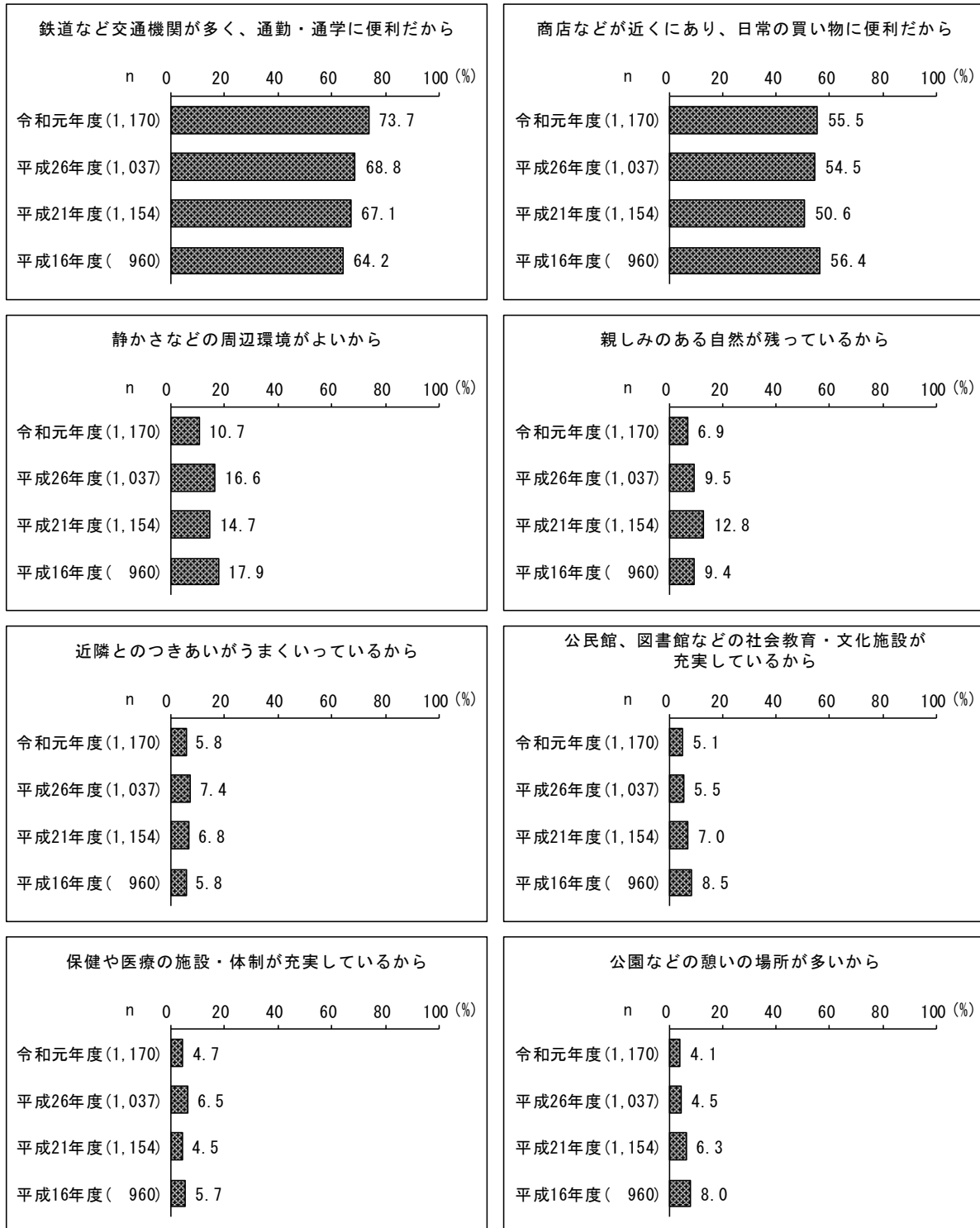
表Ⅲ-1 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
ゴミが捨てやすい、分別が簡単だから	7
生まれ育ったところ、住み慣れているから	5
環境が良い、歴史がある、気候がよいから	4
災害が少ないから	4
大型の店が多いから	3
都心に近い、都心に行きやすいから	1
住民税が他と比べて安い	1
物価が安いから	1
活気があるから	1
保育ルーム・保育園に入れたから	1
学校の給食がおいしいから	1
千葉ジェッツのホームタウンだから	1
合計	30

【時系列比較】（上位8項目）

住みよい理由として挙げられている割合が高い上位8項目について、5年間隔の時系列で比較すると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」については、年を追うごとに理由として挙げられる割合が増え、今回は73.7%と7割を超えている。

半面、「静かさなどの周辺環境がよいから」、「親しみのある自然が残っているから」、「公民館、図書館などの社会教育・文化施設が充実しているから」、「公園などの憩いの場所が多いから」などは減少傾向が見られる。



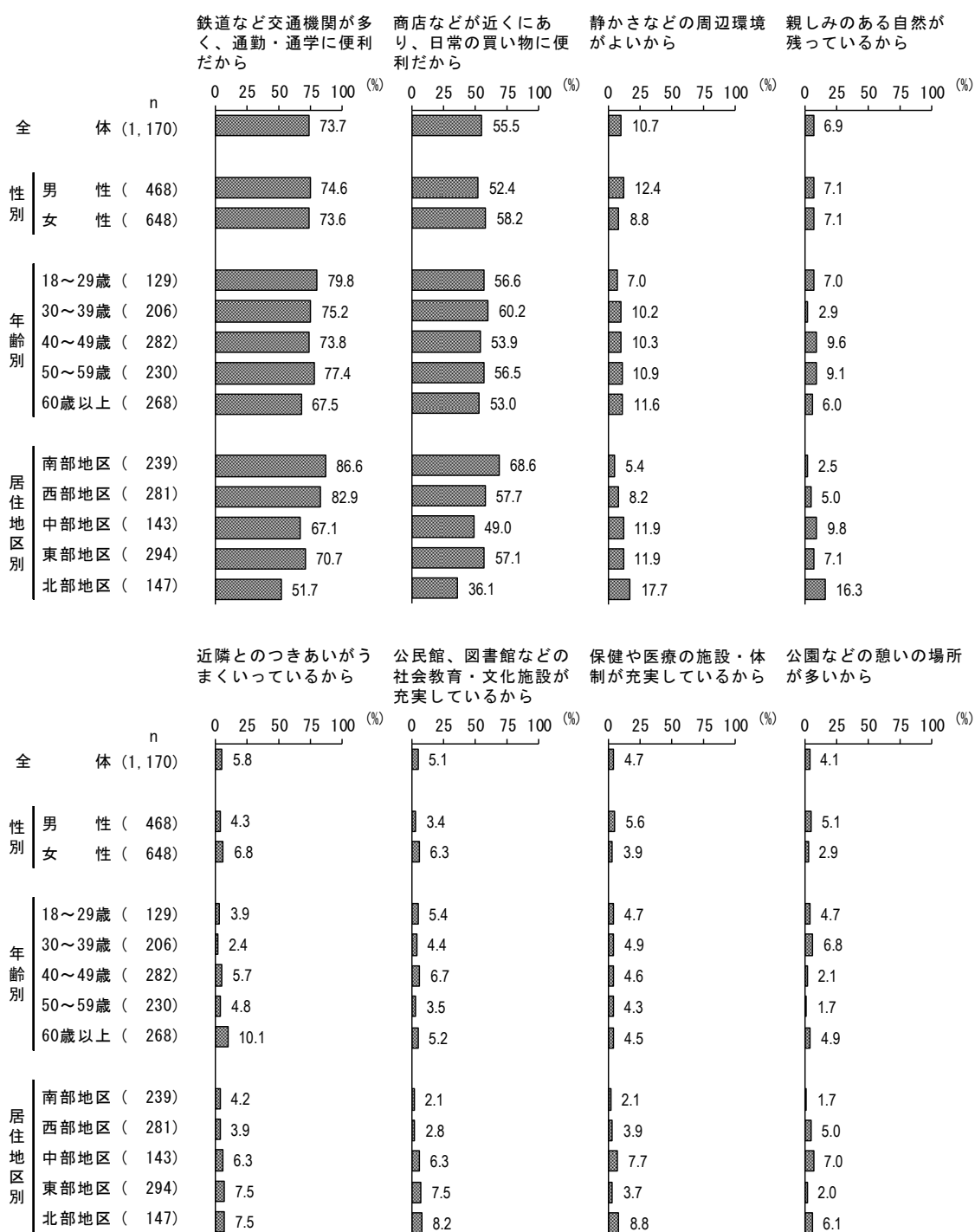
図Ⅲ－１７ 船橋市が住みよい理由（時系列比較）（上位8項目）

【性別／年齢別／居住地区別】（上位8項目）

性別で比較すると、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」で女性（58.2%）が男性（52.4%）より 5.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、全体での割合が高い「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」、
「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」では、60 歳以上（67.5%、53.0%）の割合が低い、「近隣とのつきあいがうまくいっているから」（10.1%）で最も高くなっている。

居住地区別にみると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」で南部地区（86.6%、68.6%）、「静かさなどの周辺環境がよいから」、「親しみのある自然が残っているから」で北部地区（17.7%、16.3%）の割合が高く、地区別の特色が見られる。



図Ⅲ－18 船橋市が住みよい理由（性別／年齢別／居住地区別）（上位8項目）

(3-2) 船橋市が住みにくい理由

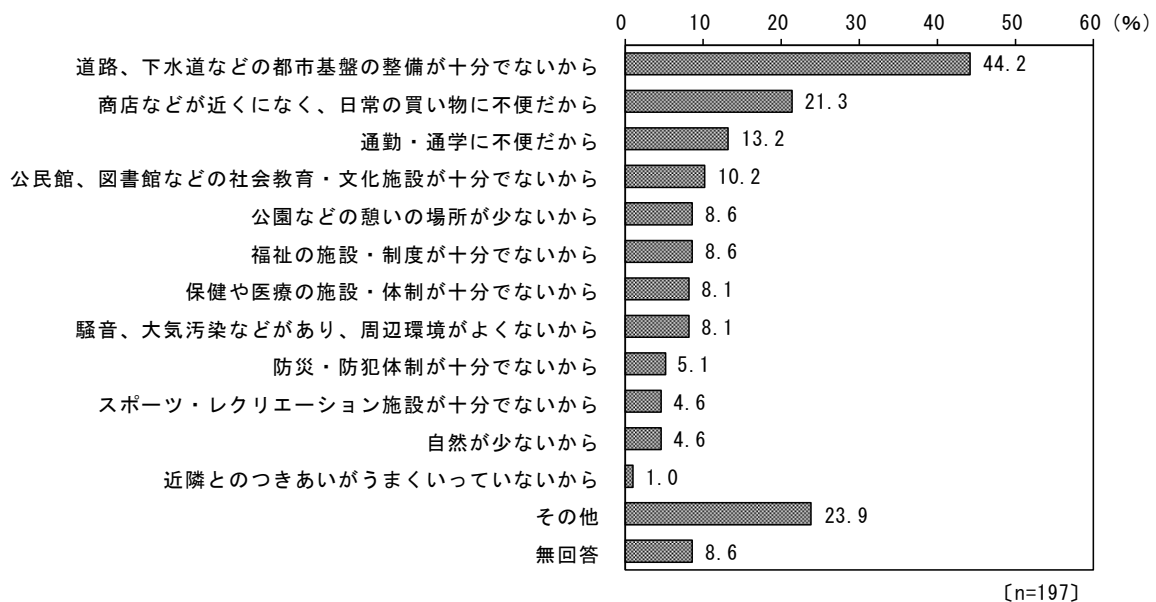
「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」住みにくいが4割超

(問3で「3. あまり住みよくない」または「4. 住みにくい」とお答えの方)

【問3-2】住みよくないと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

船橋市の住みごっこについて「あまり住みよくない」、「住みにくい」と答えた人(197人)がその理由として挙げたことは、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」が44.2%で最も高く、次いで「商店などが近くになく、日常の買い物に不便だから」(21.3%)、「通勤・通学に不便だから」(13.2%)、「公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分でないから」(10.2%)が続いている。

「その他」の内容として、「渋滞が激しいから」(15件)、「車道・歩道が狭い、歩道が無いから」(14件)が挙がっており、都市基盤整備の遅れに対する不満の具体例と考えられる。



図Ⅲ-19 船橋市が住みにくい理由

表Ⅲ-2 「その他」の内訳

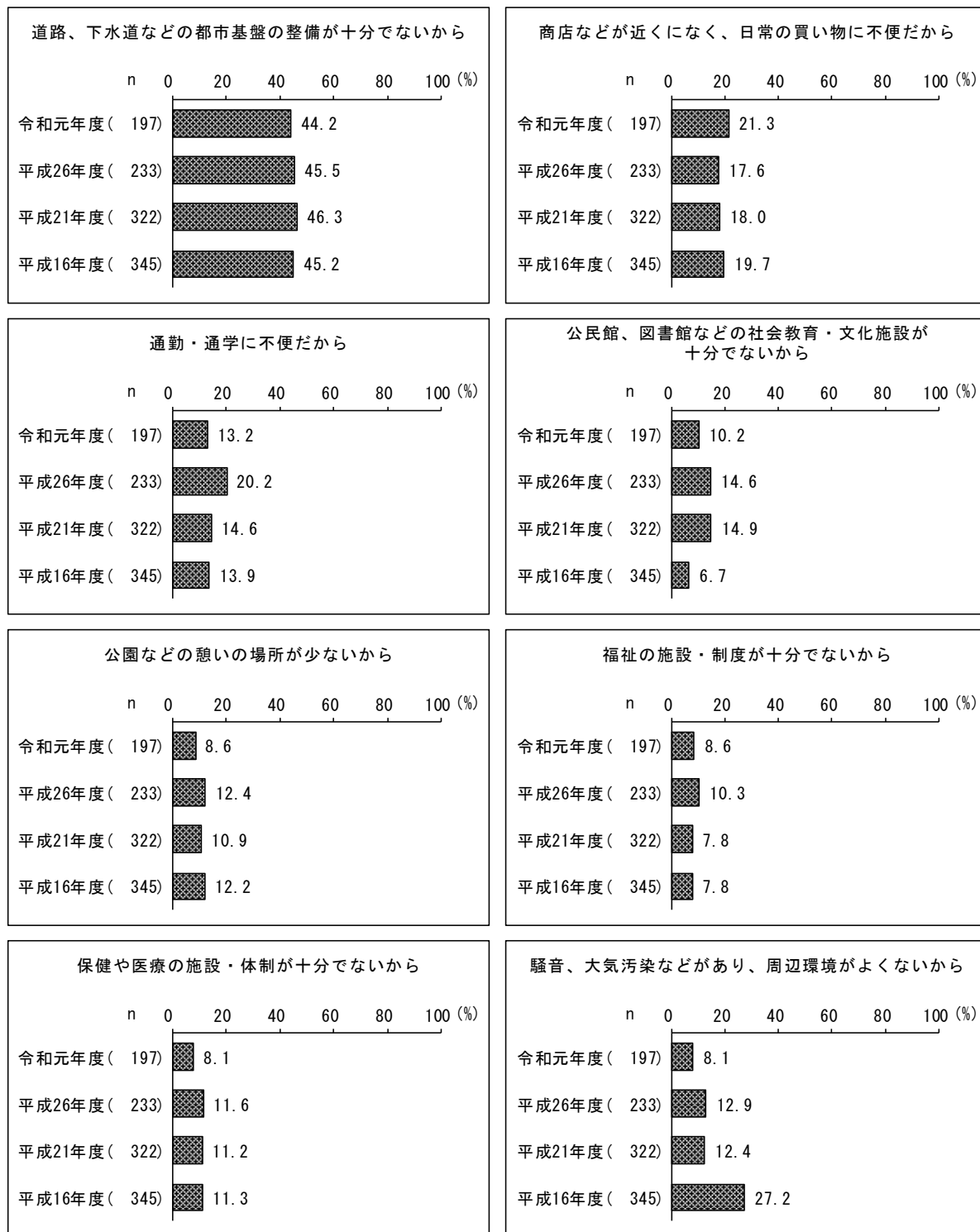
「その他」の内容	件数
渋滞が激しいから	15
車道・歩道が狭い、歩道が無いから	14
子育ての環境が良くないから	5
行政サービスが良くないから	3
電車賃が高い	3
治安が良くない、雰囲気が悪いから	3
市民のマナー・意識レベルが低いから	2
自転車を停める場所が少ないから	2
その他	11
合計	58

【時系列比較】（上位8項目）

理由として挙げられている割合が高い上位8項目について、5年間隔の時系列で比較すると、全体での割合が高い「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」、「商店などが近しくなく、日常の買い物に不便だから」などに大きな変化や明確な傾向は見られない。

「通勤・通学に不便だから」は、平成26年度（20.2%）から7.0ポイント低下している。

「騒音、大気汚染などがあり、周辺環境がよくないから」は、平成16年度（27.2%）から19.1ポイント低下し、今回は1割を下回っている。



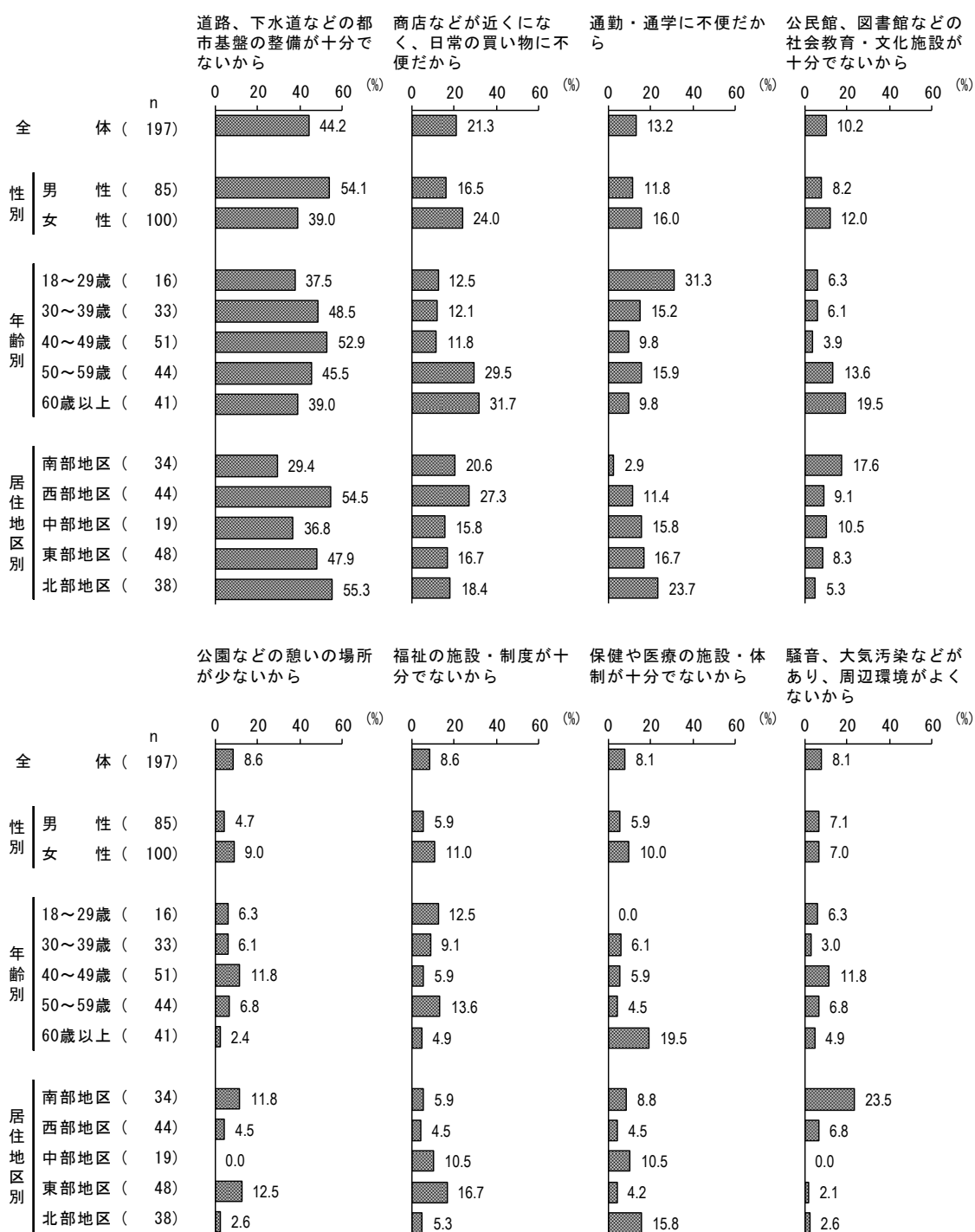
図Ⅲ－２０ 船橋市が住みにくい理由（時系列比較）（上位8項目）

【性別／年齢別／居住地区別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」は、男性（54.1%）が女性（39.0%）より 15.1 ポイント高くなっているが、他の項目では概ね女性の割合が高い。

年齢別にみると、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」では、40～49 歳（52.9%）が最も高く、より高齢、低年齢で割合が低くなる。また、「商店などが近づく、日常の買い物に不便だから」の 50～59 歳（29.5%）、60 歳以上（31.7%）、「通勤・通学に不便だから」の 18～29 歳（31.3%）などの割合が高い。

居住地区別にみると、北部地区の「通勤・通学に不便だから」（23.7%）、南部地区の「騒音、大気汚染などがあり、周辺環境がよくないから」（23.5%）などの割合が高く、地区による特徴が見られる。



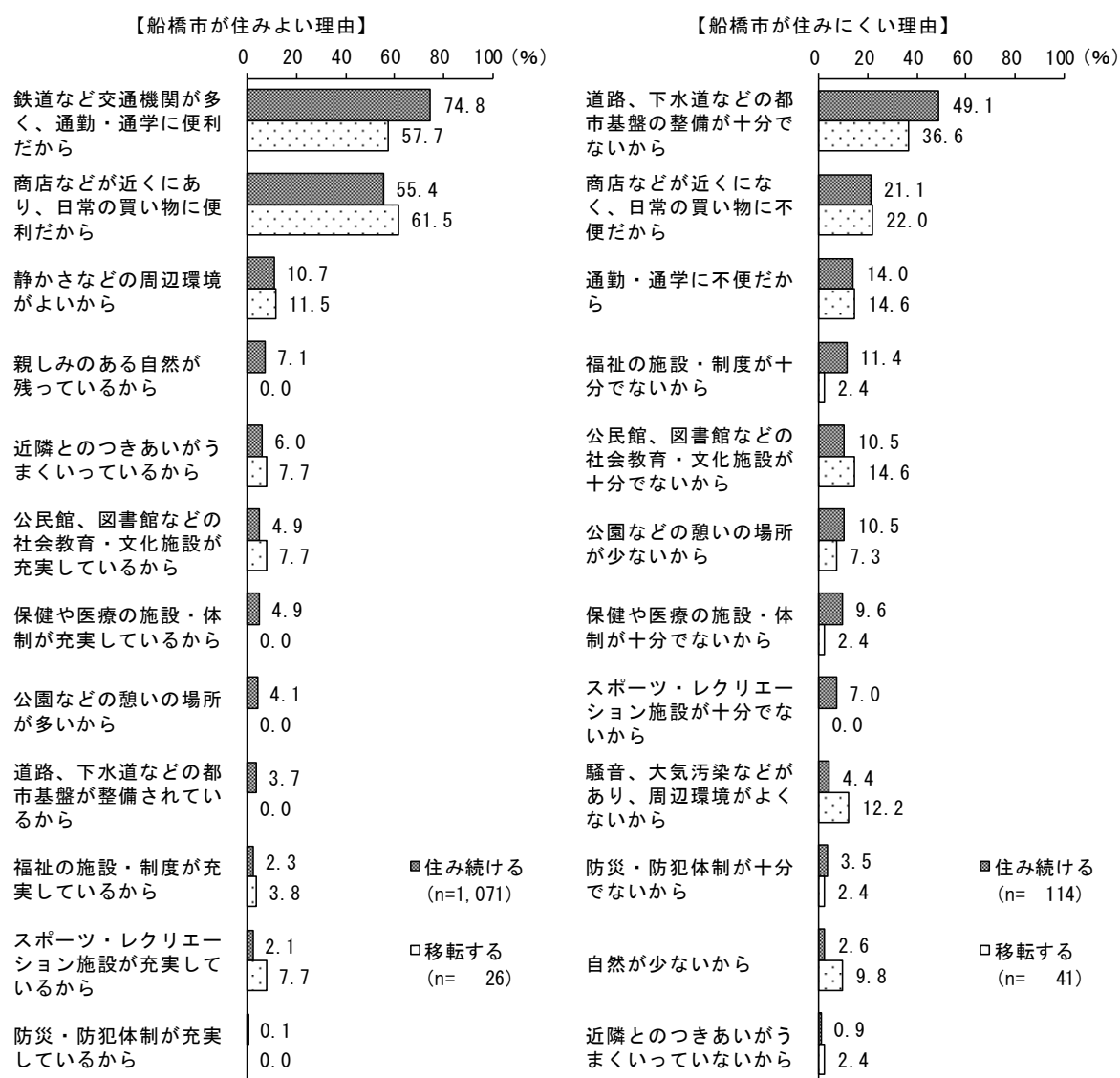
図Ⅲ－２１ 船橋市が住みにくい理由（性別／年齢別／居住地区別）（上位 8 項目）

(4) 「住みごころ」概観

“通勤・通学、日常の買い物に便利”など利便性が高評価の一方、“道路、下水道などの整備が不十分”など都市基盤の整備が問われる

定住意向（「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせて『住み続ける』、「できれば移転したい」と「移転したい」を合わせて『移転する』）から、その理由を見ても内容に大きな違いは見られない。

定住意向に関わらず、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」を住みよい理由に、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」を住みにくい理由に挙げる人が多い。



図Ⅲ－２２ 船橋市が住みよい理由・住みにくい理由（定住意向別）

2. 「広報活動」について

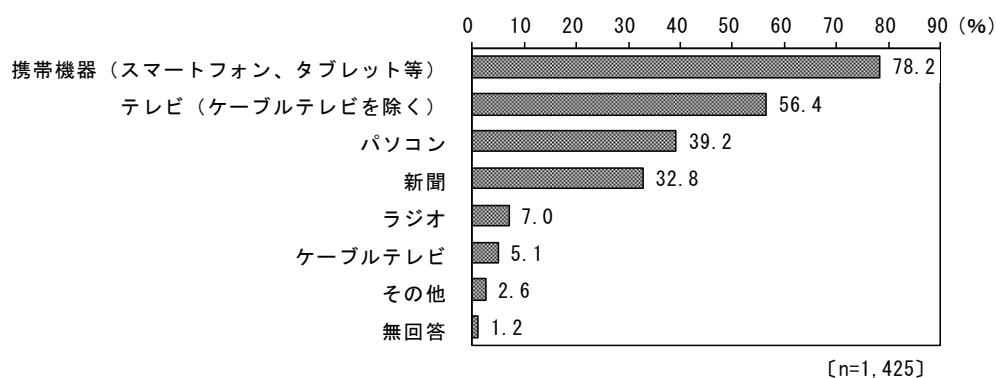
(1) 情報を入手するためによく利用するもの

情報入手は、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の利用が7割超

【問4】情報を入手するためによく利用する情報媒体は何ですか。（〇はいくつでも）

情報を入手するために使われているのは、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」が78.2%で最も高く、次ぐ「テレビ（ケーブルテレビを除く）」(56.4%)までは5割を超え、「パソコン」(39.2%)、「新聞」(32.8%)では3割を超えており、これらの情報媒体が広く使われている。

「その他」としては、「広報紙・町会報」(16件)などが挙げられている。



図Ⅲ－23 情報を入手するためによく利用するもの

表Ⅲ－3 「その他」の内訳

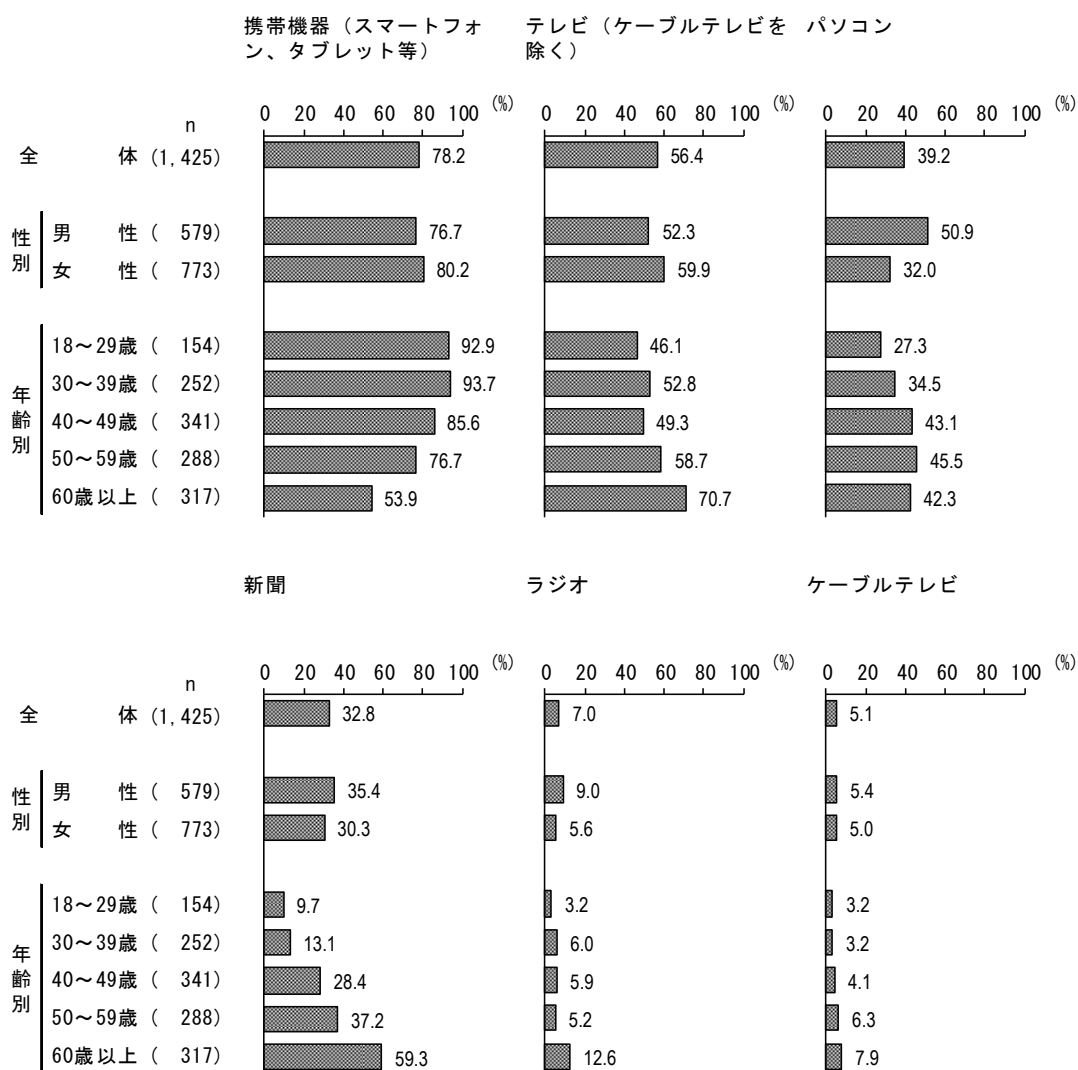
「その他」の内容	件数
広報紙・町会報	16
近所の人・友人・知人から	8
フリーペーパー・情報誌・チラシ	7
地域新聞	3
雑誌	2
電車の広告	2
その他	9
合計	47

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」では女性（80.2%、59.9%）が、「パソコン」、「新聞」では男性（50.9%、35.4%）の利用が多くなっている。

年齢別にみると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の割合は、年齢が低い方が高い傾向にあり、最も高い30～39歳（93.7%）と最も低い60歳以上（53.9%）に39.8ポイントの差が見られるが、60歳以上でも5割を超える人が利用している。

一方、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」、「パソコン」、「新聞」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、「新聞」においては、最も高い60歳以上（59.3%）と最も低い18～29歳（9.7%）に49.6ポイントの差がある。



図Ⅲ－２４ 情報入手するためによく利用するもの（性別／年齢別）

(2) 市の事業やイベント情報などの入手方法

「広報ふなばし（スマートフォン用アプリ「マチイロ」含む）」から情報を得ている人は5割超

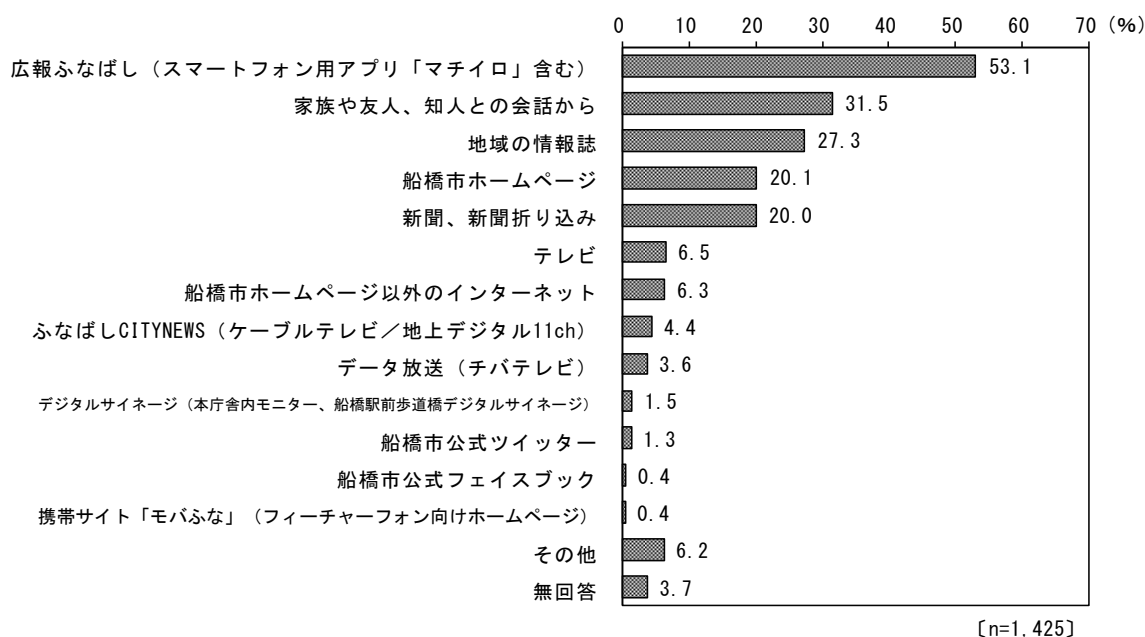
【問5】 普段、市の事業やイベント情報などをどこから入手していますか。

（〇はいくつでも）

市の事業やイベント情報などを得る手段として、「広報ふなばし（スマートフォン用アプリ「マチイロ」含む）」の割合は、53.1%と最も高く5割を超えている。

次いで、「家族や友人、知人との会話から」（31.5%）、「地域の情報誌」（27.3%）、「船橋市ホームページ」（20.1%）、「新聞、新聞折り込み」（20.0%）までが2割に達している。

「その他」については、「学校等からの配布物」（18件）が多く、子どもがいる家庭では情報を得る手段の1つとなっていることが伺える。



図Ⅲ－２５ 市の事業やイベント情報などの入手方法

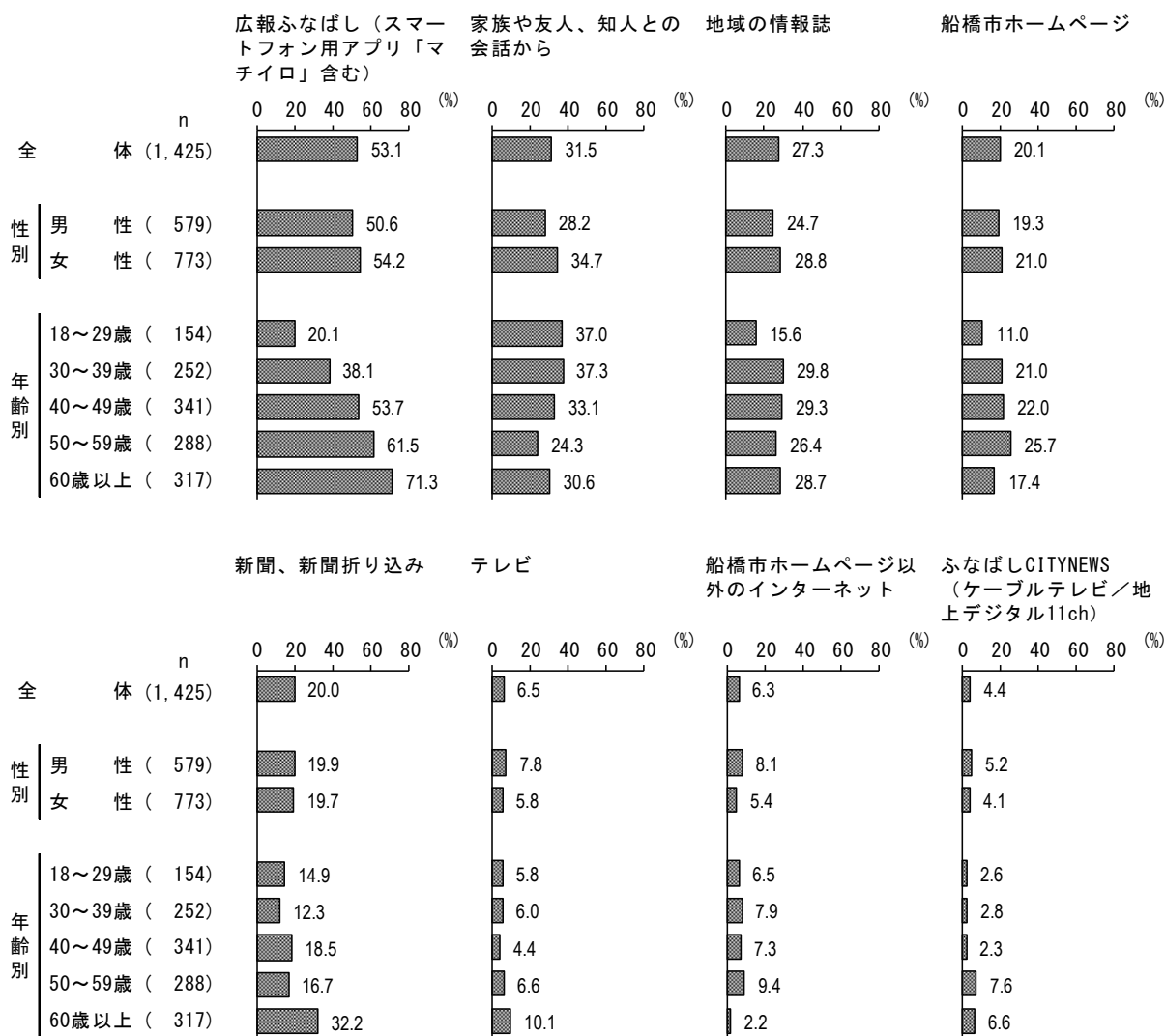
表Ⅲ－４ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
学校等からの配布物	18
町内の回覧板、掲示板、配布物	12
SNSやアプリ、HP検索、メーリングリスト	10
公共施設の掲示物、配布物	5
街頭での掲示物、配布物	5
交通機関の掲示物、配布物	2
職場での口コミ	1
入手していない	27
合計	80

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「広報ふなばし（スマートフォン用アプリ「マチイロ」含む）」、「家族や友人、知人との会話から」、「地域の情報誌」、「船橋市ホームページ」では、女性（54.2%、34.7%、28.8%、21.0%）の割合が、男性（50.6%、28.2%、24.7%、19.3%）に比べ高くなっている。

年齢別にみると、60歳以上が、「広報ふなばし（スマートフォン用アプリ「マチイロ」含む）」（71.3%）、「新聞、新聞折り込み」（32.2%）の割合が高く、携帯機器（スマートフォン、タブレット等）の利用状況から、紙媒体を利用する機会が多いと考えられる。



図Ⅲ－２６ 市の事業やイベント情報などの入手方法（性別／年齢別）

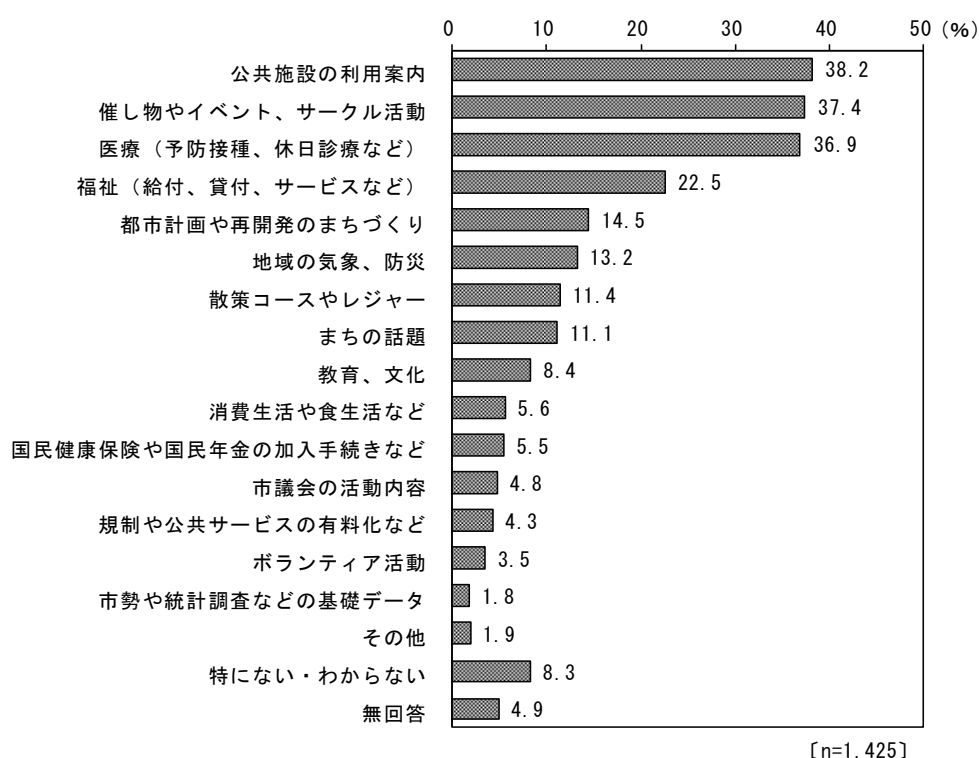
(3) 広報紙やホームページで知りたい情報

知りたい情報は、「公共施設の利用案内」、「催し物やイベント、サークル活動」、「医療（予防接種、休日診療など）」などの日常生活に必要なこと

【問6】 広報紙やホームページで知りたい情報は何ですか。（〇は3つまで）

広報紙やホームページで知りたい情報として、「公共施設の利用案内」の割合が 38.2%と最も高く、次いで、「催し物やイベント、サークル活動」（37.4%）、「医療（予防接種、休日診療など）」（36.9%）が続き、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」（22.5%）までは2割を超えている。

「その他」については、「ごみに関すること（出し方、収集日、粗大ごみなど）」（7件）の回答が挙がっている。



図Ⅲ－２７ 広報紙やホームページで知りたい情報

表Ⅲ－５ 「その他」の内訳

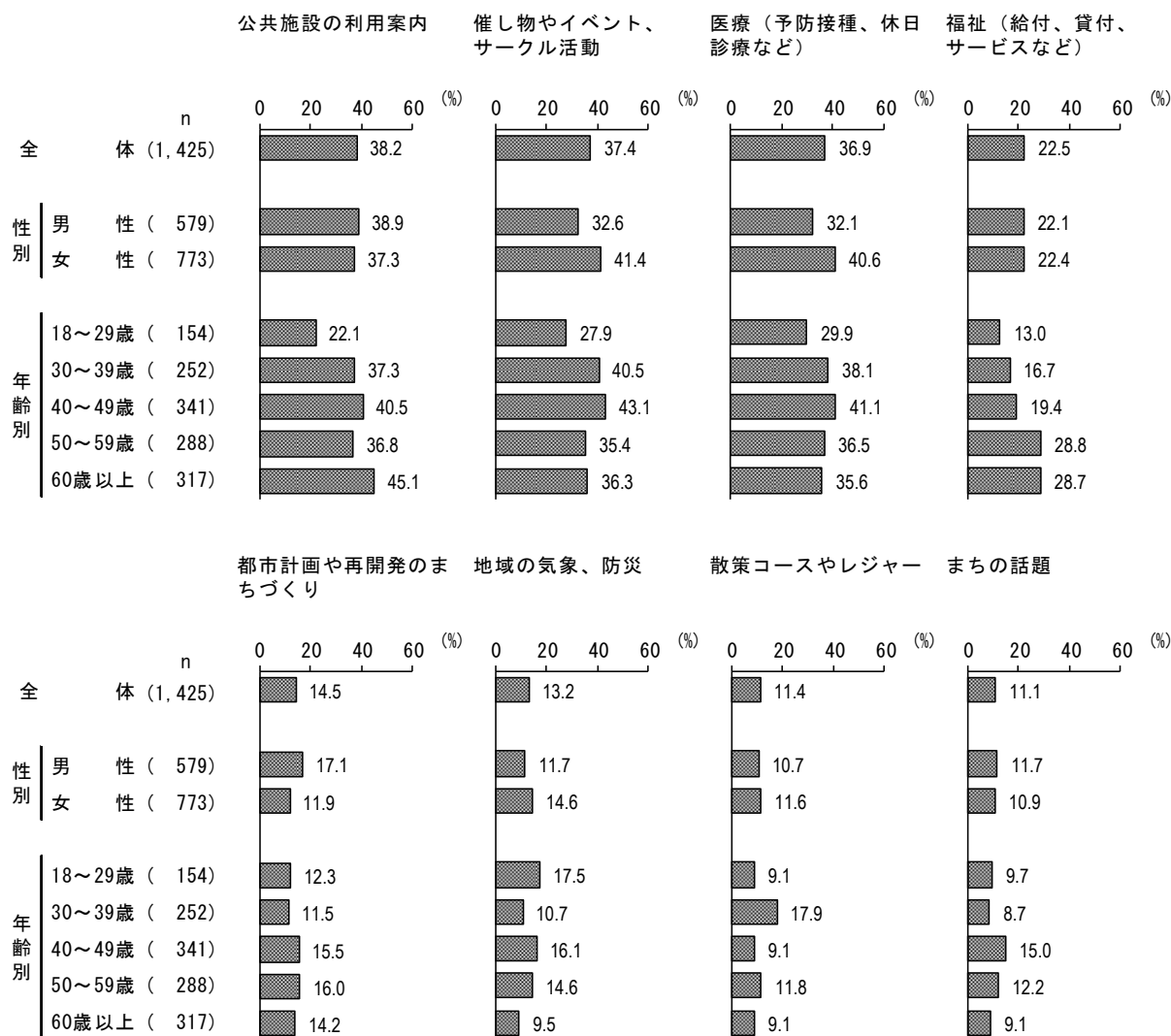
「その他」の内容	件数
ごみに関すること（出し方、収集日、粗大ごみなど）	7
求人情報	3
行政支援情報（助成金、高齢者、福祉など）	3
子育てに関すること	3
道路整備に関すること	2
治安状況や事件など	2
その他	5
合計	25

【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「催し物やイベント、サークル活動」、「医療（予防接種、休日診療など）」は、女性（41.4%、40.6%）が男性（32.6%、32.1%）より、各々8.8、8.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「催し物やイベント、サークル活動」、「医療（予防接種、休日診療など）」で、30～39歳（40.5%、38.1%）、40～49歳（43.1%、41.1%）の割合が高い。

「公共施設の利用案内」、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」では、60歳以上（45.1%、28.7%）などが高く、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。



図Ⅲ－28 広報紙やホームページで知りたい情報（性別／年齢別）

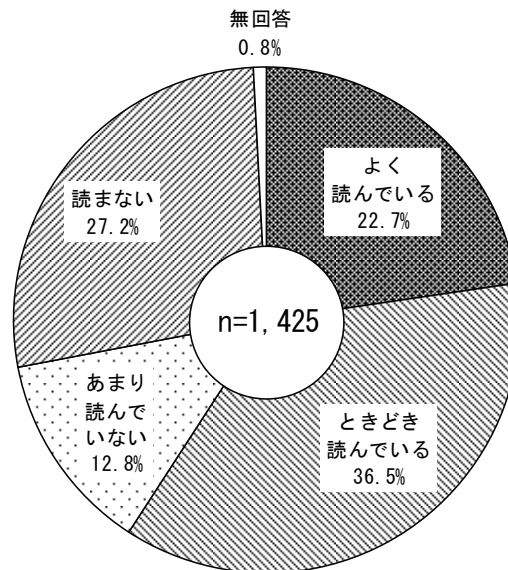
(4) 「広報ふなばし」の閲読状況

「広報ふなばし」を読んでいる人は6割弱

【問7】「広報ふなばし」を読んでいますか。(○は1つ)

「広報ふなばし」を読んでいる人の割合は、「よく読んでいる」(22.7%)と「ときどき読んでいる」(36.5%)を合わせて59.2%と6割近くになっている。

一方、「あまり読んでいない」(12.8%)と「読まない」(27.2%)を合わせると40.0%になる。

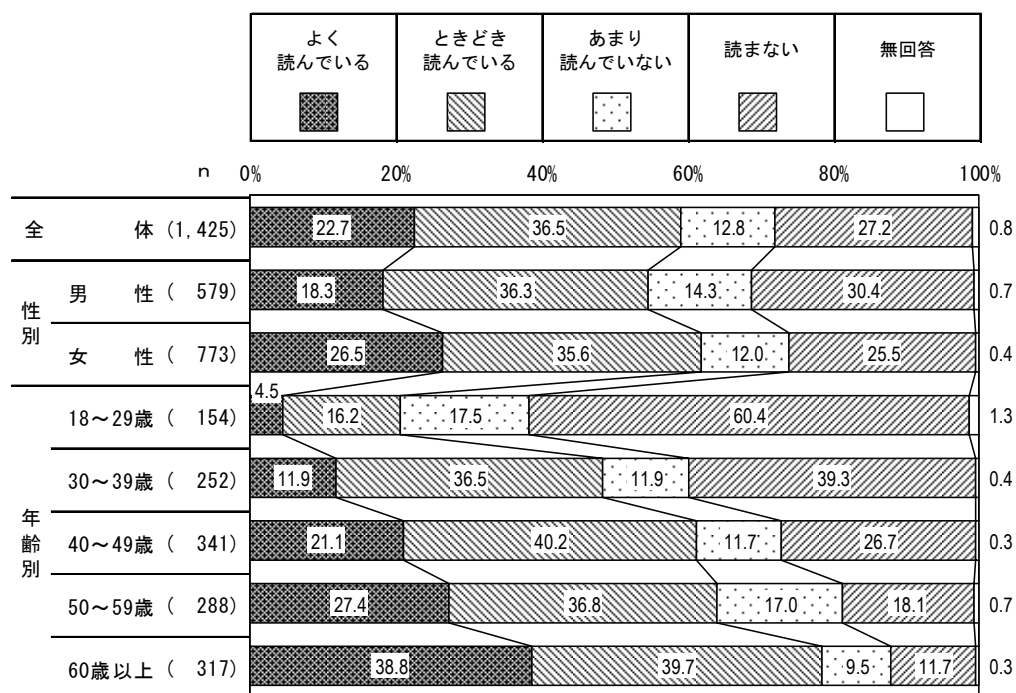


図Ⅲ－２９ 「広報ふなばし」の閲読状況

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「よく読んでいる」の割合は、女性（26.5%）が男性（18.3%）より 8.2 ポイント高く、「よく読んでいる」と「ときどき読んでいる」を合わせた割合でも女性（62.1%）が男性（54.6%）より 7.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「よく読んでいる」、「ときどき読んでいる」を合わせた割合は、年齢が上がるに従い高くなり、最も高い 60 歳以上（38.8%、39.7%）と最も低い 18～29 歳（4.5%、16.2%）には、各々 34.3、23.5 ポイントの差、合わせると 57.8 ポイントの差になる。



図Ⅲ－３０ 「広報ふなばし」の閲読状況（性別／年齢別）

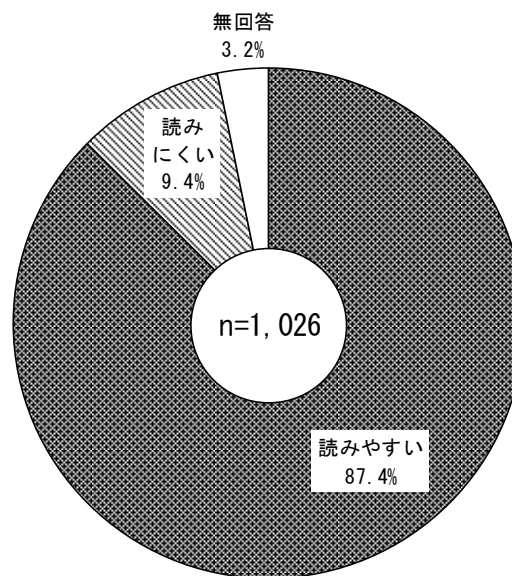
(4-1) 「広報ふなばし」の読みやすさ

「広報ふなばし」が読みやすいと答えた人は8割超

(問7で「1～3」とお答えの方)

【問7-1】「広報ふなばし」は読みやすいですか。(○は1つ)

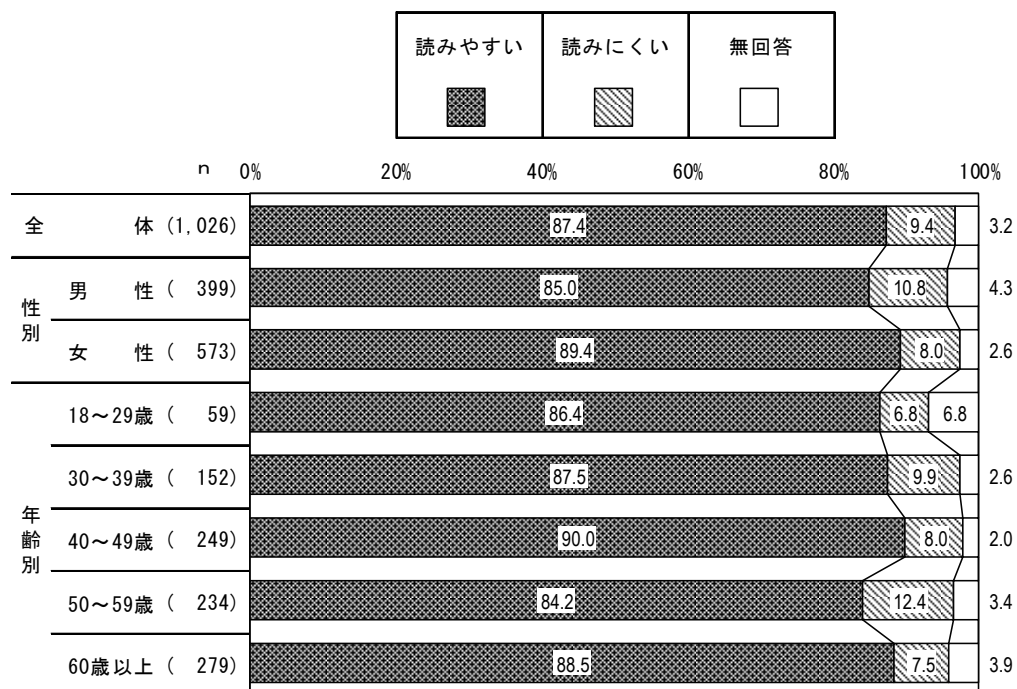
「広報ふなばし」の閲読状況で「よく読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「あまり読んでいない」と多少でも読んだことのある人(1,026人)を対象に、「広報ふなばし」が読みやすいかを聞いたところ、8割を超えて87.4%の人が「読みやすい」と回答している。



図Ⅲ-31 「広報ふなばし」の読みやすさ

【性別／年齢別】

性別、年齢別の全ての区分で、8割を超える人が、「広報ふなばし」を「読みやすい」と答えている。



図Ⅲ－３２ 「広報ふなばし」の読みやすさ（性別／年齢別）

(4-2) 「広報ふなばし」を読まない理由

「広報ふなばし」を読まない理由は、「入手方法がわからない」とした人が5割弱

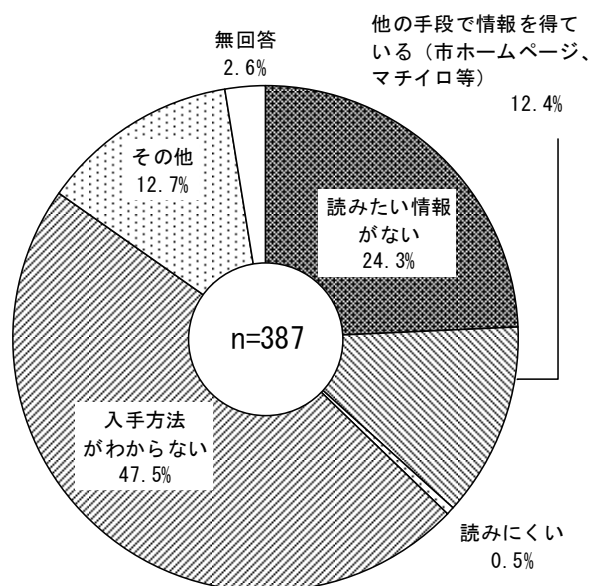
(問7で「4. 読まない」とお答えの方)

【問7-2】読まない理由を教えてください。(〇は1つ)

「広報ふなばし」の閲読状況で「読まない」と答えた人(387人)が、読まない理由として挙げたのは、「入手方法がわからない」が47.5%で最も高くなっている。

次いで「読みたい情報がない」(24.3%)、「他の手段で情報を得ている(市ホームページ、マチイロ等)」(12.4%)と続いている。

「その他」としては、「興味や関心がないから」(17件)、「「広報ふなばし」のことを知らなかったから」(10件)などが挙げられている。



図Ⅲ-33 「広報ふなばし」を読まない理由

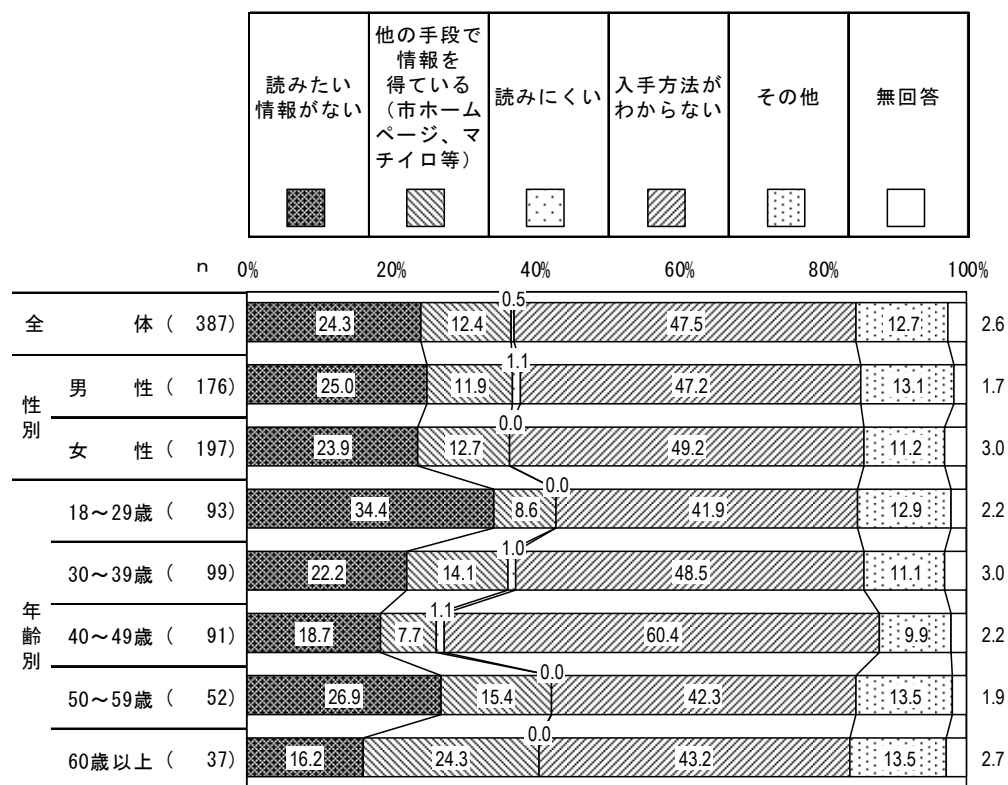
表Ⅲ-6 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
興味や関心がないから	17
「広報ふなばし」のことを知らなかったから	10
新聞を購読していないから、購読をやめたから	7
手にする機会がないから	4
読む時間がないから	3
配達されていないから	3
読み書きができない	1
合計	45

【性別／年齢別】

性別での違いはあまり見られない。

年齢別にみると、他の年齢に比べ、18～29 歳は「読みたい情報がない」(34.4%)、40～49 歳は「入手方法がわからない」(60.4%)、60 歳以上は「他の手段で情報を得ている（市ホームページ、マチイロ等）」(24.3%) の割合が相対的に高くなっている。



図Ⅲ－３４ 「広報ふなばし」を読まない理由（性別／年齢別）

(4-3) 「広報ふなばし」が読みにくいとした理由

「広報ふなばし」が読みにくい理由は、「レイアウトが悪い」、「読みたい記事・情報がない」、「字が小さい」から

(問7-1で「2. 読みにくい」とお答えの方)

(問7-2で「3. 読みにくい」とお答えの方)

【問7-3】読みにくいとされた具体的な理由をお書きください。

「広報ふなばし」が読みにくいとしたのは98人となっている。

具体的な理由として、件数の多い順に「レイアウトが悪い」(22件)、「読みたい記事・情報がない」(15件)、「字が小さい」(13件)が挙げられている。

表Ⅲ-7 「広報ふなばし」が読みにくいとした理由の内訳

内訳	件数
レイアウトが悪い	22
読みたい記事・情報がない	15
字が小さい	13
情報が多すぎる	8
字が多すぎる	7
色使いが悪い	6
記事・情報が探しにくい	5
イラストや写真が少ない	1
合計	77

(5) 「広報活動」概観

広報紙やホームページで提供する情報は、必要としている人の属性に合ったものが必要

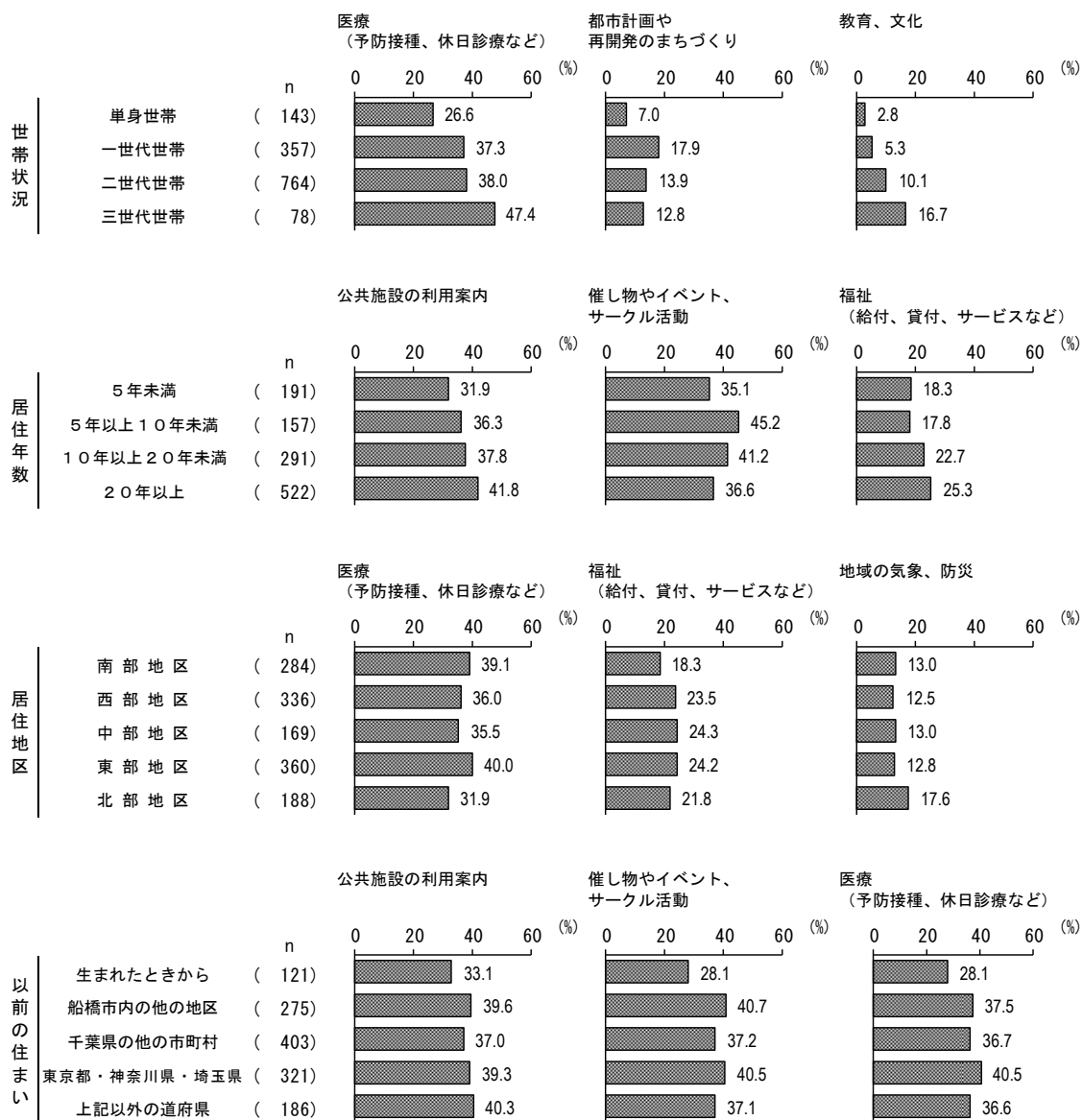
広報紙やホームページで知りたい情報については、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、他の属性情報の区分間で違いの大きかった項目を挙げる。

世帯状況別にみると、「医療（予防接種、休日診療など）」で三世代世帯（47.4％）と単身世帯（26.6％）に 20.8 ポイントの差が見られる（「その他」を除く）。

居住年数別にみると、「催し物やイベント、サークル活動」で、5 年以上 10 年未満（45.2％）と 5 年未満（35.1％）に 10.1 ポイントの差が見られる（「生まれたときから」を除く）。

居住地区別にみると、「医療（予防接種、休日診療など）」で、東部地区（40.0％）と北部地区（31.9％）に 8.1 ポイントの差が見られる。

以前の住まい別にみると、「催し物やイベント、サークル活動」で、船橋市内の他の地区（40.7％）と生まれたときから（28.1％）に 12.6 ポイントの差が見られる（「日本国外」を除く）。



図Ⅲ－３５ 広報紙やホームページで知りたい情報

「広報ふなばし」を読む人の割合は、「世帯状況、居住年数、以前の住まい」でも異なる

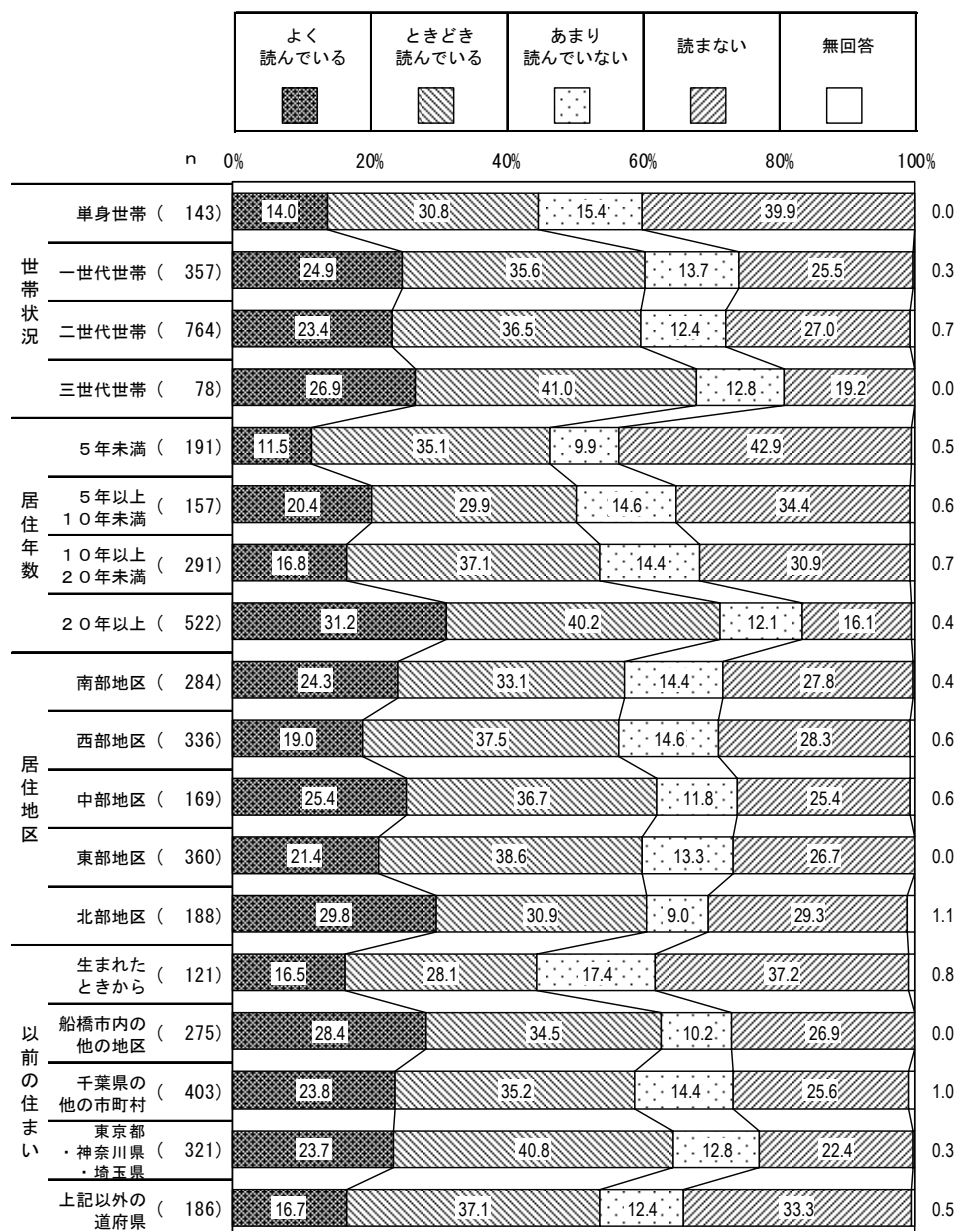
「広報ふなばし」の閲読状況については、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、他の属性情報で「よく読んでいる」と「ときどき読んでいる」を合わせた割合に注目する。

世帯状況別にみると、三世帯世帯（67.9%）と単身世帯（44.8%）に 23.1 ポイントの差が見られる（「その他」を除く）。

居住年数別にみると、20年以上（71.4%）と5年未満（46.6%）に 24.8 ポイントの差が見られる（「生まれたときから」を除く）。

居住地区別にみると、著しい違いは見られない。

以前の住まい別にみると、東京都・神奈川県・埼玉県（64.5%）と生まれたときから（44.6%）に 19.9 ポイントの差が見られる（「日本国外」を除く）。



図Ⅲ－３６ 「広報ふなばし」の閲読状況

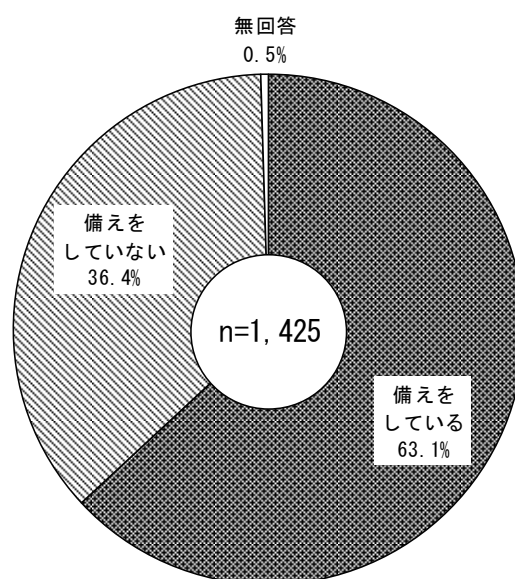
3. 「災害への備え」について

(1) 災害への備え

災害に備えている人は6割超

【問8】日頃から災害への備えをしていますか。(〇は1つ)

日頃から災害への備えをしているか聞いたところ、「備えをしている」が63.1%、「備えをしていない」が36.4%となっている。

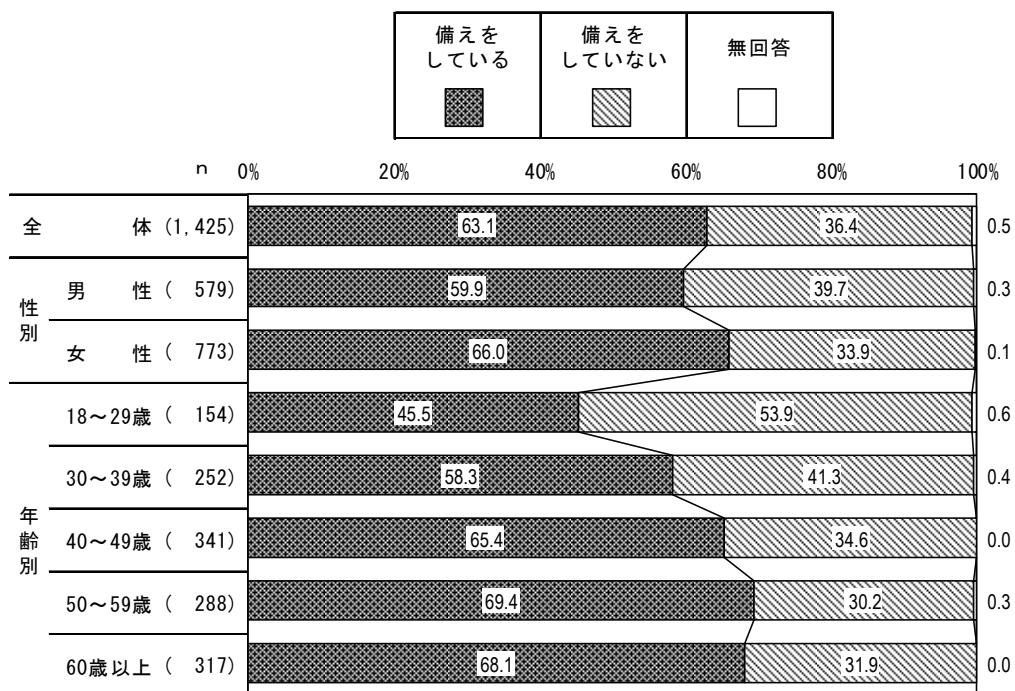


図Ⅲ－３７ 災害への備え

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「備えをしている」は女性（66.0％）が男性（59.9％）より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「備えをしている」の割合が高くなる傾向が見られ、50～59 歳（69.4％）が最も高く、最も低い 18～29 歳（45.5％）とは 23.9 ポイントの差がある。



図Ⅲ－３８ 災害への備え（性別／年齢別）

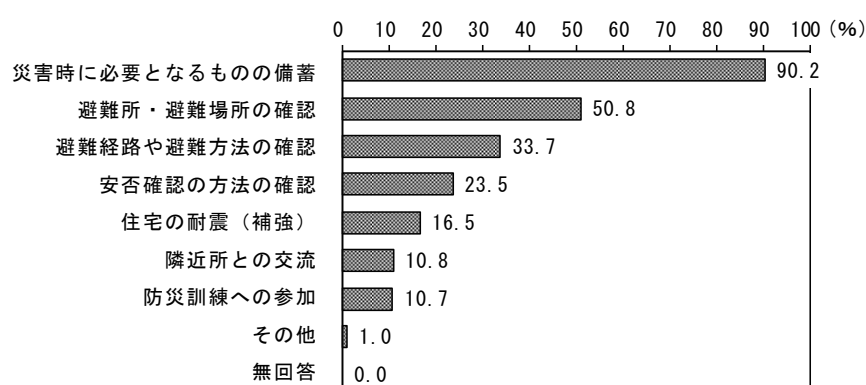
(1-1) 災害への備えの内容

災害への備えは、「災害時に必要となるものの備蓄」が9割超、「避難所・避難場所の確認」が5割超

(問8で「1. 備えをしている」とお答えの方)

【問8-1】どのような備えをされていますか。(〇はいくつでも)

災害への「備えをしている」と答えた人(899人)が行っている備えは、「災害時に必要となるものの備蓄」の割合が90.2%と最も高く9割を超え、次いで「避難所・避難場所の確認」(50.8%)が5割を超え、「避難経路や避難方法の確認」(33.7%)、「安否確認の方法の確認」(23.5%)までが2割を超えている。



[n=899]

図Ⅲ-39 災害への備えの内容

表Ⅲ-8 「その他」の内訳

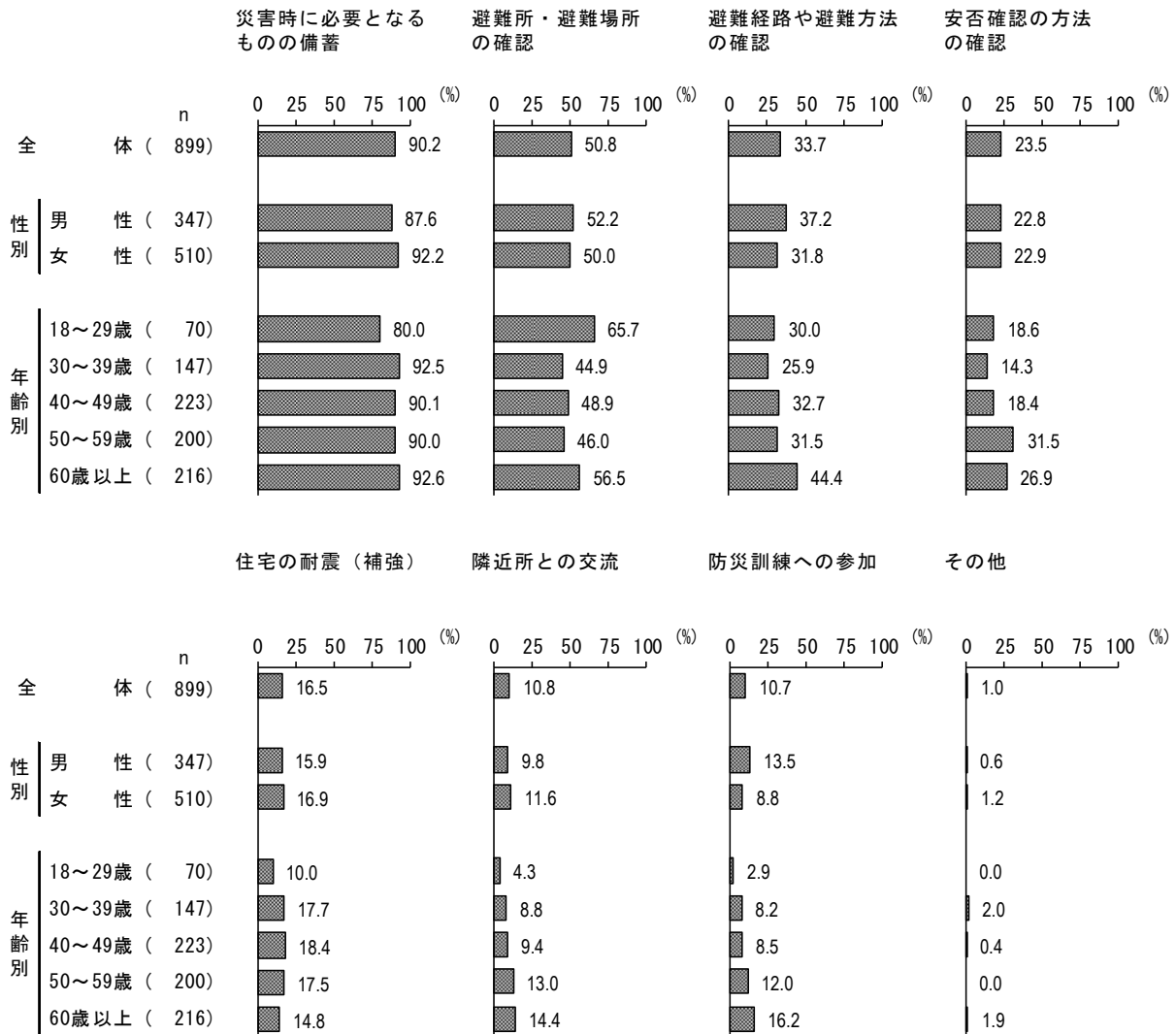
「その他」の内容	件数
太陽光発電	2
家具の転倒防止をする	2
蓄電池、バッテリー	1
車に災害グッズを備える	1
井戸水を利用できるようにする	1
防災研修やイベントへ参加して知識を得る	1
訓練を受けている(元自衛官)	1
合計	9

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「災害時に必要となるものの備蓄」では、女性（92.2%）が男性（87.6%）より 4.6 ポイント高く、「避難経路や避難方法の確認」、「防災訓練への参加」では、男性（37.2%、13.5%）が女性（31.8%、8.8%）より各々5.4、4.7 ポイント高くなっている。

18～29 歳に注目すると、「災害時に必要となるものの備蓄」では、他の年齢が 9 割を超えているが 80.0%に留まり、逆に「避難所・避難場所の確認」では、最も高く 65.7%となっている。

「避難経路や避難方法の確認」は、60 歳以上（44.4%）の割合が突出している。



図Ⅲ－４０ 災害への備えの内容（性別／年齢別）

(1-2) 備蓄している品目

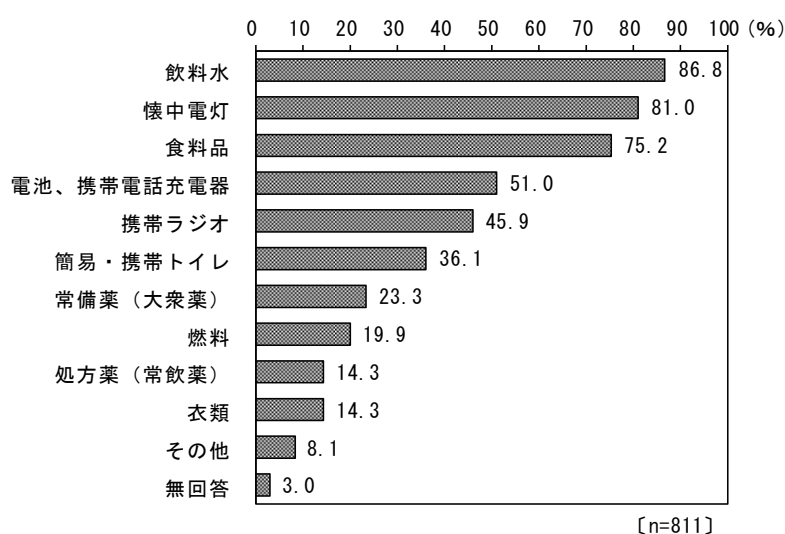
「飲料水」、「懐中電灯」、「食料品」を備蓄している人が多く、「飲料水」、「懐中電灯」は8割超

(問8-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」とお答えの方)

【問8-2】どのような品を備蓄していますか。(〇はいくつでも)

災害への備えの内容で、「災害時に必要となるものの備蓄」と答えた人(811人)が備蓄している品目の割合は、「飲料水」が86.8%と最も高く、次いで「懐中電灯」(81.0%)、「食料品」(75.2%)、「電池、携帯電話充電器」(51.0%)までが5割を超えている。

「その他」については、「ラップフィルム・アルミホイル」(13件)、「軍手・ヘルメット」(11件)、「トイレットペーパー・ティッシュ・ウェットティッシュ」(10件)などが挙げられている。



図Ⅲ-4 1 備蓄している品目

表Ⅲ-9 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
ラップフィルム・アルミホイル	13
軍手・ヘルメット	11
トイレットペーパー・ティッシュ・ウェットティッシュ	10
ゴミ袋・ビニール袋・新聞紙	8
テント・寝袋	7
防寒具・雨具	6
ペット用品	5
生理用品	5
履物 (スリッパ・サンダル・シューズ・靴)	4
タオル・毛布・ブランケット	4
現金	4
食器・使い捨て食器	3
コンロ	3
ベビー用品・おもちゃ	2
その他	23
合計	108

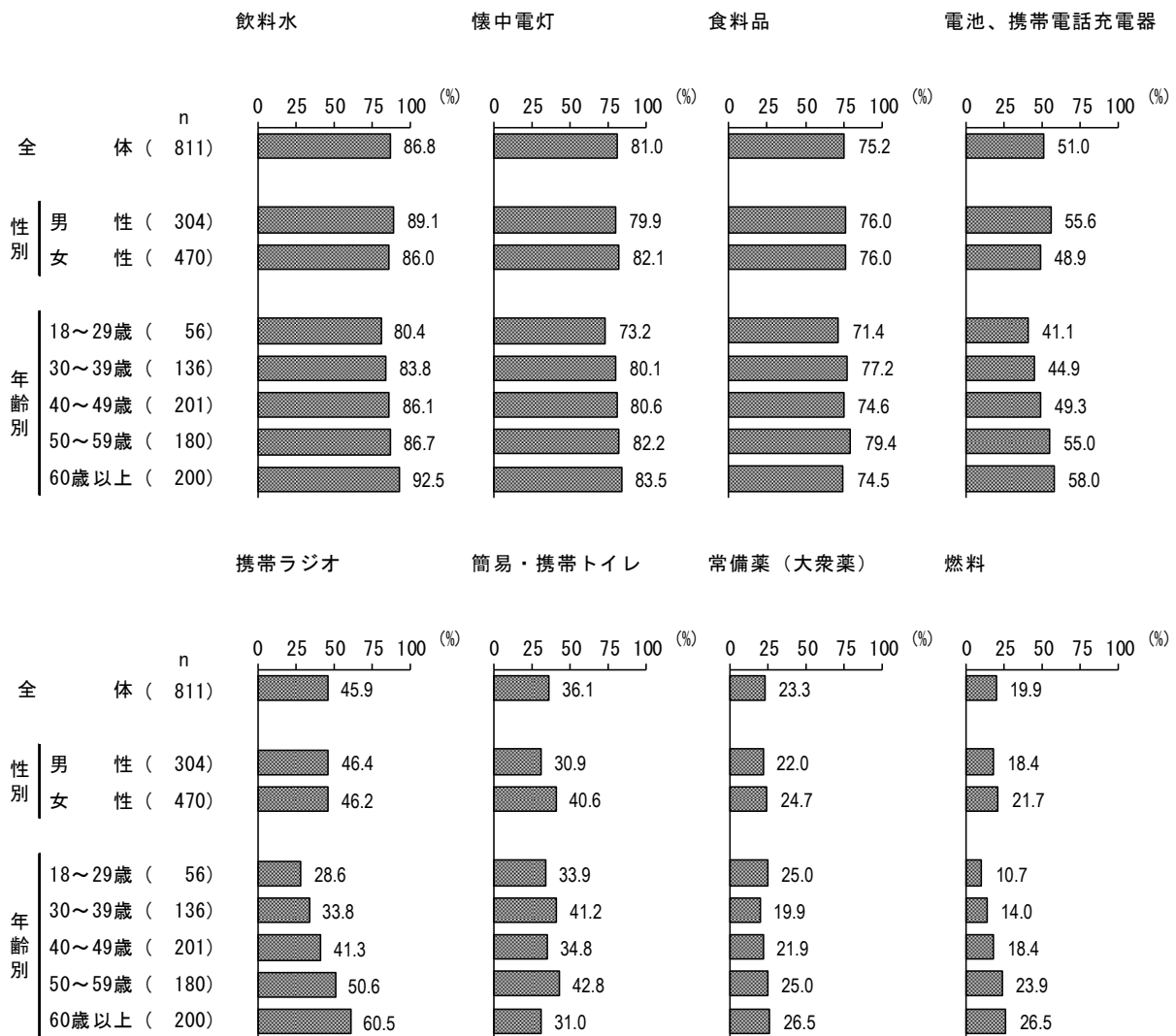
【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「簡易・携帯トイレ」は、女性（40.6％）が男性（30.9％）より 9.7 ポイント高くなっている。

一方、「電池、携帯電話充電器」は、男性（55.6％）が女性（48.9％）より 6.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「飲料水」、「懐中電灯」、「電池、携帯電話充電器」、「携帯ラジオ」、「燃料」では、年齢が上がるに従い割合も高くなっている。

「携帯ラジオ」では、割合が最も高い 60 歳以上（60.5％）と最も低い 18～29 歳（28.6％）の差が 31.9 ポイントとなっている。



図Ⅲ－４２ 備蓄している品目（性別／年齢別）（上位8項目）

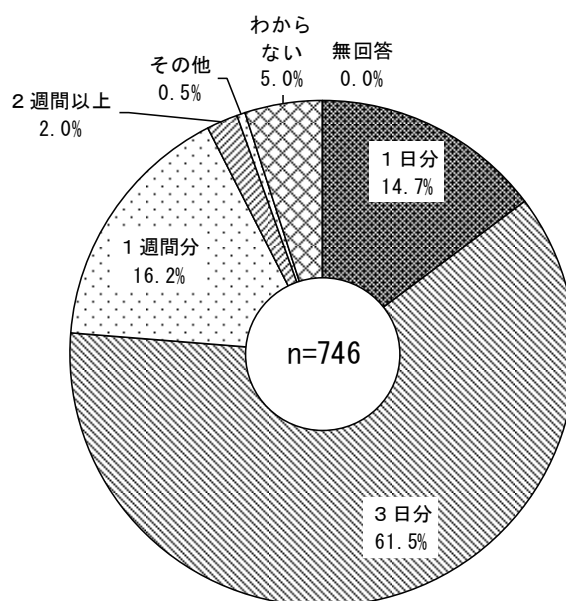
(1-3) 何日分の備蓄をしているか

6割を超える人が3日分を備蓄、1週間以内が全体の9割超

(問8-2で「1. 飲料水」または「2. 食料品」とお答えの方)

【問8-3】飲料水や食料品を何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

備蓄している品目で「飲料水」または「食料品」と答えた人(746人)が備蓄している量は、「3日分」が61.5%で最も高く、次いで「1週間分」(16.2%)、「1日分」(14.7%)と続き、ここまでで全体の92.4%を占め9割を超えている。



図Ⅲ-43 何日分の備蓄をしているか

表Ⅲ-10 「その他」の内訳

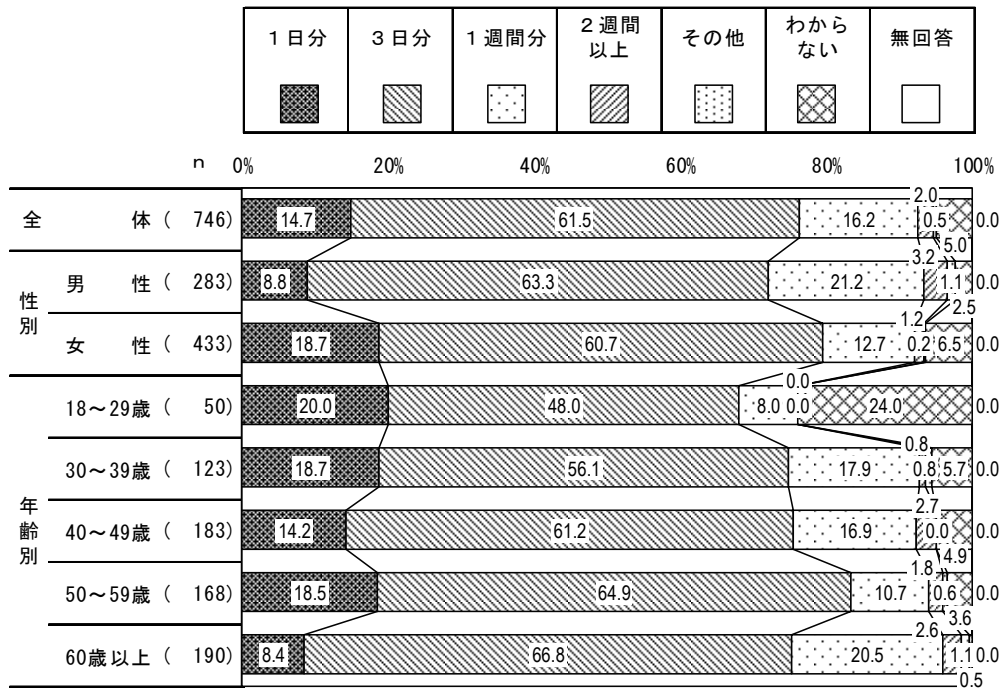
「その他」の内容	件数
備蓄用食品は値段が高く、1回分だけ用意	1
井戸が有る	1
2リットル×2本	1
半年の期限の水を2リットル×6本	1
合計	4

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「1 日分」は女性（18.7%）が男性（8.8%）より 9.9 ポイント高く、「3 日分」、「1 週間分」では男性（63.3%、21.2%）が女性（60.7%、12.7%）より各々 2.6、8.5 ポイント高くなっている。

1 週間以内とすれば、男性（93.3%）と女性（92.1%）に大きな差は見られない。

年齢別にみると、60 歳以上の「1 日分」の割合は 8.4%と最も低く、「3 日分」、「1 週間分」は各々 66.8%、20.5%で最も高くなっている。最も差が開く 18～29 歳（20.0%、48.0%、8.0%）とは、各々-11.6、18.8、12.5 ポイントの差がある。



図Ⅲ－４４ 何日分の備蓄をしているか（性別／年齢別）

(1-4) 備えをしていない理由

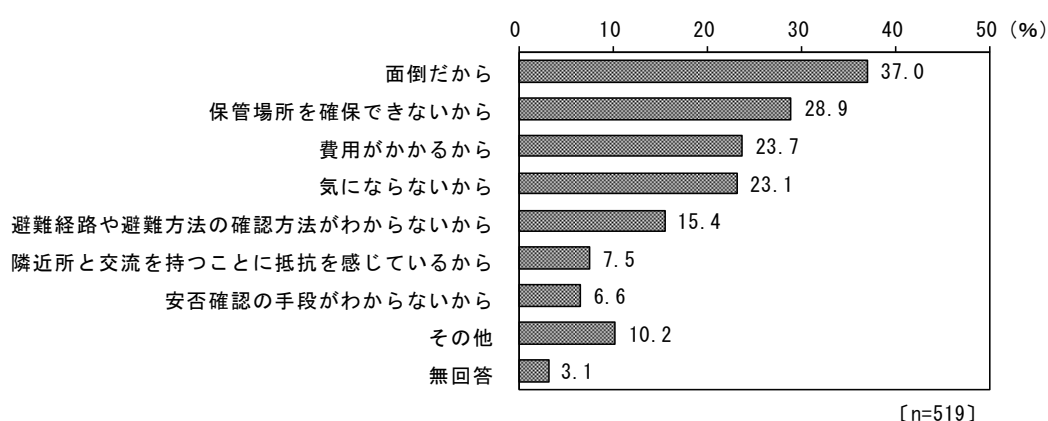
備えをしていない理由は「面倒だから」が3割超

(問8で「2. 備えをしていない」とお答えの方)

【問8-4】備えをしていない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

災害への「備えをしていない」と答えた人(519人)の備えをしていない理由は、「面倒だから」が37.0%で最も高く、次いで「保管場所を確保できないから」(28.9%)、「費用がかかるから」(23.7%)、「気にならないから」(23.1%)までが2割を超えている。

「その他」については、理由ではないが「備えようと思っはいるができていない」(21件)が多く挙がっている。



図Ⅲ-45 備えをしていない理由

表Ⅲ-11 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
備えようと思っはいるができていない	21
時間がないから、忙しいから	7
賞味期限等の管理が難しい	4
少しはしているが完全ではない	3
何をしたらいいかわからないから	3
家族に任せているから	2
家族の理解がないから	2
その他	10
合計	52

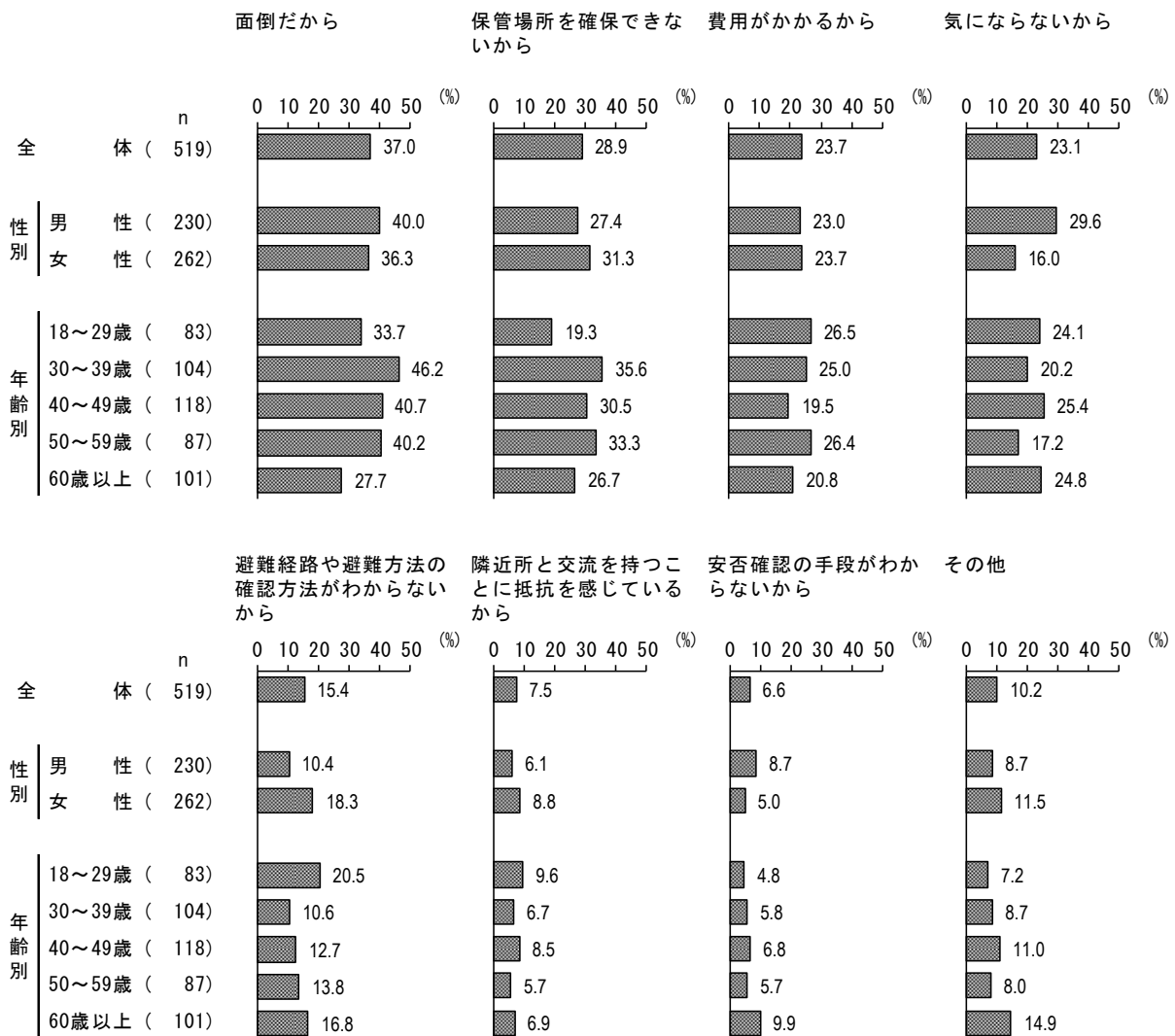
【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「面倒だから」、「気にならないから」では男性（40.0%、29.6%）が女性（36.3%、16.0%）より各々3.7、13.6 ポイント高くなっている。

逆に、「保管場所を確保できないから」、「避難経路や避難方法の確認方法がわからないから」では女性（31.3%、18.3%）が男性（27.4%、10.4%）より各々3.9、7.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、全体での割合の高い「面倒だから」、「保管場所を確保できないから」は、18～29 歳（33.7%、19.3%）、60 歳以上（27.7%、26.7%）が低い。共に 30～39 歳（46.2%、35.6%）が最も高く、各々の最大差は 18.5、16.3 ポイントとなる。

「避難経路や避難方法の確認方法がわからないから」では、18～29 歳（20.5%）、60 歳以上（16.8%）の割合が高い。



図Ⅲ－4 6 備えをしていない理由（性別／年齢別）（上位8項目）

(1-5) 備蓄していない理由

備蓄していない理由は、「賞味期限等の管理が難しいから」が3割超

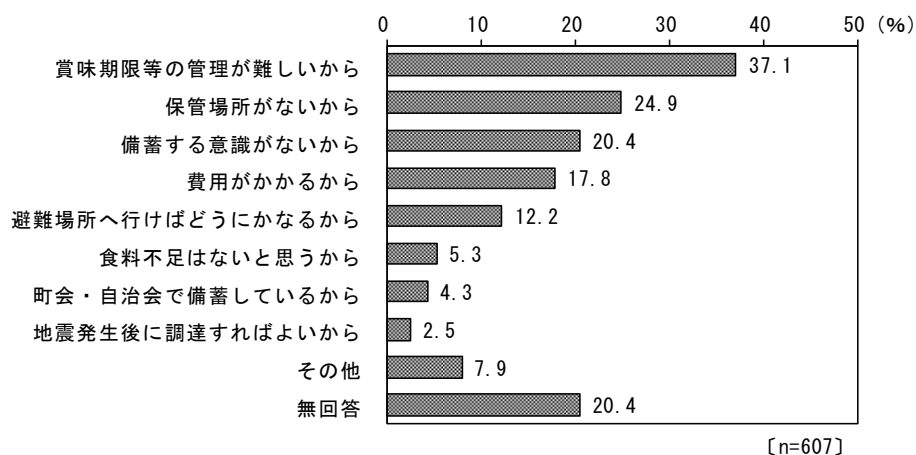
(問8で「2. 備えをしていない」とお答えの方)

(問8-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」を選ばなかった方)

【問8-5】備蓄していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

日頃から災害への備えをしていない、または、災害時に必要となるものの備蓄をしていない人(607人)が備蓄していない理由は、「賞味期限等の管理が難しいから」が37.1%で最も高く、次いで「保管場所がないから」(24.9%)、「備蓄する意識がないから」(20.4%)までが2割を超え、「費用がかかるから」(17.8%)、「避難場所へ行けばどうにかなるから」(12.2%)が続いている。

「その他」では、「備蓄しなくてはいけないと思っている」(11件)や「何をしたらいいかわからないから」(7件)など、備蓄しようとする意識を持っている人の回答が見られる。



図Ⅲ-47 備蓄していない理由

表Ⅲ-12 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
備蓄しなくてはいけないと思っている	11
何をしたらいいかわからないから	7
買い置き食料があるから	6
準備する時間がないから	5
家族に任せているから	4
マンション全体で対応しているから	3
引越して来たばかりだから	3
定期的に準備するのが面倒だから	2
その他	4
合計	45

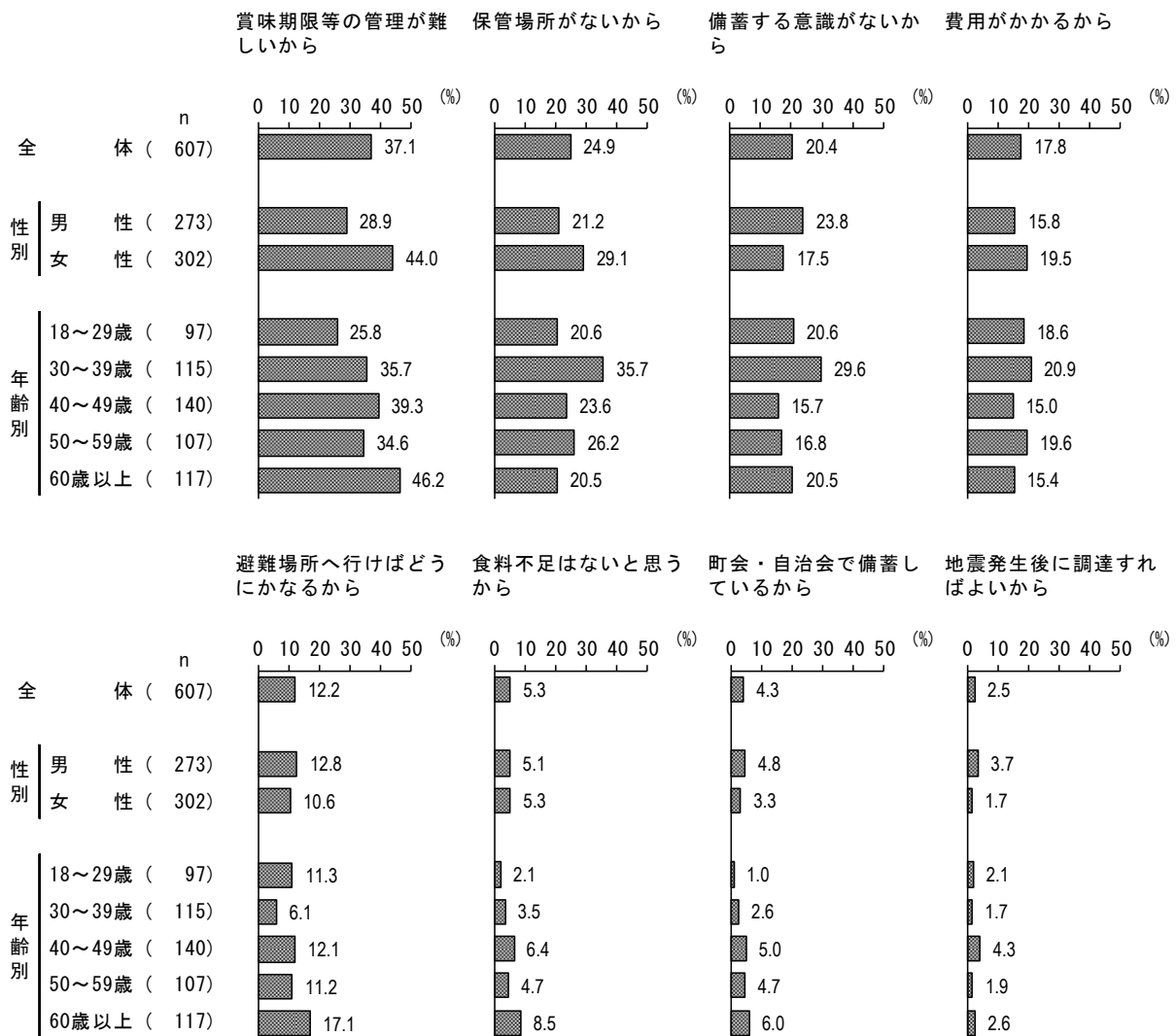
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「備蓄する意識がないから」は男性（23.8%）が女性（17.5%）より 6.3 ポイント高くなっている。

逆に、「賞味期限等の管理が難しいから」、「保管場所がないから」、「費用がかかるから」では女性（44.0%、29.1%、19.5%）が男性（28.9%、21.2%、15.8%）より各々15.1、7.9、3.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「賞味期限等の管理が難しいから」、「避難場所へ行けばどうにかなるから」では 60 歳以上（46.2%、17.1%）の割合が最も高い。

「保管場所がないから」、「備蓄する意識がないから」、「費用がかかるから」では、30～39 歳（35.7%、29.6%、20.9%）の割合が最も高く、「避難場所へ行けばどうにかなるから」では 30～39 歳（6.1%）で最も低くなっている。



図Ⅲ－４８ 備蓄していない理由（性別／年齢別）

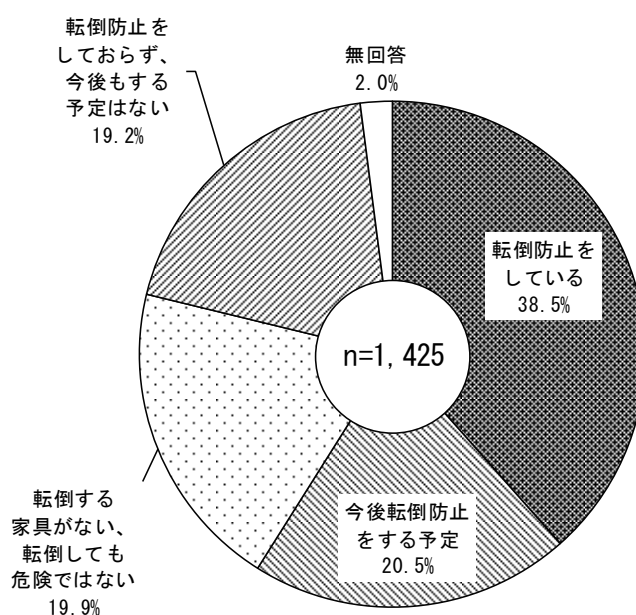
(2) 家具の転倒防止

家具の転倒防止をしているのは4割弱、する予定を含めると6割弱

【問9】家具の転倒を防止するために何かしていますか。(〇は1つ)

家具の転倒を防止するために何かしているか聞いたところ、「転倒防止をしている」が38.5%で最も高く、次いで「今後転倒防止をする予定」(20.5%)、「転倒する家具がない、転倒しても危険ではない」(19.9%)、「転倒防止をしておらず、今後もしする予定はない」(19.2%)の順となっている。

また、「転倒防止をしている」と「今後転倒防止をする予定」を合わせ『転倒防止意向あり』の割合は、59.0%と6割近い。



図Ⅲ-49 家具の転倒防止

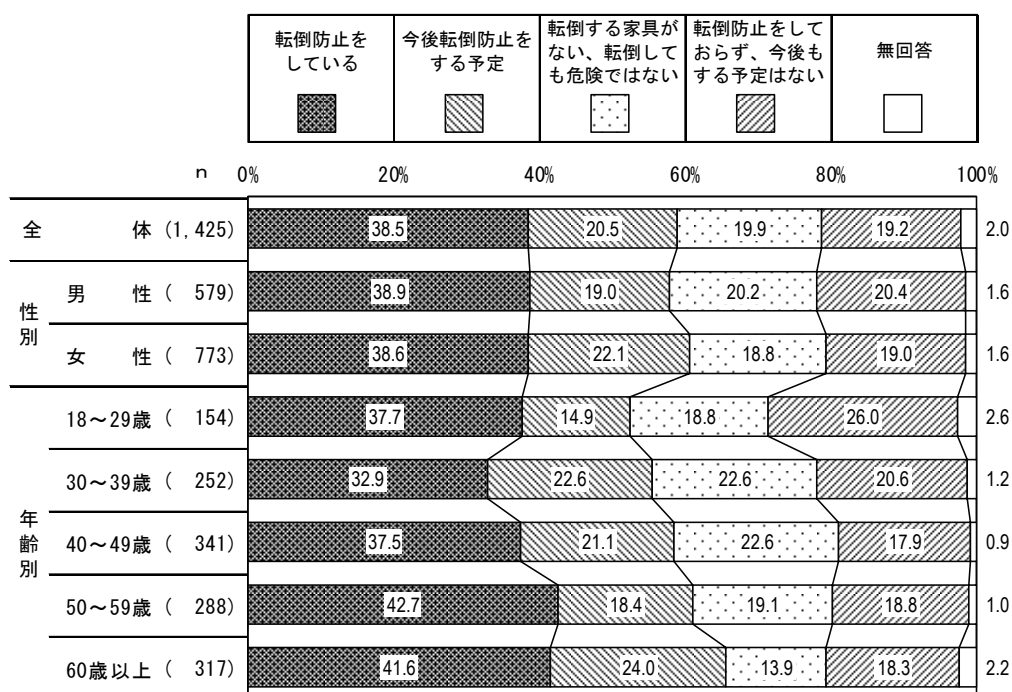
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「今後転倒防止をする予定」の割合は、女性（22.1%）が男性（19.0%）より 3.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「転倒防止をしている」の割合は、50～59 歳（42.7%）が最も高く、最も低い 30～39 歳（32.9%）と 9.8 ポイントの差がある。

また、「転倒防止をしておらず、今後もしる予定はない」の割合は、18～29 歳（26.0%）が最も高く、最も低い 40～49 歳（17.9%）と 8.1 ポイントの差がある。

また、「転倒防止をしている」、「今後転倒防止をする予定」を合わせた『転倒防止意向あり』の割合は、18～29 歳から順に 52.6%、55.5%、58.6%、61.1%、65.6%と年齢が上がるに従い高くなり、最も高い 60 歳以上（65.6%）と最も低い 18～29 歳（52.6%）の差は 13.0 ポイントになる。



図Ⅲ－５０ 家具の転倒防止（性別／年齢別）

(2-1) 家具の転倒防止策（自由回答）

転倒防止策には、「つっぱり棒、フック、ベルト」などの市販グッズが活用されている

（問9で「1. 転倒防止をしている」とお答えの方）

【問9-1】家具の転倒を防止するためにしていることをお書きください。

家具の「転倒防止をしている」と答えた人（548 人）が行っている具体的な転倒防止策は、「家具をつっぱり棒、つっぱり棚で固定している」（256 件）が最も多く、次いで、「家具や家電をフック・金具・ベルトなどで固定している」（139 件）となり、家具や家電を固定する対策が多く挙げられている。

以下、「家具の下に転倒防止板、ストッパーを敷いている」（95 件）、「転倒防止器具ですべり止め対策をしている」（60 件）、「耐震ゴム・ジェルを敷いている」（58 件）が続き、転倒防止とともにすべり止め対策がされている。

表Ⅲ－１３ 家具の転倒防止策（自由回答）の内訳

内訳	件数
家具をつっぱり棒、つっぱり棚で固定している	256
家具や家電をフック・金具・ベルトなどで固定している	139
家具の下に転倒防止板、ストッパーを敷いている	95
転倒防止器具ですべり止め対策をしている	60
耐震ゴム・ジェルを敷いている	58
隙間を無くすようにしている	15
キャビネットロックで扉が開かないようにしている	12
対策済み家具を使うようにしている	11
背の高い家具を置かないようにしている	11
合計	657

(2-2) 家具の転倒防止をしていない理由

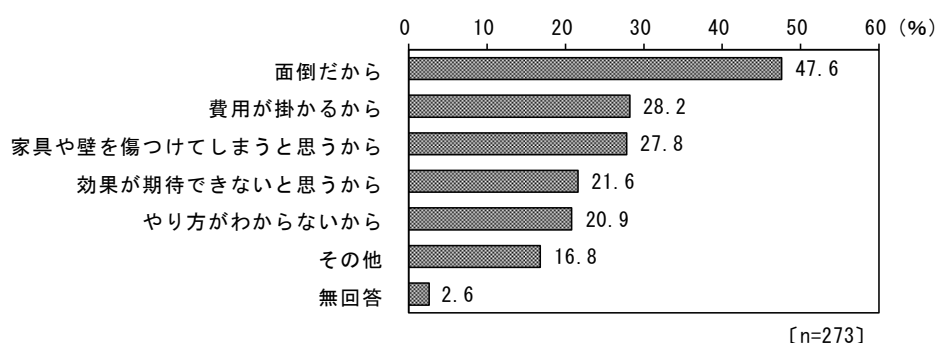
家具の転倒防止をしていない理由は、「面倒だから」が5割弱

(問9で「3. 転倒防止をしておらず、今後もする予定はない」とお答えの方)

【問9-2】家具の転倒防止をしていない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

家具の「転倒防止をしておらず、今後もする予定はない」と答えた人(273人)の転倒防止をしていない理由は、「面倒だから」が47.6%で最も高く、次いで「費用が掛かるから」(28.2%)、「家具や壁を傷つけてしまうと思うから」(27.8%)、「効果が期待できないと思うから」(21.6%)、「やり方がわからないから」(20.9%)の順となっている。

「その他」については、「倒れるような家具を置いてないから」(12件)などが挙がっている。



図Ⅲ-5 1 家具の転倒防止をしていない理由

表Ⅲ-1 4 「その他」の内訳

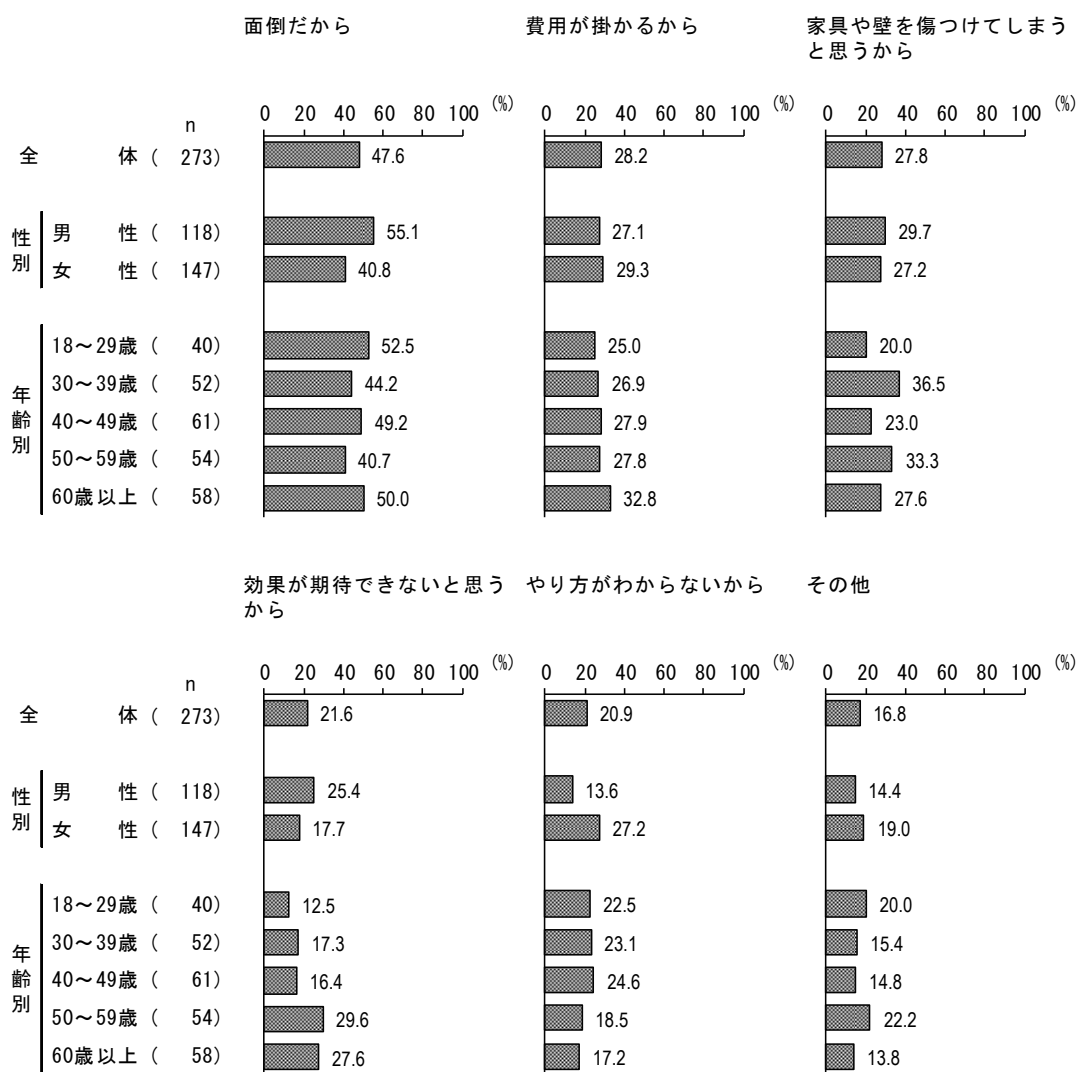
「その他」の内容	件数
倒れるような家具を置いてないから	12
賃貸住宅だから	9
転倒したことがない、必要性を感じないから	5
人手がなく、対策を行えないため	5
家の中では安全な場所で過ごしているから	3
その他	11
合計	45

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「面倒だから」、「効果が期待できないと思うから」で差が見られ、男性（55.1%、25.4%）が女性（40.8%、17.7%）より各々14.3、7.7ポイント高くなっている。

一方、「やり方がわからないから」は、女性（27.2%）が男性（13.6%）より 13.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、差が大きなものとして、「家具や壁を傷つけてしまうと思うから」の割合は、最も高い 30～39 歳（36.5%）と最も低い 18～29 歳（20.0%）に 16.5 ポイントの差が見られ、同様に、「効果が期待できないと思うから」は、50～59 歳（29.6%）と 18～29 歳（12.5%）に 17.1 ポイントの差が見られる。



図Ⅲ－５２ 家具の転倒防止をしていない理由（性別／年齢別）

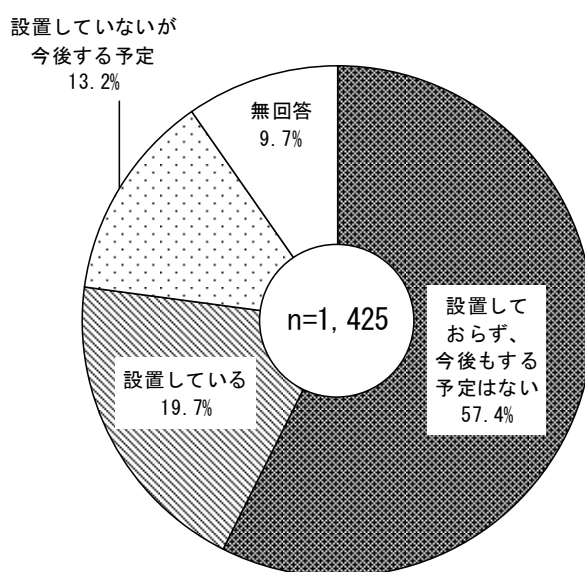
(3) 感震ブレーカー設置の有無

感震ブレーカーは、「設置しておらず、今後もある予定はない」が6割弱

【問10】地震が引き起こす電気火災を防止するために「感震ブレーカー」を設置していますか。(〇は1つ)

感震ブレーカーの設置状況は、「設置しておらず、今後もある予定はない」が57.4%と最も高くなっている。

一方、「設置している」(19.7%)と「設置していないが今後する予定」(13.2%)を合わせた『設置意向あり』の割合は、32.9%になる。



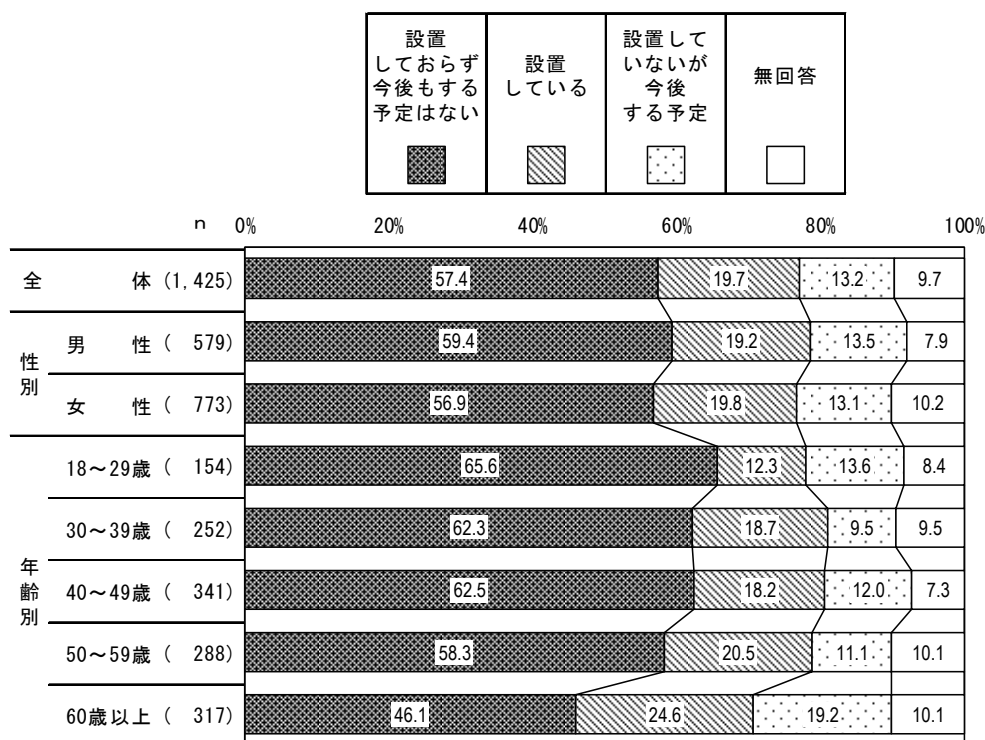
図Ⅲ－５３ 感震ブレーカー設置の有無

【性別／年齢別】

性別による差は見られない。

年齢別にみると、「設置している」と「設置していないが今後する予定」を合わせた『設置意向あり』の割合は、18～29歳から順に25.9%、28.2%、30.2%、31.6%、43.8%となり、年齢が上がるに従い高くなっている。

「設置している」では、最も高い60歳以上（24.6%）と最も低い18～29歳（12.3%）との差は12.3ポイント、同様に「設置していないが今後する予定」の差は、60歳以上（19.2%）と30～39歳（9.5%）で9.7ポイント、『設置意向あり』では、60歳以上（43.8%）と18～29歳（25.9%）との間で17.9ポイントとなっている。



図Ⅲ－５４ 感震ブレーカー設置の有無（性別／年齢別）

(3-1) 感震ブレーカーの種類

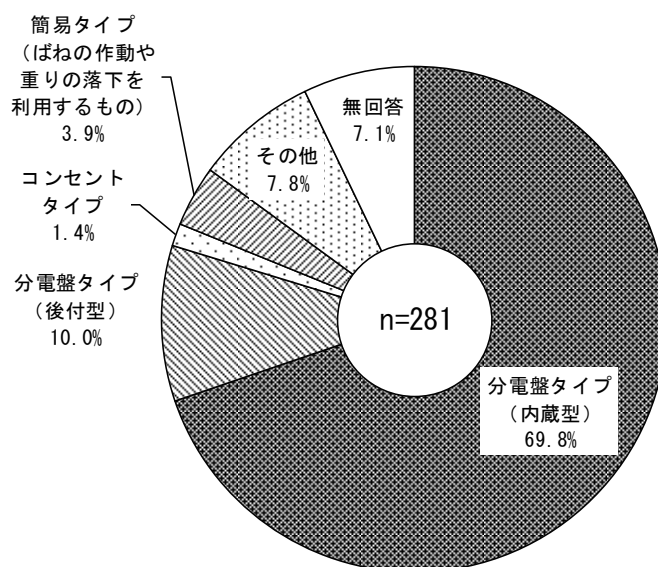
設置されている感震ブレーカーは、「分電盤タイプ」が8割弱

(問10で「1. 設置している」とお答えの方)

【問10-1】「感震ブレーカー」の種類を教えてください。(〇は1つ)

感震ブレーカーを「設置している」と答えた人(281人)に、その種類を聞いたところ、「分電盤タイプ(内蔵型)」が69.8%で最も高く、次いで「分電盤タイプ(後付型)」(10.0%)となっており「分電盤タイプ」が概ね8割を占める。

「その他」については、全て「(感震ブレーカーの種類が) わからない」になっている。



図Ⅲ-55 感震ブレーカーの種類

表Ⅲ-15 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
(感震ブレーカーの種類が) わからない	22
合計	22

【居住年数別／居住地区別】

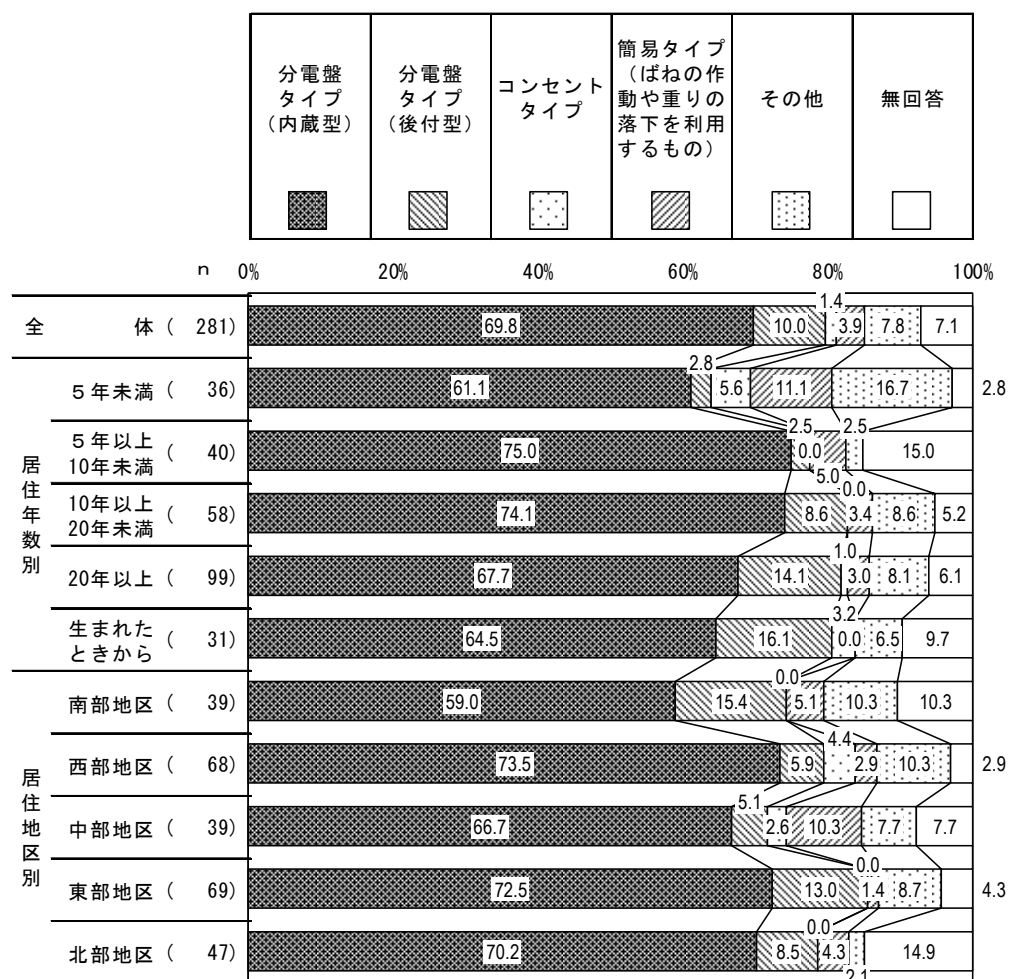
居住年数別にみると、5年未満を除き、居住年数が短い方が「分電盤タイプ（内蔵型）」の割合が高く、逆に、比較的簡易な工事で導入できる「分電盤タイプ（後付型）」は、居住年数が長い方が割合が高い傾向が見られる。

「分電盤タイプ（内蔵型）」と「分電盤タイプ（後付型）」を合わせて『分電盤タイプ』とすると、5年未満から順に 63.9%、77.5%、82.7%、81.8%、80.6%と居住年数を問わず多数を占めている。

居住地区別にみると、西部地区（73.5%）、東部地区（72.5%）、北部地区（70.2%）で、「分電盤タイプ（内蔵型）」の割合が7割を超えている。

「分電盤タイプ（後付型）」は、南部地区（15.4%）と東部地区（13.0%）で割合が高い。

『分電盤タイプ』でみると、全ての地区で7割を超え、東部地区（85.5%）が最も高く8割を超えている。



図Ⅲ－５６ 感震ブレーカーの種類（居住年数別／居住地区別）

(4) 補助制度の有無による対策意向

補助制度があれば、「感震ブレイカー設置」を6割超、「家具の転倒防止」を5割超が行う

(問9で「3. 転倒防止をしておらず、今後もある予定はない」とお答えの方)

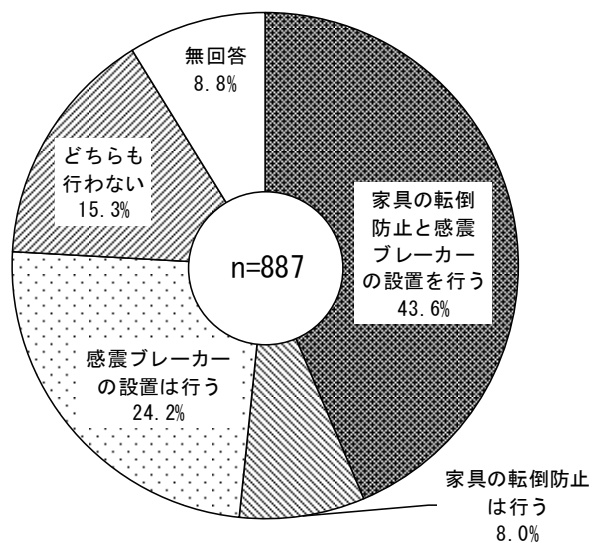
(問10で「2. 設置しておらず、今後もある予定はない」とお答えの方)

【問11】市より補助する制度があれば、家具の転倒防止や「感震ブレイカー」の設置を行いますか。(〇は1つ)

家具の「転倒防止をしておらず、今後もある予定はない」、または、感震ブレイカーを「設置しておらず、今後もある予定はない」と答えた人(887人)に対して、市の補助制度があった場合の対策意向を聞いたところ、43.6%が「家具の転倒防止と感震ブレイカーの設置を行う」と回答している。

「感震ブレイカーの設置を行う」が24.2%、「家具の転倒防止を行う」が8.0%となっているが、各々「家具の転倒防止と感震ブレイカーの設置を行う」と合わせて、『感震ブレイカーの設置を行う』が67.8%(=43.6%+24.2%)、『家具の転倒防止を行う』が51.6%(=43.6%+8.0%)となる。

「どちらも行わない」は15.3%となっている。

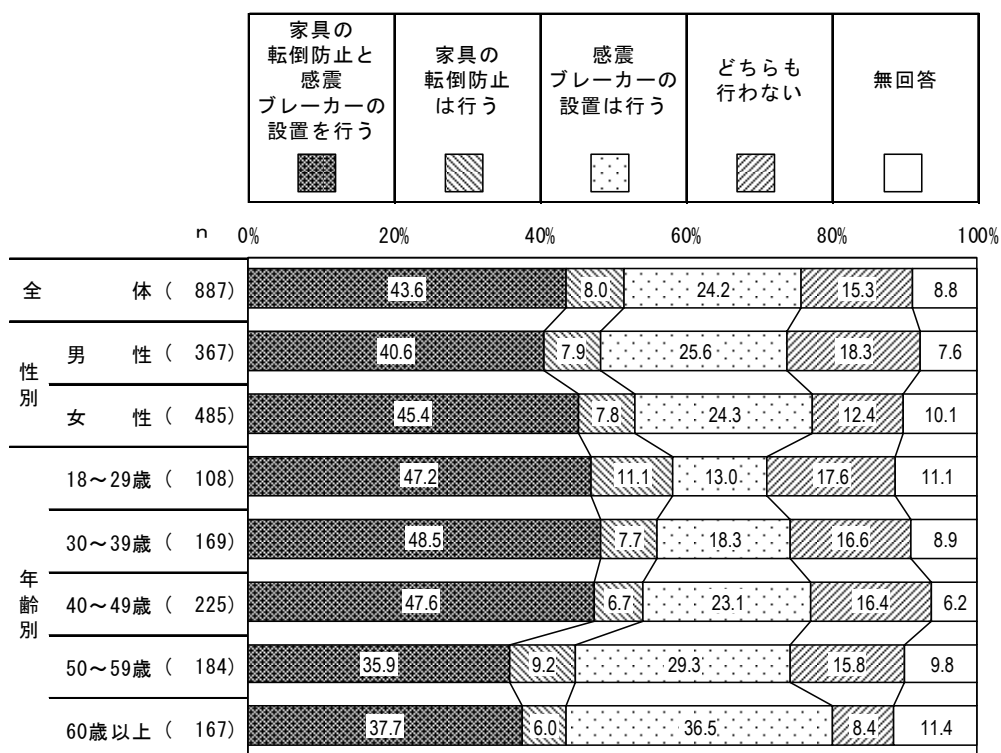


図Ⅲ－５７ 補助制度の有無による対策意向

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「家具の転倒防止と感震ブレイカーの設置を行う」は、女性（45.4％）が男性（40.6％）より 4.8 ポイント高くなっている。一方、「どちらも行わない」では、男性（18.3％）が女性（12.4％）より 5.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「家具の転倒防止と感震ブレイカーの設置を行う」は、他の年齢が 4 割を超えているのに比べ 50～59 歳（35.9％）、60 歳以上（37.7％）が 3 割台と低く、「感震ブレイカーの設置は行う」では 60 歳以上（36.5％）、50～59 歳（29.3％）が高くなっている。

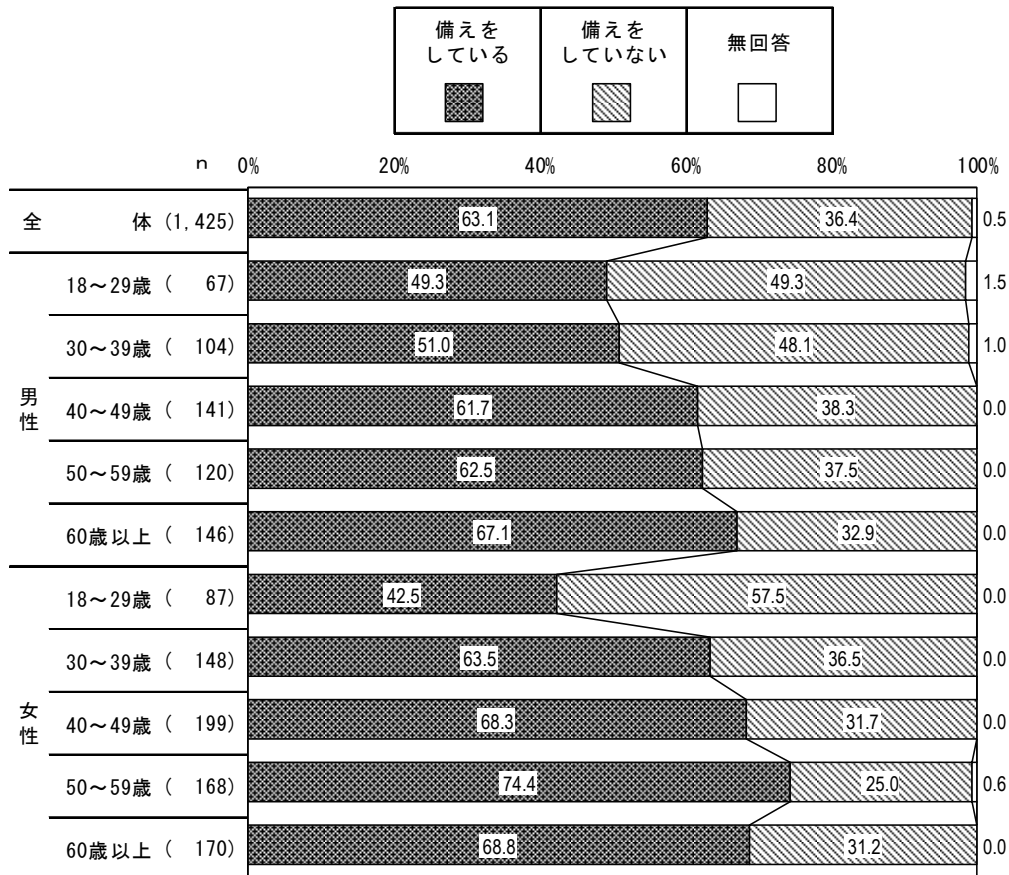


図Ⅲ－５８ 補助制度の有無による対策意向（性別／年齢別）

(5) 「災害への備え」概観

男性、女性共に、18～29歳で「備えをしている」人の割合が、5割を下回っている

「備えをしている」人の属性をより詳細に確認するため、「性別／年齢別」による割合を見てみると、「女性／18～29歳」が42.5%で最も低く、「男性／18～29歳」でも、5割を下回っている。



図Ⅲ－５９ 災害への備え（性別／年齢別）

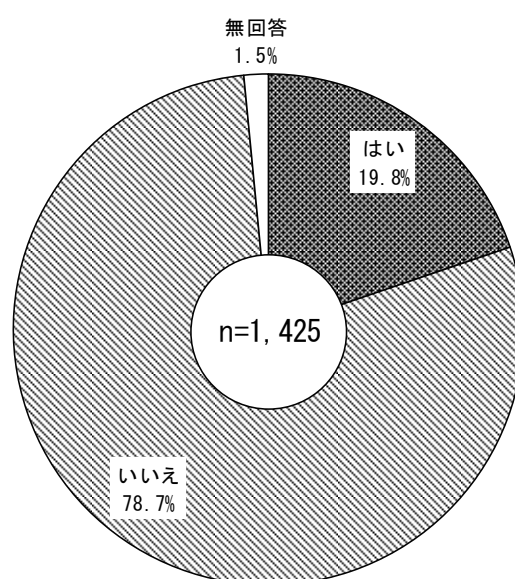
4. 「電話 de 詐欺（振り込め詐欺等）」について

（１）「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」の認知

「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」を知っているのは 2 割弱

【問 1 2】「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」をご存じですか。（○は 1 つ）

「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」を知っているかを聞いたところ、「はい」（19.8%）と答えた人は 2 割を下回っており、8 割近くの人が補助制度を知らない状況になっている。

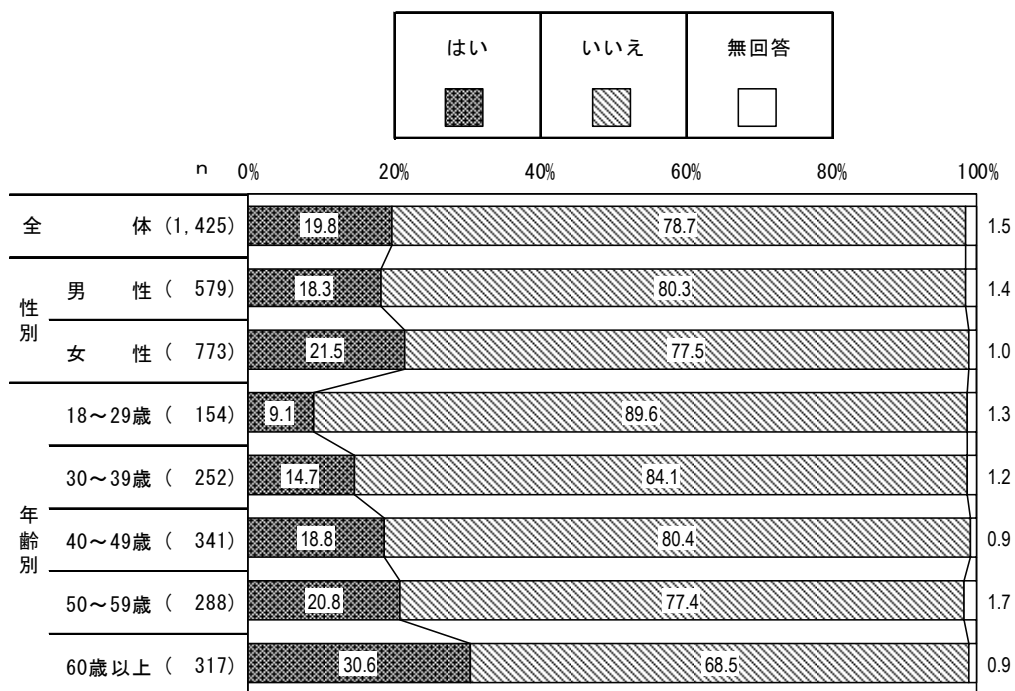


図Ⅲ－60 「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」の認知

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」を知っていると答えた人は、女性（21.5%）が男性（18.3%）より 3.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「はい」の割合が高くなっており、最も低い 18～29 歳（9.1%）と最も高い 60 歳以上（30.6%）には 21.5 ポイントの差がある。



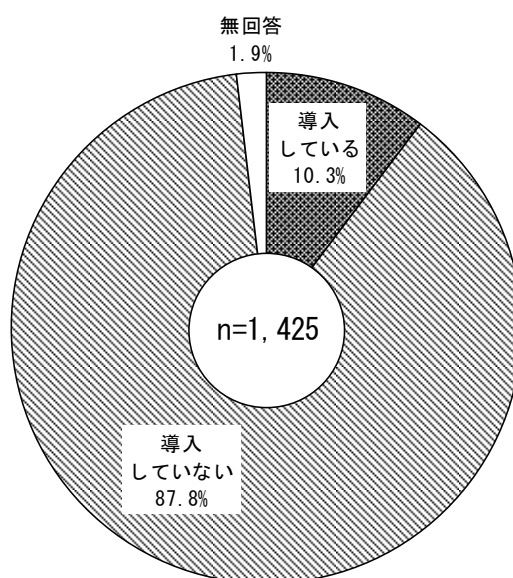
図Ⅲ－6 1 「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」の認知（性別／年齢別）

（２）詐欺防止対策機能の導入状況

詐欺防止対策機能を持つ機器を導入しているのは 1 割超

【問 1 3】詐欺被害に遭わないためには、電話機や防止装置などの詐欺防止対策機能が有効ですが、導入していますか。（〇は 1 つ）

詐欺被害を防ぐために、電話機や防止装置などの詐欺防止対策機能を持つ機器の導入状況を聞いたところ、「導入している」（10.3%）と答えた人は約 1 割に留まっている。



図Ⅲ－6 2 詐欺防止対策機能の導入状況

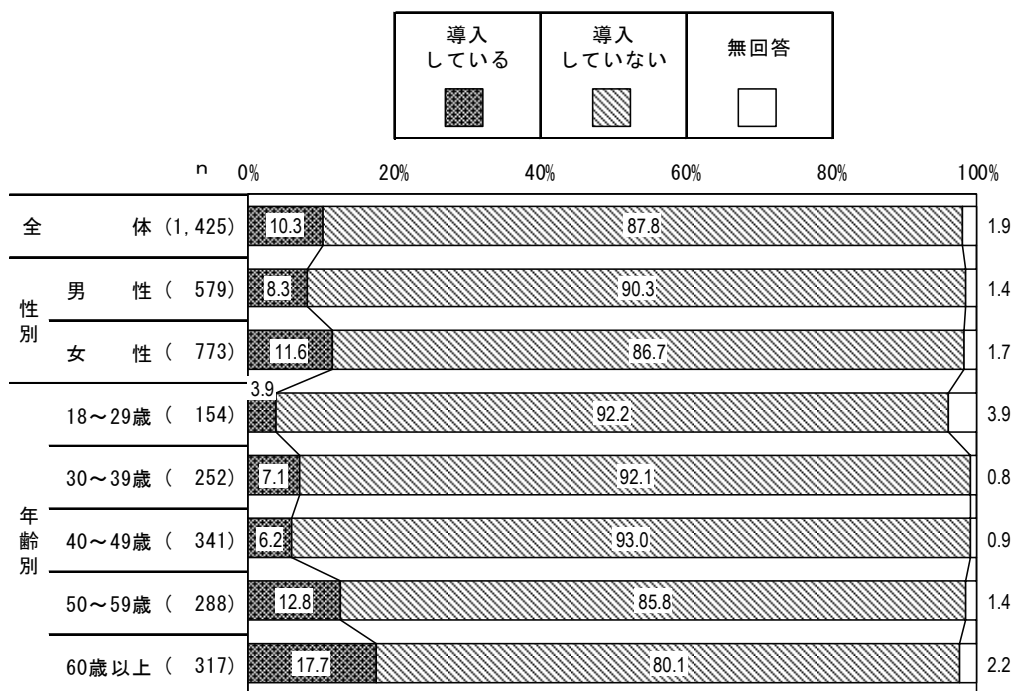
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「導入している」は、女性（11.6%）が男性（8.3%）より 3.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「導入している」の割合が高くなる傾向が見られる。

割合が最も低い 18～29 歳（3.9%）と最も高い 60 歳以上（17.7%）には 13.8 ポイントの差がある。

また、18～29 歳（3.9%）は「無回答」の割合が他の年齢より高くなっている。



図Ⅲ－63 詐欺防止対策機能の導入状況（性別／年齢別）

(2-1) 詐欺防止対策機能を導入していない理由

「必要ない」として詐欺防止対策機能を持つ機器を導入していない人が5割超

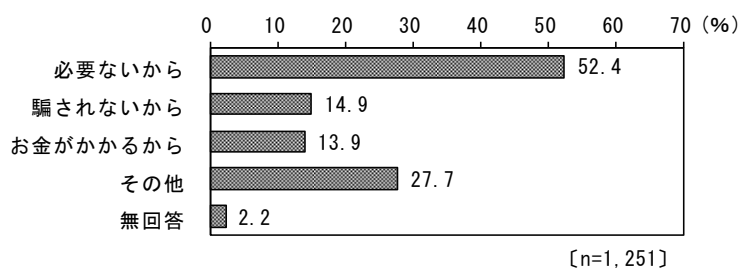
(問13で「2. 導入していない」とお答えの方)

【問13-1】導入していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

詐欺防止対策機能を持つ機器を導入していないと答えた人(1,251人)が導入していない理由としたのは、「必要ないから」が52.4%と最も高く5割を超えている。

次いで、「騙されないから」(14.9%)、「お金がかかるから」(13.9%)の順になっている。

「その他」(27.7%)の割合も高く、「家に固定電話がないから」(94件)、「知らなかったから」(56件)、「対策済だから(留守電)」(41件)などが挙がっており、割合を計算すると各々7.5%、4.5%、3.3%となっている。



図Ⅲ－64 詐欺防止対策機能を導入していない理由

表Ⅲ－16 「その他」の内訳

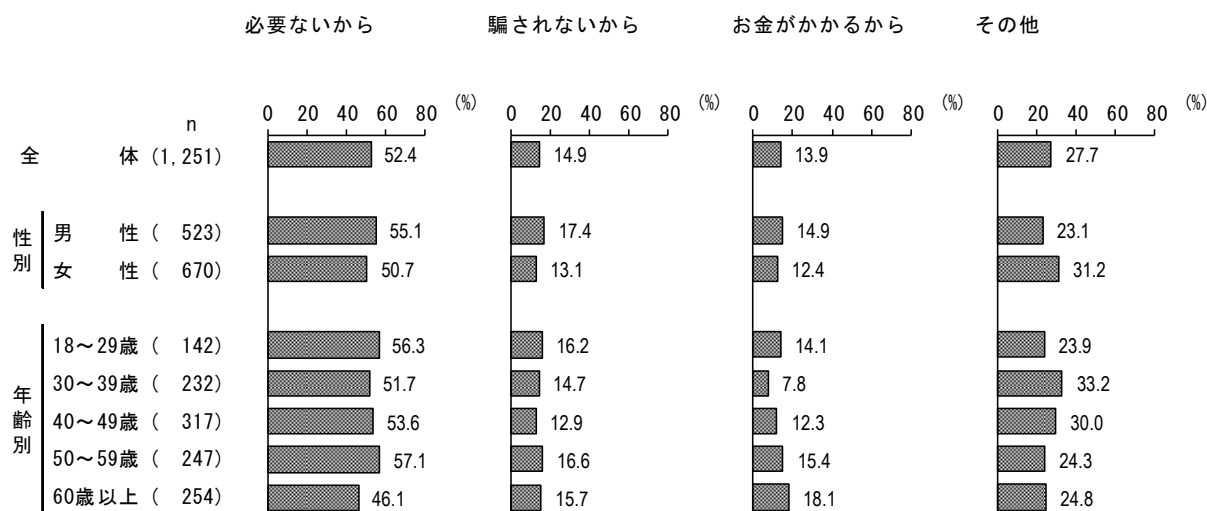
「その他」の内容	件数
家に固定電話がないから	94
知らなかったから	56
対策済だから(留守電)	41
固定電話を使わないようにしているから	31
知らなかったから(対策機能)	19
知らない番号は出ないようにしているから	14
理解をしていない・わからないから	13
気にしてない・考えたことがないから	11
知らなかったから(補助制度)	10
導入を予定・検討している	10
対策済だから(ナンバーディスプレイ)	8
電話が掛かってこないと思っているから	7
高齢者がいないため、必要性を感じていないから	7
その他	22
合計	343

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「必要ないから」、「騙されないから」、「お金がかかるから」では、男性（55.1%、17.4%、14.9%）が女性（50.7%、13.1%、12.4%）より各々4.4、4.3、2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「お金がかかるから」では18～29歳（14.1%）を除き年齢が上がるに従い割合が高くなっている。

「必要ないから」、「騙されないから」は50～59歳（57.1%、16.6%）の割合が最も高くなっている。



図Ⅲ－６５ 詐欺防止対策機能を導入していない理由（性別／年齢別）

(3) 詐欺被害に遭わないための対策

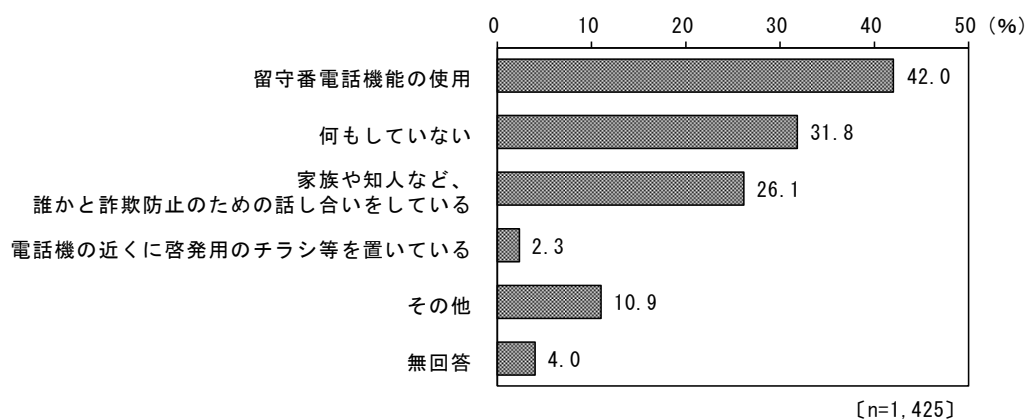
詐欺被害への対策として、留守番電話機能を使っているのが4割超

【問14】詐欺被害に遭わないために、他にどのような対策をとっていますか。
(〇はいくつでも)

詐欺被害に遭わないために行っている対策を聞いたところ、「留守番電話機能の使用」が42.0%と最も高く、対策としては「家族や知人など、誰かと詐欺防止のための話し合いをしている」(26.1%)が続いている。

一方で、「何もしていない」(31.8%)と回答した人が3割を超えている。

「その他」としては、「非通知・未登録・知らない番号には出ない」(49件)、「電話の機能を活用する(発信者番号表示“ナンバーディスプレイ”」(24件)が挙がっており、割合を計算すると各々3.4%、1.7%になっている。



図Ⅲ－66 詐欺被害に遭わないための対策

表Ⅲ－17 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
非通知・未登録・知らない番号には出ない	49
電話の機能を活用する (発信者番号表示“ナンバーディスプレイ”)	24
固定電話を使わない・出ない	18
会話の内容に注意して慎重に対応する	13
家に固定電話がない	11
固定電話を設置しないようにする	10
電話の機能を活用する(録音、着信拒否、あんしん応答)	10
日頃から詐欺を意識する(情報収集など)	10
不審なものは無視、不用意に情報を伝えない	6
その他	10
合計	161

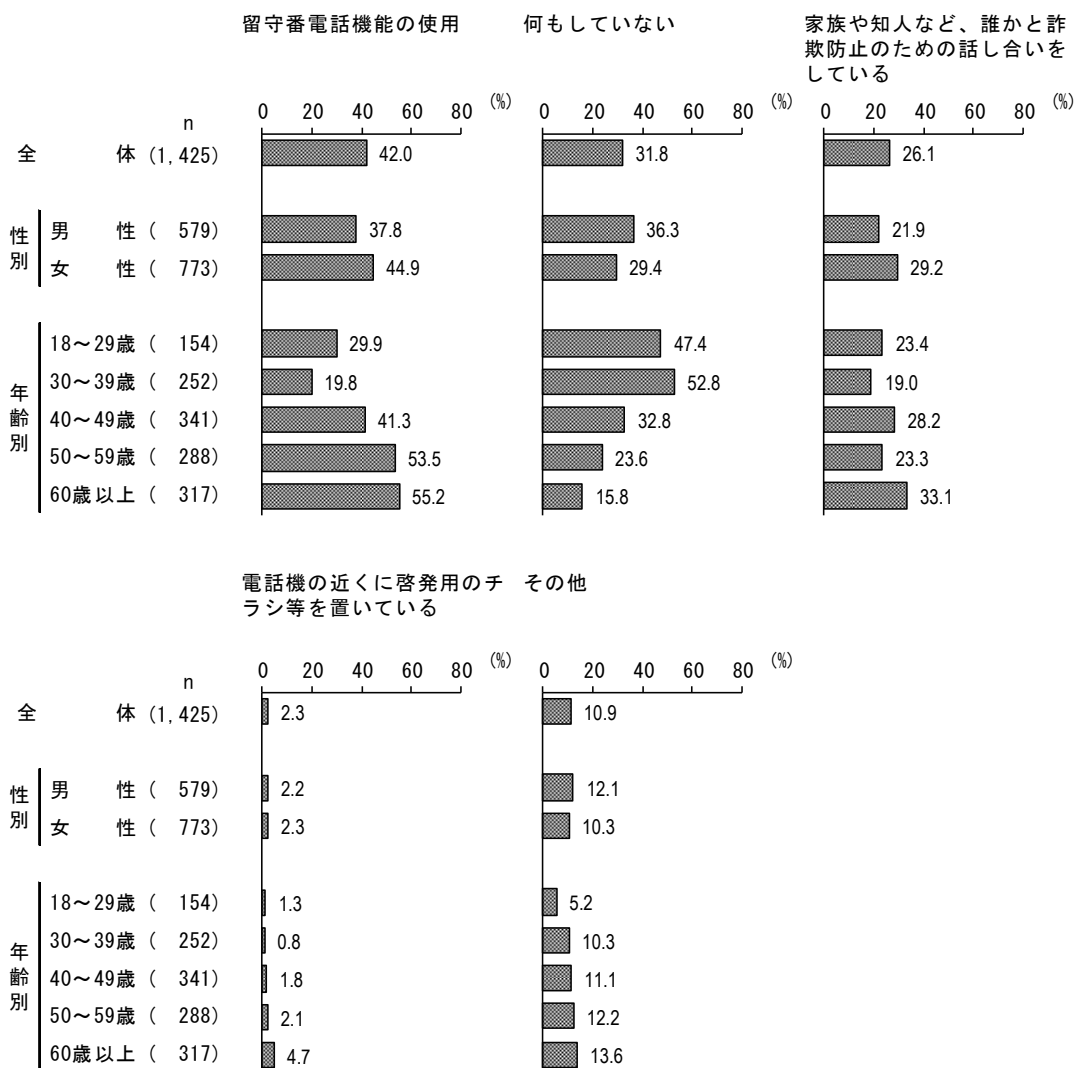
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「何もしていない」は、男性（36.3%）が女性（29.4%）より 6.9 ポイント高くなっている。

「留守番電話機能の使用」、「家族や知人など、誰かと詐欺防止のための話し合いをしている」では、女性（44.9%、29.2%）が男性（37.8%、21.9%）より各々7.1、7.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「何もしていない」は 18～29 歳（47.4%）を除き、年齢が上がるに従い割合が低くなっており、最も高い 30～39 歳（52.8%）と最も低い 60 歳以上（15.8%）との差は 37.0 ポイントになっている。

逆に、「留守番電話機能の使用」、「家族や知人など、誰かと詐欺防止のための話し合いをしている」では年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。

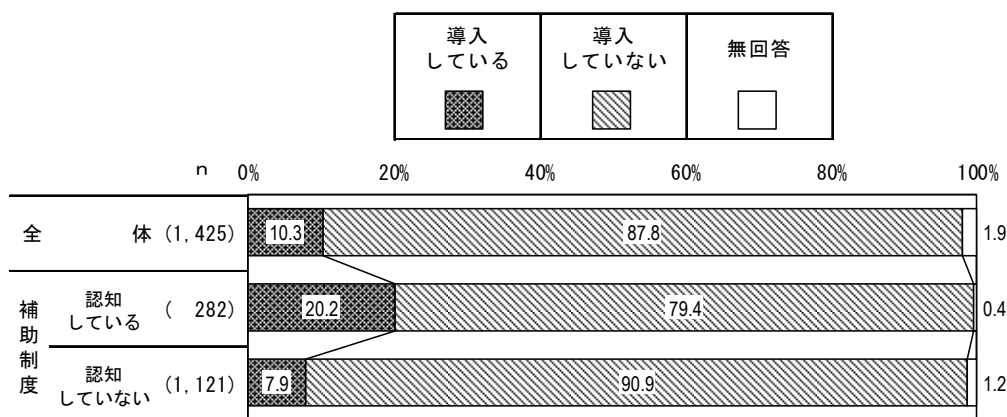


図Ⅲ－６７ 詐欺被害に遭わないための対策（性別／年齢別）

(4) 「電話 de 詐欺（振り込め詐欺等）」概観

補助制度が認知されると、「詐欺防止対策機能」を持つ機器の導入が進み、導入を行っている人は他の対策を併用する割合も高く、振り込め詐欺等に対する意識が高い

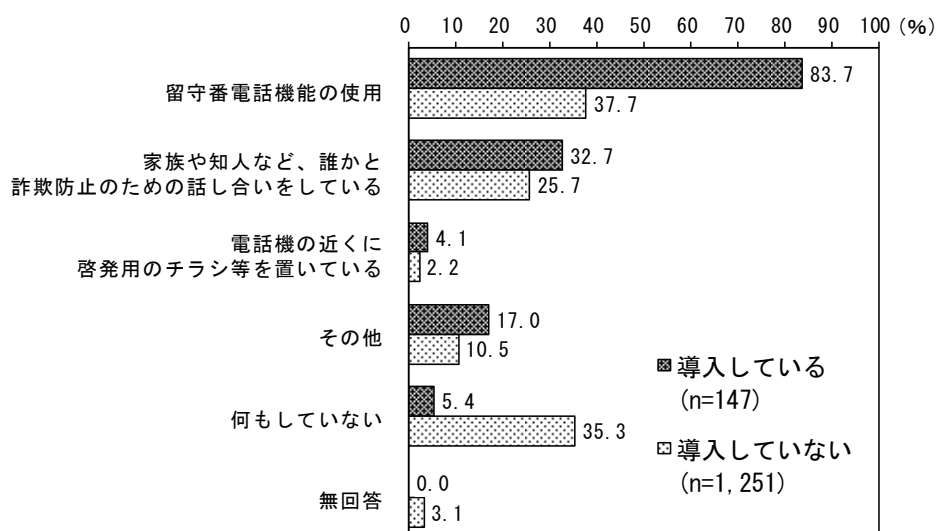
「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」を知っているかどうかによって、「詐欺防止対策機能」を持つ機器の導入状況に違いがあるかを見てみると、「補助制度を認知している」(20.2%) の割合は「補助制度を認知していない」(7.9%) より 12.3 ポイント高くなっている。



図Ⅲ－６８ 補助制度の認知による機器導入への影響

「詐欺防止対策機能」を持つ機器の導入状況により、行われている対策を比較すると、「何もしていない」の割合は、「導入している」(5.4%) が「導入していない」(35.3%) より 29.9 ポイント低くなっている。

「留守番電話機能の使用」の割合は、機器の導入の如何にかかわらず最も高く、「導入している」(83.7%) では8割を超えている。



図Ⅲ－６９ 機器導入状況による詐欺被害対策の実施状況

5. 「動物の愛護及び管理」について

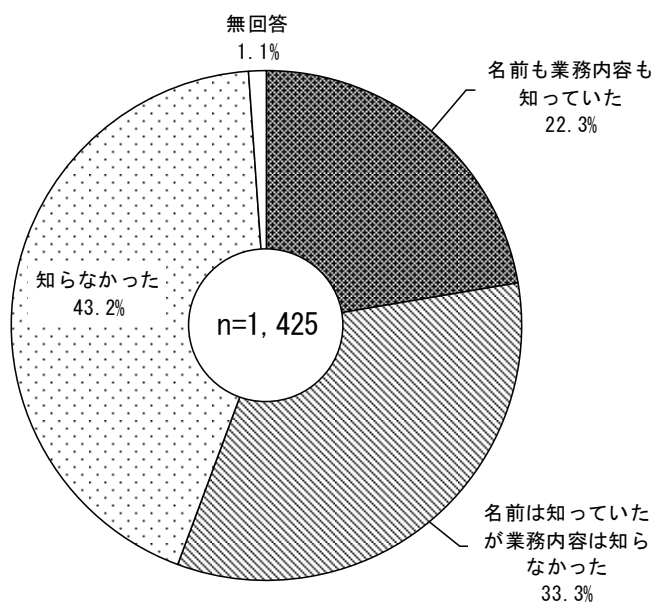
(1) 「動物愛護指導センター」の認知

「動物愛護指導センター」を知っているのは5割超

【問15】「動物愛護指導センター」を知っていましたか。(〇は1つ)

「動物愛護指導センター」を知っているかどうかを聞いたところ、「知らなかった」が43.2%と最も高くなっている。

「名前も業務内容も知っていた」(22.3%)と「名前は知っていたが業務内容は知らなかった」(33.3%)を合わせた「動物愛護指導センター」を『知っている』人の割合は55.6%と5割を超えている。



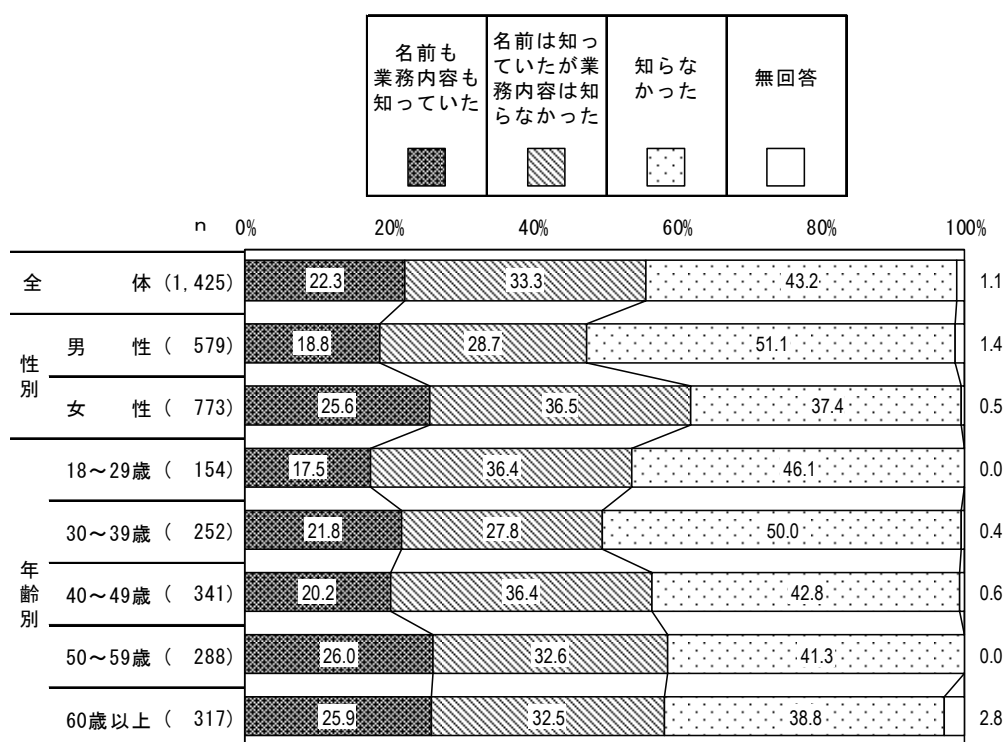
図Ⅲ－７０ 「動物愛護指導センター」の認知

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「名前も業務内容も知っていた」、「名前は知っていたが業務内容は知らなかった」では、共に女性（25.6%、36.5%）が男性（18.8%、28.7%）より各々6.8、7.8 ポイント高く、それらを合わせた『知っている』人の割合は、女性（62.1%）と男性（47.5%）で14.6 ポイントの差となっている。

年齢別にみると、「名前も業務内容も知っていた」で割合が最も高いのが50～59歳（26.0%）、最も低いのが18～29歳（17.5%）であり差は8.5ポイント、同様に「名前は知っていたが業務内容は知らなかった」で最も高いのが18～29歳（36.4%）、40～49歳（36.4%）、最も低いのが30～39歳（27.8%）で8.6ポイントの差となっている。

「知らなかった」の割合は、30～39歳が50.0%で最も高くなっている。



図Ⅲ－７１ 「動物愛護指導センター」の認知（性別／年齢別）

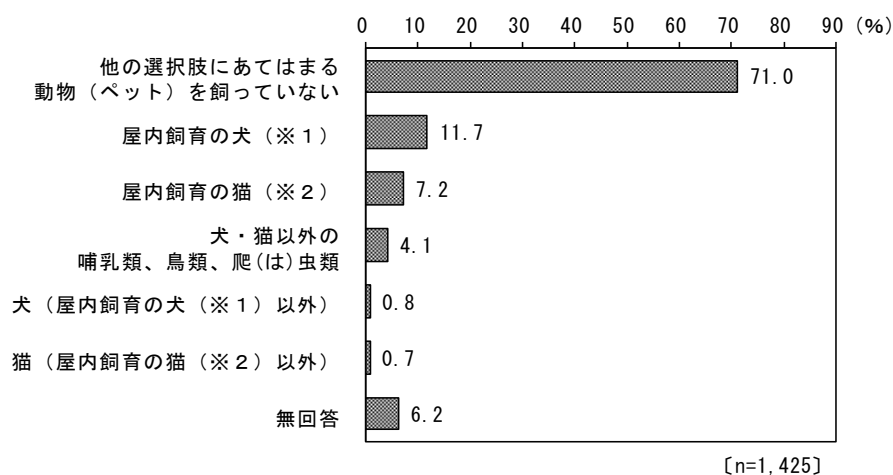
(2) 飼っている動物（ペット）

動物（ペット）を飼っているのは3割弱、そのほとんどが屋内飼育

【問16】飼っている動物（ペット）を教えてください。

（〇はいくつでも、頭数も記入してください）

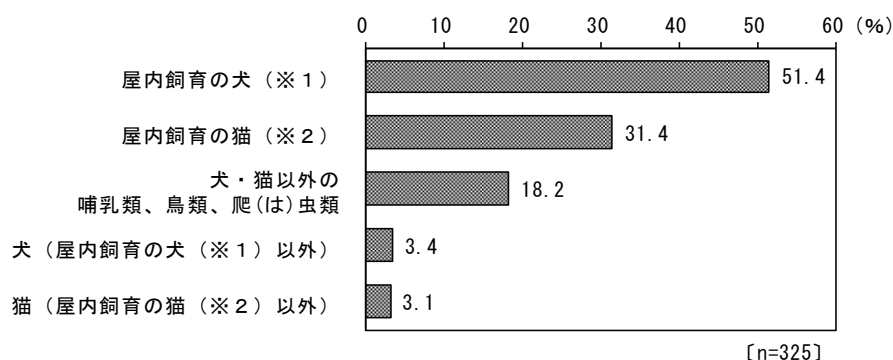
飼っている動物（ペット）を聞いたところ、「他の選択肢にあてはまる動物（ペット）を飼っていない」の割合が71.0%と7割を超えている。



（※1）散歩以外の日常的な飼育場所が室内に限られる犬です。
 （※2）日常的な飼育場所が室内に限られる猫です。

図Ⅲ－72 飼っている動物（ペット）

ここで、「他の選択肢にあてはまる動物（ペット）を飼っていない」、「無回答」を除く325人を対象に割合を計算し直すと、高い順に「屋内飼育の犬（※1）」（51.4%）、「屋内飼育の猫（※2）」（31.4%）、「犬・猫以外の哺乳類、鳥類、爬(は)虫類」（18.2%）、「犬（屋内飼育の犬（※1）以外）」（3.4%）、「猫（屋内飼育の猫（※2）以外）」（3.1%）となっている。



図Ⅲ－73 飼っている動物（ペット）

（「他の選択肢にあてはまる動物（ペット）を飼っていない」、「無回答」を除く）

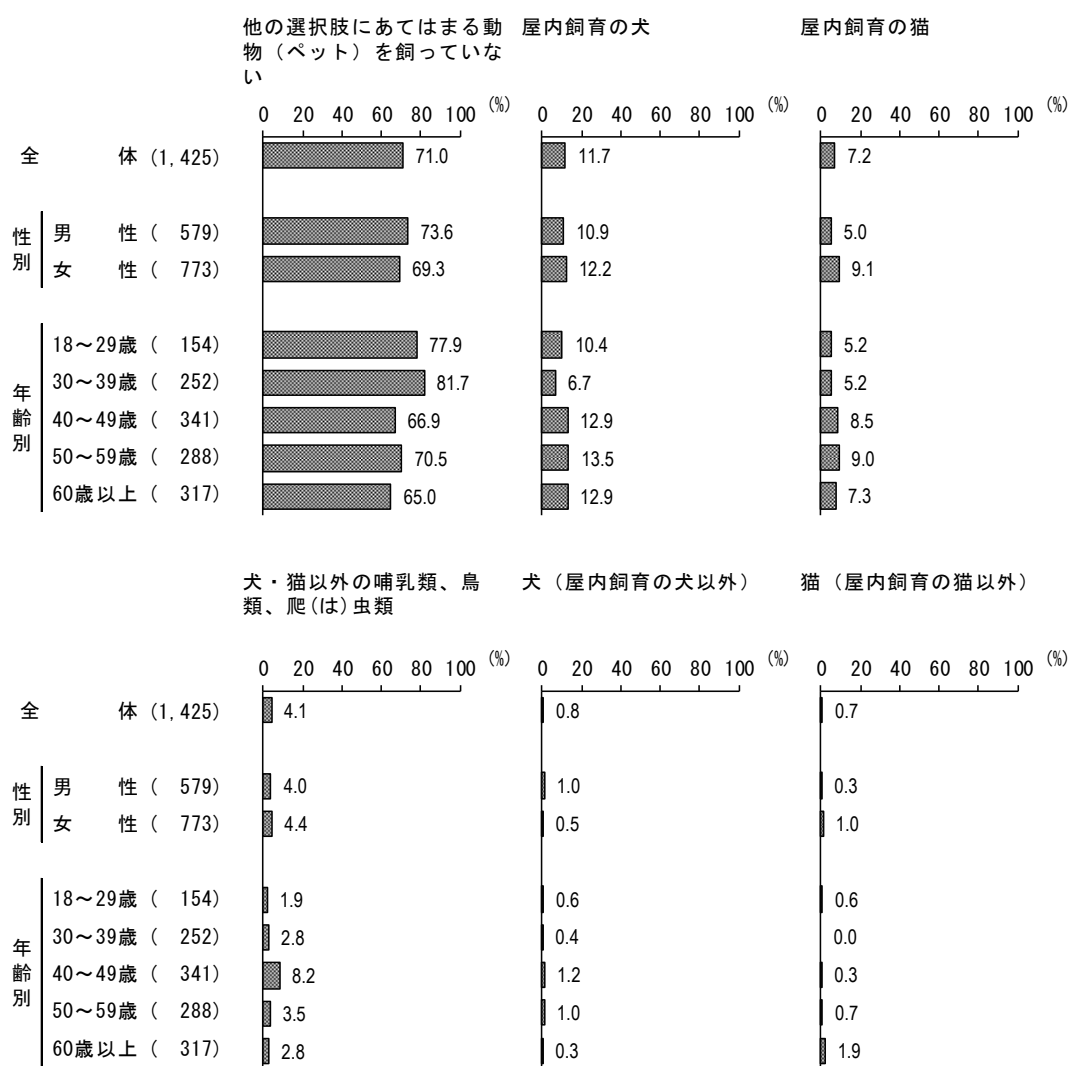
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「他の選択肢にあてはまる動物（ペット）を飼っていない」は、男性（73.6%）が女性（69.3%）より 4.3 ポイント高くなっている。

個々の動物（ペット）を見ていくと「犬（屋内飼育の犬以外）」以外は、女性が男性より割合が高い。

年齢別にみると、「他の選択肢にあてはまる動物（ペット）を飼っていない」割合は、30～39 歳（81.7%）、18～29 歳（77.9%）が高くなっている。

ただし、動物（ペット）は回答者個人ではなく、世帯として飼っていると捉えて結果を見る必要がある。



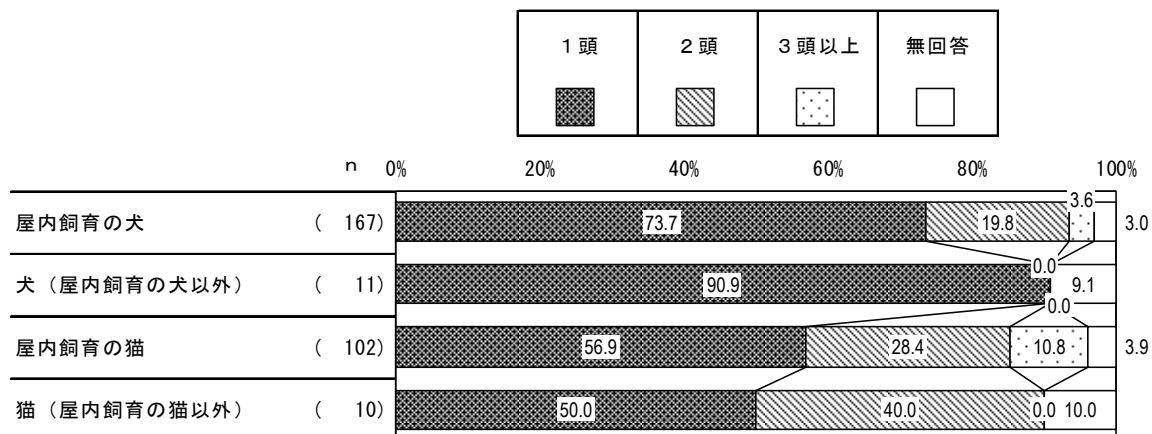
図Ⅲ－７４ 飼っている動物（ペット）（性別／年齢別）

【飼育頭数】

飼っている動物（ペット）ごとに聞いている飼育頭数についてみると、犬については1頭飼いが多数を占め、「犬（屋内飼育の犬以外）」は90.9%、「屋内飼育の犬」は73.7%となっている。

一方、猫については、「屋内飼育の猫」、「猫（屋内飼育の猫以外）」での1頭飼いが、各々56.9%、50.0%と割合を減らし、2頭飼いの割合が各々28.4%、40.0%と高くなる。

「屋内飼育の猫」では、最多で10頭の回答がされている。



図Ⅲ－７５ 飼っている動物（ペット）（種別頭数）

(2-1) 飼っている動物のための災害対策

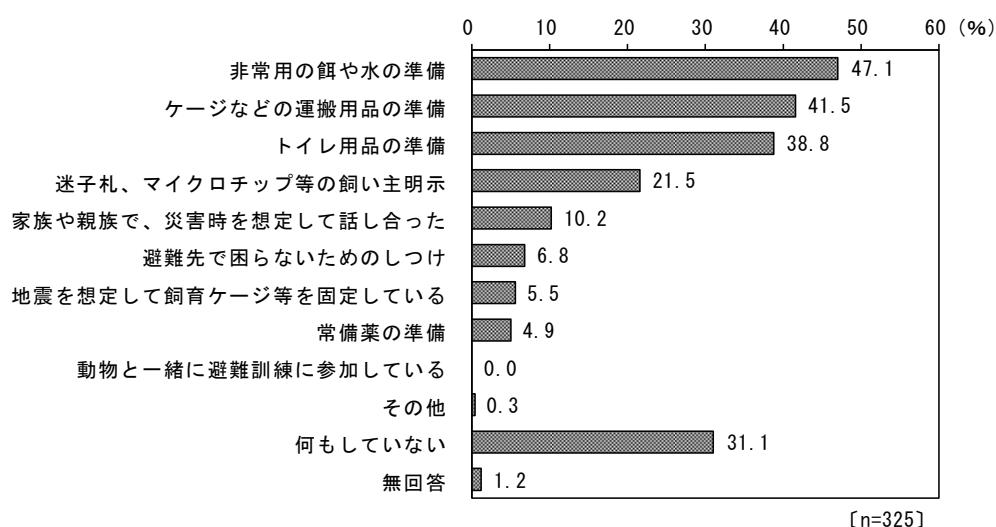
動物（ペット）を飼っている5割弱の人が、災害時に備え餌や水を準備

(問16で「1～5」とお答えの方)

【問16-1】災害時に備えて、日頃から飼っている動物のために行っている対策がありますか。(〇はいくつでも、備蓄量も記入してください)

何かしらの動物（ペット）を飼っていると回答した325人が、動物（ペット）のための災害時に備えている対策としては、「非常用の餌や水の準備」が47.1%と最も高くなっている。

次いで「ケージなどの運搬用品の準備」(41.5%)、「トイレ用品の準備」(38.8%)、「迷子札、マイクロチップ等の飼い主明示」(21.5%)が続き、これらの対策は2割を超える人が行っている。



図Ⅲ－７６ 飼っている動物のための災害対策

表Ⅲ－１８ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
タオル	1
ティッシュ	1
合計	2

【性別／年齢別】（上位7項目＋何もしていない）

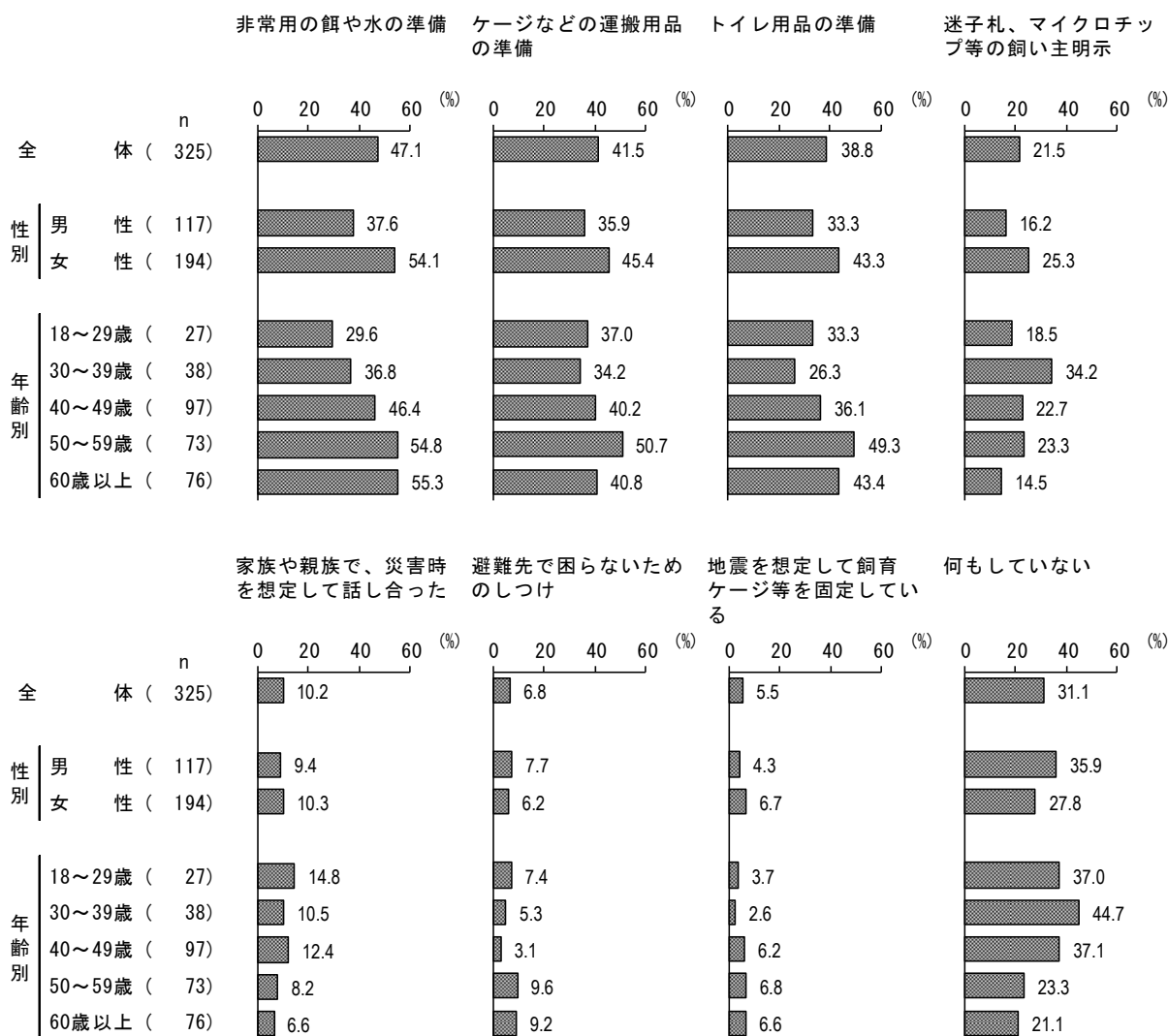
性別で比較すると、「何もしていない」の割合は男性（35.9%）が女性（27.8%）より 8.1 ポイント高くなっている。

個々の対策については、概ね男性より女性の割合が高く、「非常用の餌や水の準備」、「ケージなどの運搬用品の準備」、「トイレ用品の準備」では、女性（54.1%、45.4%、43.3%）が男性（37.6%、35.9%、33.3%）より各々16.5、9.5、10.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「何もしていない」は、30～39 歳（44.7%）が最も高く、最も低い 60 歳以上（21.1%）と 23.6 ポイントの差がある。

「非常用の餌や水の準備」、「ケージなどの運搬用品の準備」、「トイレ用品の準備」については、概ね年齢が上がるに従い割合も高くなる傾向が見られる。

「迷子札、マイクロチップ等の飼い主明示」は、30～39 歳（34.2%）の割合が最も高くなっている。



図Ⅲ－77 飼っている動物のための災害対策（性別／年齢別）（上位7項目＋何もしていない）

【備蓄量】

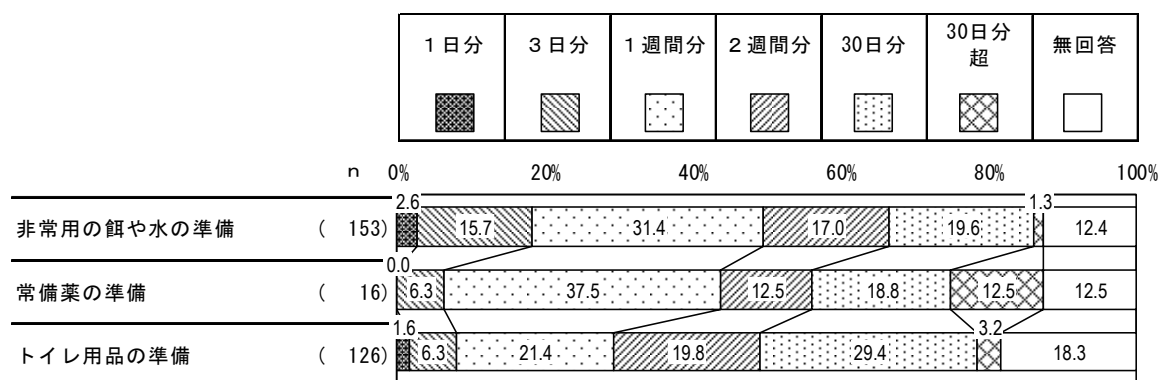
特定の品目については、備蓄量を聞いている。

「非常用の餌や水の準備」は、1週間分（以内）の割合が49.7%と約半数を占めている。

水に関しては、動物専用ではなく、人間と共用である可能性が考えられ、最長で180日と回答されている。

「常備薬の準備」は、必要不可欠、1回の処方量、災害時に入手困難などの理由から、餌や水よりも多くの量が準備されていると考えられ、3日分（以内）は6.3%と1割に満たず、「1週間分」の割合が37.5%で最も高くなっている。

「トイレ用品の準備」については、主に屋内飼育の動物（ペット）に対するものと考えられる。ペットシートなどは、一包みに多くの枚数が入っているため、備蓄量が多くなっていると考えられ、「30日分」の割合が最も高く29.4%になっている。



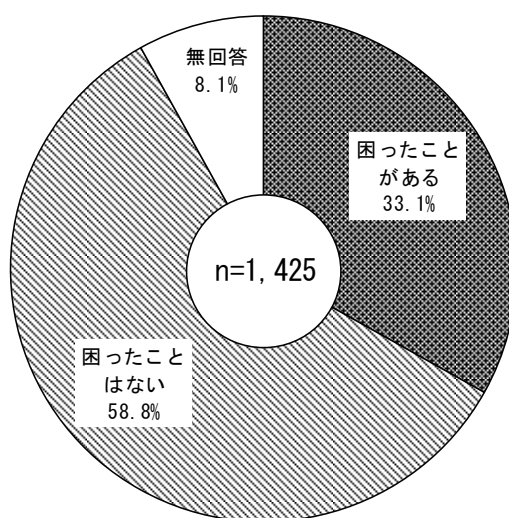
図Ⅲ－７８ 飼っている動物のための災害対策（品目別備蓄量）

(3) 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったことの有無

犬（自分の飼っている犬以外）に困った経験があるのは3割超

【問17】犬（自分の飼っている犬以外）に関することで困ったことがありますか。
 (〇は1つ)

自分の飼っている犬以外で、犬に関して困った経験があるか聞いたところ、33.1%の人が「困ったことがある」と回答している。



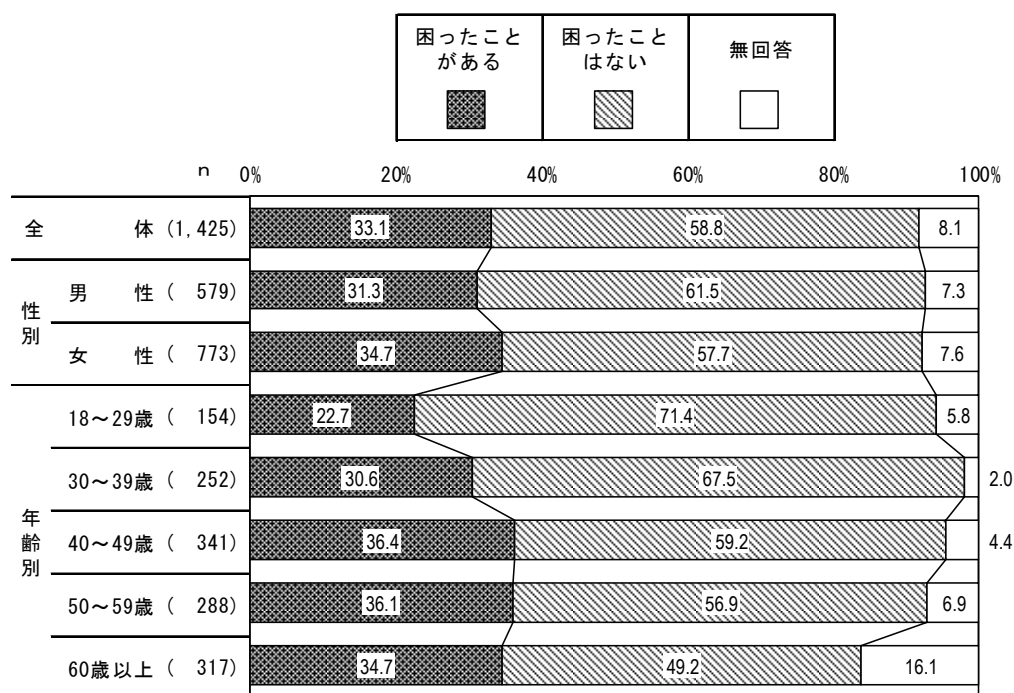
図Ⅲ－７９ 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったことの有無

【性別／年齢別】

性別で比較すると、犬（自分の飼っている犬以外）に「困ったことがある」と回答した割合は、女性（34.7%）が男性（31.3%）より 3.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い無回答の割合が高くなる傾向が見られるため、参考として無回答を除いた 1,310 人に対して計算し直した「困ったことがある」の割合は、18～29 歳から順に、24.1%、31.2%、38.0%、38.8%、41.4%となっている。

年齢が上がるに従い「困ったことがある」の割合が高くなり、割合が最も高い 60 歳以上（41.4%）と最も低い 18～29 歳（24.1%）の差は 17.3 ポイントになっている。



図Ⅲ－８０ 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったことの有無（性別／年齢別）

(3-1) 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったこと

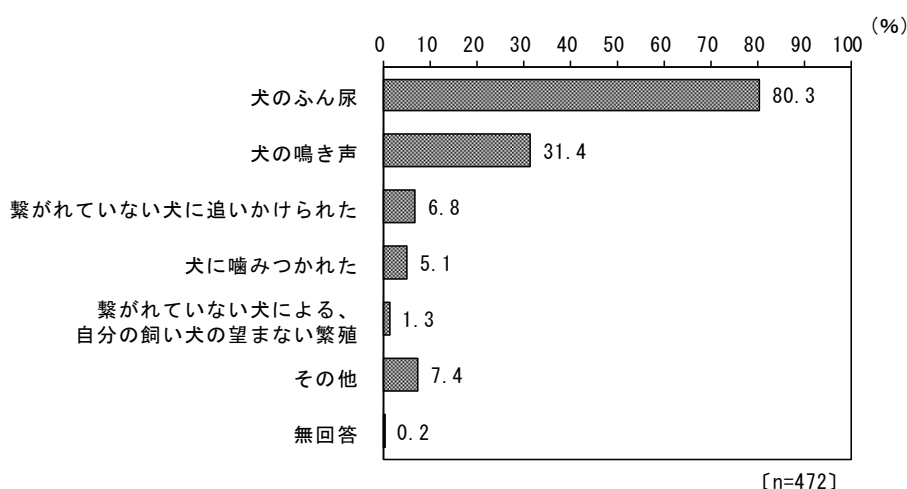
犬（自分の飼っている犬以外）で困ったことは、「ふん尿」が8割超

(問17で「1. 困ったことがある」とお答えの方)

【問17-1】どのようなことで困りましたか。(〇はいくつでも)

犬（自分の飼っている犬以外）に「困ったことがある」と回答した472人が、困ったこととして挙げたのは、「犬のふん尿」が80.3%で最も高く8割を超えている。次いで「犬の鳴き声」(31.4%)が挙がり、この2つが困ったことの大半を占めている。

その他としては、「散歩時に、長いリード・ノーリードである」(8件)、「飼い主のマナーが悪い」(5件)などが挙げられている。



図Ⅲ-81 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったこと

表Ⅲ-19 「その他」の内訳

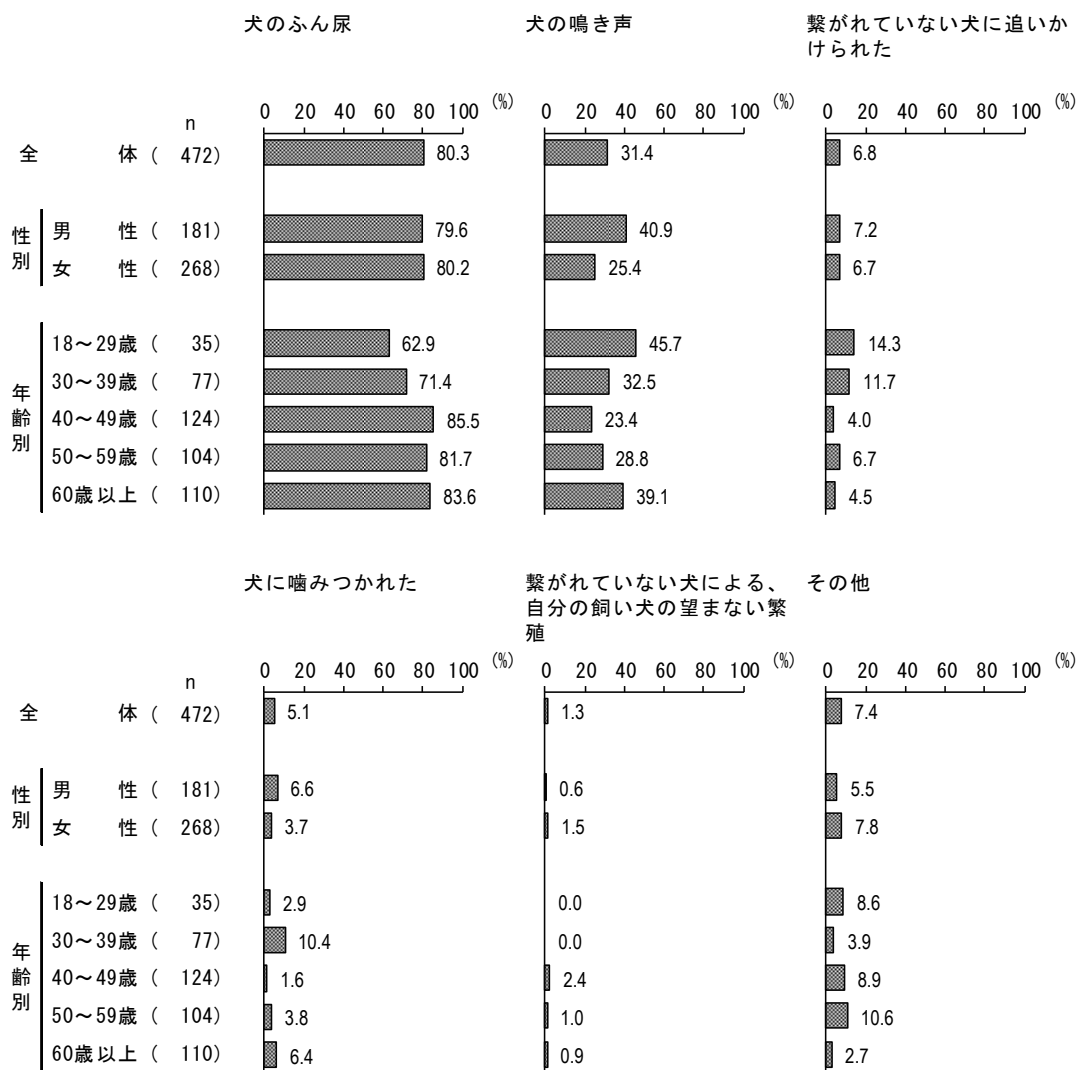
「その他」の内容	件数
散歩時に、長いリード・ノーリードである	8
飼い主のマナーが悪い	5
体毛が飛び散らかっている	3
吠えられて驚いた・怖い	3
散歩時に、暗いと認識できなくて危険	2
散歩時に、禁止エリア・私有地に入っている	2
放し飼い・放置されている	2
その他	10
合計	35

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「犬の鳴き声」の割合は、男性（40.9%）が女性（25.4%）より 15.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「犬のふん尿」は年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高い 40～49 歳（85.5%）と最も低い 18～29 歳（62.9%）とは 22.6 ポイントの差が見られる。

「犬の鳴き声」の割合は、18～29 歳（45.7%）、60 歳以上（39.1%）の順に高くなっている。ただし、これらの結果については、困ったことに遭遇する機会の差を考慮する必要がある。



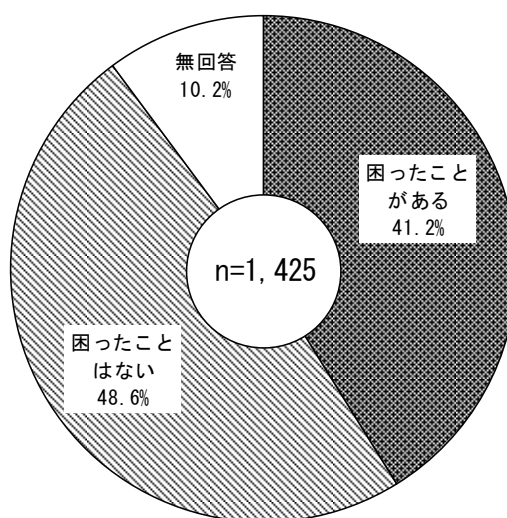
図Ⅲ－８２ 犬（自分の飼っている犬以外）に関する困ったこと（性別／年齢別）

(4) 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったことの有無

猫（自分の飼っている猫以外）に困った経験がある人は4割超

【問18】猫（自分の飼っている猫以外）に関することで困ったことがありますか。
 (〇は1つ)

自分の飼っている猫以外で、猫に関して困った経験があるか聞いたところ、41.2%の人が「困ったことがある」と回答している。



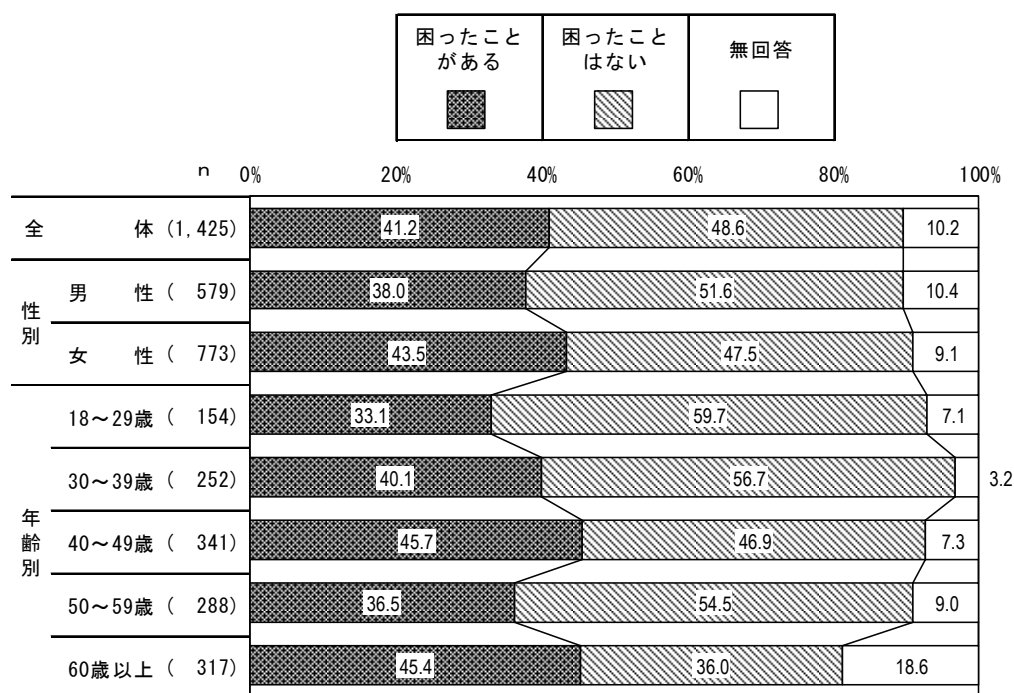
図Ⅲ－83 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったことの有無

【性別／年齢別】

性別で比較すると、猫（自分の飼っている猫以外）に「困ったことがある」と回答した割合は、女性（43.5%）が男性（38.0%）より 5.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い無回答の割合が高くなる傾向が見られるため、参考として無回答を除いた 1,280 人に対して計算し直した割合は、18～29 歳から順に、35.7%、41.4%、49.4%、40.1%、55.8%となっている。

年齢が上がるに従い「困ったことがある」割合が高くなる傾向が見られ、割合が最も高い 60 歳以上（55.8%）と最も低い 18～29 歳（35.7%）の差は 20.1 ポイントになっている。



図Ⅲ－８４ 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったことの有無（性別／年齢別）

(4-1) 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったこと

猫（自分の飼っている猫以外）で困ったことは「ふん尿」が7割超、「敷地内への侵入」は5割超

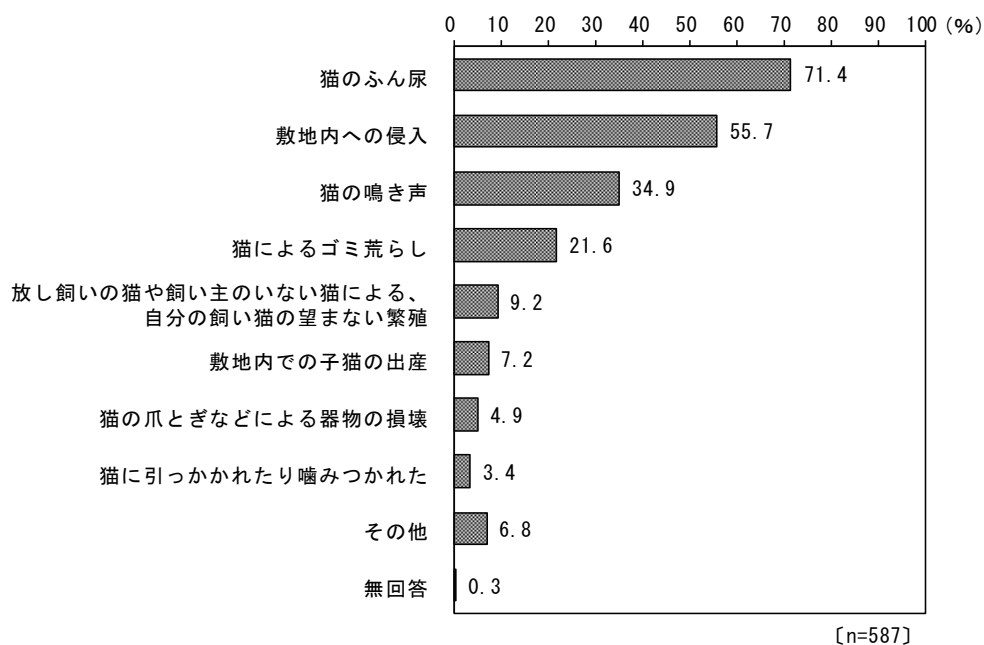
（問18で「1. 困ったことがある」とお答えの方）

【問18-1】どのようなことで困りましたか。（〇はいくつでも）

猫（自分の飼っている猫以外）に「困ったことがある」と回答した587人が、困ったこととして挙げたのは、「猫のふん尿」が71.4%で最も高く7割を超えている。

次いで「敷地内への侵入」（55.7%）が5割を超え、「猫の鳴き声」（34.9%）、「猫によるゴミ荒らし」（21.6%）が続いている。

「その他」としては、「餌やりをする人がいる」（19件）が挙げられている。



図Ⅲ-85 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったこと

表Ⅲ-20 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
餌やりをする人がいる	19
居座られた（車、自転車、自宅）	5
死骸が放置されている	5
自分のペット（鳥、魚）が被害にあった	3
体毛が飛び散らかっている	2
その他	6
合計	40

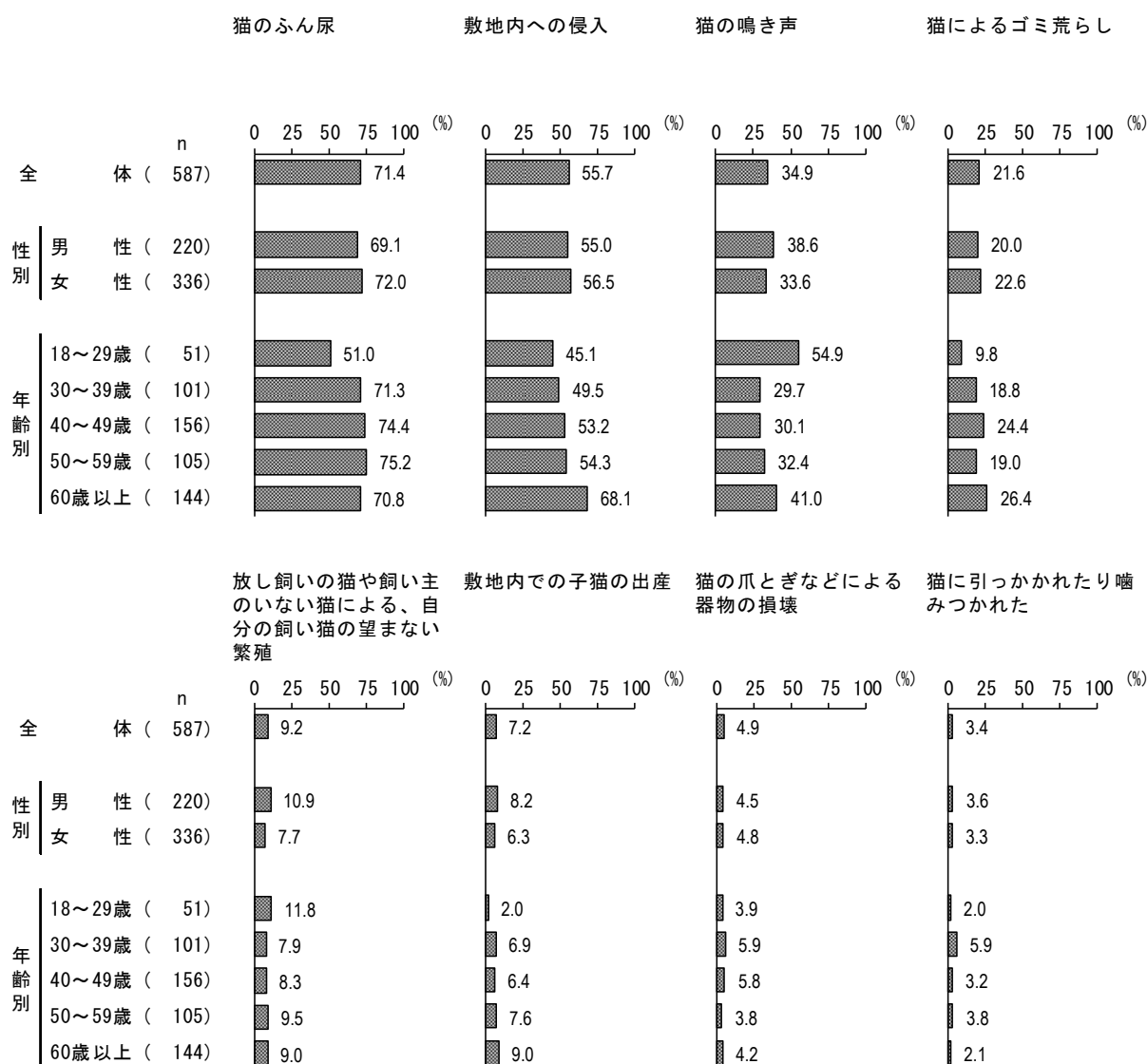
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「猫の鳴き声」の割合が男性（38.6%）が女性（33.6%）より 5.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、18～29 歳の割合は全体的に低いが、「猫の鳴き声」は 54.9%と高く、最も低い 30～39 歳（29.7%）との差は 25.2 ポイントとなっている。

全体での割合が高い項目については、「猫の鳴き声」の 18～29 歳以外、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、「猫のふん尿」は、最も高い 50～59 歳（75.2%）と最も低い 18～29 歳（51.0%）との差が 24.2 ポイント、同様に「敷地内への侵入」は 60 歳以上（68.1%）と 18～29 歳（45.1%）に 23.0 ポイントの差が見られる。

ただし、これらの結果については、困ったことに遭遇する機会の差を考慮する必要がある。



図Ⅲ－８６ 猫（自分の飼っている猫以外）に関する困ったこと（性別／年齢別）

(5) 困ったことへの対処

犬猫で困ったことがあっても、「我慢した」人が5割弱

(問17で「1. 困ったことがある」を選んだ方)

(問18で「1. 困ったことがある」を選んだ方)

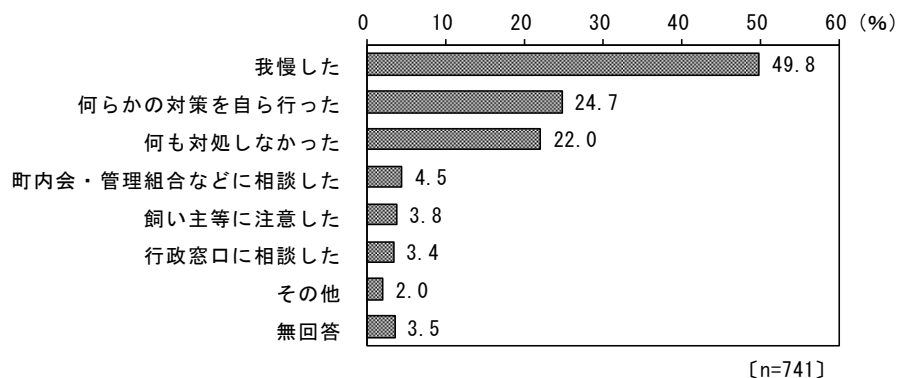
【問19】犬や猫に関することで困った時に、どのように対処しましたか。

(〇はいくつでも)

犬（自分の飼っている犬以外）や猫（自分の飼っている猫以外）で「困ったことがある」と回答した 741 人が、困ったことに対して行った対処は、「我慢した」が 49.8%で最も高く5割に迫っている。

次いで「何らかの対策を自ら行った」(24.7%)、「何も対処しなかった」(22.0%) が2割を超えている。

「その他」としては、「自分で掃除・始末した」(5件)が挙げられている。



図Ⅲ－８７ 困ったことへの対処

表Ⅲ－２１ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
自分で掃除・始末した	5
引越した	2
知人に引き取ってもらった・しばらく飼育した	2
不動産屋・管理会社に連絡した	2
その他	2
合計	13

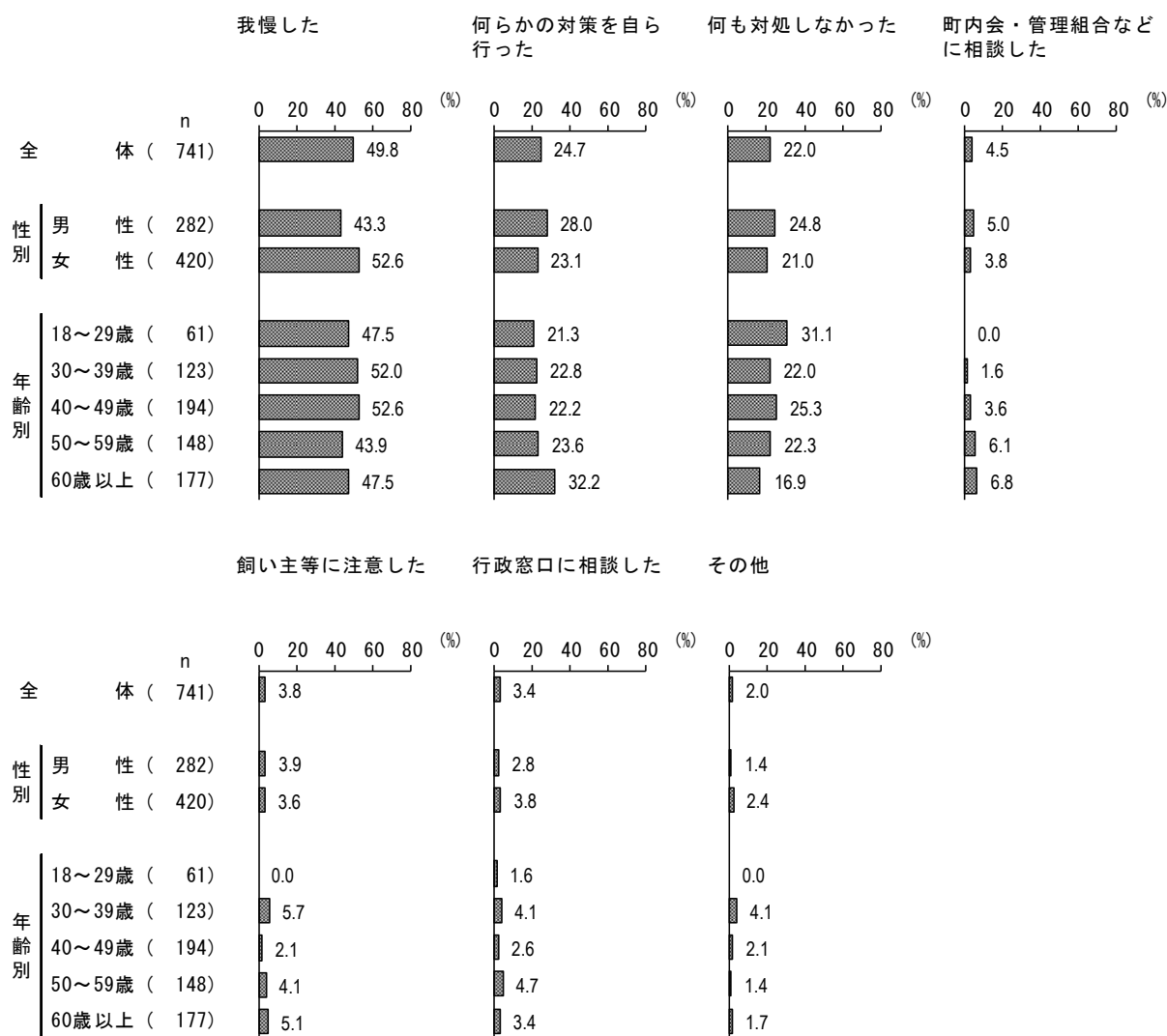
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「我慢した」の割合は、女性（52.6%）が男性（43.3%）より 9.3 ポイント高くなっている。

「何らかの対策を自ら行った」、「何も対処しなかった」では、男性（28.0%、24.8%）が女性（23.1%、21.0%）より各々 4.9、3.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「我慢した」は 43.9%～52.6%に収まっている。

「何らかの対策を自ら行った」は、最も高い 60 歳以上（32.2%）と最も低い 18～29 歳（21.3%）との差が 10.9 ポイント、逆に、「何も対処しなかった」は、最も高い 18～29 歳（31.1%）と最も低い 60 歳以上（16.9%）の差が 14.2 ポイントになっている。



図Ⅲ－８８ 困ったことへの対処（性別／年齢別）

(6) 「地域猫活動」の認知

「地域猫活動」を知っている人は2割弱

【問20】「地域猫活動」(※1)を知っていますか。(○は1つ)

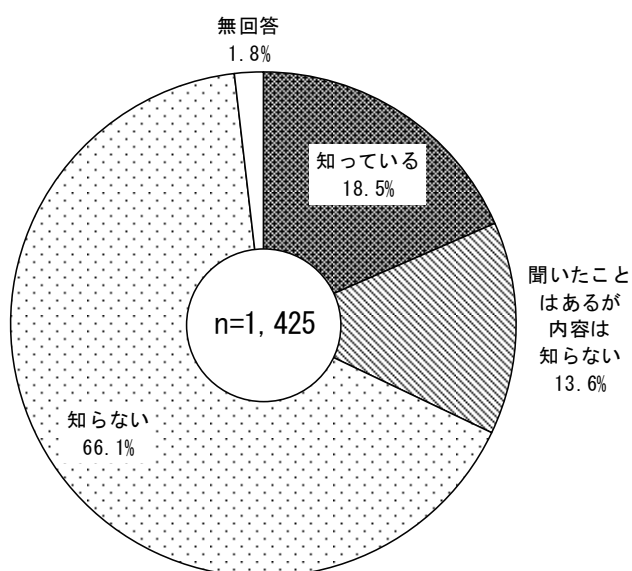
(※1)

「地域猫活動」とは、飼い主のいない猫を今以上に増やさず、最終的に飼い主のいない猫がいなくなるよう、地域ぐるみで飼い主のいない猫を適正に管理していく活動です。

地域の合意のもとに、活動者が猫に不妊手術を行った上で、餌やりや、ふんの始末、周辺の清掃等を行い、飼い主のいない猫を適正に管理していくものです。

「地域猫活動」について聞いた結果、「知らない」が66.1%と最も高くなっている。

「知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」は、各々18.5%、13.6%という結果になっている。



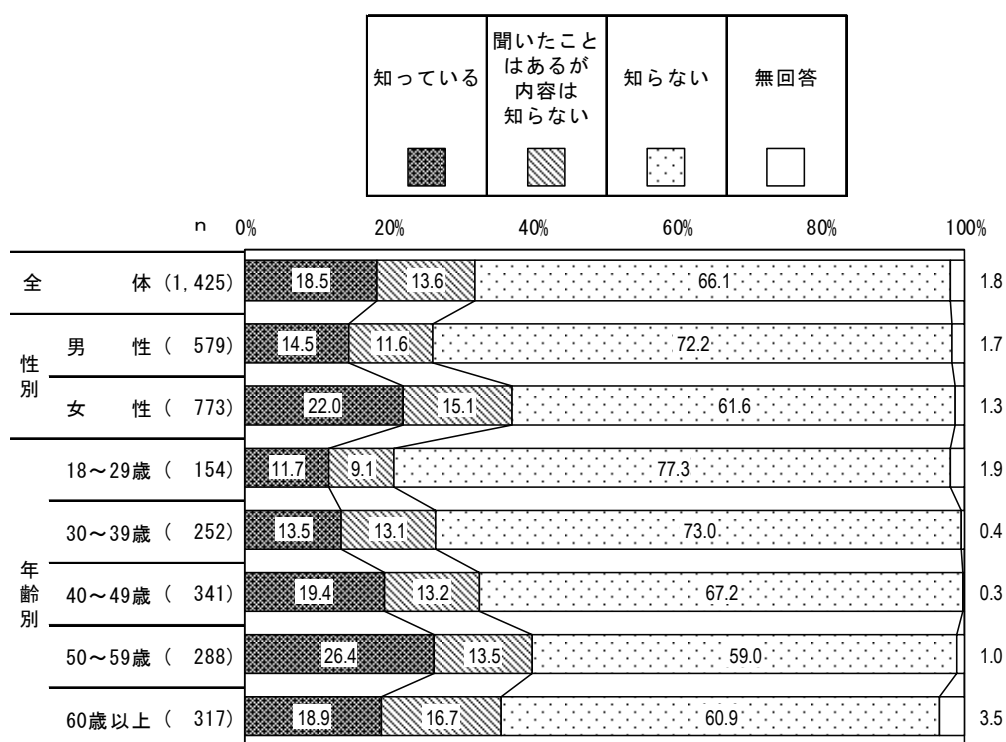
図Ⅲ－８９ 「地域猫活動」の認知

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「知っている」の割合は、女性（22.0%）が男性（14.5%）より 7.5 ポイント高くなっており、「知らない」の割合は、男性（72.2%）が女性（61.6%）より 10.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60 歳以上の「知っている」の割合を除いて、「知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっている。

「知っている」の割合は、最も高い 50～59 歳（26.4%）と最も低い 18～29 歳（11.7%）には 14.7 ポイント、同様に、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合は、60 歳以上（16.7%）と 18～29 歳（9.1%）に 7.6 ポイントの差がある。「知らない」の割合は、最も高い 18～29 歳（77.3%）は最も低い 50～59 歳（59.0%）と 18.3 ポイントの差がある。



図Ⅲ－９０ 「地域猫活動」の認知（性別／年齢別）

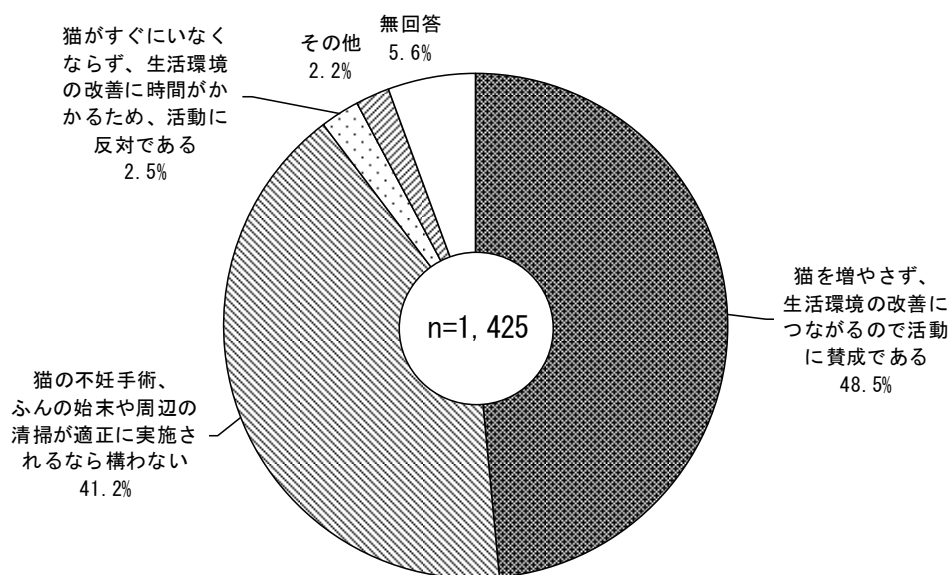
(7) 「地域猫活動」についての意見

「地域猫活動」を認める人は9割弱

【問21】「地域猫活動」について、あなたの意見に最も近いのはどれですか。(〇は1つ)

「地域猫活動」に対する考えを聞いたところ、活動を認めるとする「猫を増やさず、生活環境の改善につながるので活動に賛成である」(48.5%)、「猫の不妊手術、ふんの始末や周辺の清掃が適正に実施されるなら構わない」(41.2%)の合計が89.7%と9割に迫る。

「その他」では、「わからない」(11件)、「他の対応が必要」(9件)などが挙げられている。



図Ⅲ－91 「地域猫活動」についての意見

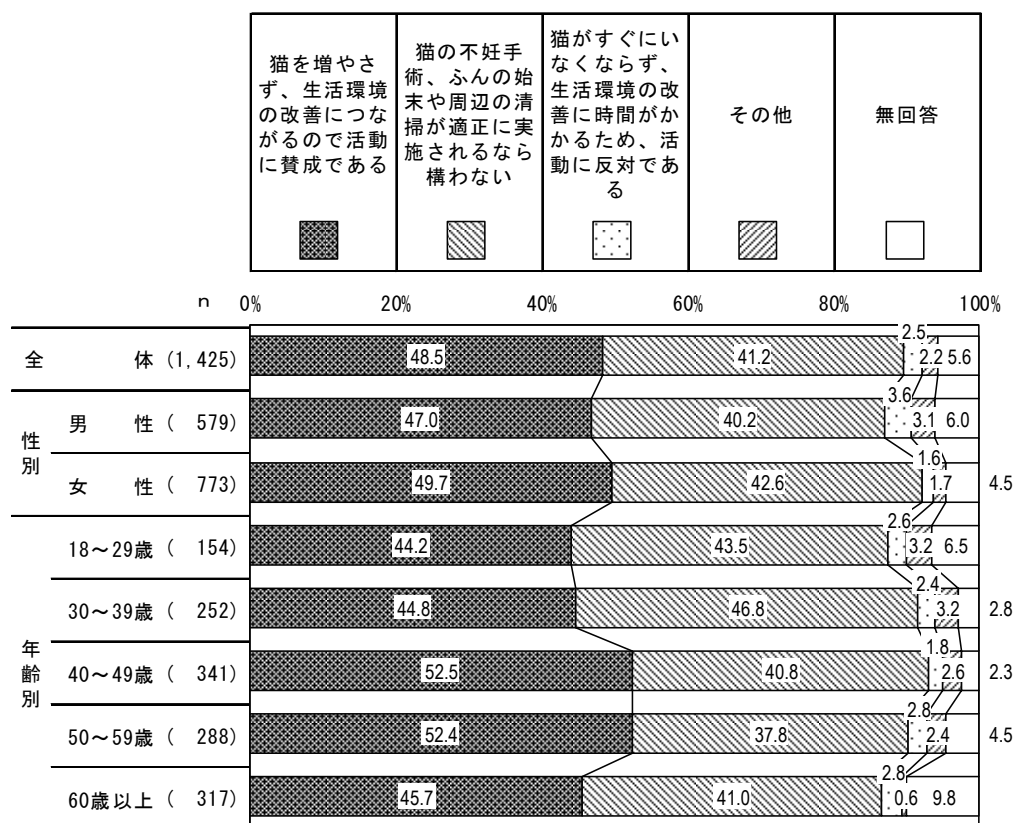
表Ⅲ－22 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
わからない	11
他の対応が必要	9
関心がない	3
必要ない	3
条例などにより規制	2
他にやるべき事がある	1
合計	29

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「猫を増やさず、生活環境の改善につながるので活動に賛成である」、「猫の不妊手術、ふんの始末や周辺の清掃が適正に実施されるなら構わない」の割合は、共に女性（49.7%、42.6%）が男性（47.0%、40.2%）より多少高くなっている。

年齢別にみると、「猫を増やさず、生活環境の改善につながるので活動に賛成である」の割合は、40～49歳（52.5%）、50～59歳（52.4%）が5割を超えている。



図Ⅲ－９２ 「地域猫活動」についての意見（性別／年齢別）

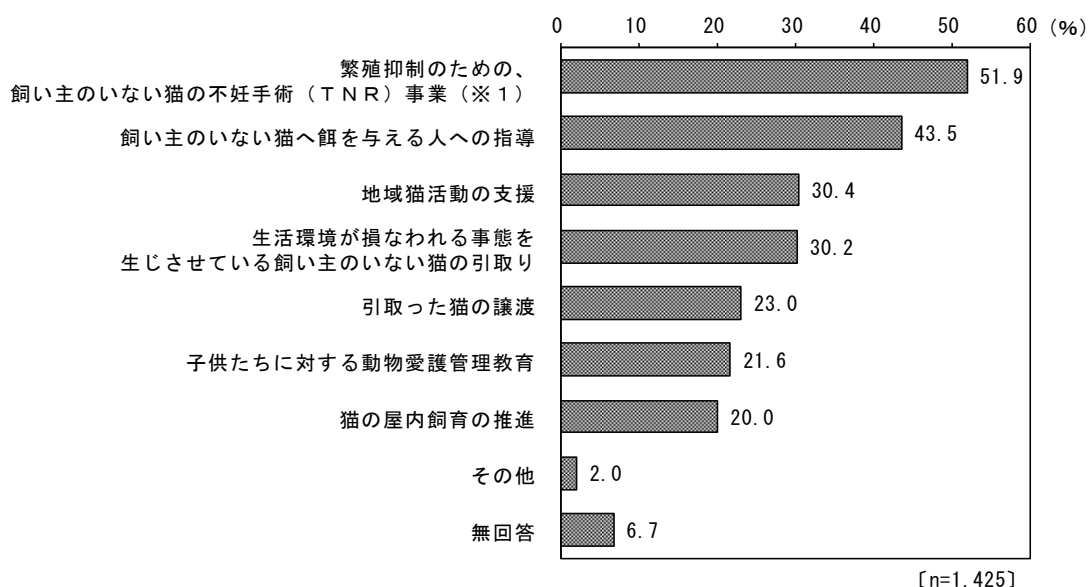
(8) 猫に関する事業で市が重点的に取り組むべきもの

市が重点的に取り組むべき猫に関する事業は、「TNR事業」が5割超

【問22】猫に関する事業として、市が重点的に取り組むべきと思うものを教えてください。
(〇は3つまで)

市が重点的に取り組むべき猫に関する事業を聞いたところ、「繁殖抑制のための、飼い主のいない猫の不妊手術（TNR）事業（※1）」が最も高く 51.9%と5割を超え、次いで「飼い主のいない猫へ餌を与える人への指導」（43.5%）、「地域猫活動の支援」（30.4%）、「生活環境が損なわれる事態を生じさせている飼い主のいない猫の引取り」（30.2%）までが3割を超えている。

「その他」では、「指導・制度・罰則」に関する回答があり、人に対しての直接的な対策を望む意見が挙げられている。



（※1）「TNR」とは、一代限りの命を全うさせ、将来的に飼い主のいない猫の数を減らすために、猫を①捕獲し（Trap）、②不妊手術をし（Neuter）、③元の場所へ戻す（Return）ことを言います。

図Ⅲ－93 猫に関する事業で市が重点的に取り組むべきもの

表Ⅲ－23 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
指導・制度・罰則	8
わからない	4
教育・啓発	4
殺処分	3
衛生管理	2
その他	6
合計	27

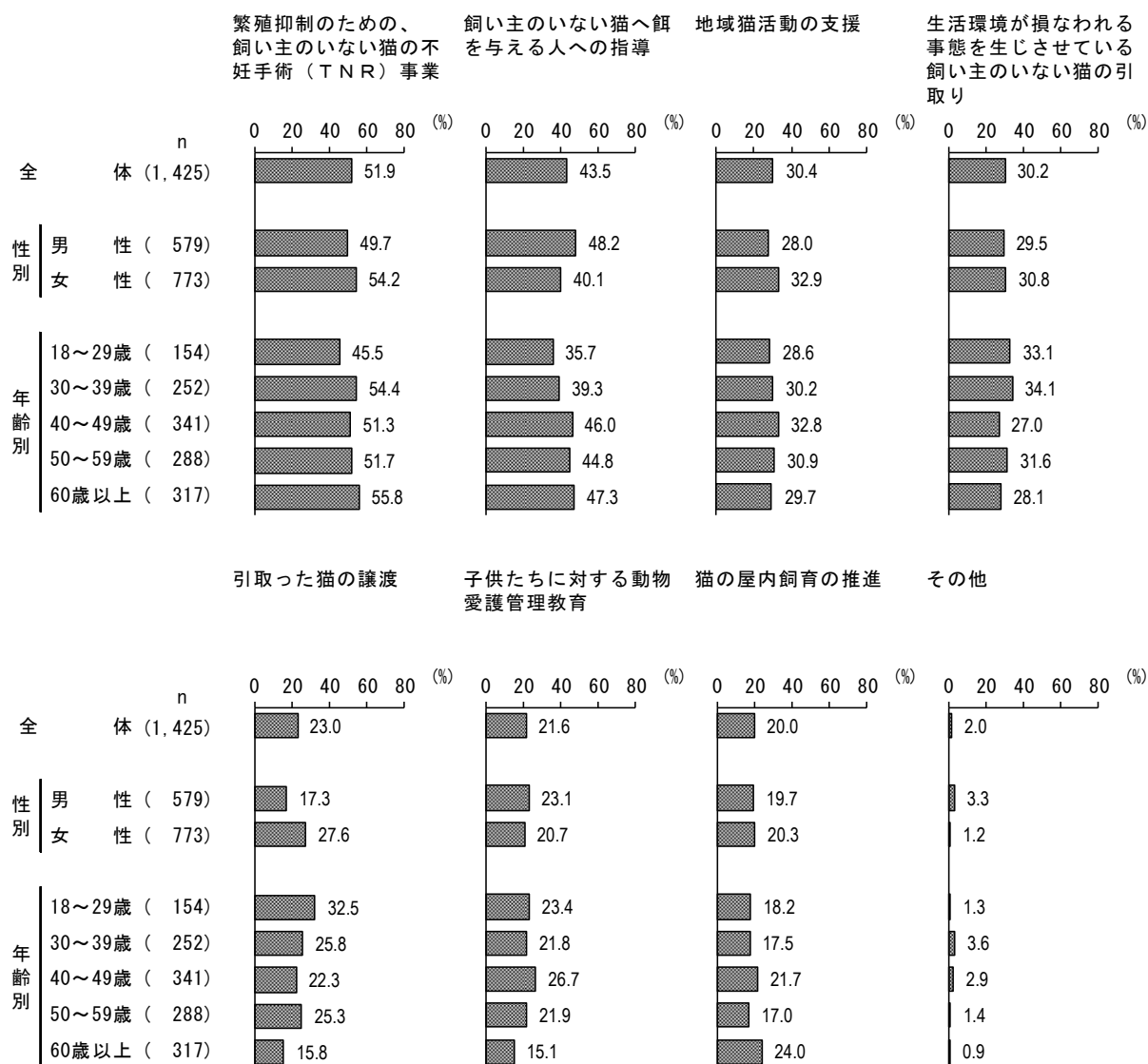
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「飼い主のいない猫へ餌を与える人への指導」の割合は、男性（48.2%）が女性（40.1%）より 8.1 ポイント高くなっている。

「繁殖抑制のための、飼い主のいない猫の不妊手術（TNR）事業」、「地域猫活動の支援」、「引取った猫の譲渡」では、女性（54.2%、32.9%、27.6%）が男性（49.7%、28.0%、17.3%）より各々4.5、4.9、10.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「繁殖抑制のための、飼い主のいない猫の不妊手術（TNR）事業」、「飼い主のいない猫へ餌を与える人への指導」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、割合が最も高い 60 歳以上（55.8%、47.3%）と最も低い 18～29 歳（45.5%、35.7%）との差は、各々10.3、11.6 ポイントとなっている。

逆に、「引取った猫の譲渡」は年齢が上がるに従い割合が低くなる傾向が見られ、最も高い 18～29 歳（32.5%）と最も低い 60 歳以上（15.8%）との差は 16.7 ポイントとなっている。



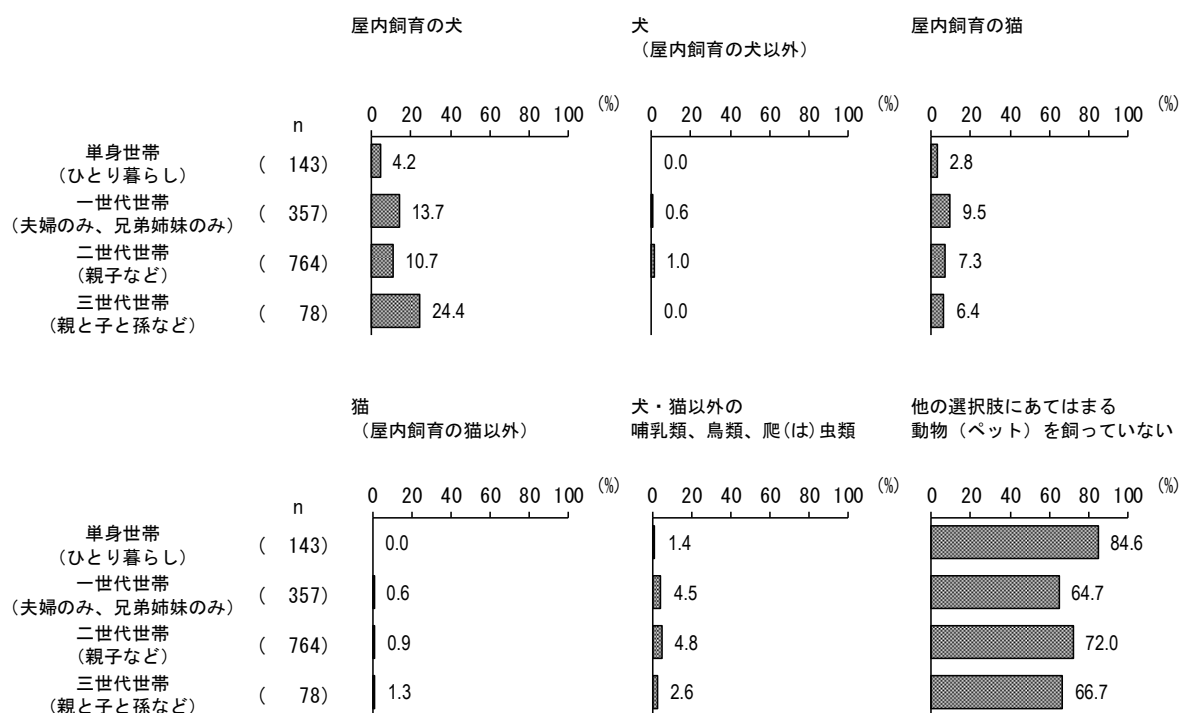
図Ⅲ－９４ 猫に関する事業で市が重点的に取組むべきもの（性別／年齢別）

(9) 「動物の愛護及び管理」概観

単身世帯は8割超が動物（ペット）を飼っていない、屋内飼育の犬は三世代世帯、屋内飼育の猫は一世代世帯、犬猫以外は二世代世帯で飼う割合が最も高い

何かしらの動物（ペット）を飼っている割合は、全回答者 1,425 人中 325 人（22.8%）となっているが、世帯状況による飼育状況を確認すると、「単身世帯（ひとり暮らし）」（84.6%）が最も動物（ペット）を飼っていない割合が高く、「二世代世帯（親子など）」（72.0%）、「三世代世帯（親と子と孫など）」（66.7%）、「一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」（64.7%）の順に低くなっている。

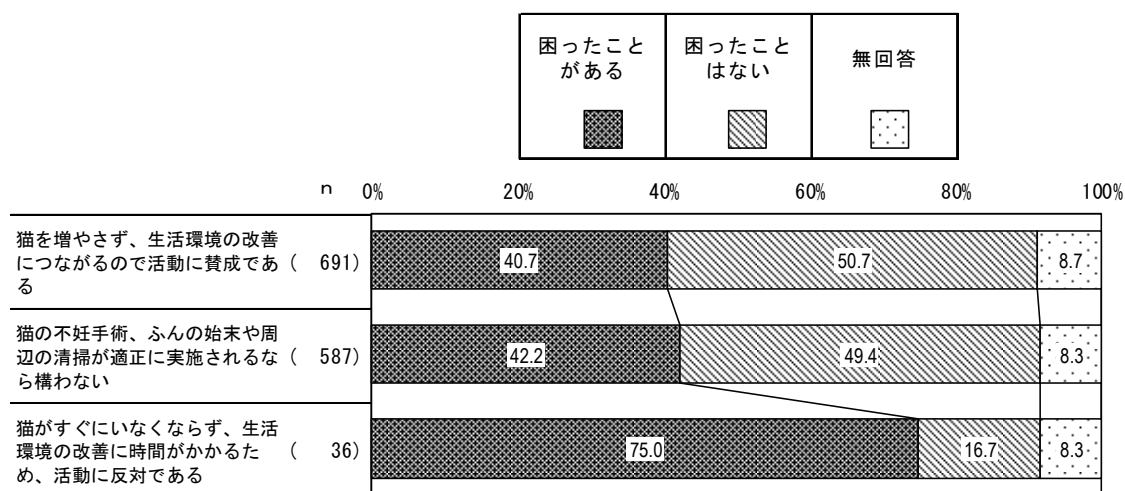
「屋内飼育の犬」を飼育している割合が最も高いのは、「三世代世帯（親と子と孫など）」（24.4%）、同様に、「屋内飼育の猫」は、「一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」（9.5%）、「犬・猫以外の哺乳類、鳥類、爬(は)虫類」が「二世代世帯（親子など）」（4.8%）となっている。



図Ⅲ－9 5 世帯状況別の飼育状況

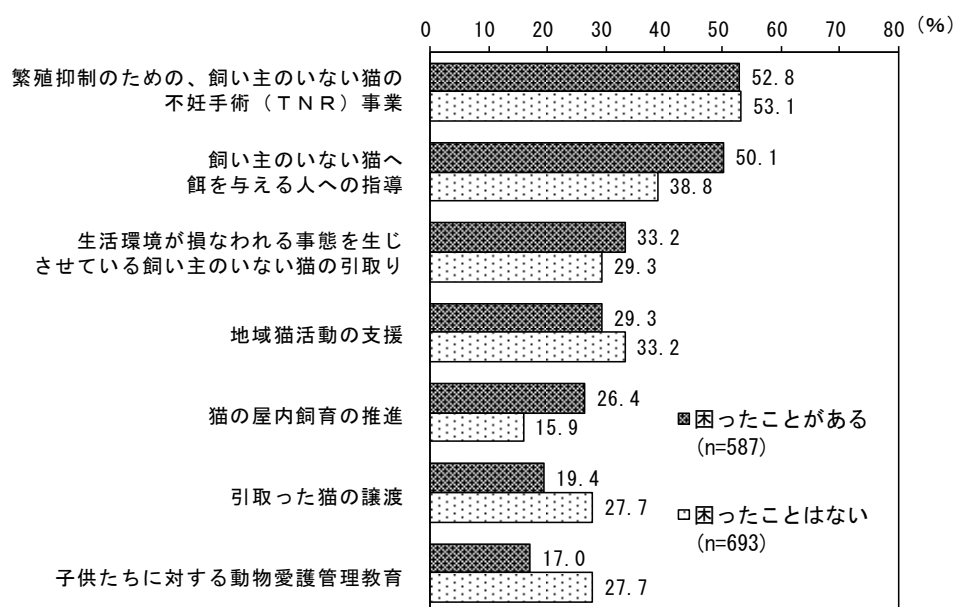
「地域猫活動に反対である」意見は、猫により「困ったことがある」人の割合が高く、市の取り組みへの支持も「困ったことはない」人と異なる

猫による困ったことの経験の有無により、「地域猫活動」への意見に差があるか見てみると、「地域猫活動」に否定的な「猫がすぐにいなくならず、生活環境の改善に時間がかかるため、活動に反対である」の意見は、「困ったことがある」(75.0%) 人の割合が高く、「困ったことはない」(16.7%) とは 58.3 ポイントの差がある。



図Ⅲ－９６ 猫による困ったことの経験による「地域猫活動」への意見の差

猫による困ったことの経験の有無により、市の猫に関する事業への支持に差があるか見てみると、経験によらず「繁殖抑制のための、飼い主のいない猫の不妊手術(TNR)事業」(52.8%、53.1%) の割合は5割を超え高いが、「困ったことがある」人は、「飼い主のいない猫へ餌を与える人への指導」(50.1%) も5割を超えている。



図Ⅲ－９７ 猫による困ったことの経験による猫に関する取り組みへの支持の差

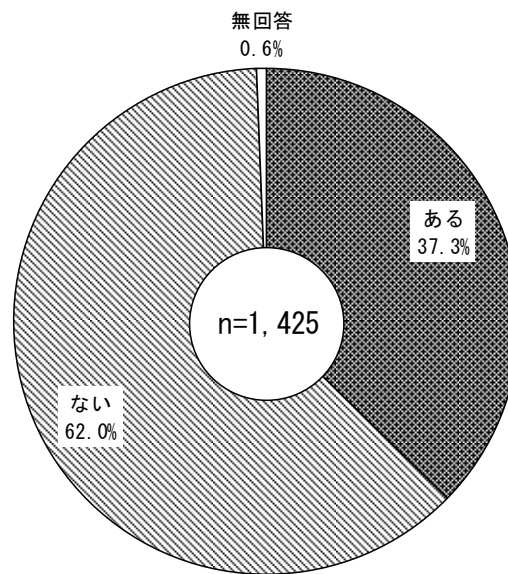
6. 「ごみ施策」について

(1) 収集回数の見直しによる生活への影響

ごみの収集回数の見直しにより、現在、生活に影響がないと回答している人は6割超

【問23】収集回数の見直しから約10か月が経ちましたが、現在、生活に影響はありますか。(〇は1つ)

平成30年10月1日より実施された、家庭系可燃ごみの収集回数を週3回から2回に見直したことによる生活への影響を聞いたところ、「ない」(62.0%)と答えた人は6割を超えている。

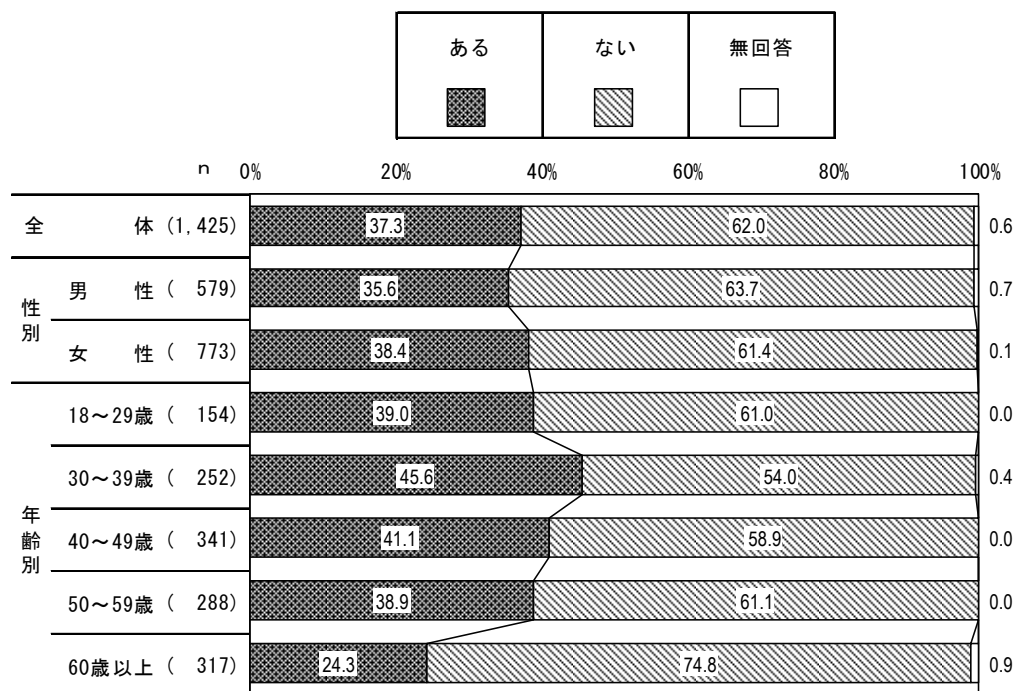


図Ⅲ－98 収集回数の見直しによる生活への影響

【性別／年齢別】

性別で比較すると、女性が男性より影響があるとした割合が高いが、大きな差は見られない。

年齢別にみると、影響があると回答した割合が高いのは 30～39 歳（45.6%）、40～49 歳（41.1%）で4割を超えて、最も低い 60 歳以上（24.3%）との差は各々21.3、16.8 ポイントとなっている。



図Ⅲ－９９ 収集回数の見直しによる生活への影響（性別／年齢別）

(1-1) 収集回数の見直しで影響があったこと

収集回収の見直しの影響は、「家庭での保管場所」、「1回あたりのごみ量が増える」が6割超

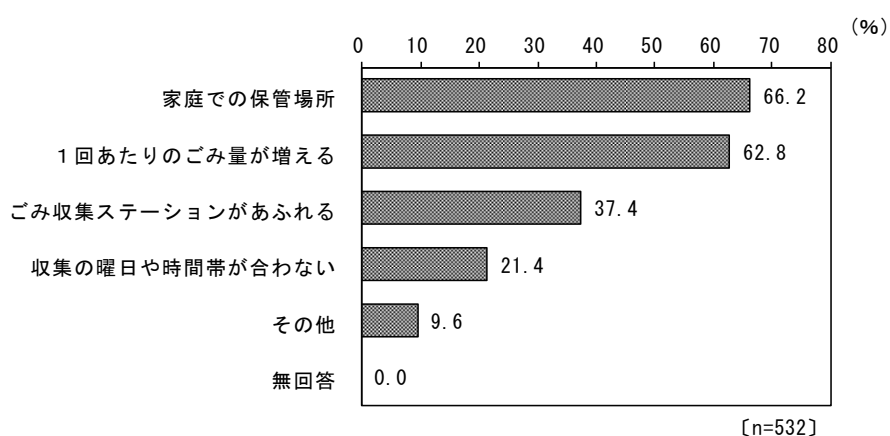
(問23で「1. ある」とお答えの方)

【問23-1】どのような影響がありますか。(〇はいくつでも)

収集回収の見直しで影響があるとした 532 人に、その内容を聞いたところ、「家庭での保管場所」(66.2%)、「1回あたりのごみ量が増える」(62.8%)で6割を超えている。

次いで、「ごみ収集ステーションがあふれる」(37.4%)、「収集の曜日や時間帯が合わない」(21.4%)となっている。

「その他」としては、「ごみが臭う」(22件)が挙げられ、割合を計算すると4.1%になる。



図Ⅲ-100 収集回数の見直しで影響があったこと

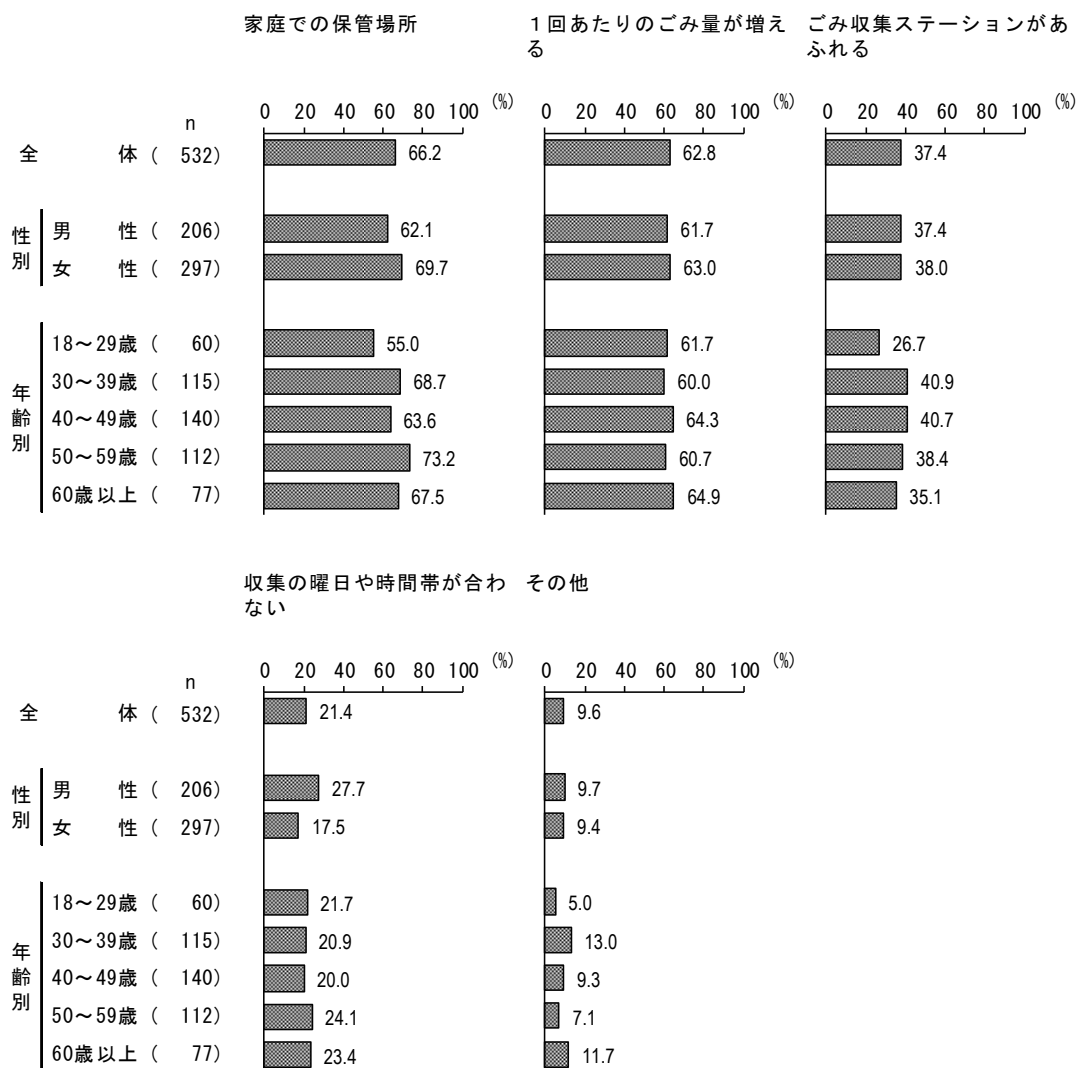
表Ⅲ-24 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
ごみが臭う	22
ルールを守らない人がある	8
不衛生（ハエ、虫がわく）	5
不衛生（カラスがごみを散らかす）	4
回収が滞るようになった	3
収集の曜日や時間帯が生活に合うようになった	2
夜遅くの収集が増えた	2
不衛生（猫がごみを散らかす）	2
その他	9
合計	57

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「家庭での保管場所」は女性（69.7%）が男性（62.1%）より 7.6 ポイント高く、「収集の曜日や時間帯が合わない」では男性（27.7%）が女性（17.5%）より 10.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「家庭での保管場所」は、最も高い 50～59 歳（73.2%）と最も低い 18～29 歳（55.0%）の差が 18.2 ポイント、同様に「ごみ収集ステーションがあふれる」は、30～39 歳（40.9%）と 18～29 歳（26.7%）の差が 14.2 ポイントとなっている。



図Ⅲ－１０１ 収集回数の見直しで影響があったこと（性別／年齢別）

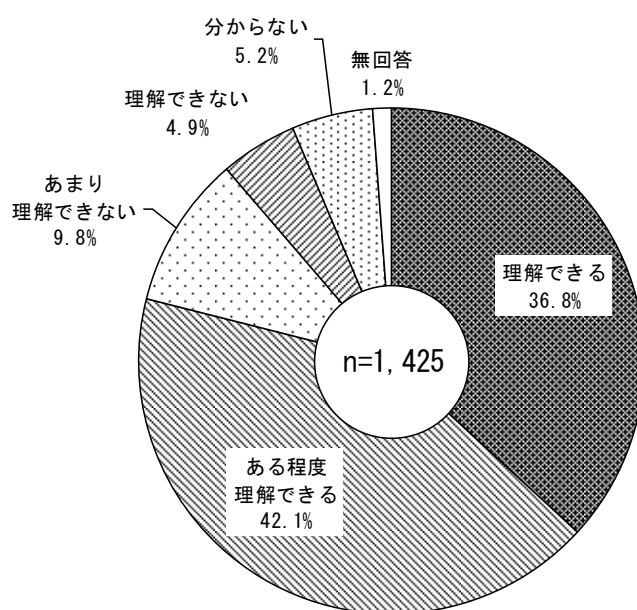
(2) 収集回数の見直しへの理解

収集回数の見直しに理解を示したのは8割弱

【問24】収集回数の見直し後「可燃ごみ量の減少」および「雑がみの分別回収量の増加」の効果がみられましたが、収集回数を見直したことについてどう思いますか。
(○は1つ)

収集回数の見直しについて聞いたところ、「理解できる」(36.8%)と「ある程度理解できる」(42.1%)を合わせた『理解が得られた』人の割合は、78.9%と8割近くなっている。

一方、「理解できない」(4.9%)、「あまり理解できない」(9.8%)を合わせた『理解が得られない』人の割合は、14.7%となっている。

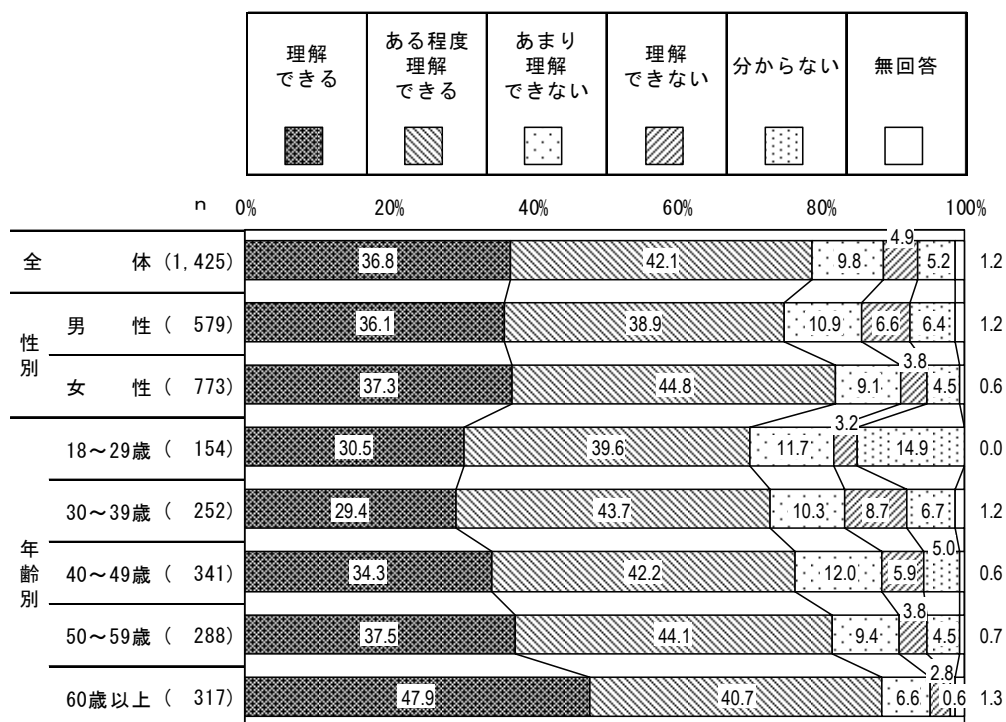


図Ⅲ－１０２ 収集回数の見直しへの理解

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「理解できる」、「ある程度理解できる」は共に、女性（37.3%、44.8%）が男性（36.1%、38.9%）より各々1.2、5.9 ポイント高く、これらを合わせた『理解が得られた』人の割合では、女性（82.1%）と男性（75.0%）に 7.1 ポイントの差がある。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い『理解が得られた』人の割合も高くなり、『理解が得られた』人の割合が最も高い 60 歳以上（88.6%）と最も低い 18～29 歳（70.1%）との差は 18.5 ポイントになっている。



図Ⅲ－１０３ 収集回数の見直しへの理解（性別／年齢別）

(2-1) 収集回数の見直しを理解できる理由

収集回数の見直しが、「処理経費の削減につながると思う」とする人は7割弱

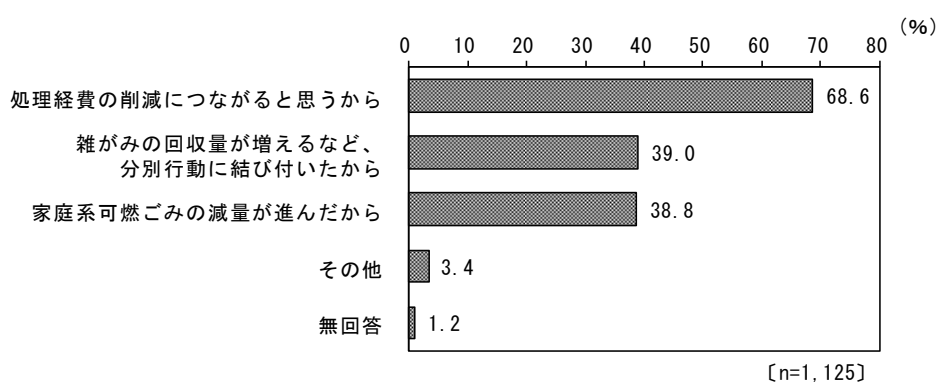
(問24で「1. 理解できる、2. ある程度理解できる」とお答えの方)

【問24-1】理解できる理由を教えてください。(〇はいくつでも)

収集回数の見直しを「理解できる」、「ある程度理解できる」とした1,125人にその理由を聞いたところ、「処理経費の削減につながると思うから」が68.6%と7割近くになっている。

次いで、「雑がみの回収量が増えるなど、分別行動に結び付いたから」(39.0%)、「家庭系可燃ごみの減量が進んだから」(38.8%)が理由として挙がっている。

「その他」としては、「環境やごみに対する意識が高まったから」(10件)、「作業員の労務が軽減されるから」(9件)など、「環境問題」や「働き方改革」の時勢に応じた意見がある。



図Ⅲ-104 収集回数の見直しを理解できる理由

表Ⅲ-25 「その他」の内訳

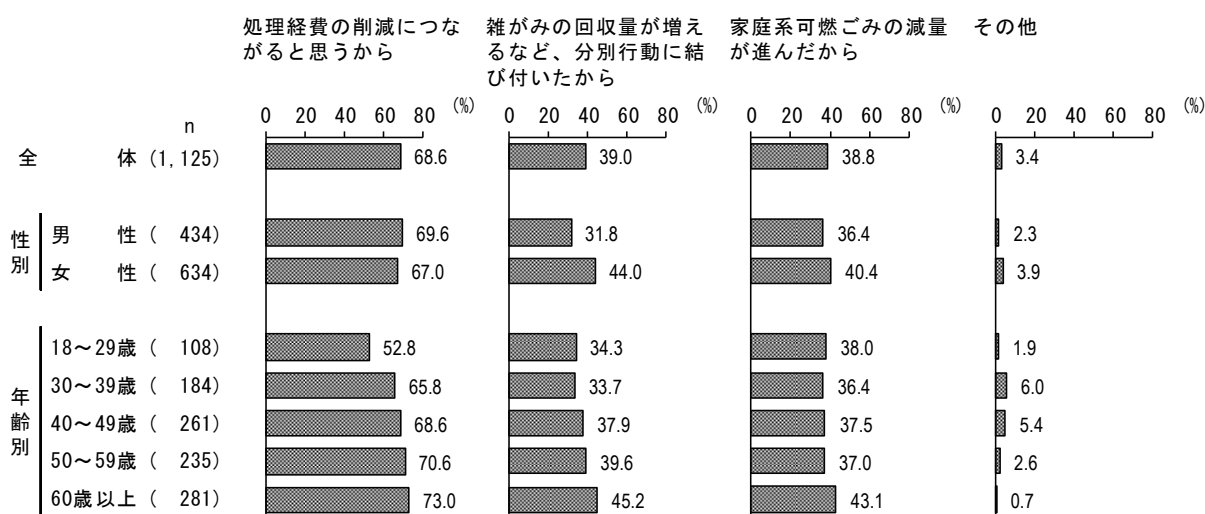
「その他」の内容	件数
環境やごみに対する意識が高まったから	10
作業員の労務が軽減されるから	9
とくに困らないから	7
環境に良いから	5
適切な収集回数だから	4
その他	3
合計	38

【性別／年齢別】

「処理経費の削減につながると思うから」は、割合が最も高い60歳以上（73.0%）と最も低い18～29歳（52.8%）の差が20.2ポイント、同様に「雑がみの回収量が増えるなど、分別行動に結び付いたから」は、60歳以上（45.2%）、30～39歳（33.7%）の差が11.5ポイントとなっている。

年齢別にみると、「処理経費の削減につながると思うから」、「雑がみの回収量が増えるなど、分別行動に結び付いたから」では、共に、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。

性別で比較すると、「雑がみの回収量が増えるなど、分別行動に結び付いたから」の割合が女性（44.0%）が男性（31.8%）より12.2ポイント高くなっている。



図Ⅲ－１０５ 収集回数の見直しを理解できる理由（性別／年齢別）

(3) 収集回数の見直しで気を付けるようになったこと

収集回数の見直しで、ごみの発生抑制（リデュース）を心掛けるようになったのは4割超

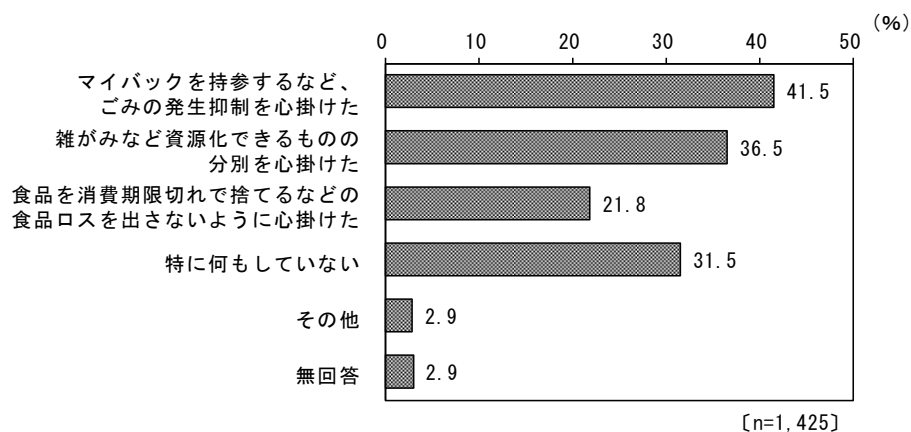
【問25】収集回数の見直しにともない気を付けるようになったことがありますか。
(○はいくつでも)

収集回数の見直しをきっかけに気を付けるようになったこととして、「マイバックを持参するなど、ごみの発生抑制を心掛けた」の割合が41.5%と4割を超えている。

次いで、「雑がみなど資源化できるものの分別を心掛けた」(36.5%)、「食品を消費期限切れで捨てるなどの食品ロスを出さないように心掛けた」(21.8%)となっているが、一方で「特に何もしていない」(31.5%)も3割を超えている。

ただし、「特に何もしていない」の内には、既にこれらのことを実践している人が含まれていることに留意する必要がある。

「その他」としては、「ごみをコンパクトにする」(9件)、「ごみを意識して生活する」(9件)などが挙がっている。



図Ⅲ－１０６ 収集回数の見直しで気を付けるようになったこと

表Ⅲ－２６ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
ごみをコンパクトにする	9
ごみを意識して生活する	9
ごみの保管方法を工夫する	6
リサイクル（食品トレイ、容器）	5
ごみの捨て先を考える	3
生ごみ処理機の購入・活用	2
リデュース・リユース（レジ袋）	2
その他	6
合計	42

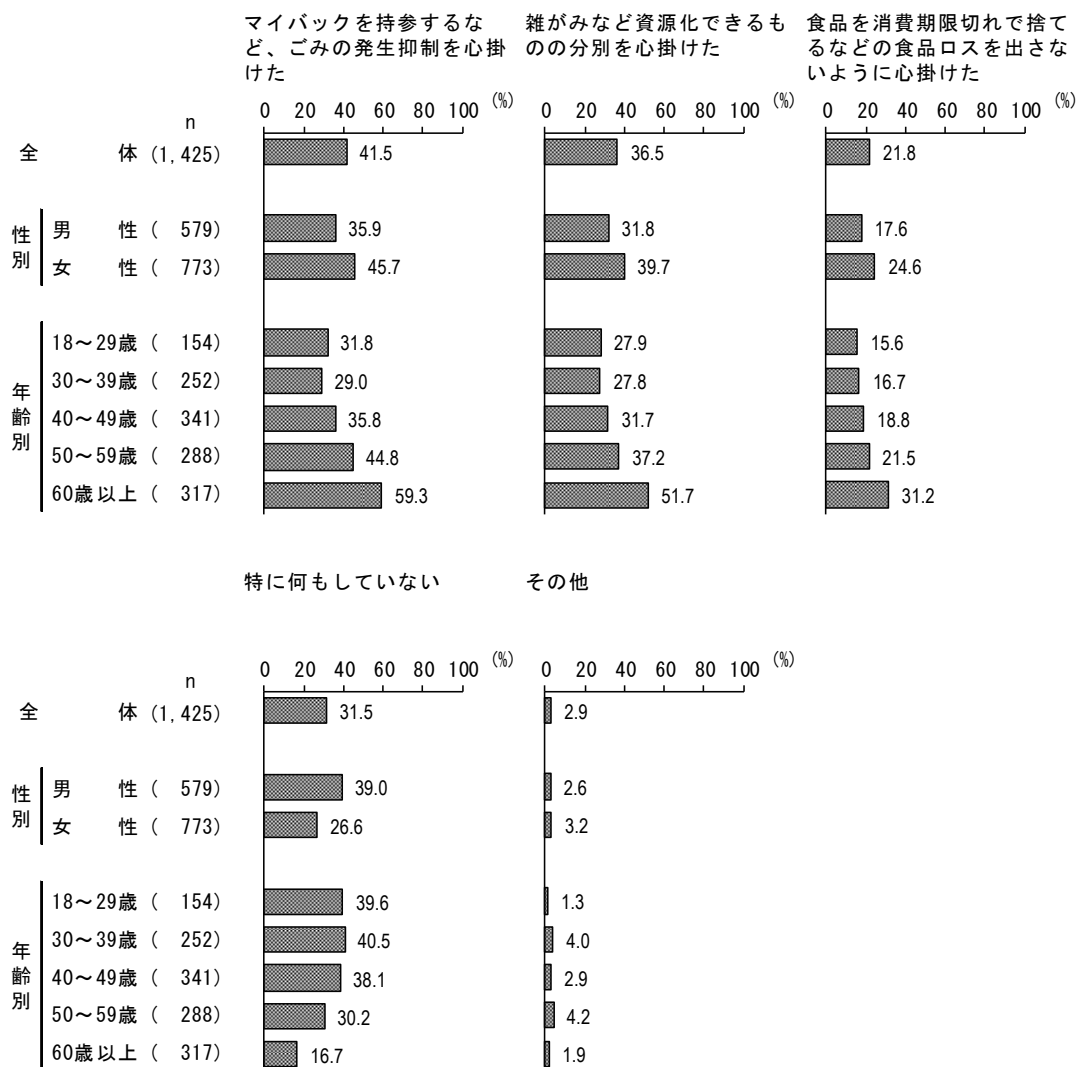
【性別／年齢別】

性別で比較すると、「特に何もしていない」の割合が男性（39.0%）が女性（26.6%）より12.4ポイント高くなっている。

心掛けしたことは、男性より女性の割合が高くなっている。例えば、「マイバックを持参するなど、ごみの発生抑制を心掛けた」は女性（45.7%）が男性（35.9%）より9.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「特に何もしていない」は、年齢が上がるに従い割合が低くなる傾向が見られ、逆に心掛けしたことは、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。

「マイバックを持参するなど、ごみの発生抑制を心掛けた」の割合は、最も高い60歳以上（59.3%）と最も低い30～39歳（29.0%）の差が30.3ポイント、同様に「雑がみなど資源化できるものの分別を心掛けた」は、60歳以上（51.7%）と30～39歳（27.8%）の差が23.9ポイントとなっている。



図Ⅲ－１０７ 収集回数の見直しで気を付けるようになったこと（性別／年齢別）

(4) さらなるごみの減量のために必要だと思うこと

さらなるごみの減量に必要と思われることは、「簡易包装の推進」が6割弱

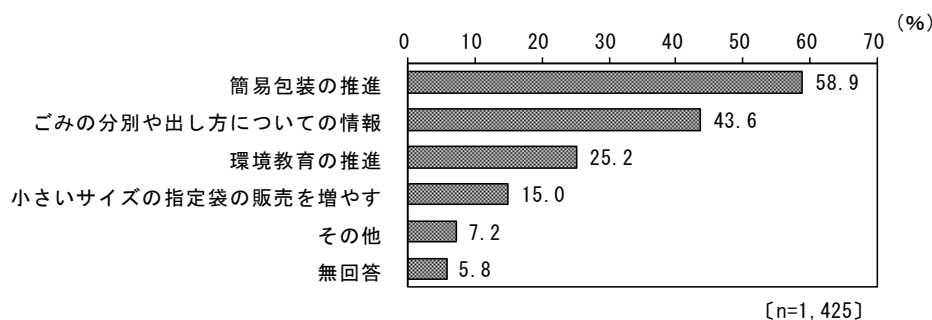
【問26】さらなるごみの減量のために、あなたが必要だと思うことがありますか。
(〇はいくつでも)

収集回数の見直しで効果があったごみの減量を、さらに推進するために必要と思うことを聞いたところ、「簡易包装の推進」が58.9%と6割近くなっている。

次いで、「ごみの分別や出し方についての情報」(43.6%)、「環境教育の推進」(25.2%)、「小さいサイズの指定袋の販売を増やす」(15.0%)の順に割合が高い。

「その他」としては、「プラスチックごみ対策」(13件)、「過剰包装の規制」(12件)、「ごみ削減対策の助成・推進」(10件)、「個々の努力・意識改革」(10件)などが挙がっている。

「過剰包装の規制」は質問の選択肢にある「簡易包装の推進」と同義に捉えられるので、重複して選択された票も含まれるが、「簡易包装の推進・過剰包装の規制」の割合はより高いと考えられる。また、「指定ごみ袋」に関しては、いろいろな意見が見られる。



図Ⅲ－１０８ さらなるごみの減量のために必要だと思うこと

表Ⅲ－２７ 「その他」の内訳

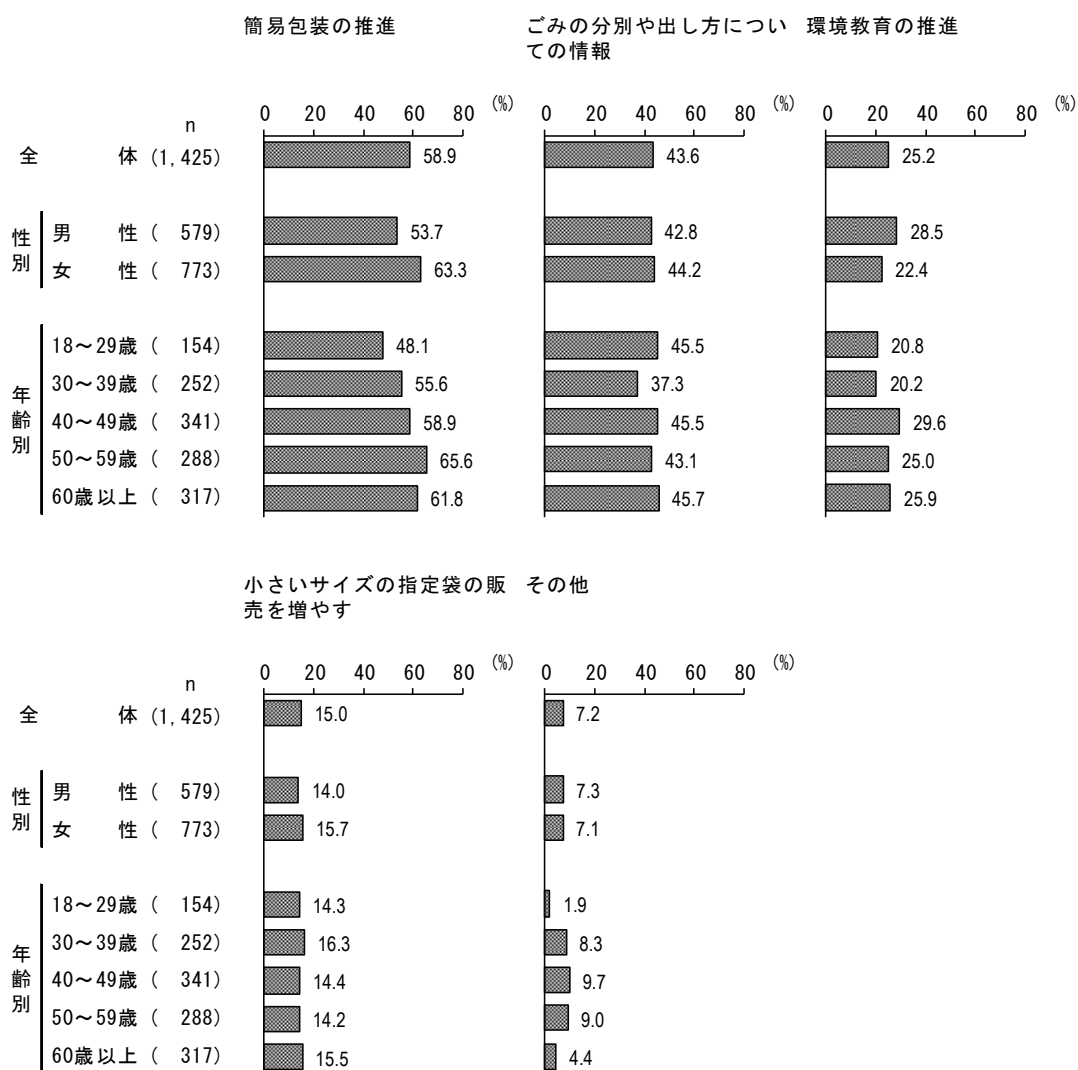
「その他」の内容	件数
プラスチックごみ対策	13
過剰包装の規制	12
ごみ削減対策の助成・推進	10
個々の努力・意識改革	10
啓発活動	8
リサイクル品目の見直し	5
指定ごみ袋（廃止）	5
指定ごみ袋（値上げ）	5
レジ袋（有料化）	4
指定ごみ袋（無償化）	4
指定ごみ袋（改良）	4
指定ごみ袋（指定以外使用禁止）	4
ごみが減量する商品の開発・生産	3
フードロス対策	3
分別しやすい工夫	3
マイバッグの利用促進	3
指定ごみ袋（種類を増やす）	3
チラシ配布の規制	2
その他	13
合計	114

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「簡易包装の推進」の割合は、女性（63.3%）が男性（53.7%）より 9.6 ポイント高く、「環境教育の推進」は、男性（28.5%）が女性（22.4%）より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「簡易包装の推進」は年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高い 50～59 歳（65.6%）と最も低い 18～29 歳（48.1%）の差は 17.5 ポイントとなっている。

「ごみの分別や出し方についての情報」は、他の年齢が 40%台のところ、30～39 歳だけは 37.3%と割合が低い。



図Ⅲ－１０９ さらなるごみの減量のために必要だと思うこと（性別／年齢別）

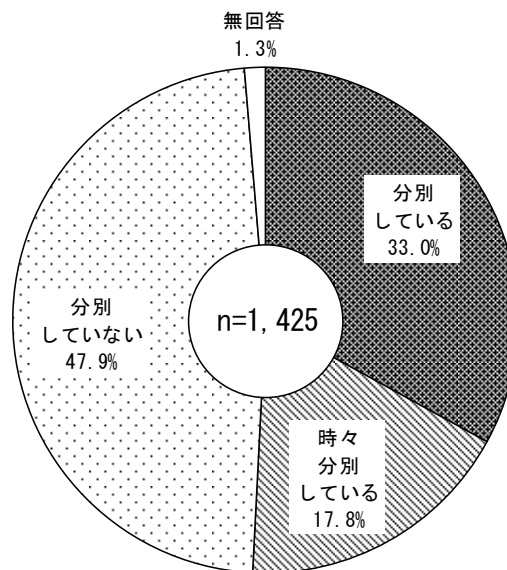
(5) 「雑がみ」の分別状況

「雑がみ」を分別することがある人は5割

【問27】「雑がみ」を分別していますか。(○は1つ)

「雑がみ」とは、ティッシュペーパーの箱、お菓子の箱、トイレトペーパーの芯などです。

「雑がみ」を分別しているかを聞いたところ、「分別している」(33.0%)と「時々分別している」(17.8%)を合わせた『分別することがある』人の割合は50.8%と5割を超えている。



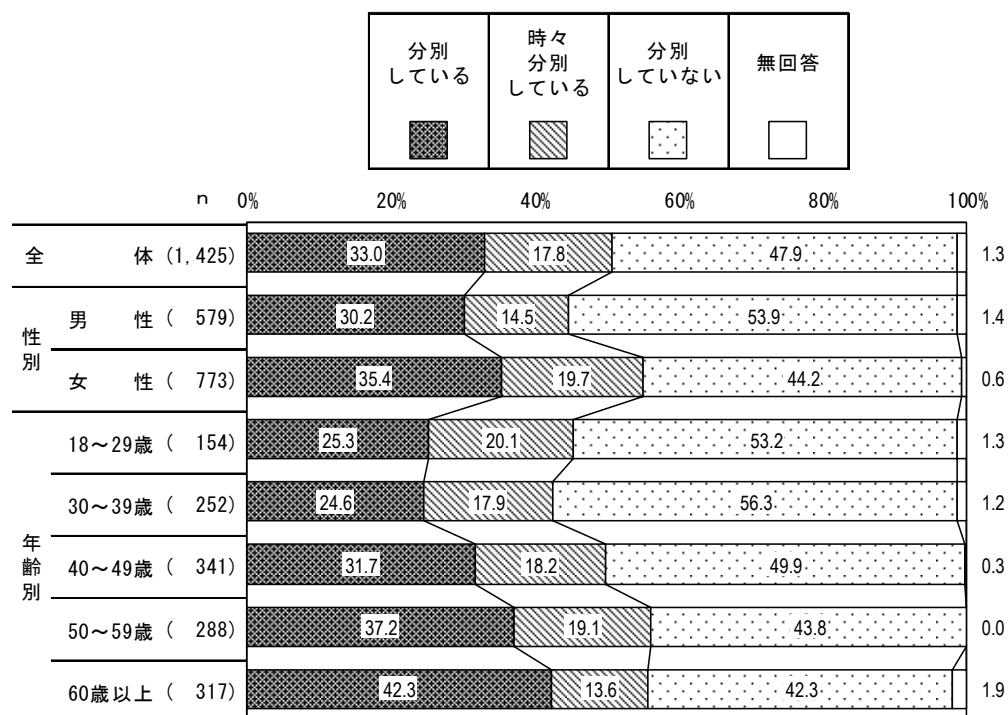
図Ⅲ－１１０ 「雑がみ」の分別状況

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「分別している」、「時々分別している」の割合は、共に女性（35.4%、19.7%）が男性（30.2%、14.5%）より各々5.2ポイント高く、これらを合わせた『分別することがある』人の割合では、女性（55.1%）が男性（44.7%）より 10.4 ポイント高くなる。

年齢別にみると、「分別している」、「分別することがある」人の割合は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られる。

「分別している」の割合が最も高い 60 歳以上（42.3%）と最も低い 30～39 歳（24.6%）の差は 17.7 ポイント、同様に『分別することがある』人の割合では、50～59 歳（56.3%）と 30～39 歳（42.5%）の差が 13.8 ポイントになっている。



図Ⅲ－１１１ 「雑がみ」の分別状況（性別／年齢別）

(5-1) 「雑がみ」を分別していない理由

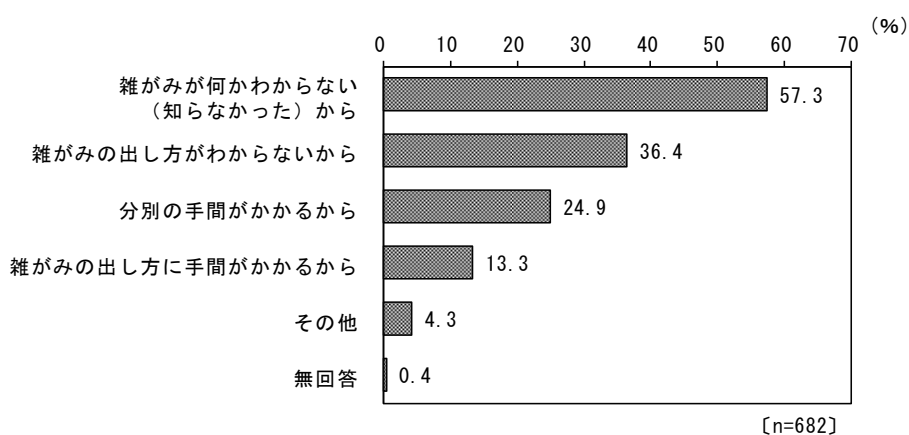
分別していない理由として、「雑がみ」が何かわからないとした人が5割超

(問27で「3. 分別していない」とお答えの方)

【問27-1】分別していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

「雑がみ」を分別していないと答えた 682 人が、分別していない理由としたのは、「雑がみが何かわからない（知らなかった）から」が 57.3%と5割を超え最も高く、次いで、「雑がみの出し方がわからないから」(36.4%)、「分別の手間がかかるから」(24.9%)、「雑がみの出し方に手間がかかるから」(13.3%)の順になっている。

「その他」としては、「分別は不要・無意味だから」(8件)、「雑がみは多くないから」(6件)などの理由が挙がっている。



図Ⅲ-112 「雑がみ」を分別していない理由

表Ⅲ-28 「その他」の内訳

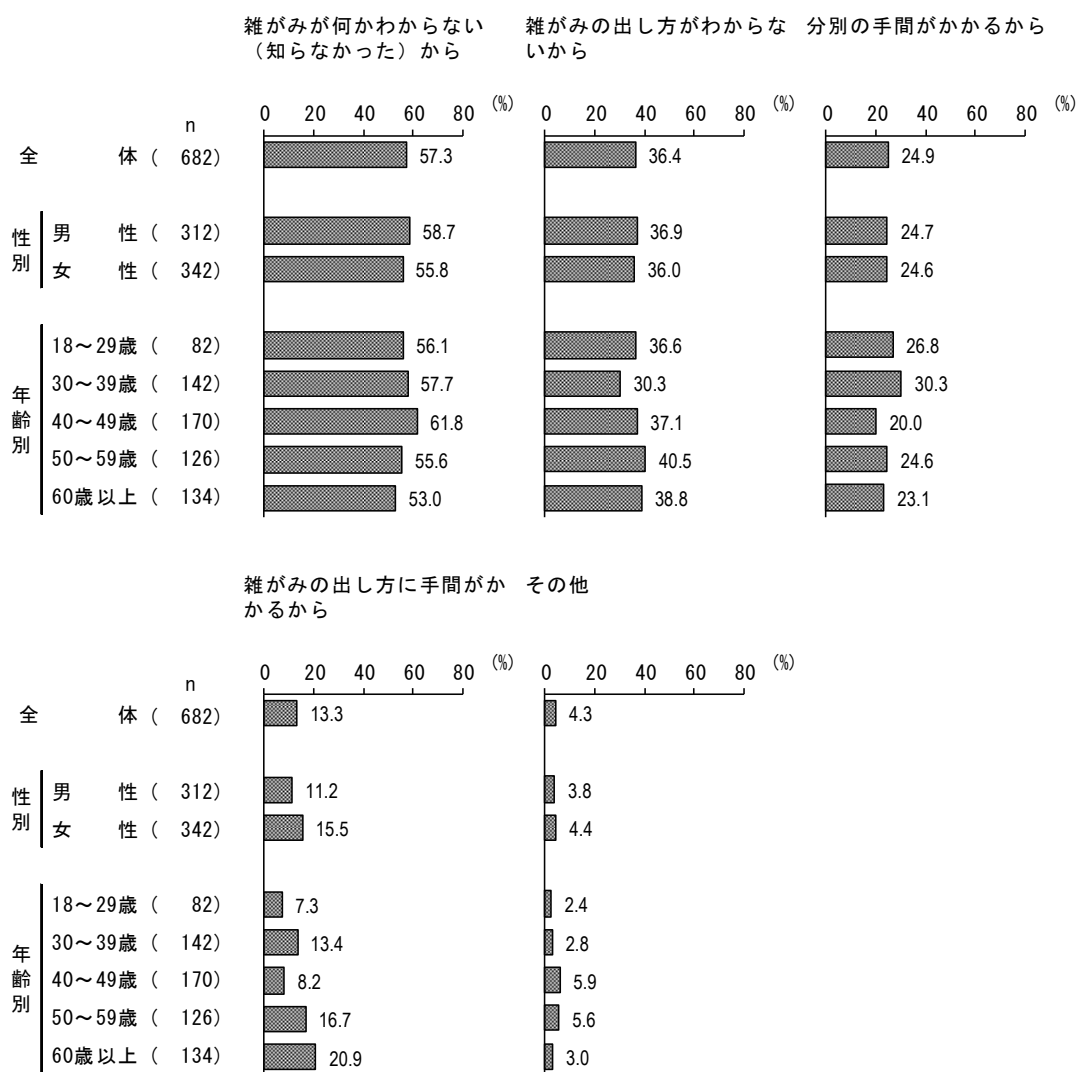
「その他」の内容	件数
分別は不要・無意味だから	8
雑がみは多くないから	6
保管場所がないから	3
気にしていないから	2
収集場所で分別されていないから	2
雑がみは出さないから (自宅で処分、再利用)	2
その他	4
合計	27

【性別／年齢別】

「雑がみが何かわからない（知らなかった）から」では 40～49 歳（61.8%）の割合が最も高く、同様に「雑がみの出し方がわからないから」は 50～59 歳（40.5%）、「分別の手間がかかるから」は 30～39 歳（30.3%）と年齢によりばらつきがある。

性別で比較すると、「雑がみの出し方に手間がかかるから」は、女性（15.5%）が男性（11.2%）より 4.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「雑がみの出し方に手間がかかるから」は、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高い 60 歳以上（20.9%）と最も低い 18～29 歳（7.3%）との差は 13.6 ポイントとなっている。



図Ⅲ－１１３ 「雑がみ」を分別していない理由（性別／年齢別）

(6) 「フードドライブ」についての考え

機会があれば「フードドライブ」に寄附したいと考えているのは5割弱

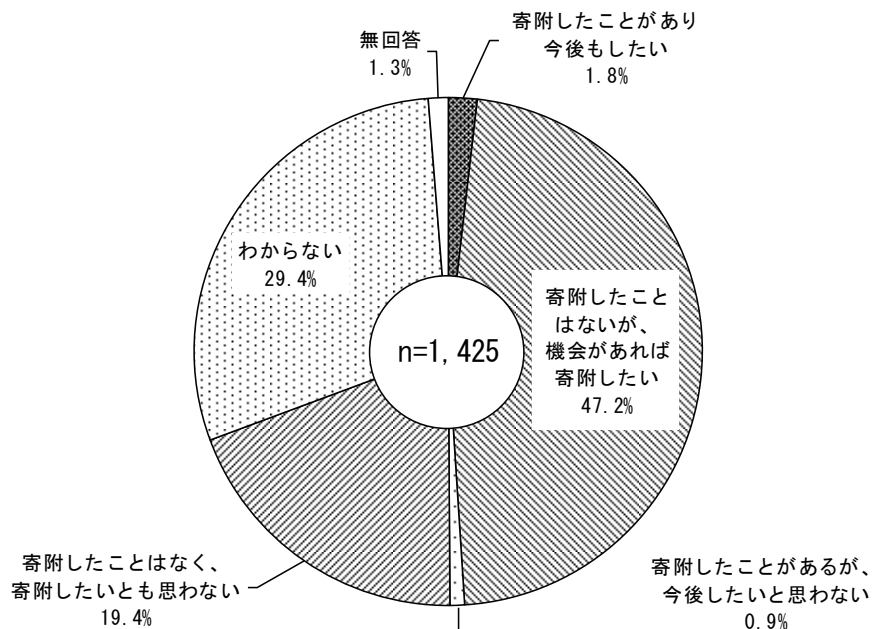
【問28】「フードドライブ」についての考えを教えてください。(〇は1つ)

「フードドライブ」とは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄附する活動です。

「フードドライブ」に対する考えを聞いたところ、「寄附したことはないが、機会があれば寄附したい」の割合が47.2%と最も高く5割に迫っている。

「フードドライブ」に寄附したことがある人の割合は、「寄附したことがあり今後もしたい」(1.8%)、「寄附したことがあるが、今後したいと思わない」(0.9%)を合わせて2.7%と一部の人だけに留まっている。

また、「わからない」(29.4%)とした人が3割近くいる。



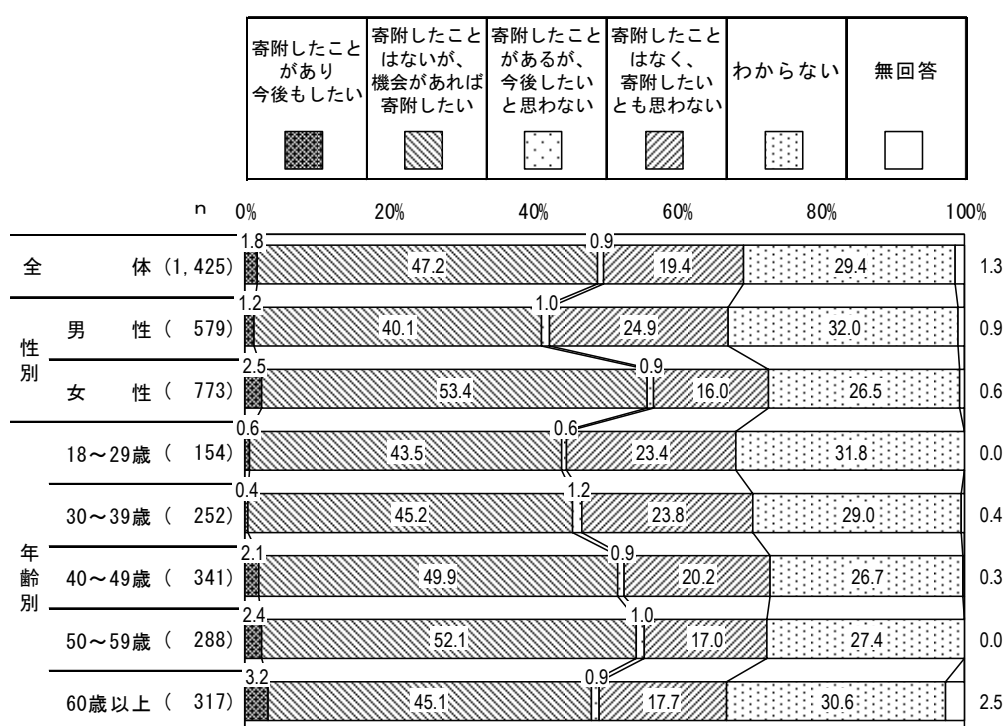
図Ⅲ－１１４ 「フードドライブ」についての考え

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「寄附したことはないが、機会があれば寄附したい」の割合は、女性（53.4%）が男性（40.1%）より 13.3 ポイント高く、逆に「寄附したことはなく、寄附したいとも思わない」では、男性（24.9%）が女性（16.0%）より 8.9 ポイント高くなっており、女性の方が「フードドライブ」に積極的である。

年齢別にみると、「寄附したことはないが、機会があれば寄附したい」は、60 歳以上を除き、年齢が上がるに従い割合が高くなり、最も高い 50～59 歳（52.1%）と最も低い 18～29 歳（43.5%）との差は 8.6 ポイントとなっている。

一方、「寄附したことはなく、寄附したいとも思わない」は、年齢が上がるに従い割合が低くなる傾向が見られ、最も高い 30～39 歳（23.8%）と最も低い 50～59 歳（17.0%）との差は 6.8 ポイントとなっている。



図Ⅲ－１１５ 「フードドライブ」についての考え（性別／年齢別）

(7) 「ごみ施策」に関する事業などの認知

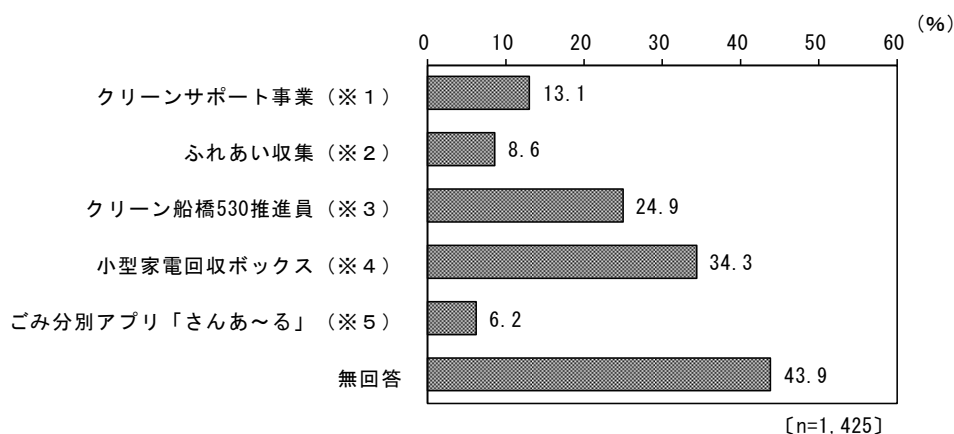
「ごみ施策」に関する事業の認知度は高くない

【問29】知っているものを選んでください。(〇はいくつでも)

「ごみ施策」に関する事業に関して、知っているものを聞いたところ、「小型家電回収ボックス（※4）」が34.3%と3割を超え、割合が最も高くなっている。

次いで、「クリーン船橋530推進員（※3）」(24.9%)、「クリーンサポート事業（※1）」(13.1%)、「ふれあい収集（※2）」(8.6%)、「ごみ分別アプリ「さんあ〜る」（※5）」(6.2%)となっている。

一方で「無回答」(43.9%)が4割を超えているが、「無回答」には、「ごみ施策」を知っているも答えていない人が含まれている可能性があるため、実際の各施策の認知度は、ここに示す割合より多少高くなると考えられる。



（※1）「クリーンサポート事業」とは、高齢者（65歳以上）や障害者のみの世帯などで運び出しが困難な粗大ごみを、屋内より持ち出すサービスです。

（※2）「ふれあい収集」とは、自力でのごみ出しが困難で、他の人から支援を受けられない一人暮らしの高齢者等のご自宅を週1回訪問し、可燃ごみ、不燃ごみ等を収集するサービスです。

（※3）「クリーン船橋530推進員」とは、環境に優しい美しい街づくりのため、ごみの減量、資源化の推進運動、地域環境美化・保全活動をしている市民のことです。

（※4）「小型家電回収ボックス」とは、小型家電に含まれる貴重な金属を回収し、リサイクルするために市内20箇所に設置した回収ボックスです。

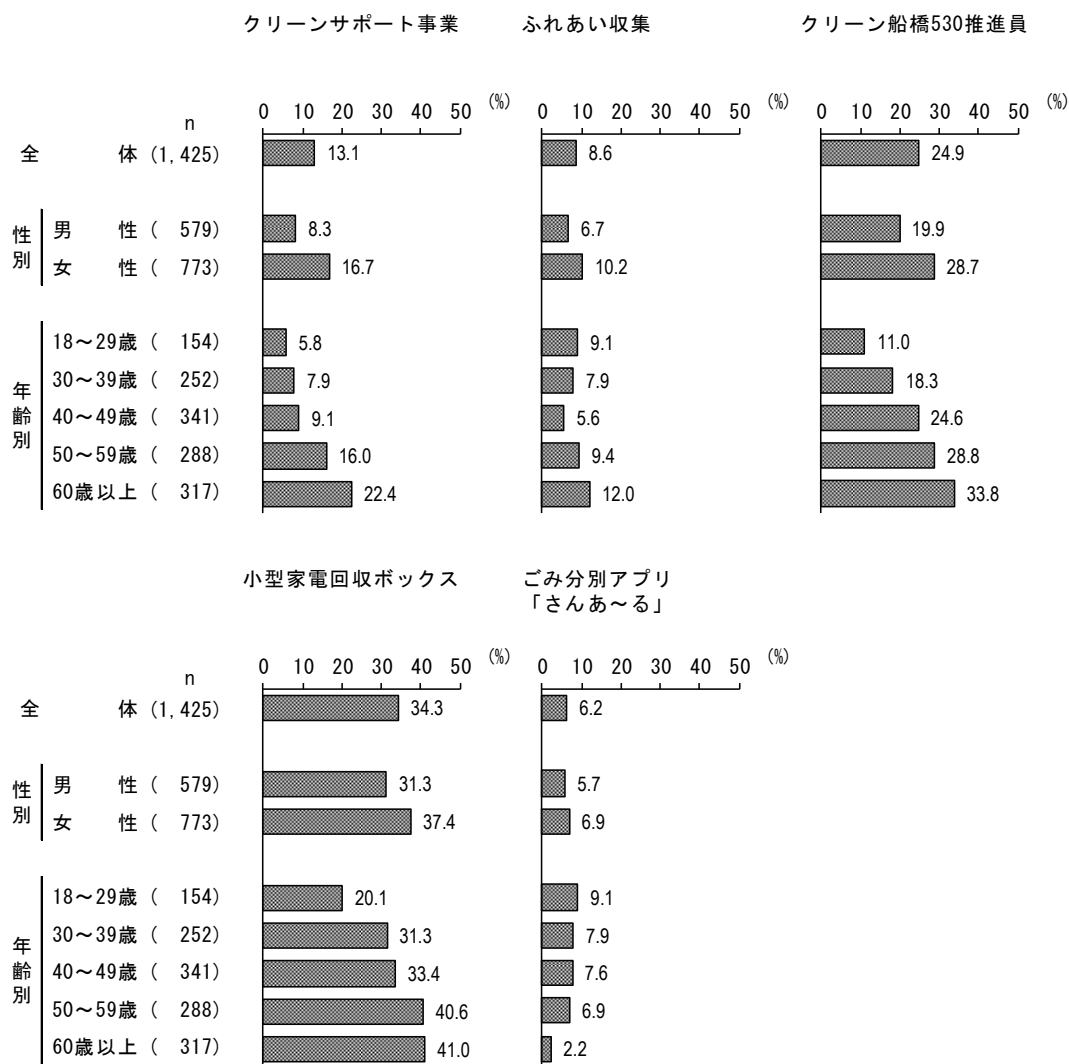
（※5）ごみ分別アプリ「さんあ〜る」とは、ごみの分別や収集日などを確認できるスマートフォン向けアプリです。

図Ⅲ－116 「ごみ施策」に関する事業などの認知

【性別／年齢別】

性別で比較すると、全ての施策で女性の割合が男性より高くなっている。

年齢別にみると、「クリーンサポート事業」、「クリーン船橋 530 推進員」、「小型家電回収ボックス」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、最も高い 60 歳以上(22.4%、33.8%、41.0%)と最も低い 18～29 歳 (5.8%、11.0%、20.1%) との差は各々16.6、22.8、20.9 ポイント開いている。



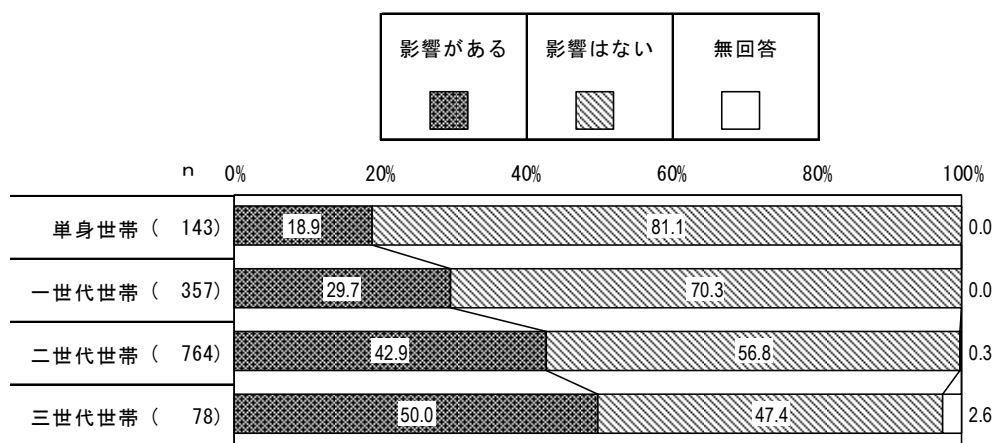
図Ⅲ－１１７ 「ごみ施策」に関する事業などの認知（性別／年齢別）

(8) 「ごみ施策」概観

世帯人数が多いほど、収集回数の見直しによる生活への影響が大きい

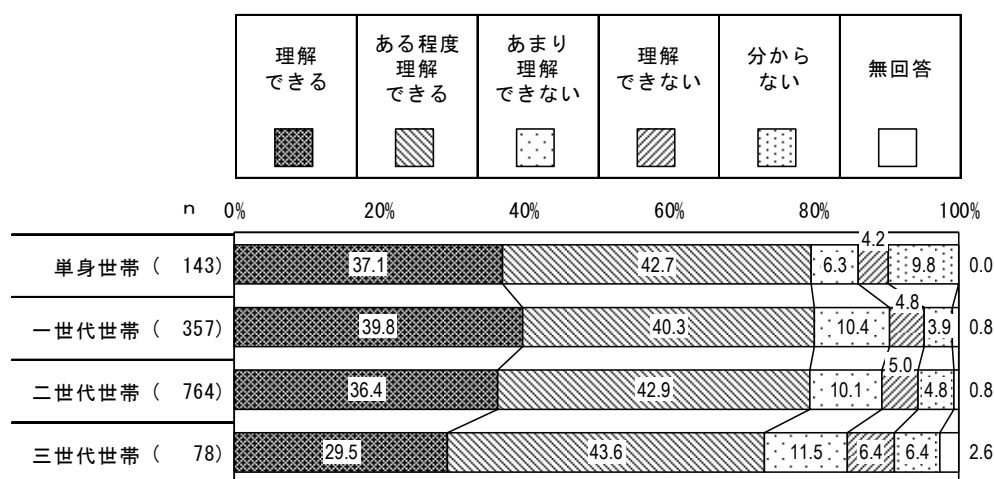
収集回数の見直しによる影響は、年齢別には 30～39 歳 (45.6%)、40～49 歳 (41.1%) で大きく、「影響がある」とした割合は4割を超えている。

ここで、世帯状況別（世帯人数）に影響の有無を比較すると、世帯人数の多い順に、「三世代世帯」(50.0%) から「単身世帯」(18.9%) と、「影響がある」割合が高いのがわかる。



図Ⅲ－１１８ 収集回数の見直しによる生活への影響（世帯状況別）

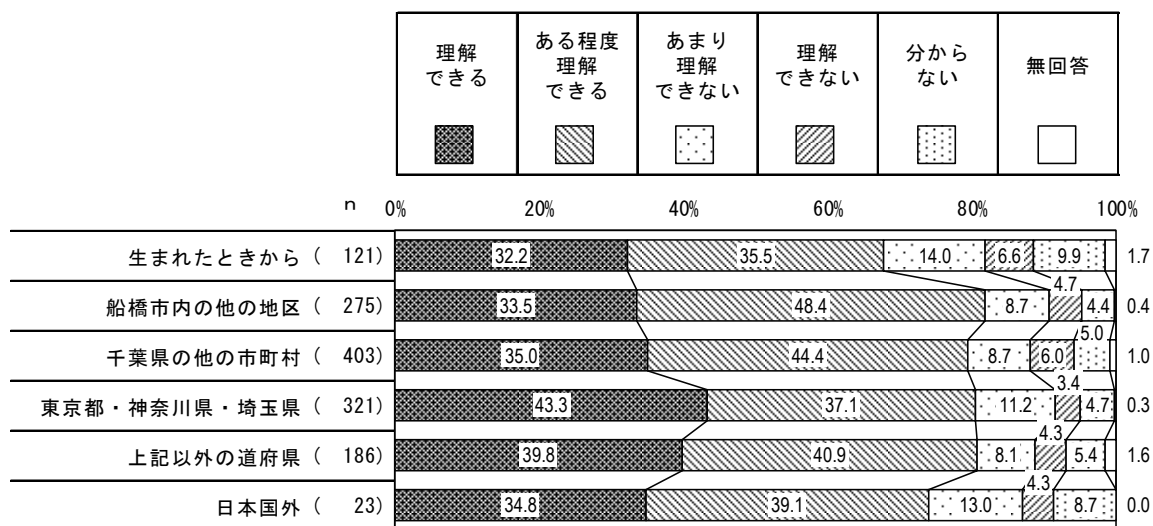
上記より、世帯状況別（世帯人数）に影響に差が有るのが確認できたので、さらに、収集回数の見直しへの理解具合を見てみると、「理解できる」と「ある程度理解できる」を合わせた『理解を得られた』人の割合は、「単身世帯」から順に 79.8%、80.1%、79.3%、73.1% となり、「三世代世帯」で割合が低くなるが、概ね8割の人から理解を得られている。



図Ⅲ－１１９ 収集回数の見直しへの理解（世帯状況別）

「生まれたときから」船橋市に住んでいる人は、収集回数の見直しで不便を感じている

以前の住まい別に、収集回数の見直しへの理解具合を見てみると、「理解できる」と「ある程度理解できる」を合わせた『理解を得られた』人の割合は、「生まれたときから」(67.7%)が最も低く、最も高い「船橋市内の他の地区」(81.9%)との差が14.2ポイントになっている。



図Ⅲ－１２０ 収集回数の見直しへの理解（以前の住まい別）

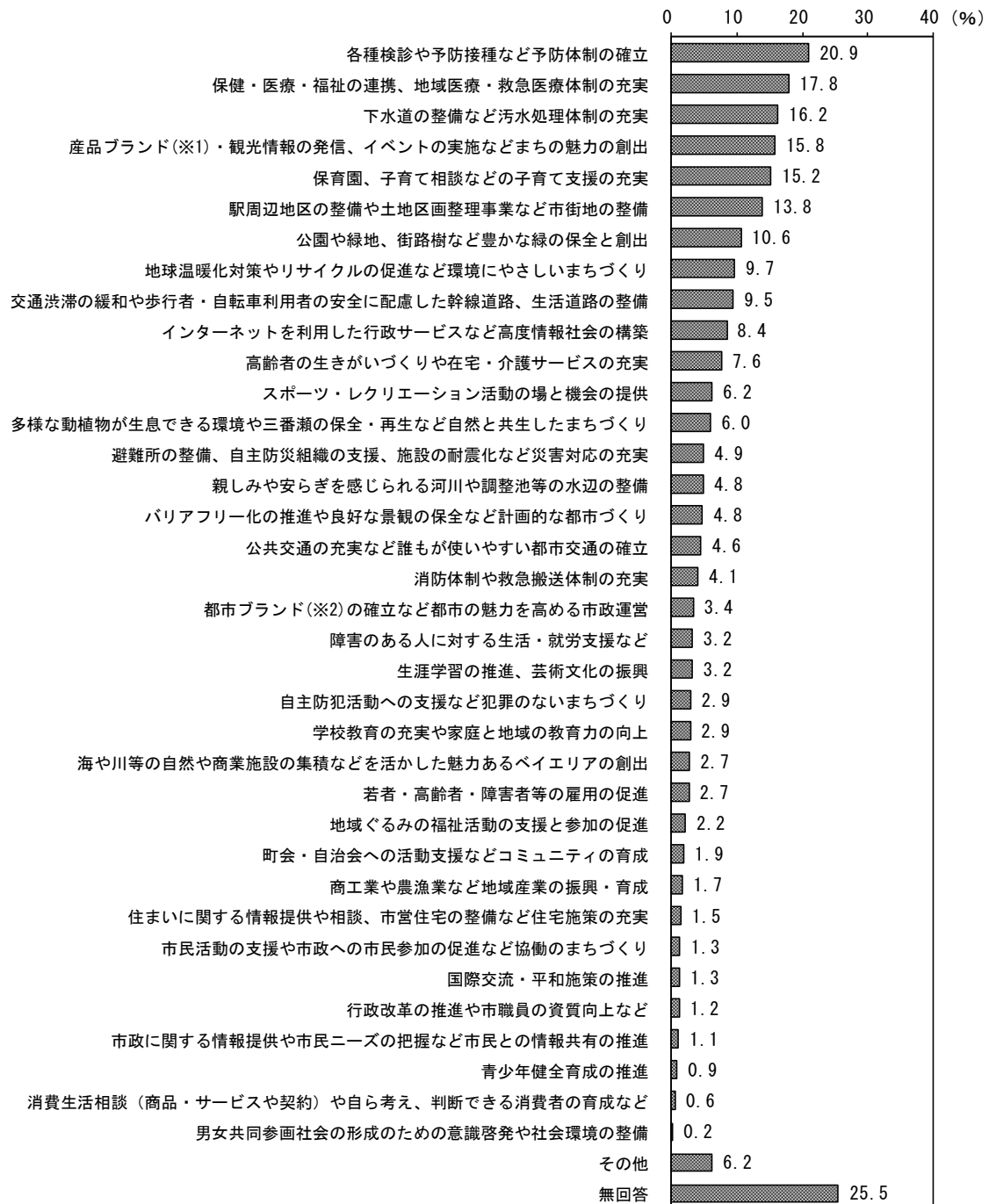
7. 「市の施策」について

(1) ここ数年でよくなったもの

よくなったものは、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」が最も高く 2 割超

【問30】次ページの「表 市の施策（37項目）」について、どのように感じていますか。

① ここ数年でよくなったもの（5つまで選んで番号を記入してください）



[n=1,425]

(※1) 産品ブランドとは、農水畜産品をはじめとした「船橋発」の産品のことです。

(※2) 都市ブランドとは、市民や市外の人々が共通に抱く「〇〇市らしさ」、良好なイメージのことです。

図Ⅲ－１２１ ここ数年でよくなったもの

37 項目の市の施策について、「ここ数年でよくなったもの」は何か聞いたところ、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」が 20.9%で最も高く、次いで「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」(17.8%)、「下水道の整備など污水处理体制の充実」(16.2%)、「産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」(15.8%)、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」(15.2%) の順で上位 5 項目が挙がっている。

「その他」については、「住み始めて間もない、関心がない」などを理由とした「わからない」(50 件)が多い。

表Ⅲ－２９ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
駅周辺の整備・活性化	2
街の治安・風紀	1
不便を感じない	1
小中学校へのエアコン設置	1
図書館（開館時間・貸出予約）	1
きれいになった	1
よくなったものは特にない	31
わからない	50
合計	88

【性別／年齢別】（上位8項目）

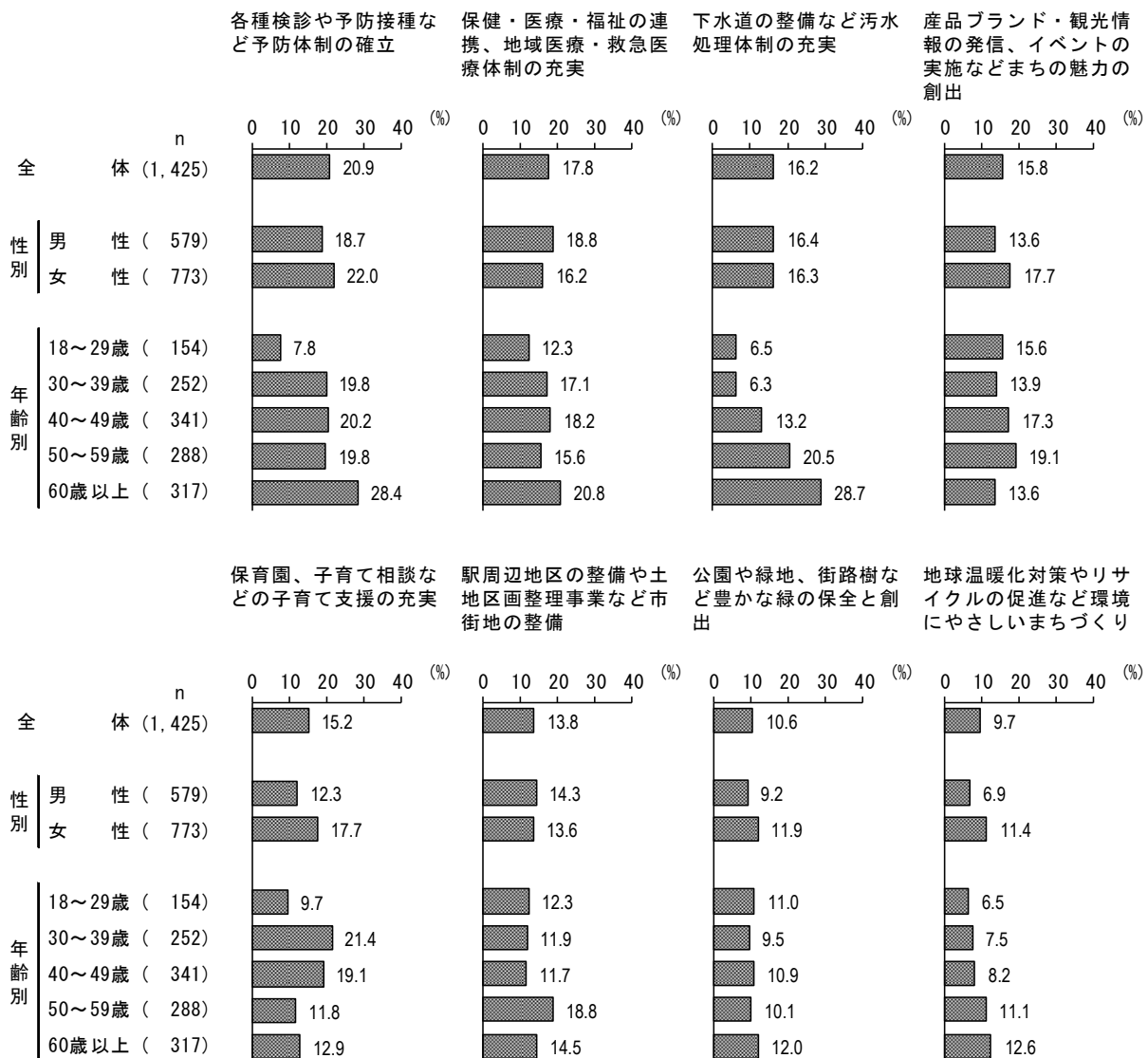
性別で比較すると、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」、「産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」、「地球温暖化対策やリサイクルの促進など環境にやさしいまちづくり」では、女性（22.0%、17.7%、17.7%、11.4%）の方が男性（18.7%、13.6%、12.3%、6.9%）の割合より各々3.3、4.1、5.4、4.5ポイント高くなっている。

「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」では、男性（18.8%）が女性（16.2%）より2.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」では、最も高い60歳以上（28.4%、20.8%）と最も低い18～29歳（7.8%、12.3%）の差が各々20.6、8.5ポイントとなっている。

「下水道の整備など汚水処理体制の充実」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高い60歳以上（28.7%）と最も低い30～39歳（6.3%）との差は22.4ポイントとなっている。

「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」では、30～39歳（21.4%）、40～49歳（19.1%）の割合が他の年齢に比べ高い。



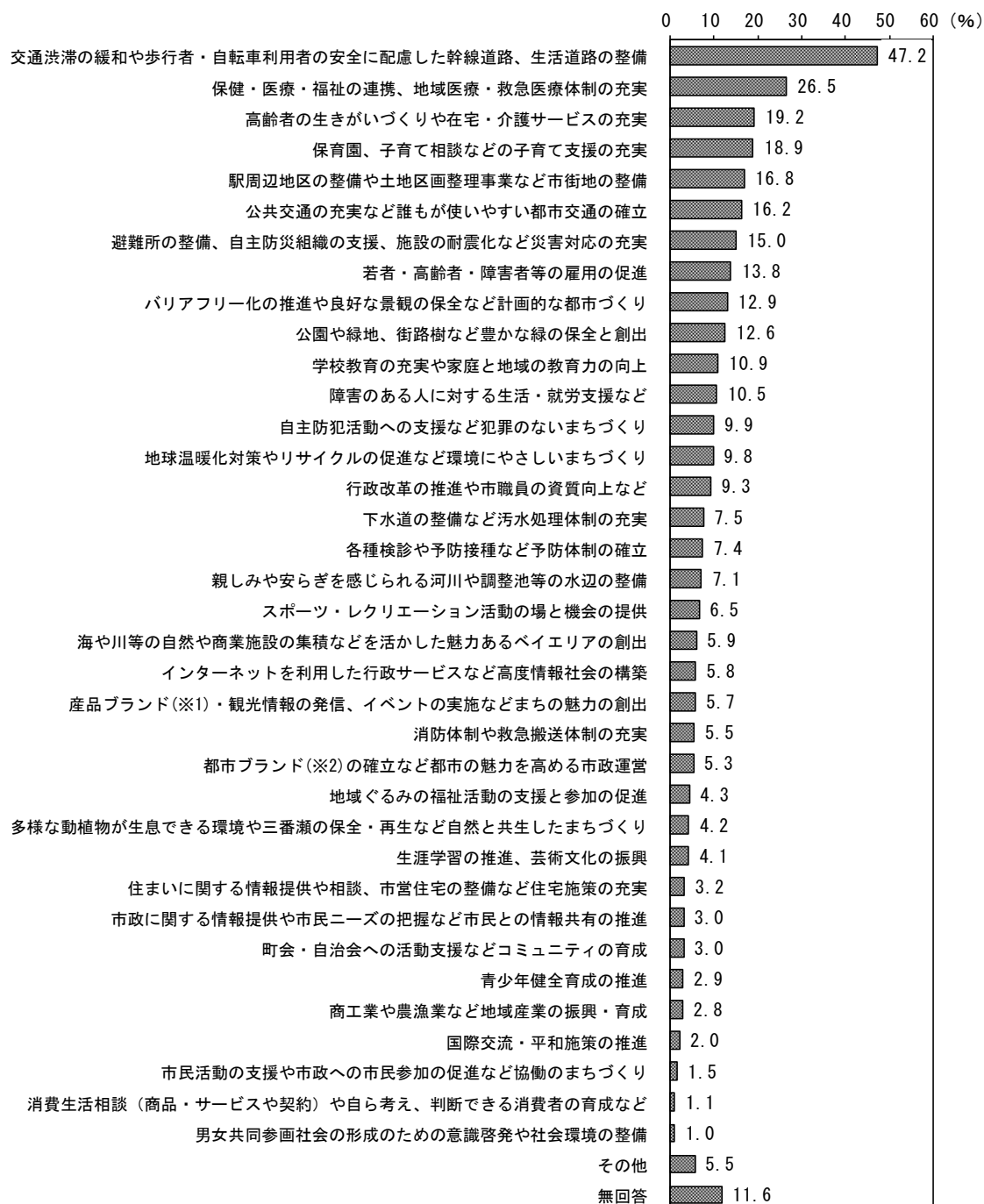
図Ⅲ－１２２ ここ数年でよくなったもの（性別／年齢別）（上位8項目）

(2) 力を入れるべきもの

力を入れるべきものは、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が5割弱

【問30】次ページの「表 市の施策（37項目）」について、どのように感じていますか。

② 力を入れるべきもの（5つまで選んで番号を記入してください）



[n=1,425]

(※1) 産品ブランドとは、農水畜産品をはじめとした「船橋発」の産品のことです。

(※2) 都市ブランドとは、市民や市外の人々が共通に抱く「〇〇市らしさ」、良好なイメージのことです。

図Ⅲ－１２３ 力を入れるべきもの

37 項目の市の施策について、「力を入れるべきもの」は何か聞いたところ、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が 47.2%で最も高く 5 割近い。次いで「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」(26.5%)、「高齢者の生きがいがづくりや在宅・介護サービスの充実」(19.2%)、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」(18.9%)、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」(16.8%)の順で上位 5 項目が挙げられている。

「その他」については、「自転車（駐輪場、マナー、取締など）に関すること」(9 件)、「都市計画・まちづくりに関すること」(8 件) などについての意見がある。

表Ⅲ－３０ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
自転車（駐輪場、マナー、取締など）に関すること	9
都市計画・まちづくりに関すること	8
ごみに関すること	6
タバコ（路上喫煙、喫煙所など）に関すること	5
公衆衛生（公衆トイレ、鳥のフンなど）に関すること	4
税・財政に関すること	4
行政サービスに関すること	4
支援・助成（子ども、学生）に関すること	4
支援・助成（障害者・高齢者）に関すること	4
学校（教育内容、施設、給食など）に関すること	4
公共交通機関に関すること	3
動物（ペット）に関すること	3
治安維持（防犯カメラ設置など）に関すること	3
治安維持（客引、勧誘）に関すること	3
支援・助成（就業、低所得者）に関すること	2
違法行為（密漁）に関すること	2
その他	9
特にない	4
わからない	7
合計	88

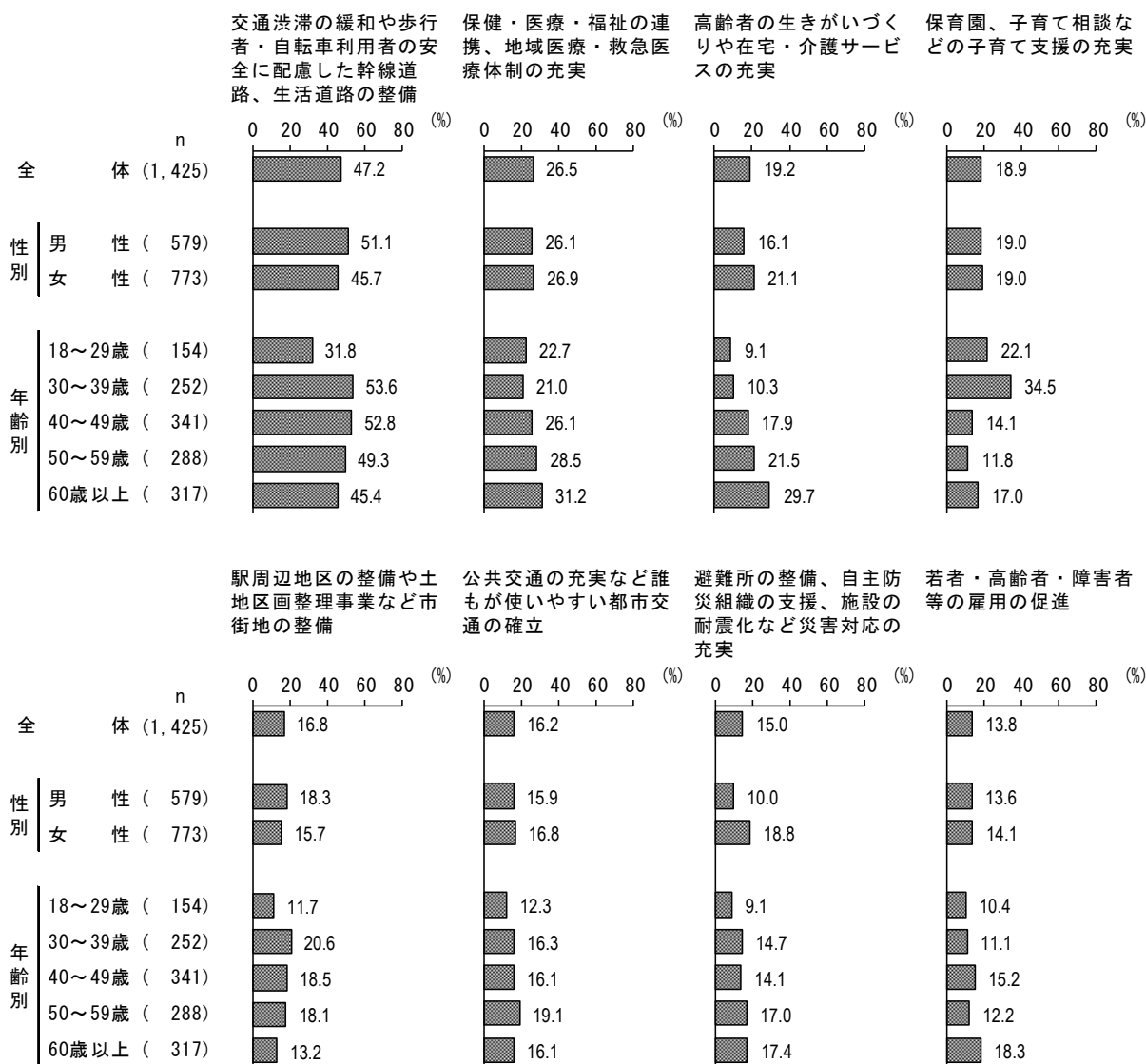
【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「高齢者の生きがいがづくりや在宅・介護サービスの充実」、「避難所の整備、自主防災組織の支援、施設の耐震化など災害対応の充実」では、女性（21.1%、18.8%）の方が男性（16.1%、10.0%）の割合より各々5.0、8.8ポイント高くなっている。

「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」では、男性（51.1%）が女性（45.7%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」、「高齢者の生きがいがづくりや在宅・介護サービスの充実」の割合が、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、最も高い60歳以上（31.2%、29.7%）と最も低い30～39歳（21.0%）、18～29歳（9.1%）の差は、各々10.2、20.6ポイントとなっている。

「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」では、30～39歳（34.5%）、18～29歳（22.1%）の割合が他の年齢に比べ高い。



図Ⅲ－１２４ 力を入れるべきもの（性別／年齢別）（上位8項目）

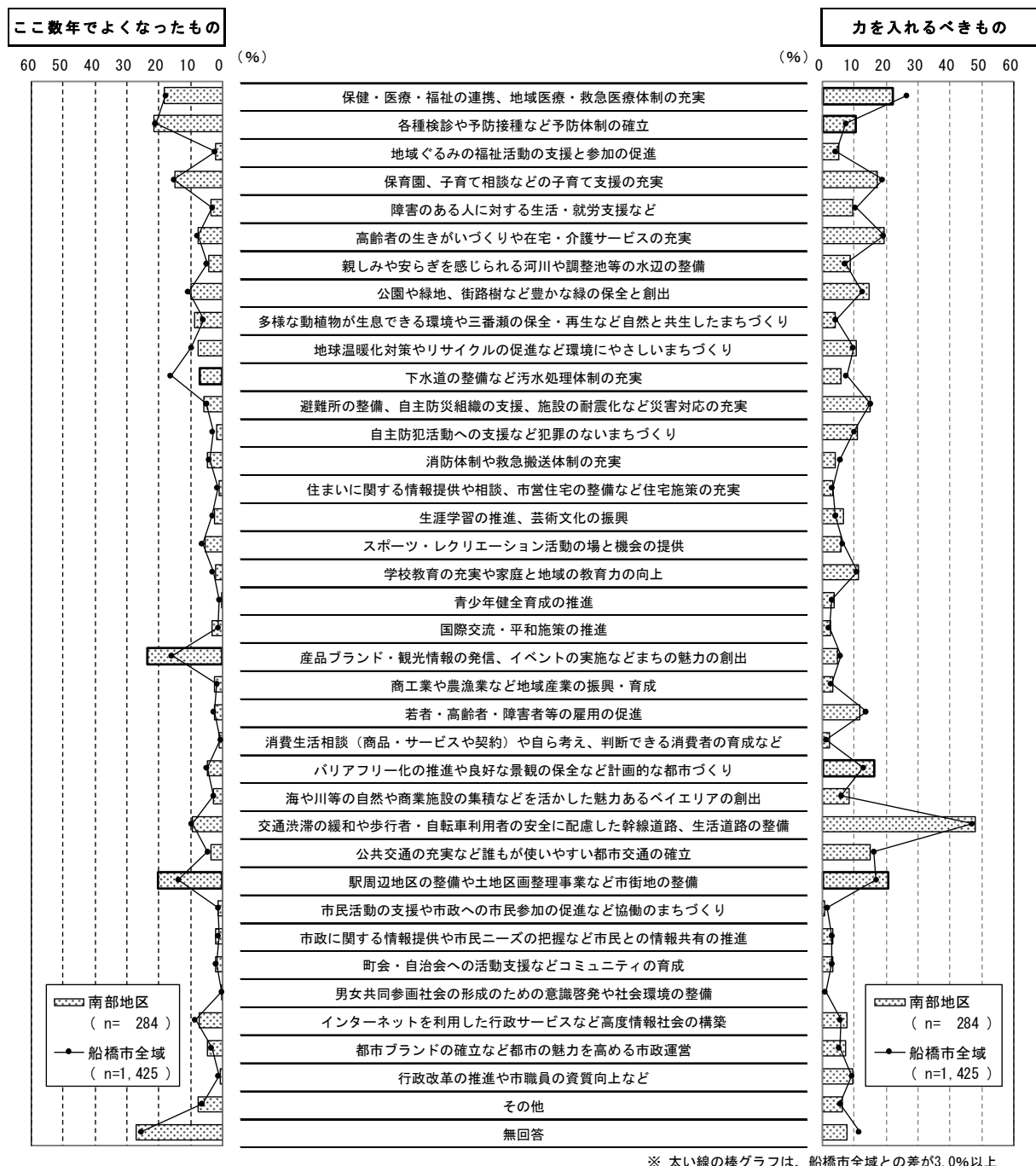
(3) 「市の施策」地区別分析

船橋市全域と比較し、3%以上の乖離があり、差が大きい上位3つまでの施策を記載・分析する。

【南部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよくなったもの」では、「産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」が高く、「下水道の整備など汚水処理体制の充実」が低くなっている。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」、「バリアフリー化の推進や良好な景観の保全など計画的な都市づくり」、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」が高く、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」が低くなっている。



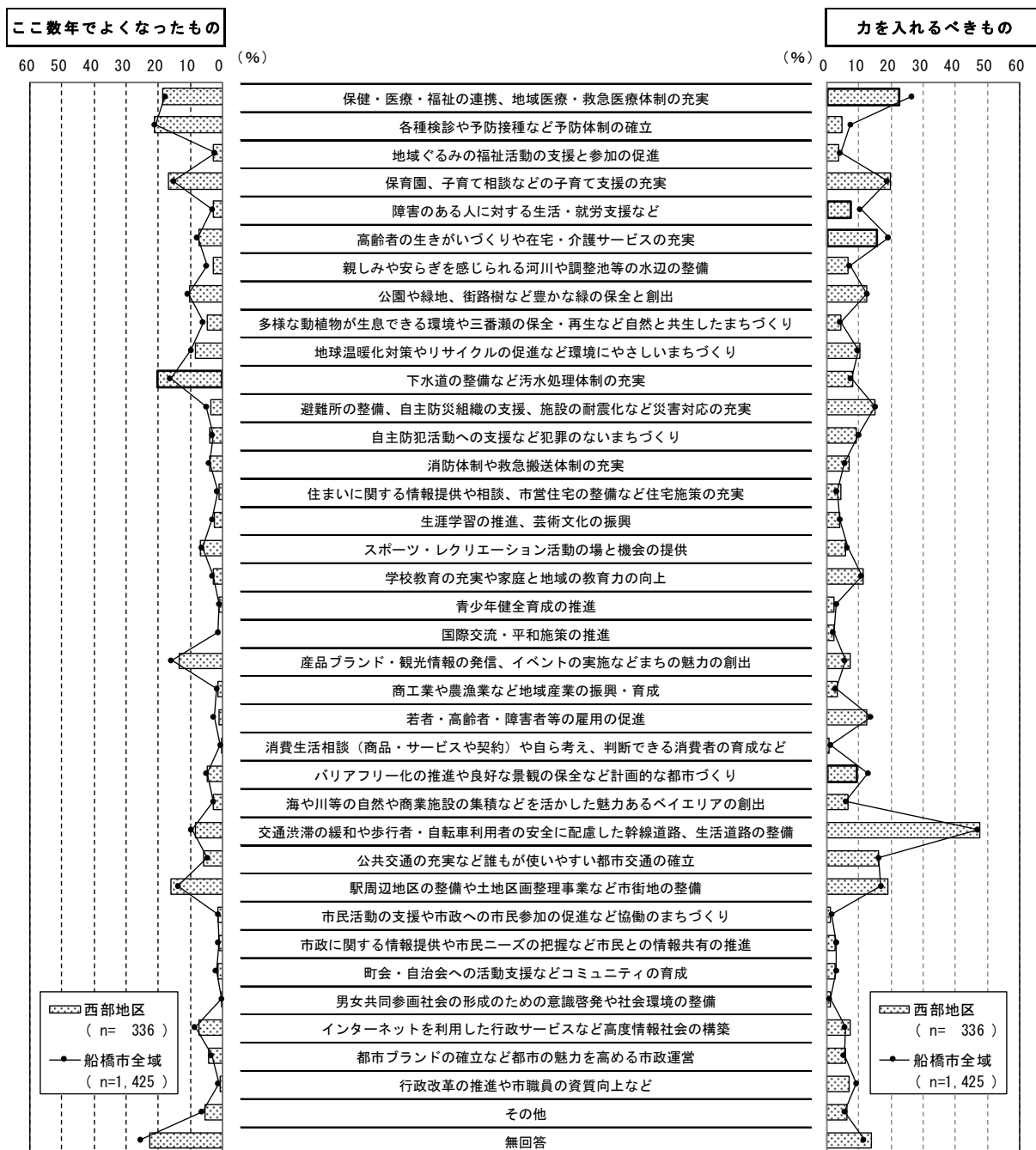
※ 太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－125 「市の施策」地区別分析（南部地区）

【西部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「下水道の整備など污水处理体制の充実」が高くなっているが、特に低くなっている施策は無い。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、特に高くなっている施策は無く、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」、「高齢者の生きがいがづくりや在宅・介護サービスの充実」、「バリアフリー化の推進や良好な景観の保全など計画的な都市づくり」などが低くなっている。



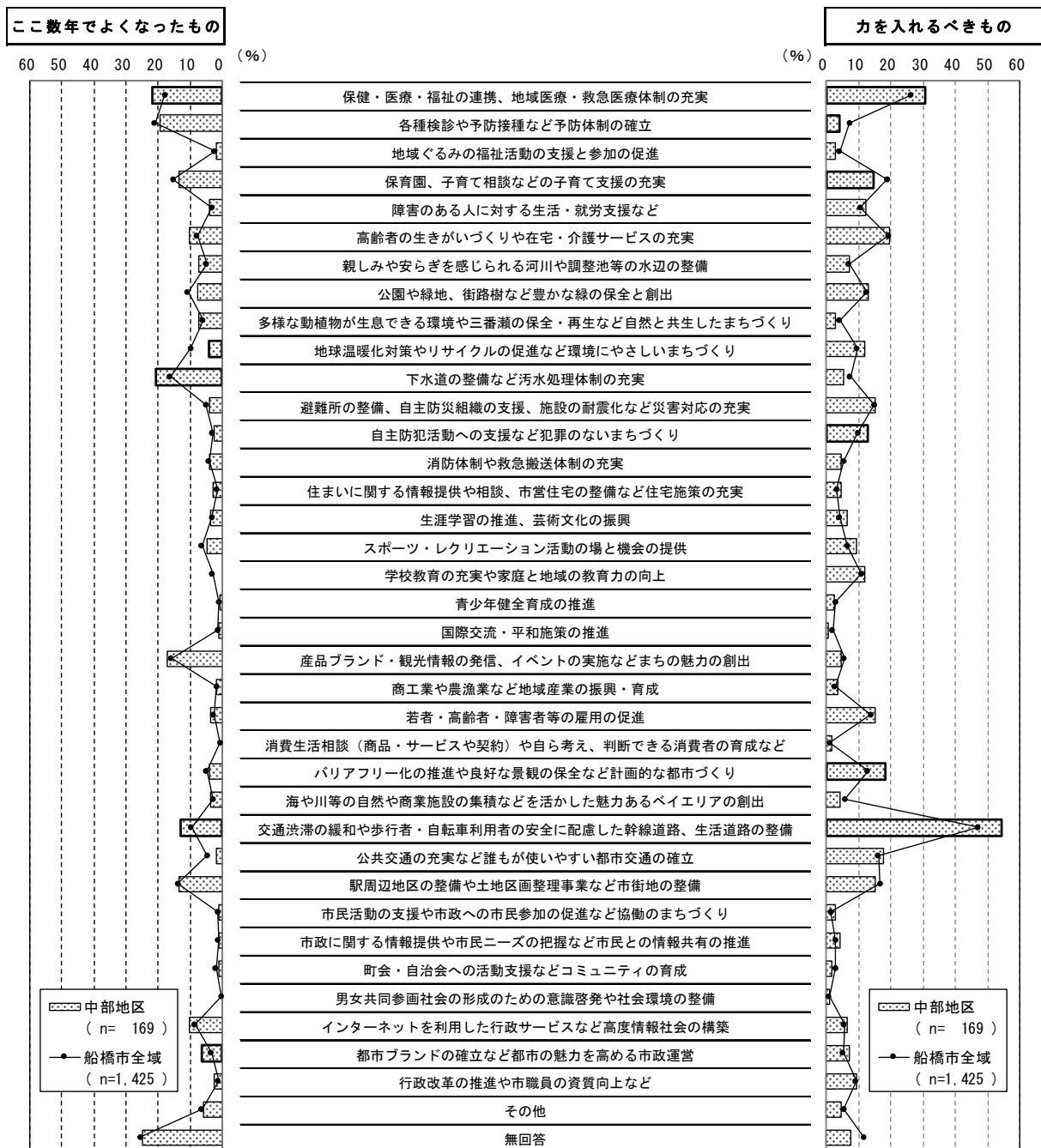
※ 太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－１２６ 「市の施策」地区別分析（西部地区）

【中部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「下水道の整備など污水处理体制の充実」、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」などが高く、「地球温暖化対策やリサイクルの促進など環境にやさしいまちづくり」が低くなっている。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」、「バリアフリー化の推進や良好な景観の保全など計画的な都市づくり」、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」などが高く、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」が低くなっている。



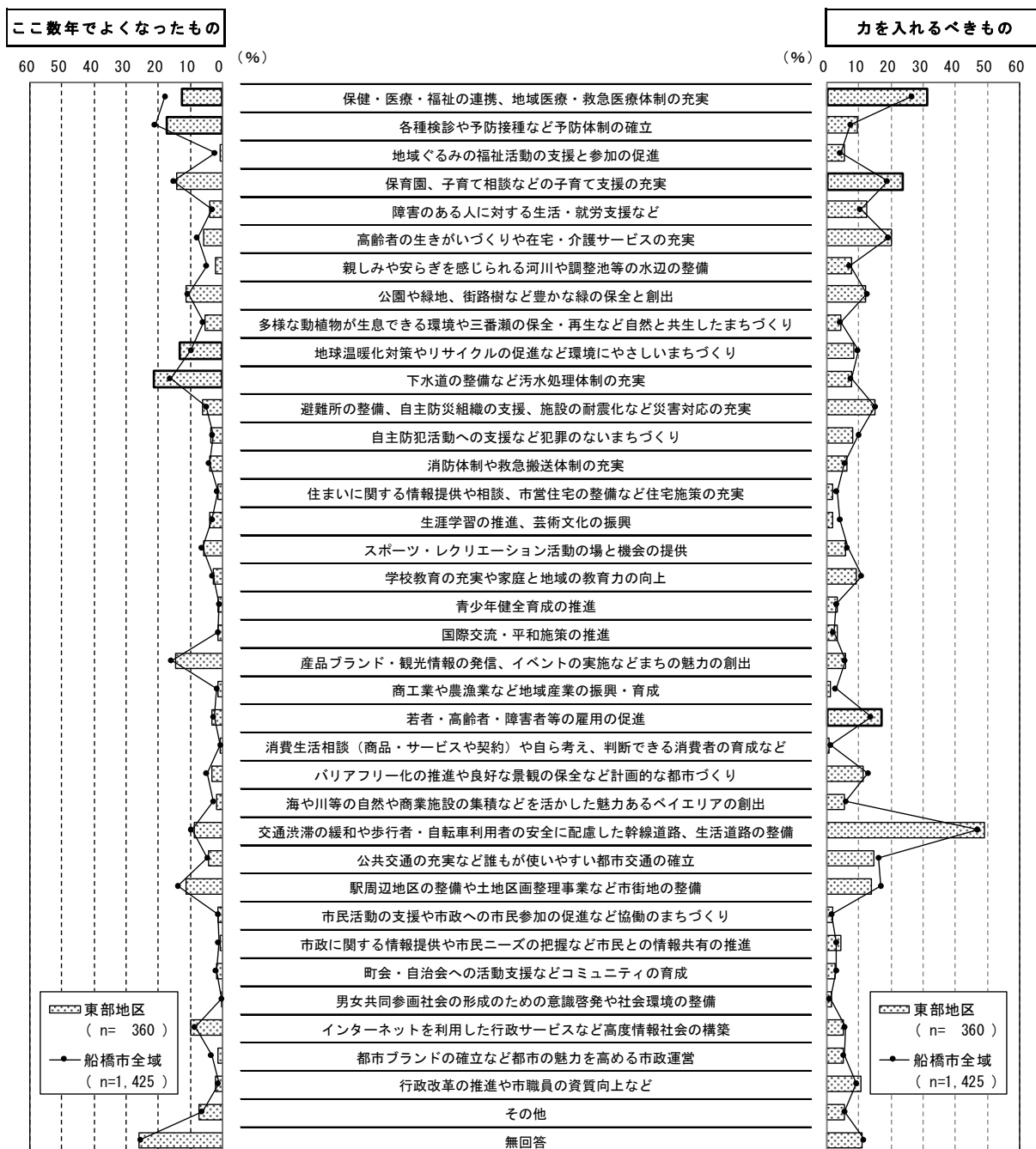
※ 太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－１２７ 「市の施策」地区別分析（中部地区）

【東部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「下水道の整備など污水处理体制の充実」、「地球温暖化対策やリサイクルの促進など環境にやさしいまちづくり」が高く、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」が低くなっている。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」、「若者・高齢者・障害者等の雇用の促進」が高くなっている。



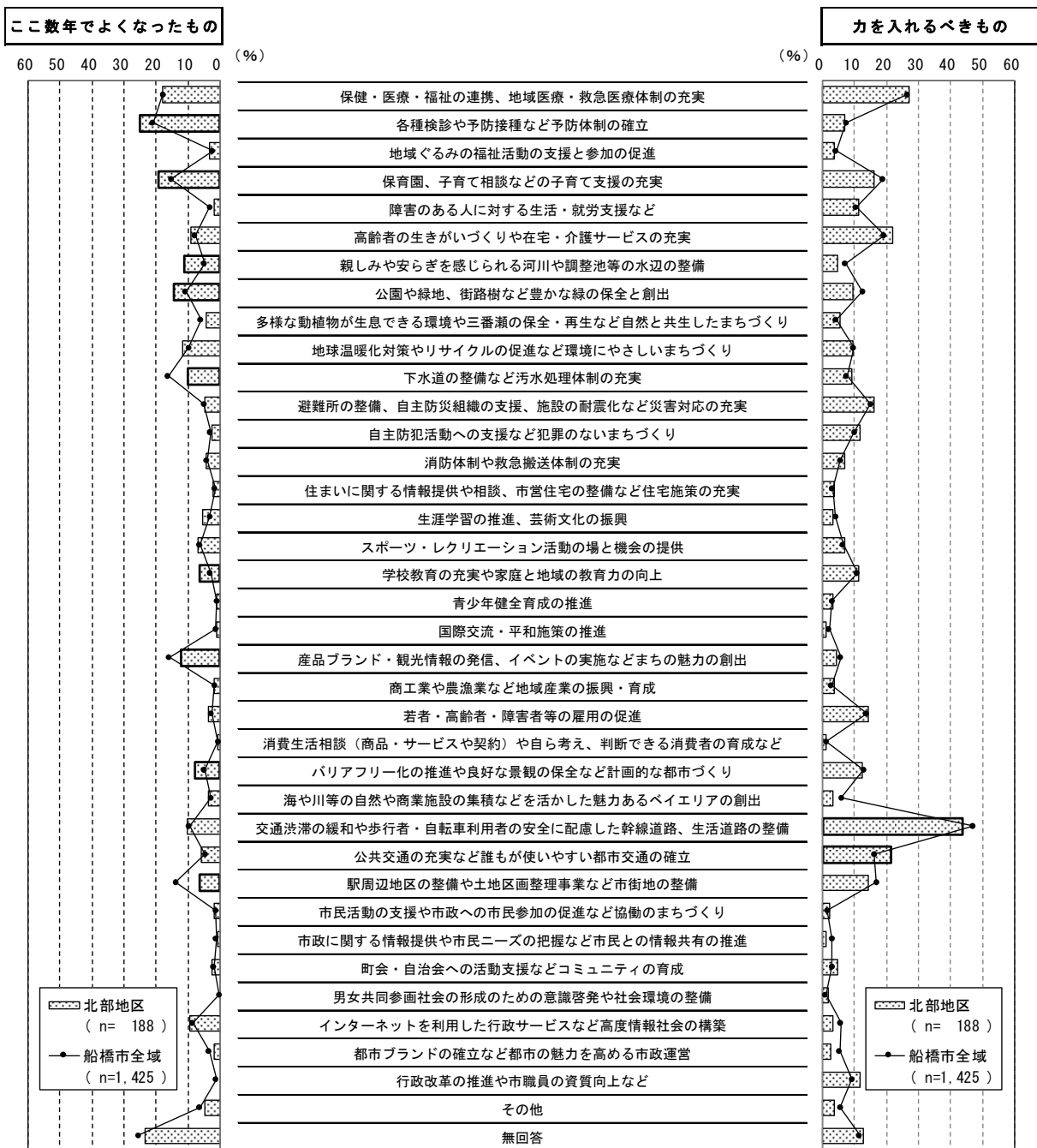
※ 太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－１２８ 「市の施策」地区別分析（東部地区）

【北部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「親しみや安らぎを感じられる河川や調整池等の水辺の整備」、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」などが高く、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」、「下水道の整備など污水处理体制の充実」、「産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」が低くなっている。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「公共交通の充実など誰もが使いやすい都市交通の確立」が高く、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が低くなっている。



図Ⅲ－１２９ 「市の施策」地区別分析（北部地区）

(4) 「市の施策」概観

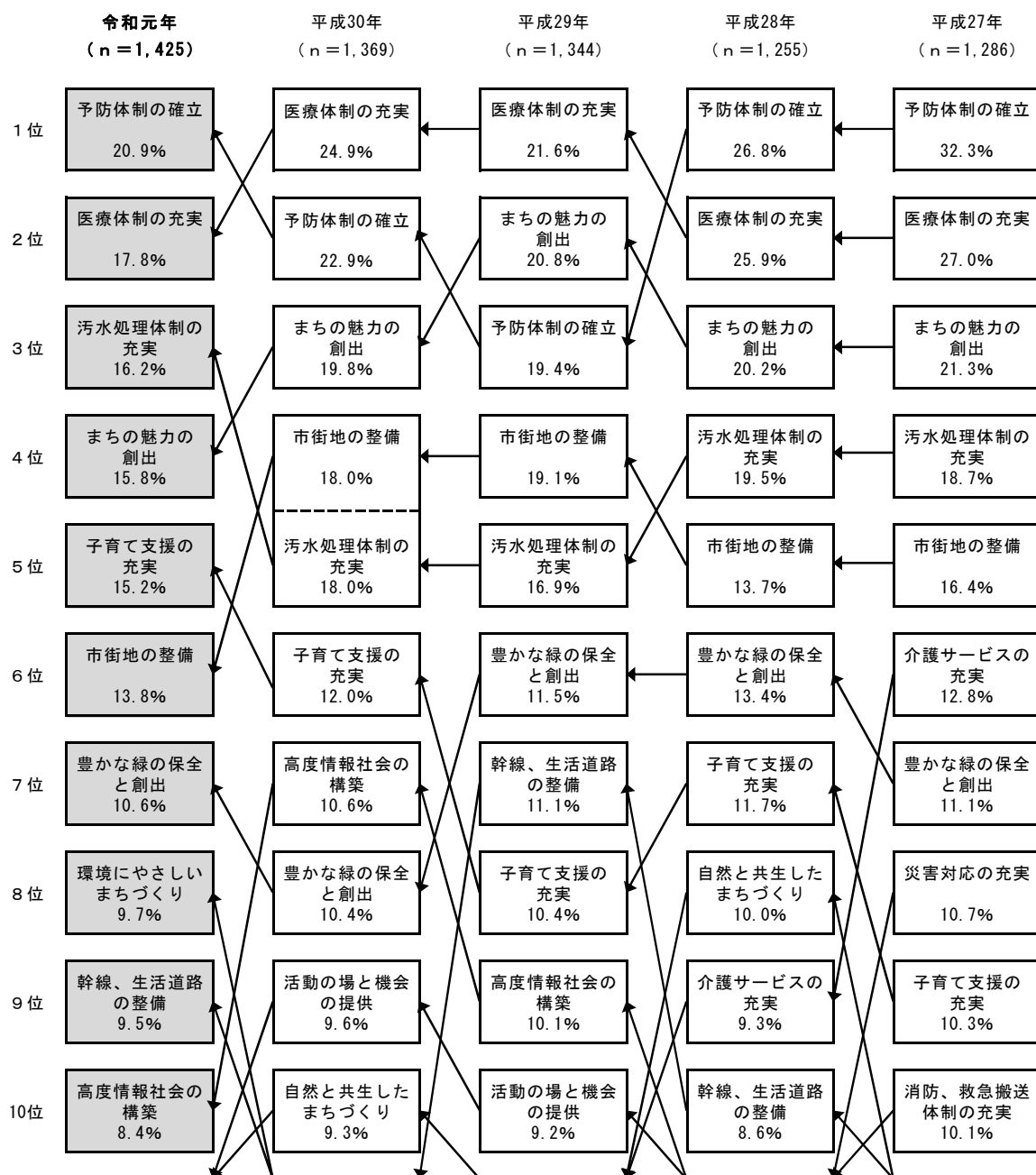
ここ数年でよくなったものとして、「予防体制の確立」が1位、「医療体制の充実」が2位となり、順位は逆転しているものの、平成30年と同様、「医療、健康」に対する施策を評価する声が多い

市の施策において「ここ数年でよくなったもの」の上位10項目を時系列で比較すると、平成30年と順位は入れ替わったものの「【予防体制の確立】各種検診や予防接種など予防体制の確立」が1位、「【医療体制の充実】保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」が2位となっており、「医療、健康」に対する評価が続いている。

3、4位も平成30年から順位が入れ替わっているが「【污水处理体制の充実】下水道の整備など污水处理体制の充実」、「【まちの魅力の創出】産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」が引き続き挙がっている。

5位には「【子育て支援の充実】保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」が挙がり、平成30年の6位から順位を上げている。

平成30年の11位以下から上位10項目に入ってきた施策としては、8位の「【環境にやさしいまちづくり】地球温暖化対策やリサイクルの促進など環境にやさしいまちづくり」、9位の「【幹線、生活道路の整備】交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」がある。



図Ⅲ－１３０ ここ数年でよくなったもの（時系列比較）（上位10項目）

力を入れるべきものとして、「幹線、生活道路の整備」が8年連続で1位、「医療体制の充実」が3年連続で2位、3、4位には「介護サービスの充実」、「子育て支援の充実」が順位を上げており、人に対する施策が注目される

市の施策において「力を入れるべきもの」の上位10項目を時系列で比較すると、「【幹線、生活道路の整備】交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が平成24年から8年連続で1位、「【医療体制の充実】保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」が平成29年から3年連続で2位となっている。

3、4位には平成30年の6、7位から順位を上げた「【介護サービスの充実】高齢者の生きがいつくりや在宅・介護サービスの充実」、「【子育て支援の充実】保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」が入り、9位から8位に順位を上げた「【雇用の促進】若者・高齢者・障害者等の雇用の促進」と共に人に対する施策の順位が上がっている。

また、上位10項目は、順位の変動はあるものの、平成29年から3年間変わっていない。



図Ⅲ－１３１ 力を入れるべきもの（時系列比較）（上位10項目）

8. 自由意見

(1) 自由意見のまとめ

自由意見については、574 人から回答があり、回答内容を下表のとおり分類したところ、1,242 件の意見が寄せられた。

1 人の回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれの項目で 1 件、明確に良い意見と悪い意見が併記されている場合には、同じ項目で 2 件としている。

回答内容を分類し集計した結果は以下のとおりである。

表Ⅲ－３１ 自由意見のまとめ

項 目	件数	構成比 (%)
道路・渋滞・歩道	204	16.4
まちづくり・都市計画	100	8.1
税金・財政・政策等	93	7.5
市役所・フェイス・議会	69	5.6
ごみ・リサイクル	67	5.4
自然・環境	65	5.2
広報・ホームページ	59	4.8
教育・文化・スポーツ	58	4.7
交通機関	55	4.4
保育・子育て	53	4.3
治安・災害	51	4.1
自動車・自転車	51	4.1
病院・医療	41	3.3
高齢者対策	37	3.0
介護・福祉	32	2.6
学区・学校	28	2.3
公園	26	2.1
アンケート関連	24	1.9
動物・虫	22	1.8
商工業・農業・イベント	18	1.4
雨水・上下水道	15	1.2
たばこ	13	1.0
地域社会・自治会	13	1.0
国際社会	13	1.0
雇用・就労支援	8	0.6
空き家	7	0.6
その他	20	1.6
合 計	1,242	100.0

(2) 自由意見の抜粋

自由意見の回答内容を分類した項目ごとに、主な意見を抜粋して示す。

【道路・渋滞・歩道】

- ・ 小学校の通学時に危なく、雨の時は傘をさしてすれ違いができず、車道に傘が出てしまう。
(女性・40～49 歳)
- ・ 国道・県道に右左折路がなかったり、交通量に対して車線が少ない、歩道がないまたは狭すぎる。市道についても同じ。バスベイも少なく、丁字路が連続していて混雑がひどい。(男性・40～49 歳)
- ・ 生活をする上で道路が狭い中、自動車、自転車が走行し、歩行にストレスを感じる。しかも狭い上に歩道の雑草が伸びており歩けない。踏切待ちによる渋滞が多かったり、狭い道の車の離合渋滞。一方通行を作るとか考えてほしい。(女性・50～59 歳)
- ・ 船橋市は細い道路が多く、歩道が途中で途切れて無くなってしまう道路がある。これは歩行者にも車の運転者にも安全性が保たれているとは言えない。三差路が多く渋滞の原因となっている。(女性・60 歳以上)
- ・ 交通量に対して道路の幅が狭すぎる。渋滞がおこるから、抜け道として住宅街やスクールゾーンを猛スピードで走る車がでてきて危ない。(女性・40～49 歳)
- ・ 幹線道路の拡張、船橋駅周辺の整備は充実してきたが、駅から離れると道の整備が不十分。(男性・18～29 歳)
- ・ 自転車の走行は、基本的には道路の左側走行。自転車利用者の安全に配慮して道路の左側走行できるように整備してほしい。自転車の歩道走行は非常に危ない。歩行者に接触してケガした人を何人も見ている。(男性・60 歳以上)
- ・ 通勤に自転車を使っていますが、道路がせまく、車の量が多いのでとてもこわい。歩道を使いたいですが優先なので使えない。赤いポールが設置されているところで、それがあることによって道路にはみ出し、事故に遭いそうになりました。(女性・50～59 歳)
- ・ 交通量が多い道路が多く、歩行者が横断歩道に関係なく頻繁に渡るため運転が怖い。もう少し横断歩道があれば意識して止まりやすいと思う。夜だと暗くて歩行者が見えない時があるため、横断歩道を照らすタイプの標識が増えてほしい。(男性・18～29 歳)
- ・ 住宅地、通学路の街灯整備をしてほしい。住宅が増え、以前は畑が多い地域だったため、暗い道が多くある。高校も近く女の人が一人で歩いていると心配。ガタガタ道も多く、道路に穴があいている所もある。(女性・30～39 歳)
- ・ 車イスを押して歩ける道路がない。歩道があってもでこぼこで大変な労力がある。歩道の幅が狭すぎて通れない。びっくりするほどバリアフリー化が進んでいない。(女性・50～59 歳)

【まちづくり・都市計画】

- ・ 新船橋エリアのマンション建設、箱ものを作ることが町づくりなのか？道を整備することが先では。市の北の方は、土地があると思うので中心部ばかり開発せずに他に町を作ってはどうか？(男性・30～39 歳)
- ・ 西武デパートの跡地はどうなっているのでしょうか？玄関口にゴースト化した建物があるのは船橋のイメージダウンになる上、防犯的にもよくない。(女性・50～59 歳)
- ・ イオン裏の旧日本建鉄跡地は今後どうなるのでしょうか？もっと有効活用すべき土地だと思う。住民説明もないので気になる。(女性・30～39 歳)
- ・ J R 西船橋駅を再開発して駅ビルをつくってほしい。(男性・50～59 歳)

- ・ 幹線道路・生活道路及び駅周辺地区の整備を促進してもらいたい。都市ブランドの確立の為に、あちこちに手を付けず、一点（一地域）に的を絞らないと事業進捗も進まないし、都市ブランドとしての魅力も生まれない。（男性・40～49歳）
- ・ 船橋小室IC開設計画に伴う、北の玄関口としての小室駅周辺の都市計画改定を、市のマスタープラン改定に合せた形で抜本的に見直し、船橋市北部地区の都市基盤の整備をしてほしい。「コンパクトシティ船橋小室」の街づくりを目指す！！（男性・60歳以上）
- ・ 政令指定都市との差がありすぎる。人口増加と公共交通、道路、都市計画が追いついていないので、ギャップがありすぎる。（女性・40～49歳）
- ・ 西武百貨店跡に大型のコンサートホールや劇場、映画館など、娯楽施設を作ってほしい。（女性・50～59歳）
- ・ 西武デパートの跡地は市の設備にするのではなく商業施設として、何か大きい会社を誘致してほしい。船橋駅前の一等地は、船橋市にとって利益になる形にすべき。（性別不明・40～49歳）
- ・ 京葉道路の防音工事はなるべく早く進めてほしい。（男性・18～29歳）

【税金・財政・政策等】

- ・ 若い人が集まるような施策を多く出してほしい。（男性・30～39歳）
- ・ 中核都市から政令指定都市（合併含む）への取組みを進める。（男性・60歳以上）
- ・ 人員の縮小等、市財政のスリム化と健全化を強く求む。（男性・60歳以上）
- ・ 無難な政策ではなく、良い意味で「大胆な変革的政策」を期待する。（男性・40～49歳）
- ・ ふるさと納税のアイテムを増やしてほしい。ふなっしーグッズ等のキャラクターを活用して税収を増やしてほしい。（男性・40～49歳）
- ・ 地方自治制度を市は推進しているが、時代に合っていない。他行政を研究してほしい。（女性・30～39歳）
- ・ 公的な郵便物の管理の負担を軽減。マイナンバーカードの普及対策。（女性・60歳以上）
- ・ 税金の納付の方法をもっと正確に知りたい。（男性・18～29歳）
- ・ 将来の子どもたちの為に、若い方々の意見にも耳を傾けて政策を考えてほしい。（女性・30～39歳）
- ・ 市民税や保育費等、所得に応じてですがあまりに高い。よけいな税金を使わず、必要な所へ使してほしい。（男性・40～49歳）

【市役所・フェイス・議会】

- ・ 市議会議員の定数が多い。議員活動や立候補者の情報が少なく、市議会議員の選挙の時、誰に投票するか悩む。（男性・60歳以上）
- ・ フェイスで介護申請ができるのはよいが、第何週の土曜日のみ営業とかではなく毎週土曜日も営業してほしい。（女性・18～29歳）
- ・ 時々、市議会を傍聴しますが、傍聴者は数人で盛り上りに欠ける。質問も回答も事前に準備したものを読んでるだけだからだと思う。（女性・60歳以上）
- ・ 私は働いているため、役所の手続きが船橋駅前まで夜遅くまで出来るのは助かる。時間外でも対応出来る事を増やしてほしい。（女性・60歳以上）
- ・ 引越してきて感じたのは、市役所の良さ。休みの日もフェイスはやっている日があり、市役所でも親切に対応してもらえる。（女性・40～49歳）

- ・ 営業開始時刻を８：３０からにしてほしい。(男性・５０～５９歳)
- ・ 市職員の働き方改革。一部の職員のハードワークの解消につとめること。(男性・６０歳以上)
- ・ 市役所でしか手続きできないものがあると不便。車で行くにも混むし、船橋駅からも徒歩では時間がかかる。フェイスでできると良い。(女性・６０歳以上)
- ・ 市役所を訪れた際、担当職員が丁寧にパンフレットなどを使って説明してくれた。反面、私の知人は対応が酷くて頭に來たとの声もある。(女性・５０～５９歳)
- ・ 福祉サービスを問合わせる窓口がわかりづらい。行政に出す申請書類が多い。(女性・５０～５９歳)

【ごみ・リサイクル】

- ・ ゴみの分別、リサイクルを進めてほしい。「雑がみ」を分けた結果「可燃ゴミ」は大半がプラスチック。プラスチックも分割・リサイクルできればよい。(女性・５０～５９歳)
- ・ 越して來た時、燃えるゴミが週に３回も出せると便利に感じました。それが燃えるゴミの日が２回になり、何となく残念な気がしていたのですが、慣れてしまうものですね。市全体のゴミの量を減らすことが出来ているというのはステキです。(女性・４０～４９歳)
- ・ 可燃ゴミと資源ゴミ収集の曜日が重ならない様に配慮してほしい。カラスの被害が多い地域なので道路にはみ出て荒らされるのが心配。(女性・４０～４９歳)
- ・ ごみ収集時間を、夜間にしてほしい。(男性・４０～４９歳)
- ・ ゴミ出しは、指定の袋以外も許可してほしい。(ゴミ用の) ビニール袋をわざわざ購入するのは、ビニールゴミを逆に増やしている。(女性・４０～４９歳)
- ・ ゴミステーションへ持ち寄る収集方法から、戸別収集にして頂きたい。近隣の住民の高齢化により、収集場所の清掃、ゴミ袋の準備(缶、ビン等)などが困難。(女性・５０～５９歳)
- ・ ごみ収集(可燃ごみ)の回数を増やしてほしい。ごみ回収(可燃ごみ)の時間を朝にしてほしい。うるさくて寝ている子どもが起きる。(男性・３０～３９歳)
- ・ 仕事をしていると平日の夜にゴミを出せない。収集が２日であればゴミステーションを見直してほしい。私の地域は道路に置くので、カラス、猫にあらされるため直前まで出せない。他のステーションでは大きなゲージ等が設置されている。(女性・５０～５９歳)
- ・ 可燃ゴミ収集が２回に減って不便になった。雑がみの増加やゴミの減少はよいことだと思うが、生ゴミの悪臭や害虫が発生する。夏期だけでも週３回に戻してほしい。(女性・５０～５９歳)
- ・ ごみ収集を３回から２回にする際に、生ごみ、プラスチックごみなど収集方法を抜本的に変更するなどの対策を実施すべき。ただ回数を減らしたぐらいではゴミの総量は減らない。(男性・４０～４９歳)
- ・ 収集回数が減ってゴミの保管場所に困るようになった。屋外に置けるゴミの一時保管BOXのようなものを補助してほしい。(男性・１８～２９歳)
- ・ 指定ごみ袋の小さい袋が高く、大きい袋の方が単価が安いので、ごみが少なくても大きい袋で出している。本当にごみを減らしたいならば価格を見直すべき。(女性・５０～５９歳)

【自然・環境】

- ・ 住宅に隣接して流れる水路をきれいにしてほしい。見た目も酷いし悪臭がする。(男性・５０～５９歳)
- ・ 広報ふなばしを読んでおりますと、環境に関する質問や議案が減多に出されていないことがわかります。議員や、そもそも船橋市民自体が市の環境政策に関心がないということなのではないでしょうか。(男性・１８～２９歳)

- ・ 緑豊かでエコな街づくりを期待する。(女性・40～49 歳)
- ・ 海老川がすごく臭い時がある。桜は最高に美しい。(女性・40～49 歳)
- ・ 海がある市なので、もっときれいな海、行きたくなる海にしてほしい。(男性・40～49 歳)
- ・ 工場内から発生している煙が悪臭を伴っていて、生活に支障がある。風の流れ等もあるが、酷いときは窓も開けられない。(男性・30～39 歳)
- ・ 海浜公園に行った時、砂浜にビニール、プラスチックごみが打ち上っていた。せっかくの海が台無し。(女性・60 歳以上)
- ・ 遊休農地に起因する砂じん対策がされていない。(男性・60 歳以上)
- ・ 栄えている所は栄えてて、田舎なところは田舎で、住みやすい。(女性・18～29 歳)
- ・ 海神川のヘドロの掃除をしてもらいたい。(男性・60 歳以上)
- ・ 道にゴミがたくさん落ちていたり、汚れていたり、とにかく汚い街。(女性・18～29 歳)

【広報・ホームページ】

- ・ 市からの発信（広報）方法と市民からの意見を吸い上げる双方向のコミュニケーションを充実させてほしい。(男性・50～59 歳)
- ・ 広報紙のカラー刷りは必要ない。(女性・40～49 歳)
- ・ 船橋市のウェブサイトは、文字ばかりであまり動きがないので必要な時にしか見ない。必要でなくても見てみたいと思えるような記事、例えば今月の市長とか、市長からひと言とかの柔らかい記事があってもよい。市長が無理なら職員でもよい。(女性・60 歳以上)
- ・ フードバンクなどの地域活動がわかりやすく伝わる工夫をしてほしい。(男性・60 歳以上)
- ・ 広報ふなばしを読んでいる人は一部の人なので、そのために税金を使って広報紙を作らないでほしい。(女性・30～39 歳)
- ・ 高齢者でも簡単に情報が得られるよう専用TVチャンネル等で市のサービス、施策をお知らせしたらよい。(女性・50～59 歳)
- ・ 広報ふなばしは文字だらけで見にくい。もっと絵や写真があるとよい。鉄道や施設に置かれれば手に取る人も増えると思う。(女性・30～39 歳)
- ・ 船橋市のホームページがわかりづらい。例えば、自分の家族が受けられる手当や助成がひと目では判らない。(女性・18～29 歳)
- ・ 広報紙の回数が多い。(女性・30～39 歳)
- ・ 市が広すぎて、自分の住んでいる地域以外の事があまりよく分からない。行ってみたくなる場所の情報発信があれば興味を持つかもしれない。(女性・50～59 歳)
- ・ 防災無線が聞き取りにくいことが多いので、同じ内容をHPやツイッターを活用して配信してほしい。(男性・30～39 歳)
- ・ 地元の文化人や著名人を通して船橋の発信に力を入れてはどうか。(男性・60 歳以上)
- ・ 今回の調査で、広報ふなばしのアプリがあることを知りました。紙だと最終的にゴミになってしまうので、デジタル化が進めばよい。(女性・18～29 歳)

【教育・文化・スポーツ】

- ・ 学生ですが、自習できるスペースを作してほしい。図書館でもできる場所が少ない。(男性・18～29 歳)
- ・ 図書館利用の窓口を各地域に増設してほしい。(男性・60 歳以上)

- ・ 図書館で、ゆっくり親子で本を選んだり、読んだりできるスペースを増やしてほしい。(女性・40～49歳)
- ・ 武道センターや船橋アリーナなどの体育施設を増やしてほしい。(男性・40～49歳)
- ・ 図書館、公民館図書室の開館時間、開館日が増えて大変利用しやすくなった。(男性・40～49歳)
- ・ 市の施設としてのスポーツ、運動施設、体づくり施設を各地域に充実させてほしい。(男性・60歳以上)
- ・ 教育者の育成に力を注いでほしい。(女性・50～59歳)
- ・ サッカー、野球、バスケット、子ども達の可能性を伸ばす教育・環境の整備が重要。(女性・50～59歳)
- ・ 英会話レッスンや異文化交流の場があると良い。(女性・18～29歳)
- ・ 他市にあるようなスポーツ支援金がない。体育館の数が少ない。市の象徴となる様なアリーナを利便性の良い場所に建ててほしい。(女性・50～59歳)

【交通機関】

- ・ 足が悪いので、市役所ゆきの無料バスがあれば助かる。(女性・40～49歳)
- ・ コミュニティバスを運行してほしい。(女性・40～49歳)
- ・ 医療センターへの車以外のアクセスが不便。(女性・60歳以上)
- ・ 西船橋駅を利用しているが、利用人数に対してホームが狭いと感じる。(男性・18～29歳)
- ・ 西船橋駅に総武線快速が停車してほしい。(女性・40～49歳)
- ・ マイクロバス等を使って、通院できるような循環バスのようなものを充実させてほしい。(女性・50～59歳)
- ・ 京葉線とりんかい線を直通運転にしてほしい。(女性・40～49歳)
- ・ 東葉高速鉄道の運賃が高い。(女性・40～49歳)

【保育・子育て】

- ・ 船っ子教室（放課後子供教室）の開室時間を長くしてほしい。(性別不明・年齢不明)
- ・ 公立の保育園を利用しています。土日休みの仕事ではないので、日曜日、祝日も保育園が利用できる様にしてほしい。(女性・30～39歳)
- ・ 公立の幼稚園が必要。(女性・40～49歳)
- ・ もっと子どもを育てやすい環境にしてほしい。児童手当などの金額が上がれば子どもも産みやすくなる。子どもが欲しくても金銭面の問題で難しい。(女性・18～29歳)
- ・ 流入人口が増えるのは良いが、並行して保育園や教育の場の充実を考えるべき。(男性・30～39歳)
- ・ 安心して子供を保育園に預けられるよう、保育士の待遇改善により数の確保が必要。(男性・30～39歳)
- ・ 若い世帯の移住が増え、待機児童対策をしても待機児童は増えている。(女性・18～29歳)
- ・ 保育園に入れず困った。少しでも待機児童が減るような対策が必要。(女性・30～39歳)
- ・ 子どもがあと少しで卒園だったのに、出産して求職期間が終わったため、待機児童がいなかったのに「前例がないから退園して」と言われた。(女性・30～39歳)

- ・ 高学年の子が放課後、安心してすごせる場所が児童ホーム以外にもあると、親としては安心して仕事ができる。(女性・30～39歳)
- ・ 都内から引っ越して来たが、認可保育園の保育料がとても高い。(男性・30～39歳)
- ・ 保育園増やしてほしい。一時保育(リフレッシュ)、月2回は少ない。(女性・30～39歳)

【治安・災害】

- ・ 「客引き行為等防止条例」は名ばかりで、取締員のすぐ近くで客引きをしている。取締りをしっかりしてほしい。(男性・40～49歳)
- ・ 船橋駅で実施している「客引き防止体制」はとても良いです。話しかけられたりするのが苦手なので安心して街を歩けます。(女性・18～29歳)
- ・ 東日本大震災から津波や地震が心配。どのくらい対策しているかを知りたい。(女性・40～49歳)
- ・ 家族が痴漢被害にあっていました。家の近くに防犯カメラが設置されたり、街灯等があってもっと明るい環境でしたら、発生しなかったかもしれない。(男性・30～39歳)
- ・ 生まれた時から住んでいるから特に感じてしまう部分もあるかと思いますが、犯罪が増えたようにも思う。夜1人で外にでる事がこわく感じるので、街灯の設置や木の伐採をしてほしい。(女性・18～29歳)
- ・ 地域によっては避難所が少なく、遠く、坂道が多い場所にある。避難荷物をかかえて、子供たちを連れて行ける気がしない。(女性・30～39歳)
- ・ 安全に住めるよう、不審者情報や事故などの情報を提示してほしい。(女性・30～39歳)

【自動車・自転車】

- ・ 船橋市内の駐輪場所をもっと増やしてほしい。駅前広場付近。(性別不明・年齢不明)
- ・ 道路事情が悪いため、自転車使用者が多く、歩道にベビーカー、高齢者が雑然と行き来しているので危ない思いをすることが多い。とりわけ自転車使用者のマナーが悪い。(女性・30～39歳)
- ・ 津田沼駅周辺の違法駐車を取り締まってほしい。(女性・60歳以上)
- ・ 自転車を利用している方の運転マナーが悪すぎる。車の場合は罰則があるから気を付ける人が多いのですが、自転車の方は自由過ぎる。(男性・50～59歳)
- ・ 船橋駅周辺の広い歩道や空スペースに、有料でもいいからコインパーキングのように駐輪できる所を作してほしい。駅地下まで自転車を置きに行くのは不便。(男性・18～29歳)
- ・ 自転車専用道路を増やしてほしい。(男性・40～49歳)
- ・ 中央図書館入口周辺は開館日、休館日を問わず、早朝から多くの自転車が点字ブロックをふさぐ形で置かれている。(男性・60歳以上)
- ・ 自転車置場は屋根付のものを増やしてほしい。整備されているのは感じられてありがたいのですが、2段式は女性や年配には使いづらい。(女性・50～59歳)
- ・ 津田沼駅周辺の駐輪場(年間契約)を増やしてほしい。(女性・40～49歳)
- ・ 自転車道を整備しているが、そこを走ると車と近い所を走ることになり逆に危険に思う。狭い道に自転車専用の道を作るのはいかがなものか。(男性・40～49歳)
- ・ 津田沼駅周辺のロータリーは、自家用車の侵入によって、バスのダイヤが乱れやすい。自家用車の侵入を禁止すべき。(男性・18～29歳)

- ・ 駅周辺に二輪車用の駐輪場が少なく原付のみという状況。二輪車に乗りたいが、駐輪場が無くあきらめざるを得ない。せめて各駅周辺に一つは駐輪場を設けてほしい。(男性・30～39歳)

【病院・医療】

- ・ ベイエリアは人口が多くなった割に総合病院が少ない。(男性・60歳以上)
- ・ 道路をはさんで鎌ヶ谷市の病院に行きたいが、健康診断で利用したいができない。近くの病院に行けるよう隣接する市と連携を計れないものか。(性別不明・年齢不明)
- ・ 以前住んでいた地域は全て子供の医療費は無償でした。なので引っ越してきた時は無償でないことにおどろきました。(女性・30～39歳)
- ・ 夫婦で不妊治療を受けていますが、自己負担額が多く共働きでも継続することが難しい。(男性・18～29歳)
- ・ 夜間診療や休日救急を受けてくれる大きな病院がいくつもあるのは助かる。予防接種の補助をもっと増やしてほしい。(女性・30～39歳)
- ・ 大きな病気になった時、東京、千葉、柏などの大学病院を紹介された。船橋市内に良い病院が出来るとよい。(女性・40～49歳)
- ・ 住みなれた家で最後まで過ごせるように、在宅医療の充実をお願いしたい。24時間対応できる看護、医療が少ない。地域医療にもっと取り組んでほしい。(女性・50～59歳)
- ・ がん検診の年齢の改正。90才以上の検診は必要ない。(女性・60歳以上)
- ・ 医療手続きに東京では数週間で済んでいたものが、船橋では数ヵ月かかる。(男性・30～39歳)
- ・ 市のHPを見て保健センターへ行ったら、当番の病院があるからとそちらへ回された。(女性・40～49歳)
- ・ ガン検診など検診の案内が来るが、身体障害者で移動手段がない者はこのような検診を受けることができない。(男性・60歳以上)

【高齢者対策】

- ・ 他の地域で見られる様な100円(ワン・コイン)バスが走っていない。その様な公共の乗り物が有れば、運転に不安の有る高齢者も心穏やかに免許返納が出来ると考える。(男性・40～49歳)
- ・ 高齢化に向けて予防医療に力を入れて、生涯現役でやりがいを持った高齢者を増やし、医療費を削減してほしい。(女性・30～39歳)
- ・ 高齢者向けの公共機関(バス、電車)割引サービス、年間パスポートなど都内のように充実させてほしい。(女性・40～49歳)
- ・ 保育園等の保育サポーターを、65才以上でもできるようにしてほしい。元気な老人の生きがい作りにもなる。(女性・60歳以上)
- ・ 特養施設を増やしてほしい。(女性・50～59歳)
- ・ 医療費が高齢者に対して高すぎる(年金受給者、所得が少ない者)。(男性・60歳以上)
- ・ 老人ホーム等低所得者でも入れる所を増やしてほしい。(女性・60歳以上)
- ・ これから年金もさがるようですが、高齢者も働きやすい職場が増えてほしい。働きたくても働く場所がなかなかないのが現状。(女性・60歳以上)
- ・ インターネットでの行政の件ですが、高齢者はインターネットの操作やパソコンを持っている人は少ないと思う。(男性・30～39歳)

【介護・福祉】

- ・発達障害の相談窓口が少ない。スクールカウンセラーはその年によって変わってしまうので、他の学校のスクールカウンセラーにも相談できるようにしてほしい。(男性・40～49歳)
- ・バリアフリー化をもっと推進してほしい。車椅子用のバリアフリー化は進んできたと思うが、それ以外にもまだまだやるべきことはあると思う。(女性・60歳以上)
- ・まだまだ障害者を冷たい目で見える方が沢山いる。(女性・40～49歳)
- ・障害者には当てはまらず、なんとか自力で身の回りの事はできているが、就労できるような病状ではない。そのような福祉制度からもれてしまっている人を支援してほしい。(女性・30～39歳)
- ・重度身体障害者(介護保険に該当にならない人)が医療処置を受けられる大人向けの施設(通所、ショート)がない。(女性・50～59歳)
- ・フェイスの点字ブロックは、なぜ黄色でないのでしょうか？全盲者だけでなく弱視者にも配慮が必要。(女性・50～59歳)

【学区・学校】

- ・同じ町内で小学校が分かれるのはおかしい。市の対応にも納得いかない。(女性・30～39歳)
- ・小学校のトイレの洋式化を推進してほしい。(女性・60歳以上)
- ・小学校の部活や学校行事が縮小されて淋しい。(女性・40～49歳)
- ・小学校教員をつとめていますが、学校の情報化がとても遅れている。デジタル教科書という動画や画像を見られる教材が便利で助かるが、費用の問題で導入できない学校がほとんど。タブレットの導入も進めてほしい。(女性・30～39歳)
- ・船橋の小、中学校給食はとても良い。特に、中学校の給食は他と比べて自慢できる。(女性・60歳以上)
- ・小・中学校の放課後の部活動について、学校による格差が大きいと思う。一部の学校で優秀な成績を収めている活動があるのに、別の学校では全く特色がなく、何か子供達が受ける恩恵に差がある気がする。(女性・50～59歳)
- ・通学路が危険、遠い。分譲が増え、マンションもでき子供が増えました。学区の見直しをしてほしい。(男性・30～39歳)

【公園】

- ・公園のボール遊びを許してほしい。一律のボール遊び禁止の立て看板ではなく、公園の特性を考えて禁止事項を記述してほしい。(男性・40～49歳)
- ・アンデルセン公園入場料が高い。(男性・60歳以上)
- ・アンデルセン公園のブランド化はすばらしく思う。(男性・30～39歳)
- ・公園が近くにあってほしい。ドックランのような広場があれば、公園にフンを放置されなくて済むのでは？(女性・30～39歳)
- ・船橋県民の森の整備を充実してほしい。案内板、行先表示、通路柵等が破損したりしている。(男性・60歳以上)
- ・児童公園の地面の土が流出しているところが複数あり、事故が起きないか心配。(男性・50～59歳)
- ・オリンピックの正式種目であるスケートボードができるエリアを作してほしい。(男性・18～29歳)

- ・ アンデルセンとメグスパのセット入園券を販売し、もっと多くの来園者を呼び込むのも良いと思う。(女性・40～49 歳)

【アンケート関連】

- ・ 子育て世代の悩みについては何もアンケートを取っていないのは、全世代をしっかりと見てるように思えない。(男性・30～39 歳)
- ・ このアンケートをインターネットでも回答できるようにしてほしい。(男性・30～39 歳)
- ・ 質問の内容は雑な様に思う。この意識調査の施策の目的は何か、市政の課題に対して何を市民に聞きとりたいのか明確にしてはどうか。(男性・18～29 歳)
- ・ 視点が市政（船橋市の立場）という観点ですが、もっと違う視点があると思う。(男性・60 歳以上)
- ・ ただ聞いて答えるだけのアンケートではなく、こうしたものがありますよと情報を載せているのはとてもよかった。(女性・30～39 歳)

【動物・虫】

- ・ 手付かずの土地があるせいで、夏の間蚊の発生の多さにマンション住民が困っている。(女性・30～39 歳)
- ・ ノラ猫にも困っていますが、タヌキのような動物を見かける時もある。何かされたという事はないが、放置する他ないのか？(女性・40～49 歳)
- ・ 保護犬・猫の殺処分をゼロにしてほしい。動物愛護指導センターをもっと多くの人に知ってもらう活動を広めてほしい。虐待される動物がいなくなるように、動物の命の重み、大切さを教えるイベントをやってほしい。(女性・50～59 歳)
- ・ 外来種の排除及び地域固有種の保護対策を進めてほしい。(男性・40～49 歳)

【商工業・農業・イベント】

- ・ 便利さの一方で宅地化がどんどん進み、船橋の農業が不安。緑地もあつという間に少なくなっている。梨、小松菜、その他船橋で作られている農産物と農家さんを守ってほしい。(女性・60 歳以上)
- ・ 道の駅のような地元の農産物直売・市場を活用し、気軽に誰もが買い物できるような場所がほしい。(女性・40～49 歳)
- ・ ヘルシーフェアと健康まつりのように趣旨が重複したイベントの統合、見直し。同じ事業をするにしても、低コスト化を意識してほしい。(男性・30～39 歳)
- ・ 地域イベントをもっと増やして、地域のふれあいの場を多くつくってほしい。(男性・50～59 歳)

【雨水・上下水道】

- ・ 街道沿いは雨の日になると水たまりが多く歩けない。(男性・40～49 歳)
- ・ 水道料金をクレジットカード払いできる様にしてほしい。(男性・40～49 歳)
- ・ 季節により JR 船橋駅～東武デパート近辺が下水の臭いがして、友人と駅で待ち合わせした時に「船橋ドブ臭い」と言われた。下水道の整備に力を入れて頂きたい。(女性・60 歳以上)

【たばこ】

- ・ 出勤・帰宅時に歩きタバコをしている人が多く、駅周辺にはポイ捨てされたタバコも多くとても汚い。(男性・30～39 歳)
- ・ 以前住んでいた市では路上喫煙禁止条例が制定されていて、朝晩の通勤時に歩きタバコをパトロールしていました。船橋市の条例では、過料を伴わないので効果がないと感じる。(女性・40～49 歳)
- ・ 路上喫煙の監視を強化してほしい。過料が科される地域は限られていますが、市内全域にしていいと思う。(女性・40～49 歳)

【地域社会・自治会】

- ・ 団地内の活動や防災の活動のために住居人情報を集めようとしているが、個人情報まで集めて良いか分からない。法律や行政の言葉で説明を聴く機会もありますが、抽象的で漠然としている。収集して良い情報とグレーゾーンの情報とダメな情報の表があれば、少しは迷わなくなる。(男性・60 歳以上)
- ・ 町会は年配の方がとても多く防災意識がとくに低い。長年、住みつづけている事でのバイアスだと思うので意識を変えることの難しさを感じる。(女性・30～39 歳)
- ・ 町会の年長者の方々が、長年自治会館の設立を希望している。上層部の方が市へお願いに伺っても、土地の提供がなかなかされず、苦慮されている。聞くところによると、船橋市内で自治会館のない町会は2町会とか。(女性・50～59 歳)

【国際社会】

- ・ 外国人受入の対策の中で、日本国民がしている予防接種はどうなっているのか知りたい。(女性・60 歳以上)
- ・ 南船橋駅では、食品工場などに通われる外国人の方々を多々見かける。マナー・ルールを確認できる看板などでも、日本語以外の表記が必要。(女性・40～49 歳)

【雇用・就労支援】

- ・ 働きたいけど、今しかできない子育てもしたい人が働けるところはなかなかない。(女性・30～39 歳)
- ・ 主要駅部に大きな企業のオフィスを呼びこみ、雇用を拡大すべき。高齢者、障害者の雇用も同時に拡大すべき。(男性・30～39 歳)

【空き家】

- ・ 空家情報や、住宅関連の情報があるといい。他の市では、空家等に住む際補助金が出ると聞いた事がある。(女性・40～49 歳)
- ・ 空き家が放置され、植木やゴミの放棄が見られるので、行政で対応してほしい。(女性・40～49 歳)

IV. 調査票

あなたの声をお聞かせください

「船橋市市民意識調査」へのご協力をお願い

皆さまには、日頃より市政にご協力いただきありがとうございます。

この調査は、市内にお住まいの皆さまが、市政に対しどのようなご意見、ご要望を持ち、日頃どのように暮らしているかを伺い、今後のまちづくりの貴重な資料として活用させていただくことを目的に、毎年、実施しております。

調査の実施にあたりましては、市内にお住まいの満18歳以上の方から無作為に3,000名を選ばせていただきました。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、この調査結果につきましては、「広報ふなばし」や船橋市ホームページ等を通じて公表する予定です。

令和元年 8 月

船橋市長 松戸 徹

この調査は無記名であり、個人が特定されることはありません。また、結果はすべて統計的に処理いたしますので、ご回答いただいた皆さまにご迷惑をおかけすることは一切ございません。調査結果は、この調査の目的以外に使用することはありません。

1. ご回答は、**宛名にあるご本人様**にお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いいたします。
3. 質問により、ご回答いただく内容・方法が異なりますので、次ページの「**■ご回答にあたって■**」をよくお読みください。
4. **最後まで回答できなかった場合、途中までも結構ですのでご返送ください。**
5. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、**9月9日（月）まで**にご投函ください。
6. ご不明な点など、調査に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

＜お問い合わせ先＞ 〒273-8501 船橋市湊町 2-10-25
船橋市 市長公室 市民の声を聞く課（電話：047-436-2784）

■ご回答にあたって■

●回答例（１）

以下のような質問については、選択枝の番号を「（○は一つ）」の数だけ○で囲んでください。以下の例では、「１．愛着がある」と回答したことになります。

【問１】「船橋市」に愛着を持っていますか。（○は１つ）

- | | | |
|---|-----------------------------------|--------------------------------|
| ☒ 1. 愛着がある | ☐ 3. あまり愛着がない | ☐ 5. わからない |
| ☐ 2. やや愛着がある | ☐ 4. 愛着がない | |

●回答例（２）

質問の前に、「（問７で「１～３」とお答えの方）」などの網掛けされた記載がある質問については、該当する場合にのみご回答ください。

（問７で「１～３」とお答えの方）

【問７－１】「広報ふなばし」は読みやすいですか。（○は１つ）

- | | | |
|---|--------------------------------|---------|
| ☒ 1. 読みやすい | ☐ 2. 読みにくい | → 問７－３へ |
|---|--------------------------------|---------|

●回答例（３）

以下のように、選択枝として「その他」や選んでいただくと同時に記入をお願いする選択枝があります。そのような場合、右側のカッコ内に必要な記入をお願いします。

【問８－３】飲料水や食料品を何日分備蓄していますか。（○は１つ）

- | | |
|-------------------------------|--|
| ☐ 1. １日分 | ☐ 4. ２週間以上 |
| ☐ 2. ３日分 | ☒ 5. その他（ <u>マンション全体で備蓄している</u> ） |
| ☐ 3. １週間分 | ☐ 6. わからない |

●回答例（４）

以下のように、別表の番号の記入をお願いする質問があります。

以下の例では、「市の施策（３７項目）」の番号を５つまで枠内に記入してください。

【問３０】次ページの「表 市の施策（３７項目）」について、どのように感じていますか。

①ここ数年でよかったもの

（５つまで選んで番号を記入してください）

1	5	25		
---	---	----	--	--



表 市の施策（３７項目）	
番号	施策の内容
1	保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実
2	各種検診や予防接種など予防体制の確立
3	地球ぐるみの福祉活動の支援と参加の促進
4	保育園、子育て相談などの子育て支援の充実
5	障害のある人に対する生活・就労支援など

1 「住みごち」についてお聞きします

【問1】「船橋市」に愛着を持っていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 愛着がある | 3. あまり愛着がない | 5. わからない |
| 2. やや愛着がある | 4. 愛着がない | |

【問2】今後も「船橋市」に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|----------------|--------------|----------|
| 1. 住み続けたい | 3. できれば移転したい | 5. わからない |
| 2. しばらくは住み続けたい | 4. 移転したい | |

【問3】「船橋市」を住みよいまちと感じていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------|--------------|----------|
| 1. 住みよい | 3. あまり住みよくない | 5. わからない |
| 2. まあまあ住みよい | 4. 住みにくい | |

→ 問3-2へ

→ 問4へ

→ (問3で「1. 住みよい」または「2. まあまあ住みよい」とお答えの方)

【問3-1】住みよいと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1. 鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから | 6. 公園などの憩いの場所が多いから |
| 2. 商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから | 7. 福祉の施設・制度が充実しているから |
| 3. 道路、下水道などの都市基盤が整備されているから | 8. 保健や医療の施設・体制が充実しているから |
| 4. 公民館、図書館などの社会教育・文化施設が充実しているから | 9. 親しみのある自然が残っているから |
| 5. スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから | 10. 防災・防犯体制が充実しているから |
| | 11. 静かさなどの周辺環境がよいから |
| | 12. 近隣とのつきあいがうまくいっているから |
| | 13. その他 () |

(問3で「3. あまり住みよくない」または「4. 住みにくい」とお答えの方)

【問3-2】住みよくないと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 通勤・通学に不便だから | 6. 公園などの憩いの場所が少ないから |
| 2. 商店などが近くになく、日常の買い物に不便だから | 7. 福祉の施設・制度が十分でないから |
| 3. 道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから | 8. 保健や医療の施設・体制が十分でないから |
| 4. 公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分でないから | 9. 自然が少ないから |
| 5. スポーツ・レクリエーション施設が十分でないから | 10. 防災・防犯体制が十分でないから |
| | 11. 騒音、大気汚染などがあり、周辺環境がよくないから |
| | 12. 近隣とのつきあいがうまくいっていないから |
| | 13. その他 () |

2 「広報活動」についてお聞きします

【問4】情報を入手するためによく利用する情報媒体は何ですか。（〇はいくつでも）

1. 新聞
2. パソコン
3. 携帯機器（スマートフォン、タブレット等）
4. テレビ（ケーブルテレビを除く）
5. ケーブルテレビ
6. ラジオ
7. その他（.....）

【問5】普段、市の事業やイベント情報などをどこから入手していますか。（〇はいくつでも）

1. 広報ふなばし（スマートフォン用アプリ「マチイロ」含む）
2. 船橋市ホームページ
3. データ放送（チバテレビ）
4. ふなばしCITYNEWS（ケーブルテレビ/地上デジタル11ch）
5. 携帯サイト「モバふな」（フィーチャーフォン向けホームページ）
6. 船橋市公式ツイッター
7. 船橋市公式フェイスブック
8. 家族や友人、知人との会話から
9. 地域の情報誌
10. 船橋市ホームページ以外のインターネット
11. 新聞、新聞折り込み
12. テレビ
13. デジタルサイネージ（本庁舎内モニター、船橋駅前歩道橋デジタルサイネージ）
14. その他（.....）

【問6】広報紙やホームページで知りたい情報は何か。（〇は3つまで）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 公共施設の利用案内 | 10. 消費生活や食生活など |
| 2. 催し物やイベント、サークル活動 | 11. 国民健康保険や国民年金の加入手続きなど |
| 3. 医療（予防接種、休日診療など） | 12. 市議会の活動内容 |
| 4. 都市計画や再開発のまちづくり | 13. ボランティア活動 |
| 5. 福祉（給付、貸付、サービスなど） | 14. 規制や公共サービスの有料化など |
| 6. 散策コースやレジャー | 15. 市勢や統計調査などの基礎データ |
| 7. 地域の気象、防災 | 16. その他（.....） |
| 8. まちの話題 | 17. 特にない・わからない |
| 9. 教育、文化 | |

【問7】「広報ふなばし」を読んでいますか。(○は1つ)

1. よく読んでいる

2. ときどき読んでいる

3. あまり読んでいない

4. 読まない

→ 問7-2へ

→ (問7で「1～3」とお答えの方)

【問7-1】「広報ふなばし」は読みやすいですか。(○は1つ)

1. 読みやすい

2. 読みにくい

→ 問7-3へ

(問7で「4. 読まない」とお答えの方)

【問7-2】読まない理由を教えてください。(○は1つ)

1. 読みたい情報がない

3. 読みにくい

→ 問7-3へ

2. 他の手段で情報を得ている

4. 入手方法がわからない

(市ホームページ、マチイロ等)

5. その他 ()

(問7-1で「2. 読みにくい」とお答えの方)

(問7-2で「3. 読みにくい」とお答えの方)

【問7-3】読みにくいとされた具体的な理由をお書きください。

3 「災害への備え」についてお聞きます

「災害に備えた対策」について

東日本大震災から8年が経過しましたが、以降も日本各地で地震や大雨等による大規模な災害が発生しました。

市では、平成28年5月に千葉県が発表した千葉県北西部直下地震が発生した場合の被害想定を受けて、平成29～30年度で防災アセスメント調査を行い、地区別防災カルテの改定に加え、今後10年間の減災目標と、この目標に向けた取り組み内容を掲げた「船橋市地震防災戦略」を策定いたしました。

また、津波や帰宅困難者対策、備蓄品の整備、情報伝達体制の強化など災害時への備えのあるまちを目指して、防災対策に取り組んでおります。

大規模災害が発生した場合、被害を最小限にとどめるには、公助（市や県、消防、警察など）には、限界があることから、自分のことは自分で守る「自助」と地域の皆さまの相互協力「共助」が重要です。

【問8】日頃から災害への備えをしていますか。（〇は1つ）

1. 備えをしている

2. 備えをしていない

→ 問8-4へ

→（問8で「1. 備えをしている」とお答えの方）

【問8-1】どのような備えをされていますか。（〇はいくつでも）

1. 避難経路や避難方法の確認

5. 災害時に必要となるものの備蓄

→ 問8-2へ

2. 安否確認の方法の確認

6. 隣近所との交流

3. 避難所・避難場所の確認

7. 防災訓練への参加

4. 住宅の耐震（補強）

8. その他（ ）

※ 「5. 災害時に必要となるものの備蓄」を選ばなかった方は、問8-5もお答えください。

（問8-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」とお答えの方）

【問8-2】どのような品を備蓄していますか。（〇はいくつでも）

1. 飲料水

7. 常備薬（大衆薬）

2. 食料品

8. 処方薬（常飲薬）

3. 懐中電灯

9. 簡易・携帯トイレ

4. 電池、携帯電話充電器

10. 衣類

5. 携帯ラジオ

11. その他（ ）

6. 燃料

→（問8-2で「1. 飲料水」または「2. 食料品」とお答えの方）

【問8-3】飲料水や食料品を何日分備蓄していますか。（〇は1つ）

1. 1日分

4. 2週間以上

2. 3日分

5. その他（ ）

3. 1週間分

6. わからない

※ 備蓄日数は、1日3食×人数を目安に算出してください。

（問8で「2. 備えをしていない」とお答えの方）

【問8-4】備えをしていない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1. 避難経路や避難方法の確認方法がわからないから | 5. 保管場所を確保できないから |
| 2. 安否確認の手段がわからないから | 6. 面倒だから |
| 3. 費用がかかるから | 7. 気にならないから |
| 4. 隣近所と交流を持つことに抵抗を感じているから | 8. その他（.....） |

（問8で「2. 備えをしていない」とお答えの方）

（問8-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」を選ばなかった方）

【問8-5】備蓄していない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 避難場所へ行けばどうにかなるから | 6. 町会・自治会で備蓄しているから |
| 2. 地震発生後に調達すればよいから | 7. 備蓄する意識がないから |
| 3. 費用がかかるから | 8. 保管場所がないから |
| 4. 賞味期限等の管理が難しいから | 9. その他（.....） |
| 5. 食料不足はないと思うから | |

【問9】家具の転倒を防止するために何かしていますか。（〇は1つ）

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1. 転倒防止をしている | → 問10へ |
| 2. 転倒する家具がない、転倒しても危険ではない | → 問9-2へ |
| 3. 転倒防止をしておらず、今後もある予定はない | → 問10へ |
| 4. 今後転倒防止をする予定 | |

※ 「3. 転倒防止をしておらず、今後もある予定はない」を選んだ方は、問11もお答えください。

→（問9で「1. 転倒防止をしている」とお答えの方）

【問9-1】家具の転倒を防止するためにしていることをお書きください。

（問9で「3. 転倒防止をしておらず、今後もある予定はない」とお答えの方）

【問9-2】家具の転倒防止をしていない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 費用が掛かるから | 4. 効果が期待できないと思うから |
| 2. やり方がわからないから | 5. 家具や壁を傷つけてしまうと思うから |
| 3. 面倒だから | 6. その他（.....） |

「感震ブレーカー」とは

「感震ブレーカー」とは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める装置です。

【問１０】地震が引き起こす電気火災を防止するために「感震ブレーカー」を設置していますか。 （○は１つ）

- | | |
|----------------------|--------|
| 1. 設置している | |
| 2. 設置しておらず今後もある予定はない | → 問１１へ |
| 3. 設置していないが今後する予定 | → 問１２へ |

→（問１０で「1. 設置している」とお答えの方）

【問１０ー１】「感震ブレーカー」の種類を教えてください。 （○は１つ）

- | |
|------------------------------|
| 1. 分電盤タイプ（内蔵型） |
| 2. 分電盤タイプ（後付型） |
| 3. コンセントタイプ |
| 4. 簡易タイプ（ばねの作動や重りの落下を利用するもの） |
| 5. その他（.....） |

（問９で「3. 転倒防止をしておらず、今後もある予定はない」とお答えの方）

（問１０で「2. 設置しておらず、今後もある予定はない」とお答えの方）

【問１１】市より補助する制度があれば、家具の転倒防止や「感震ブレーカー」の設置を行いますか。 （○は１つ）

- | |
|--------------------------|
| 1. 家具の転倒防止と感震ブレーカーの設置を行う |
| 2. 家具の転倒防止は行う |
| 3. 感震ブレーカーの設置は行う |
| 4. どちらも行わない |

4 「電話 de 詐欺（振り込め詐欺等）」についてお聞きます

「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」について

船橋市では、「電話 de 詐欺」の被害が多発していることを受け、平成 30 年 6 月に船橋市長、船橋警察署長、船橋東警察署長の連名により『電話 de 詐欺被害非常事態宣言』を行い、対策フォーラムを開催するなど、「チーム船橋」で被害防止に取り組んでいます。

その一環として、「振り込め詐欺対策電話機等（※）購入費の補助制度」を昨年 9 月から実施しています。また、周知方法として、広報紙等への掲載のほか、保育園児等を通じて、親や祖父母を対象としたチラシの配布、また、敬老会や公民館事業等様々な機会においても啓発活動を実施しています。

（※）振り込め詐欺対策電話機等：通話内容を自動録音することのアナウンスを流し、自動的に通話内容を録音する迷惑電話防止機能がついた電話機や装置など

【問 1 2】「振り込め詐欺対策電話機等購入費の補助制度」をご存じですか。（〇は 1 つ）

1. はい 2. いいえ

【問 1 3】詐欺被害に遭わないためには、電話機や防止装置などの詐欺防止対策機能が有効ですが、導入していますか。（〇は 1 つ）

1. 導入している → 問 1 4 へ
2. 導入していない

→ 【問 1 3 で「2. 導入していない」とお答えの方】

【問 1 3-1】導入していない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

1. 必要ないから
2. お金がかかるから
3. 騙されないから
4. その他（.....）

【問 1 4】詐欺被害に遭わないために、他にどのような対策をとっていますか。（〇はいくつでも）

1. 留守番電話機能の使用
2. 電話機の近くに啓発用のチラシ等を置いている
3. 家族や知人など、誰かと詐欺防止のための話し合いをしている
4. 何もしていない
5. その他（.....）

5 「動物の愛護及び管理」についてお聞きします

「動物愛護指導センター」について

動物愛護指導センターは、「動物の愛護及び管理に関する法律」「狂犬病予防法」及び「船橋市動物の愛護及び管理に関する条例」に基づき、①犬の登録等の事務、②犬等による危害防止、③犬・猫の引取り・譲渡、④負傷犬・猫の収容、⑤動物の正しい飼い方の指導や助言、⑥動物取扱業の登録受付等を行っています。また、動物愛護の普及啓発事業にも取り組んでいます。

【問15】「動物愛護指導センター」を知っていましたか。(〇は1つ)

1. 名前も業務内容も知っていた
2. 名前は知っていたが業務内容は知らなかった
3. 知らなかった

【問16】飼っている動物（ペット）を教えてください。

(〇はいくつでも、頭数も記入してください)

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 屋内飼育の犬(※1) | → () 頭 |
| 2. 1以外の犬 | → () 頭 |
| 3. 屋内飼育の猫(※2) | → () 頭 |
| 4. 3以外の猫 | → () 頭 |
| 5. 犬・猫以外の哺乳類、鳥類、爬(は)虫類 | |
| 6. 1～5にあてはまる動物(ペット)を飼っていない | → 問17へ |

(※1) 散歩以外の日常的な飼育場所が室内に限られる犬です。

(※2) 日常的な飼育場所が室内に限られる猫です。

→ (問16で「1～5」とお答えの方)

【問16-1】災害時に備えて、日頃から飼っている動物のために行っている対策がありますか。(〇はいくつでも、備蓄量も記入してください)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 非常用の餌や水の準備 → () 日分 | 8. 地震を想定して飼育ケージ等を固定している |
| 2. 常備薬の準備 → () 日分 | 9. 家族や親族で、災害時を想定して話し合った |
| 3. トイレ用品の準備 → () 日分 | 10. その他 () |
| 4. ケージなどの運搬用品の準備 | 11. 何もしていない |
| 5. 避難先で困らないためのしつけ | |
| 6. 迷子札、マイクロチップ等の飼い主明示 | |
| 7. 動物と一緒に避難訓練に参加している | |

【問17】犬（自分の飼っている犬以外）に関する事で困ったことがありますか。

（Qは1つ）

1. 困ったことがある 2. 困ったことはない → 問18へ

→（問17で「1. 困ったことがある」とお答えの方）

【問17-1】どのようなことで困りましたか。（Qはいくつでも）

1. 犬の鳴き声
2. 犬のふん尿
3. 犬に噛みつかれた
4. 繋がれていない犬に追いかけられた
5. 繋がれていない犬による、自分の飼い犬の望まない繁殖
6. その他（.....）

※ 問19もお答えください。

【問18】猫（自分の飼っている猫以外）に関する事で困ったことがありますか。（Qは1つ）

1. 困ったことがある 2. 困ったことはない

→（問18で「1. 困ったことがある」とお答えの方）

【問18-1】どのようなことで困りましたか。（Qはいくつでも）

1. 猫の鳴き声
2. 猫のふん尿
3. 猫に引っかかれたり噛みつかれた
4. 猫の爪とぎなどによる器物の損壊
5. 猫によるゴミ荒らし
6. 敷地内への侵入
7. 敷地内での子猫の出産
8. 放し飼いの猫や飼い主のいない猫による、自分の飼い猫の望まない繁殖
9. その他（.....）

※ 問19もお答えください。

（問17で「1. 困ったことがある」を選んだ方）

（問18で「1. 困ったことがある」を選んだ方）

【問19】犬や猫に関する事で困った時に、どのように対処しましたか。（Qはいくつでも）

1. 行政窓口相談した
2. 町内会・管理組合などに相談した
3. 飼い主等に注意した
4. 何らかの対策を自ら行った
5. 我慢した
6. 何も対処しなかった
7. その他（.....）

「飼い主のいない猫（野良猫）への取組み」について

近年、飼い主のいない猫（野良猫）が繁殖し、ふん尿による悪臭や鳴き声などで生活環境が損なわれ、問題になる例が見られます。

これらの問題について、地域住民の合意の下に飼い主のいない猫を世話し、数を減らしていこうという取組み（地域猫活動など）があります。

【問20】「地域猫活動」（※1）を知っていますか。（〇は1つ）

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが内容は知らない
3. 知らない

（※1）「地域猫活動」とは、飼い主のいない猫を今以上に増やさず、最終的に飼い主のいない猫がいなくなるよう、地域ぐるみで飼い主のいない猫を適正に管理していく活動です。

地域の合意のもとに、活動者が猫に不妊手術を行った上で、餌やりや、ふんの始末、周辺の清掃等を行い、飼い主のいない猫を適正に管理していくものです。

【問21】「地域猫活動」について、あなたの意見に最も近いのはどれですか。（〇は1つ）

1. 猫を増やさず、生活環境の改善につながるので活動に賛成である
2. 猫の不妊手術、ふんの始末や周辺の清掃が適正に実施されるなら構わない
3. 猫がすぐにいなくならず、生活環境の改善に時間がかかるため、活動に反対である
4. その他（.....）

【問22】猫に関する事業として、市が重点的に取組むべきと思うものを教えてください。（〇は3つまで）

1. 飼い主のいない猫へ餌を与える人への指導
2. 猫の屋内飼育の推進
3. 地域猫活動の支援
4. 繁殖抑制のための、飼い主のいない猫の不妊手術（TNR）事業（※1）
5. 生活環境が損なわれる事態を生じさせている飼い主のいない猫の引取り
6. 引取った猫の譲渡
7. 子供たちに対する動物愛護管理教育
8. その他（.....）

（※1）「TNR」とは、一代限りの命を全うさせ、将来的に飼い主のいない猫の数を減らすために、猫を①捕獲し（Trap）、②不妊手術をし（Neuter）、③元の場所へ戻す（Return）ことを言います。

6 「ごみ施策」についてお聞きします

「ごみの収集」について

市ではごみの減量を目的に平成30年10月1日より家庭系可燃ごみの収集回数を週3回から2回に見直しました。

ごみを減らすことは、焼却した後に出る焼却灰を減らすことによる環境負荷の低減や、ごみ処理にかかる費用の削減などにつながります。

平成30年10月から令和元年6月までの9か月間で、家庭系可燃ごみ量は平成29年10月から平成30年6月までの期間と比較するとマイナス約2%となっています。

これは、市民の皆さまのご協力により、可燃ごみに含まれていた雑がみなどの分別が進んだこと（平成29年10月から平成30年6月との比較：プラス274%）などが理由と考えられます。

【問23】収集回数の見直しから約10か月が経ちましたが、現在、生活に影響はありますか。

（〇は1つ）

1. ある

2. ない

→ 問24へ

→（問23で「1. ある」とお答えの方）

【問23-1】どのような影響がありますか。（〇はいくつでも）

1. ごみ収集ステーションがあふれる

2. 家庭での保管場所

3. 収集の曜日や時間帯が合わない

4. 1回あたりのごみ量が増える

5. その他（ ）

【問24】収集回数の見直し後「可燃ごみ量の減少」および「雑がみの分別回収量の増加」の効果がみられましたが、収集回数を見直したことについてどう思いますか。

（〇は1つ）

1. 理解できる

3. あまり理解できない

2. ある程度理解できる

4. 理解できない

→ 問25へ

5. 分からない

→（問24で「1. 理解できる、2. ある程度理解できるある」とお答えの方）

【問24-1】理解できる理由を教えてください。（〇はいくつでも）

1. 家庭系可燃ごみの減量が進んだから

2. 雑がみの回収量が増えるなど、分別行動に結び付いたから

3. 処理経費の削減につながると思うから

4. その他（ ）

【問25】収集回数の見直しにともない気を付けるようになったことがありますか。
（〇はいくつでも）

1. 雑がみなど資源化できるものの分別を心掛けた
2. 食品を消費期限切れで捨てるなどの食品ロスを出さないように心掛けた
3. マイバックを持参するなど、ごみの発生抑制を心掛けた
4. 特に何もしていない
5. その他（.....）

【問26】さらなるごみの減量のために、あなたが必要だと思うことがありますか。
（〇はいくつでも）

1. ごみの分別や出し方についての情報
2. 簡易包装の推進
3. 小さいサイズの指定袋の販売を増やす
4. 環境教育の推進
5. その他（.....）

「雑がみ」とは

「雑がみ」とは、ティッシュペーパーの箱、お菓子の箱、トイレットペーパーの芯などです。

【問27】「雑がみ」を分別していますか。（〇は1つ）

- | | |
|-------------|--------|
| 1. 分別している | → 問28へ |
| 2. 時々分別している | |
| 3. 分別していない | |

（問27で「3. 分別していない」とお答えの方）

→【問27-1】分別していない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

1. 分別の手間がかかるから
2. 雑がみの出し方に手間がかかるから
3. 雑がみの出し方がわからないから
4. 雑がみが何かわからない（知らなかった）から
5. その他（.....）

「フードドライブ」とは

「フードドライブ」とは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄附する活動です。

【問28】「フードドライブ」についての考えを教えてください。（〇は1つ）

1. 寄附したことがあり今後もしたい
2. 寄附したことはないが、機会があれば寄附したい
3. 寄附したことがあるが、今後したいと思わない
4. 寄附したことはなく、寄附したいと思わない
5. わからない

【問29】知っているものを選んでください。（〇はいくつでも）

1. クリーンサポート事業（※1）
2. ふれあい収集（※2）
3. クリーン船橋530推進員（※3）
4. 小型家電回収ボックス（※4）
5. ごみ分別アプリ「さんあ〜る」（※5）

（※1）「クリーンサポート事業」とは、高齢者（65歳以上）や障害者のみの世帯などで運び出しが困難な粗大ごみを、屋内より持ち出すサービスです。

（※2）「ふれあい収集」とは、自力でのごみ出しが困難で、他の人から支援を受けられない一人暮らしの高齢者等のご自宅を週1回訪問し、可燃ごみ、不燃ごみ等を収集するサービスです。

（※3）「クリーン船橋530推進員」とは、環境に優しい美しい街づくりのため、ごみの減量、資源化の推進運動、地域環境美化・保全活動をしている市民のことです。

（※4）「小型家電回収ボックス」とは、小型家電に含まれる貴重な金属を回収し、リサイクルするために市内20箇所に設置した回収ボックスです。

（※5）ごみ分別アプリ「さんあ〜る」とは、ごみの分別や収集日などを確認できるスマートフォン向けアプリです。

7 「市の施策」についてお聞きします

【問30】次ページの「表 市の施策（37項目）」について、どのように感じていますか。

① ここ数年でよくなったもの

（5つまで選んで番号を記入してください）

--	--	--	--	--

「37. その他」を回答した場合は、具体的内容をお書きください。

② 力を入れるべきもの

（5つまで選んで番号を記入してください）

--	--	--	--	--

「37. その他」を回答した場合は、具体的内容をお書きください。

表 市の施策（37項目）

番号	施策の内容
1	保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実
2	各種検診や予防接種など予防体制の確立
3	地域ぐるみの福祉活動の支援と参加の促進
4	保育園、子育て相談などの子育て支援の充実
5	障害のある人に対する生活・就労支援など
6	高齢者の生きがいづくりや在宅・介護サービスの充実
7	親しみや安らぎを感じられる河川や調整池等の水辺の整備
8	公園や緑地、街路樹など豊かな緑の保全と創出
9	多様な動植物が生息できる環境や三番瀬の保全・再生など自然と共生したまちづくり
10	地球温暖化対策やリサイクルの促進など環境にやさしいまちづくり
11	下水道の整備など污水处理体制の充実
12	避難所の整備、自主防災組織の支援、施設の耐震化など災害対応の充実
13	自主防犯活動への支援など犯罪のないまちづくり
14	消防体制や救急搬送体制の充実
15	住まいに関する情報提供や相談、市営住宅の整備など住宅施策の充実
16	生涯学習の推進、芸術文化の振興
17	スポーツ・レクリエーション活動の場と機会の提供
18	学校教育の充実や家庭と地域の教育力の向上
19	青少年健全育成の推進
20	国際交流・平和施策の推進
21	産品ブランド(※1)・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出
22	商工業や農漁業など地域産業の振興・育成
23	若者・高齢者・障害者等の雇用の促進
24	消費生活相談（商品・サービスや契約）や自ら考え、判断できる消費者の育成など
25	バリアフリー化の推進や良好な景観の保全など計画的な都市づくり
26	海や川等の自然や商業施設の集積などを活かした魅力あるベイエリアの創出
27	交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備
28	公共交通の充実など誰もが使いやすい都市交通の確立
29	駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備
30	市民活動の支援や市政への市民参加の促進など協働のまちづくり
31	市政に関する情報提供や市民ニーズの把握など市民との情報共有の推進
32	町会・自治会への活動支援などコミュニティの育成
33	男女共同参画社会の形成のための意識啓発や社会環境の整備
34	インターネットを利用した行政サービスなど高度情報社会の構築
35	都市ブランド(※2)の確立など都市の魅力を高める市政運営
36	行政改革の推進や市職員の資質向上など
37	その他

(※1) 産品ブランドとは、農水畜産品をはじめとした「船橋発」の産品のことです。

(※2) 都市ブランドとは、市民や市外の人々が共通に抱く「〇〇市らしさ」、良好なイメージのことです。

8 「回答していただいた方」についてお聞きます

【F1】性別を教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

【F2】年齢を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 18～29歳 | 3. 40～49歳 | 5. 60～69歳 |
| 2. 30～39歳 | 4. 50～59歳 | 6. 70歳以上 |

【F3】職業を教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 農業・漁業 | 6. 学生 |
| 2. 会社員・公務員 | 7. 専業主婦（主夫） |
| 3. 自営・自由業・経営者 | 8. 無職（年金生活を含む） |
| 4. 家族従業（1を除く）※ | 9. その他（.....） |
| 5. アルバイト・パート・契約（派遣）社員 | |

※「家族従業」とは、個人事業主の家族で、その事業を手伝っている者

【F4】世帯状況を教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯（ひとり暮らし） | 4. 三世代世帯（親と子と孫など） |
| 2. 一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） | 5. その他（.....） |
| 3. 二世代世帯（親子など） | |

【F5】「船橋市」に何年くらいお住まいですか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 5年未満 | 4. 20年以上 |
| 2. 5年以上10年未満 | 5. 生まれたときから |
| 3. 10年以上20年未満 | |

【F6】現在お住まいの地区を教えてください。

次ページの「表 居住地区一覧」から該当する地区の番号を1つ記入してください。

--

【F7】現在お住まいのところに住む以前は、どちらにお住まいでしたか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 生まれたときから現在のところ | 4. 東京都・神奈川県・埼玉県 |
| 2. 船橋市内の他の地区 | 5. 「1～4」以外の道府県 |
| 3. 千葉県の他の市町村 | 6. 日本国外 |

表 居住地区一覧

番号	地区名	住所（町丁目）
1	宮本	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台
2	湊町	本町3丁目、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町
3	本町	本町1～2丁目・4～7丁目
4	海神	南本町、海神、海神町、海神町東・西・南、南海神
5	葛飾	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山
6	中山	二子町、本中山
7	塚田	旭町、行田町、行田、山手、北本町、前貝塚町
8	法典	丸山、上山町、馬込町、馬込西、藤原
9	夏見	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町
10	高根・金杉	高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台
11	高根台	高根台1～6丁目
12	新高根・芝山	芝山、新高根、高根台7丁目
13	前原	前原東、前原西、中野木
14	二宮・飯山満	二宮、飯山満町、滝台町、滝台
15	薬円台	薬円台、薬園台町、七林町
16	三山・田喜野井	三山、田喜野井、習志野
17	習志野台	習志野台、西習志野
18	二和	二和東、二和西
19	三咲	三咲町、三咲、南三咲
20	八木が谷	八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台
21	松が丘	松が丘
22	大穴	大穴町、大穴南、大穴北
23	豊富	小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町
24	坪井	坪井町、坪井東、坪井西

9 「市政に関するご意見・ご要望」についてお聞きます

最後に、船橋市の市政に関するご意見やご要望など、どんなことでも結構ですのでご記入ください。

[illegible]

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、**9月9日（月）まで**にご投函ください。

都市宣言

スポーツ健康都市宣言（昭和五十八年十月十日）

私たち船橋市民は、地域に根ざしたスポーツ活動を通じて健康で豊かな心とからだを育て、活力ある近代的な都市をめざして、ここにスポーツ健康都市を宣言します。

- 一、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康な生活を営もう。
- 一、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり、こどもを健やかに育てよう。
- 一、スポーツを通じて、いきいきとした地域の輪を広げよう。
- 一、スポーツを通じて多くの仲間とふれあい、はすむ心を世界に伸ばそう。

平和都市宣言（昭和六十一年十二月十九日）

船橋市は、現在人口五十万人を擁する首都圏有数の中核都市に成長し、第二の飛躍期を迎えている。そして、「活力ある近代的都市」を市政の目標に掲げ、より豊かな福祉社会実現のため懸命な努力を続けているところである。

しかし、郷土船橋の限らない繁栄は、日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものである。

私たち船橋市民は、世界の恒久平和を願い、我が国の国是である非核三原則を遵守し、平和を脅かす核兵器の廃絶を目指して最大の努力を払うことを決意し、ここに「平和都市」を宣言する。

福祉と緑の都市宣言（平成四年九月十四日）

船橋市は、今や人口五十四万人を擁する首都圏屈指の中核都市へと成長し、二十一世紀に向けさらに大きく飛躍しようとしております。

私たち船橋市民は、緑豊かな環境の中で、お年寄りや障害をもつ方々を大切にする優しい心をはぐくみ、次代を担う子供たちが、すくすくと成長できる生きがいと温もりに満ちたまちづくりを目指し、ここに「福祉と緑の都市」を宣言いたします。

令和元年度 市民意識調査報告書

令和2年3月発行

- | | |
|------|---|
| 【発行】 | 〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号
船橋市市長公室 市民の声を聞く課
☎ 047 (436) 2784 (直通)
ホームページ https://www.city.funabashi.lg.jp/
メールアドレス shiminnokoe@city.funabashi.lg.jp |
| 【実施】 | 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目2番8号
グランバレー三崎町 2F
株式会社 サンビーム
☎ 03 (3239) 7070 (代表) |

●この冊子は、地球環境保全推進のため、再生紙を使用しています。